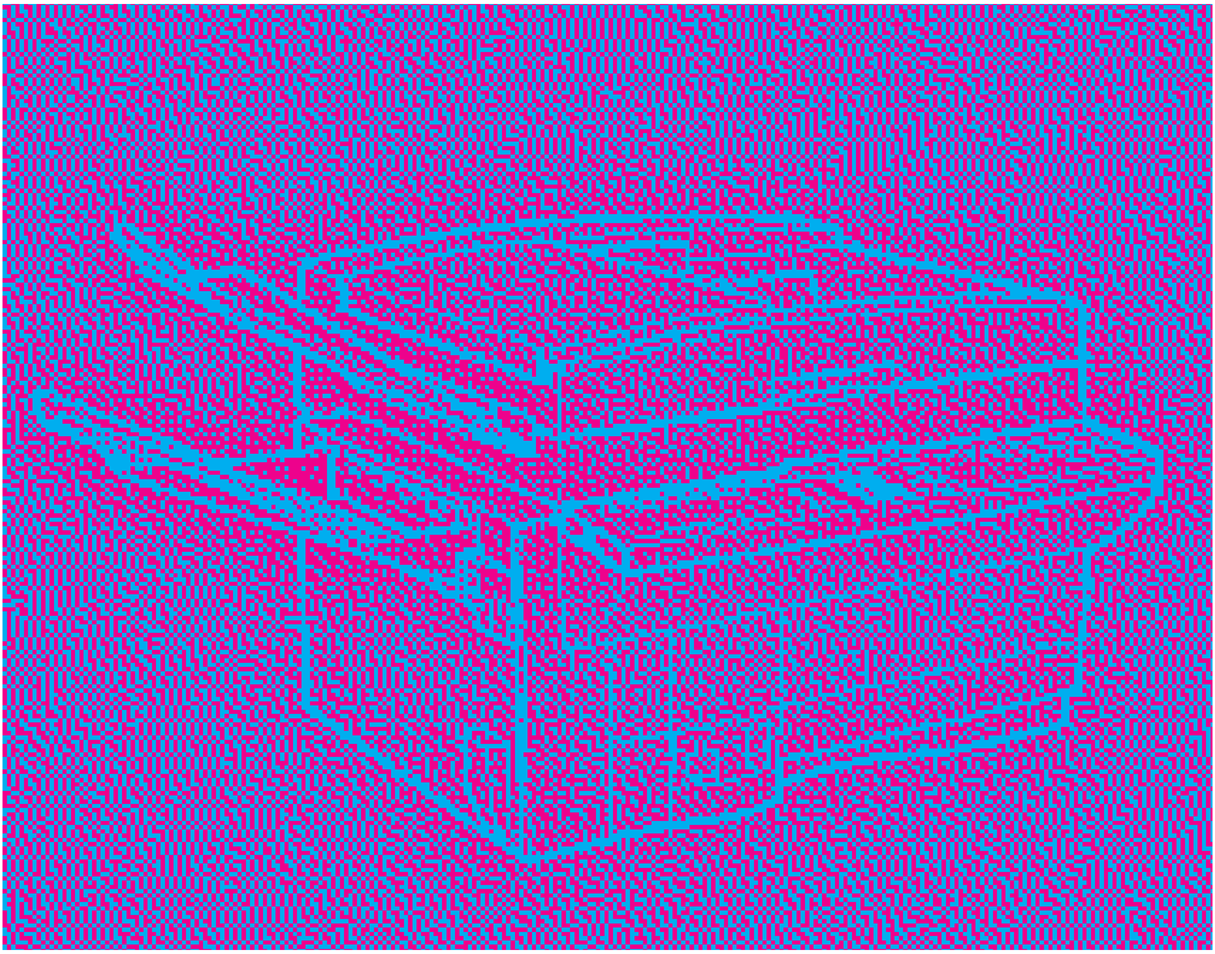
Canon

Canofax L2800

使用説明書



SUPER G3

ご使用前に必ずこの使用説明書をよくお読みください。
将来いつでも使用できるように大切に保管してください。

当社は国際エネルギースタープログラムの参加事業者として、本製品が国際エネルギースタープログラムの基準に適合していると判断します。

はじめに

このたびはキヤノファクスL2800をお買いあげいただきまして、誠にありがとうございます。本機は、本などの厚い原稿も読み取りできる原稿台を搭載し、G3規格のファクシミリとして、またコピー機として活躍します。
本機の機能を十分にご理解いただき、より効果的にご利用いただくために、本機をご使用になる前に、この「使用説明書」をお読みください。また、お読みいただきました後も大切に保管してください。万一、本機にトラブルが生じた場合には、「困ったときには」(→ **P.9-16**) をご覧ください。トラブルが解消できない場合には、お買い求めの販売店にご相談ください。

キヤノン株式会社
キヤノンマーケティングジャパン株式会社

⚠警告	：取り扱いを誤った場合に、死亡または重傷を負う恐れのある警告事項が書かれています。安全に使用していただくために、必ずこの警告事項をお守りください。
⚠注意	：取り扱いを誤った場合に、傷害を負う恐れや物的損害が発生する恐れのある注意事項が書かれています。安全に使用していただくために、必ずこの注意事項をお守りください。
お願い	：操作上必ず守っていただきたい重要事項や禁止事項が書かれています。機械の故障や損傷を防ぐために、必ずお読みください。
メモ	：操作の参考となることや補足説明が書かれています。お読みになることをおすすめします。

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラスA情報技術装置です。この装置を家庭環境で使用すると電波妨害を引き起こすことがあります。この場合には使用者が適切な対策を講ずるよう要求されることがあります。

⚠ 安全にお使いいただくために

本製品を安全にお使いいただくため、以下の注意事項を必ずお守りください。

設置場所について

⚠警告

- アルコール、シンナーなどの引火性溶剤の近くに設置しないでください。引火性溶剤が機械内部の電気部品などに接触すると火災や感電の原因になります。
- 本機の上や近くに花瓶、植木鉢、コップ、化粧品、薬品や水などが入った容器、または小さな金属物を置かないでください。こぼれたり中に入った場合、火災・感電・故障の原因となることがあります。

⚠注意

- 湿気やほこりの多い場所に置かないでください。火災・感電の原因となることがあります。
- 電源コードを熱器具に近づけないでください。コードの被膜が溶けて、火災・感電の原因となることがあります。
- 直射日光の当たるところや湿度の高いところに置かないでください。内部の温度が上がり、火災の原因となることがあります。
- 調理台や加湿器のそばなど油煙や湯気が当たる場所には置かないでください。火災・感電・故障の原因となることがあります。
- 雨や雪が降りかかるような場所には置かないでください。火災・感電・故障の原因となることがあります。
- ぐらついた台の上や傾いた場所など不安定な場所に置かないでください。落ちたり、倒れたりして、けがの原因となることがあります。
- 振動・衝撃の多い場所に置かないでください。落ちたり、倒れたりして、けがの原因となることがあります。
- 機器の上に重いものをのせないでください。置いたものが倒れたり、落ちてけがの原因となることがあります。
- 本機の通風孔をふさがないでください。通風孔をふさぐと内部に熱がこもり火災の原因となることがあります。

電源、電源コードについて

⚠警告

- 電源プラグを電源容量15A以上の専用コンセントへ直接接続してください。延長コードは加熱・発火の危険があるので使わないでください。
- 付属の電源コード以外は使用しないでください、火災・感電・故障の原因になります。
- 濡れた手で電源プラグを抜き差ししないでください。感電の原因となることがあります。
- 電源プラグはコンセントに確実に差し込んでください。電源プラグの刃に金属などが触れると火災・感電の原因となります。

⚠警告

- 電源コードを傷つけたり、破損したり、加工したりしないでください。重いものをのせたり、加熱したり、引っぱったりすると電源コードが破損し、火災・感電の原因となります。
- 表示された電源電圧以外の電圧で使用しないでください。火災・感電・故障の原因となります。
- 電源コードが傷んだ（芯線の露出、断線など）場合は、お買いあげの販売店に交換をご依頼ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。
- タコ足配線はしないでください。火災・過熱の原因となります。
- 近くに雷が発生したときは、電源プラグをコンセントから抜いてご使用をお控えください。雷によっては火災・感電・故障の原因になります。
- アース線を接続するときは、以下の点にご注意ください。

  ＜アース線を接続してよいもの＞
  - ・コンセントのアース端子
  - ・接地工事（D種）が行われているアース端子

  ＜アース線を接続してはいけないもの＞
  - ・水道管 ………………… 配管の途中でプラスチックになっている場合があります。その場合にはアースの役目を果たしません。ただし、水道局がアース対象物として許可した水道管にはアース線を接続することができます。
  - ・ガス管 ………………… ガス爆発や火災の原因になります。
  - ・電話線のアースや避雷針 ‥ 落雷のときに大きな電流が流れ、火災や感電の原因となります。
- 電源コードを束ねたり、結んだりしないでください。火災や感電の原因になります。

⚠注意

- アース線を接続してください。アース線を接続しないで、万一漏電した場合は、火災や感電の原因となることがあります。
- 電源プラグを抜くときは、必ずプラグを持って抜いてください。電源コードを引っぱるとコードが傷ついて火災・感電の原因となることがあります。
- 旅行などで長時間、本機をご使用にならないときは安全のため必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。
- いつでも電源プラグを抜けるように、電源プラグの周りにはものを置かないでください。非常時に電源プラグを抜けなくなります。

取扱注意について

⚠警告

- 万一、この機器を落としたり、本体を破損した場合は、本機の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いてお買いあげの販売店にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電・故障の原因となります。
- この機器を分解・改造しないでください。火災・感電・故障の原因となります。
- 本機に水や引火性溶剤（アルコール、ベンジン、シンナーなど）が入ったりしないよう、またぬらさないようにご注意ください。万一、内部にこれらの液体が入った場合は、まず本機の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いてお買いあげの販売店にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電・故障の原因となります。雨天、降雪中、海岸、水辺での使用は、特にご注意ください。
- 開口部から内部に金属類を差し込んだり、落とし込んだりしないでください。火災・感電・故障の原因となります。
- 万一、異物が本機の内部に入った場合は、まず電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いてお買いあげの販売店にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電・故障の原因となります。特にお子さまのいるご家庭ではご注意ください。
- 万一、煙が出ている、変なにおいがするなどの異常状態のまま使用すると、火災・感電・故障の原因になります。すぐに電源スイッチを切り、その後かならず電源プラグをコンセントから抜き、煙が出なくなるのを確認してお買いあげの販売店に修理を依頼してください。お客様による修理は危険ですから、絶対におやめください。
- 本機の近くでは可燃性のスプレーを使用しないでください。スプレーのガスが本体内部の電気部品などに接触すると、火災・感電の原因になります。
- 本機のカバーは外さないでください。内部には電圧の高い部分があり、感電の恐れがあります。

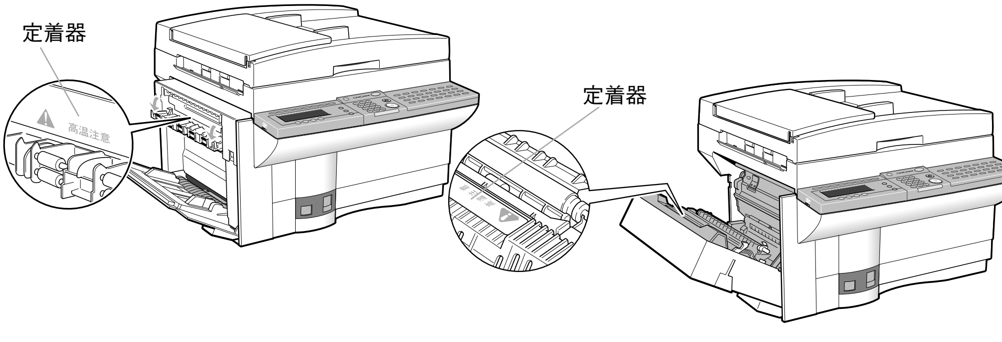
⚠注意

- 移動させる場合は、電源プラグをコンセントから抜き、回線コードなど外部の接続線を外したことを確認の上、行ってください。電源コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。
- 原稿台カバーは手をはさまないように静かに閉じてください。けがの原因になることがあります。
- 原稿台ガラスに本などの厚い原稿をセットしたときは、その本などの厚い原稿や原稿台カバーを上から強く押さえないでください。原稿台ガラスが破損して、けがの原因になることがあります。原稿台ガラスの許容荷重は2Kgまでです（約500ページの電話帳1冊分）。
- 本機を持ち運ぶときは、指定された場所を持ってください。本機を落として、けがの原因になることがあります。➔ ***P.8-24***

保守／点検について

⚠警告

- 本体の清掃のときは、水または中性洗剤を含ませて固く絞った布で汚れを落とした後、から拭きしてください。アルコール、ベンジン、シンナーなどの引火性溶剤は使用しないでください。引火性有機溶剤が本体内部の電気部品に接触したり、揮発ガスが機内に充満すると火災・感電の原因になります。
- ローラ類の清掃のときは、水を含ませて固く絞った布で汚れを落とした後、から拭きしてください。アルコール、ベンジン、シンナーなどの引火性溶剤は使用しないでください。引火性有機溶剤が本体内部の電気製品に接触したり、揮発ガスが機内に充満すると火災・感電の原因になります。また、中性洗剤は使用しないでください。ローラ類を傷める原因になります。
- 清掃のときは、電源スイッチを切り、電源コードをコンセントから抜いてください。火災や感電の原因になります。
- 内部の点検・修理はお買いあげの販売店にご依頼ください。
- 本体内部の定着器とその周辺は高温になっております。手を触れないようにご注意ください。やけどする場合があります。



⚠警告

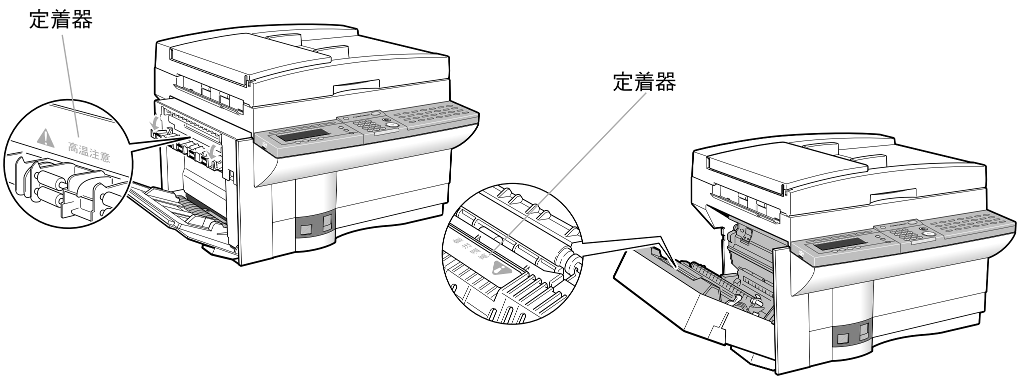
● 使用済みカートリッジを火中に投じないでください。カートリッジ内に残ったトナーに引火して、やけどや火災・爆発の原因になります。使用済みカートリッジは、お買いあげの販売店にお持ちいただきますようご協力お願い申しあげます。

⚠注意

● 使用済みのトナーカートリッジを機械から取り出すときは、トナーが飛び散って目や口などにトナーが入らないように丁寧に取り出してください。トナーが目や口にはいった場合は、直ちに水で洗い流し、医師と相談してください。
● トナーは静かに振ってください。激しく振るとトナーが飛び散ることがあります。
● お手入れの際は、安全のために電源プラグをコンセントから抜いて行ってください。
● 本機に水滴がついた場合は、乾いた布で拭き取ってください。
● 原稿読み取り部分を清掃するときは、電源スイッチを切ってください。電源スイッチを切らない場合は、感電の原因となることがあります。

⚠注意

● スタンプインクを補充するときは、電源スイッチを切ってください。電源スイッチを切らない場合は、感電の原因となることがあります。
● 参照先のイラストで示した補充場所以外のところにスタンプインクをこぼさないように注意してください。発煙の原因となることがあります。
→ ***P.8-23***
● 機械内部には定着器などの高温、高圧になる部分があります。紙づまりの処理など内部を点検するときは、これらの部分に触れないように点検してください。やけどや感電の原因となることがあります。



⚠注意

- 紙づまりの処理などで内部を点検するときは、ネックレス、ブレスレットなどの金属物が機械内部に触れないように点検してください。やけどや感電の原因となることがあります。
- 紙づまりで記録紙を機械内部から取り除くときは、紙づまりしている記録紙の上にのっているトナーが衣服や手に触れないように取り除いてください。衣服や手が汚れます。衣服や手が汚れた場合は、直ちに水で洗い流してください。温水で洗うとトナーが定着し、汚れがとれなくなります。
- 記録紙を補給するとき、つまった原稿や記録紙を取り除くときは、原稿や記録紙の端で手を切ったりしないように注意して扱ってください。

消耗品について

⚠警告

- カートリッジを火中に投じないでください。カートリッジ内部にあるトナーに引火して、やけどや火災・爆発の原因になります。
- トナーカートリッジ、記録紙は火気のあるところに保管しないでください。トナーや記録紙に引火して、やけどや火災の原因になります。

⚠注意

- トナーなどの消耗品を幼児の手の届かないところに保管してください。もし飲んだ場合は、直ちに医師と相談してください。

その他

⚠警告 心臓ペースメーカーをご利用の方へ

- 本機から微弱な磁気が出ています。心臓ペースメーカーをご使用の方で異常を感じた場合は本機から離れ、その後、医師にご相談ください。

使用上のご注意

本機を使用するにあたってはつぎのことに注意してください。

設置場所

つぎのような場所でのご使用は避けてください。

⚠注意

- 直射日光の当たるところや湿度の高いところに置かないでください。内部の温度が上がり、火災の原因となることがあります。
- ぐらついた台の上や傾いた場所など不安定な場所に置かないでください。落ちたり、倒れたりして、けがの原因となることがあります。
- 振動・衝撃の多い場所に置かないでください。落ちたり、倒れたりして、けがの原因になることがあります。
- 湿気やほこりの多い場所に置かないでください。火災・感電の原因となることがあります。
- 雨や雪が降りかかるような場所には置かないでください。火災・感電・故障の原因となることがあります。

お願い

- 暑すぎたり（32.5℃以上）、寒すぎたり（10℃以下）する場所には置かないでください。本機が正常に動作しないことがあります。
- ラジオやテレビのそばには置かないでください。ラジオやテレビの音声に雑音が入ったり、テレビの画面にゆがみやチラツキが出ることがあります。

電源

本機を電源コンセントに接続するときや、接続したあとはつぎのようなことに注意してください。

⚠警告

- 表示された電源電圧以外の電圧で使用しないでください。火災・感電・故障の原因となります。
- 近くに雷が発生したときは、電源プラグをコンセントから抜いてご使用をお控えください。雷によっては火災・感電・故障の原因になります。
- タコ足配線はしないでください。火災・加熱の原因となります。
- 電源コードを傷つけたり、破損したり、加工したりしないでください。重いものをのせたり、加熱したり、引っぱったりすると電源コードが破損し、火災・感電の原因となります。
- 濡れた手で電源プラグを抜き差ししないでください。感電の原因となることがあります。
- 電源プラグはコンセントに確実に差し込んでください。電源プラグの刃に金属などが触れると火災・感電の原因となります。

⚠注意

- 電源プラグを抜くときは、必ずプラグを持って抜いてください。電源コードを引っぱるとコードが傷ついて火災・感電の原因となることがあります。
- いつでも電源プラグを抜けるように、電源プラグの周りにはものを置かないでください。非常時に電源プラグを抜けなくなります。

お願い

- 電源スイッチをOFFにしたときは、5秒以上の間隔をおいてからONにしてください。
- 電源ノイズの大きい系統（たとえば空調装置、電動タイプライター等）と電源コンセントを共有することは避けてください。
- 本機は国内電源仕様です。海外ではご使用にならないでください。

その他

⚠警告

- 万一、煙が出ている、変なにおいがするなどの異常状態のまま使用すると、火災・感電・故障の原因になります。すぐに電源スイッチを切り、その後かならず電源プラグをコンセントから抜き、煙が出なくなるのを確認してお買いあげの販売店に修理を依頼してください。お客様による修理は危険ですから、絶対におやめください。
- この機器を分解・改造しないでください。火災・感電・故障の原因となります。
- 本機に水や引火性溶剤（アルコール、ベンジン、シンナーなど）が入ったりしないよう、またぬらさないようにご注意ください。万一、内部にこれらの液体が入った場合は、まず本機の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いてお買いあげの販売店にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電・故障の原因となります。雨天、降雪中、海岸、水辺での使用は、特にご注意ください。
- 移動させる場合は、電源プラグをコンセントから抜き、回線コードなど外部の接続線を外したことを確認の上、行ってください。電源コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。

⚠注意

- 本機を持ち運ぶときは、指定された場所を持ってください。本機を落として、けがの原因になることがあります。

お願い

- 本機を離れたところに陸送したり空輸したりするときは、必ずトナーカートリッジを取りはずしてください。カートリッジに強い光が当たらないように保護袋に入れるか厚い布で包んでください。
- 本体やコードのお手入れについては「日常のお手入れ」（→ **P.8-21**）を参照してください。

やりたいこと目次

つぎの中からあなたがやりたいことを探してください。
本機には、このほかにもいろいろな機能があります。ここにやりたいことがないときは、目次や索引をご覧ください。

送信

受信

コピー

便利な機能

こんなときには

もくじ

第1章　ご使用になる前に

第2章　コピーするには

第3章　送信するには

第4章 受信するには

第5章 いろいろな送受信

第7章　回線などの確認と発信元情報の登録

第8章 日常の管理

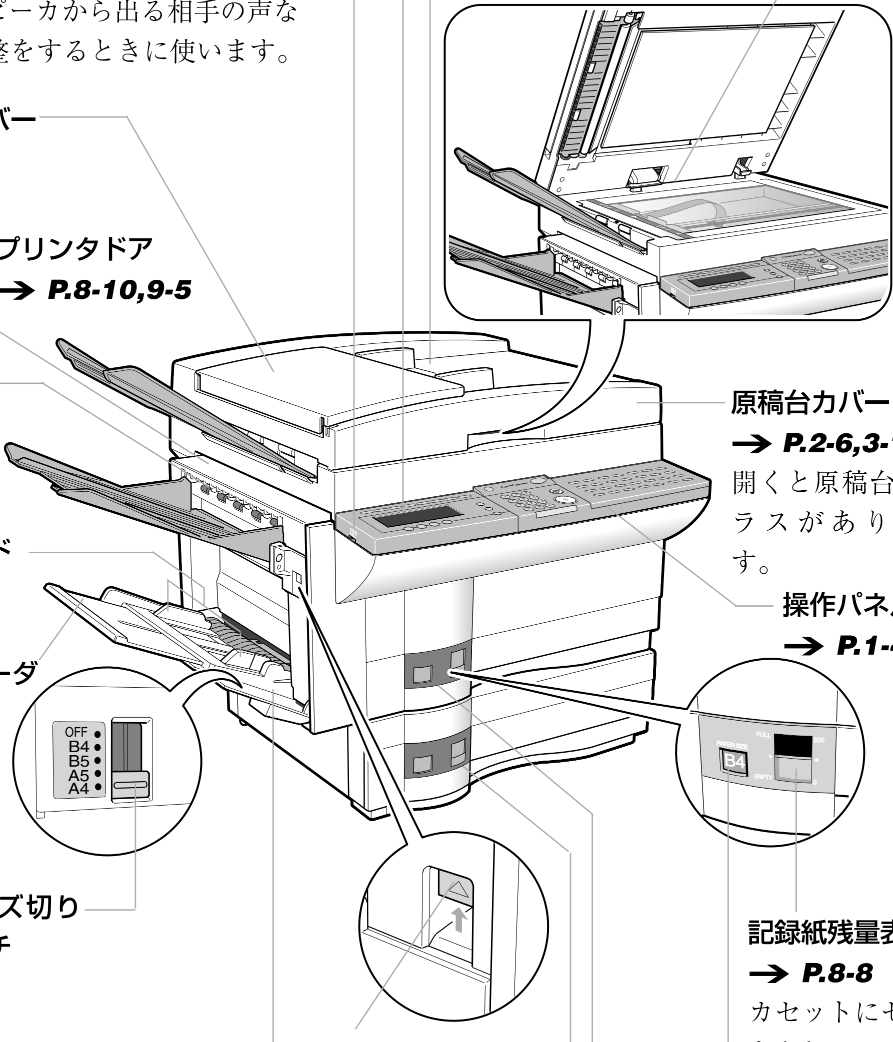
第9章　困ったときは

第10章 付録

第 1 章

ご使用になる前に

各部の名称



ディスプレイ
➔ ***P.3-14,4-15,9-11***

スピーカ音量調整器
本体内蔵スピーカから出る相手の声などの音量調整をするときに使います。

フィーダカバー
➔ ***P.9-2***

プリンタドア
➔ ***P.8-10,9-5***

排紙カバー
➔ ***P.9-5***

記録紙ガイド
➔ ***P.8-6***

マルチフィーダ延長トレイ
➔ ***P.8-6***

記録紙サイズ切り替えスイッチ
➔ ***P.8-8***

マルチフィーダトレイ
➔ ***P.8-5***

FXL- カセットフィーダ３（オプション） ➔ ***P.8-3***

カセット ➔ ***P.8-3***

原稿台（ADF）
➔ ***P.1-10,2-2,3-3***

原稿台ガラス
➔ ***P.1-11,2-6,3-10***

原稿台カバー
➔ ***P.2-6,3-10***
開くと原稿台ガラスがあります。

操作パネル
➔ ***P.1-4***

記録紙残量表示
➔ ***P.8-8***
カセットにセットされている記録紙の残量がわかります。

リリースボタン
➔ ***P.8-10,9-5***

記録紙サイズ表示板
カセットにセットされている記録紙のサイズがわかります。

排紙トレイ
→ P.7-2,7-4

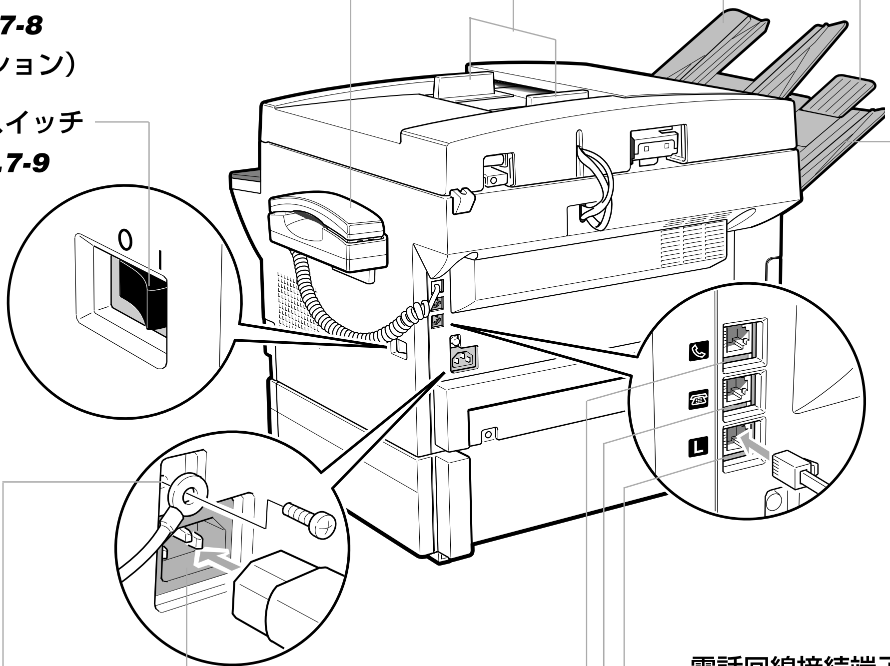
補助トレイ
B4サイズの記録紙にプリントするとき、開いて使います。

原稿トレイ
→ P.7-2,7-4

スライダ → P.1-10,2-2,3-3
セットする原稿の幅に合わせます。

ハンドセット
→ P.7-8
（オプション）

電源スイッチ
→ P.7-9



電話回線接続端子
→ P.7-6

電話機接続端子
→ P.7-7

電源コード差し込み口
→ P.7-9

ハンドセット接続端子
→ P.7-8

アース線接続端子
→ P.7-9

操作パネルの名称と働き

ダイレクト送信ボタン（ダイレクト送信ランプ）
ダイレクト送信したいときに使います。 ➔ *P.3-7*

スタンプボタン（スタンプランプ）
読み込み済みまたは送信済みの送信原稿にスタンプを押すときに使います。 ➔ *P.3-4*

ファクス状況ボタン
通信状況や通信結果の確認、送信予約の取り消しに使います。 ➔ *P.3-14,4-15*

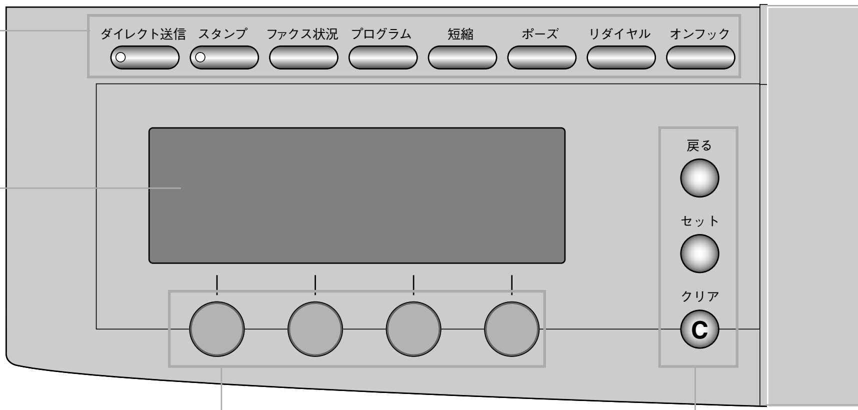
プログラムボタン ➔ *P.8-48*
機能ボタンを登録し、操作を簡単にしたいときに使います。

短縮ボタン ➔ *P.6-12*
短縮ダイヤルを使ってダイヤルするときに使います。

ポーズボタン ➔ *P.6-32,6-33*
電話番号にポーズを入れるときに使います。

リダイヤルボタン ➔ *P.3-29*
ダイヤルした相手が話し中のときなど、かけなおすときに使います。

オンフックボタン ➔ *P.3-25,3-26*
ダイヤルするときに使います。



ディスプレイ
通信状況の確認やデータの登録、設定、確認のメッセージなど、いろいろな情報が表示されます。
➔ *P.3-14,4-15,9-11*

ファンクションボタン
ディスプレイに表示された機能に対応するボタンです。ディスプレイに表示された内容によって機能が変化します。

戻るボタン
1つ前の画面に戻るときに使います。

セットボタン
項目の登録／設定内容を確定するときに使います。また、原稿台ガラスから送信をはじめるときにも使います。

クリアボタン
項目の登録／設定内容をクリアするときに使います。

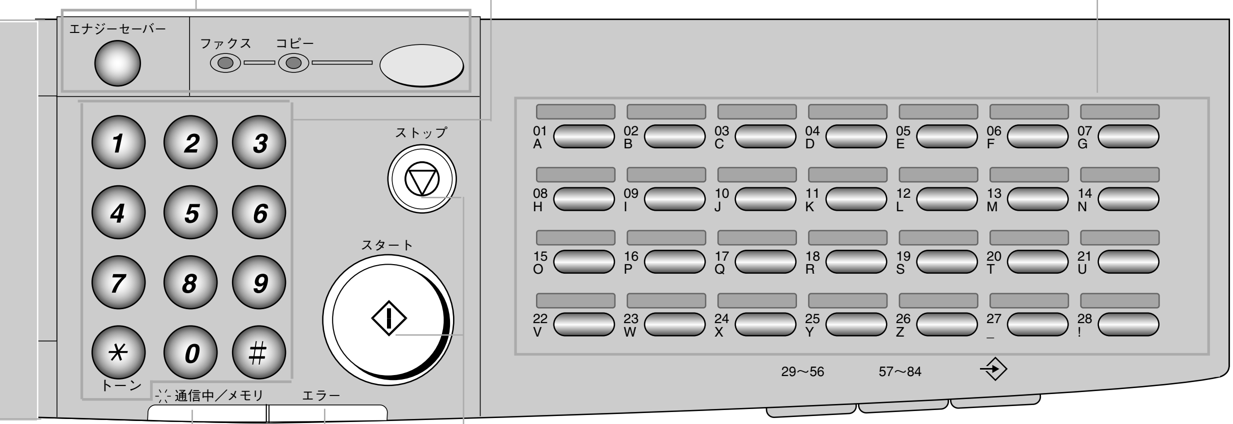
エナジーセーバーボタン（エナジーセーバーランプ）
エナジーセーブモードを解除するときに使います。➔ ***P.1-9***

ファクス／コピー切り替えボタン（ファクス／コピーランプ）
ファクスモードとコピーモードの切り替えに使います。➔ ***P.1-7***

ワンタッチダイヤルボタン
よく使う電話番号を登録しておき、ワンタッチでダイヤルするときに使います。また、文字を入力するときにも使います。
3枚のワンタッチダイヤルパネルを開けると、機能ボタンとして使うことができます。
➔ ***P.6-5***

テンキー
ダイヤルするときや、データを登録、設定するときに使います。

トーンボタン（＊と兼用） ➔ ***P.3-25,5-88***
ダイヤル回線で、トーン信号を発信したいときに使います。



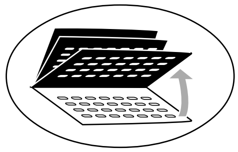
ストップボタン
送信やコピー、登録や設定などの動作を中止したいときに使います。

スタートボタン
送信や受信、コピーなどをはじめるときに使います。また原稿台ガラスからの送信で、原稿を読み込ませるときにも使います。

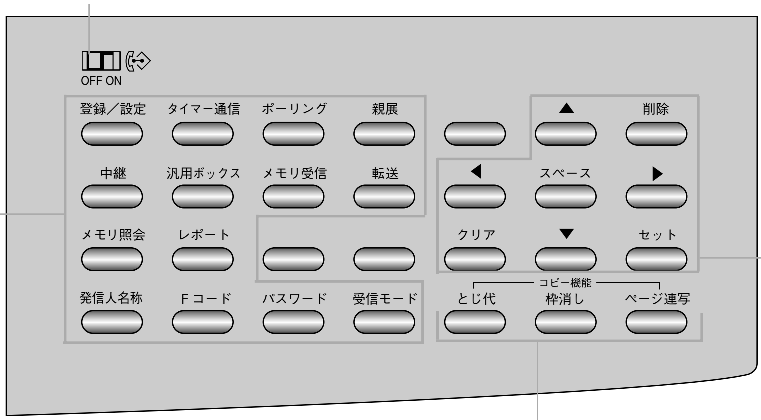
エラーランプ
記録紙やトナーカートリッジのトナーがなくなったり、記録紙がつまったりしたときに点滅します（赤色）。➔ ***P.9-17***

通信中／メモリランプ
送信中や受信中、通話中など電話回線を使用しているときに点滅します。また、メモリ内に原稿がある場合には点灯します（緑色）。

機能ボタン（3 枚のワンタッチダイヤルパネルを開いた状態）



このスイッチは常に OFF にしておいてください。



▲▼◀▶ボタン
項目の検索や設定内容を確認するときに使います。

スペースボタン
数値や文字列にスペース（空白）を入れるときに使います。

クリアボタン
項目の登録／設定内容をクリアするときに使います。

セットボタン
項目の登録／設定内容を確定するときに使います。また、原稿台ガラスから送信をはじめるときにも使います。（このクリアボタン、セットボタンの機能は、ディスプレイ右のクリアボタン、セットボタンと同じです）

削除ボタン
入力した文字を削除するときに使います。

登録／設定ボタン
電話番号や機能を登録、設定するときに使います。

タイマー通信ボタン ➔ *P.3-21*
送信時刻を指定するときに使います。

ポーリングボタン ➔ *P.5-3,5-16*
ポーリング送受信するときに使います。

親展ボタン ➔ *P.5-46,5-50*
親展送信や親展受信原稿をプリントするときに使います。

中継ボタン ➔ *P.5-61*
中継指示送信するときに使います。

汎用ボックスボタン ➔ *P.5-83,5-85*
汎用ボックスでの送信予約や、汎用ボックスで受信した原稿のプリントに使います。

メモリ受信ボタン ➔ *P.5-36,5-37*
受信原稿をプリントせず、メモリに記録したいときに使います。

転送ボタン ➔ *P.5-32*
受信した原稿を他のファクスに転送するときに使います。

メモリ照会ボタン ➔ *P.5-38*
メモリの内容を確認したり、消去するときに使います。

レポートボタン ➔ *P.6-45,8-15,8-46*
通信関連のレポートやダイヤルリスト、ユーザデータリストを出力するときに使います。

ページ連写ボタン ➔ *P.2-21*
ページ連写コピーするときに使います。

枠消しボタン ➔ *P.2-16*
枠消しコピーするときに使います。

とじ代ボタン ➔ *P.2-19*
とじ代をとってコピーするときに使います。

発信人名称ボタン ➔ *P.7-21*
発信人名称を切り替えるときに使います。

F コードボタン ➔ *P.5-43*
F コードを使って送信するときに使います。

パスワードボタン ➔ *P.5-44*
パスワードを使って送信するときに使います。

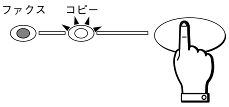
受信モードボタン
受信モードを変更したり、留守モードを設定するときに使います。 ➔ ***P.4-4,4-19***

コピーモードとファクスモード

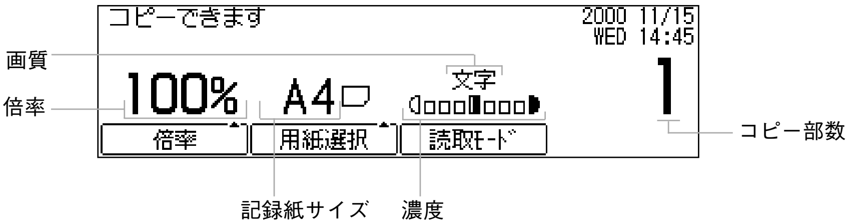
本機はコピー機として、またファクスとして活躍します。
コピー機として使うときはコピーモードに、ファクスとして使うときはファクスモードに切り替えてください。

モードの切り替え

コピーモード



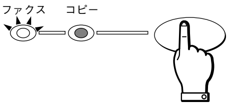
コピーするときは、ファクス／コピー切り替えボタンを押してコピーランプを点灯させます。
ディスプレイに次のように表示されます。



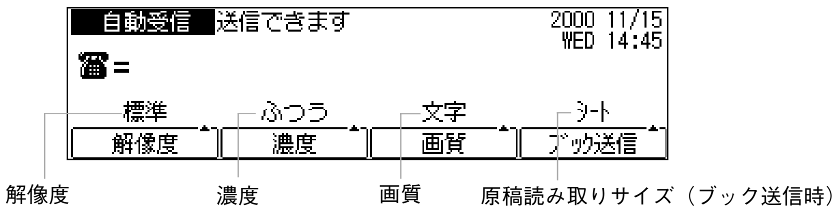
コピーモードでストップボタンを押すと、設定したコピーの部数や倍率、用紙選択、読み取りモードなど、すべての設定が初期状態に戻ります。たとえば部数と読み取りモードを設定したあと、倍率の設定中にストップボタンを押すと、倍率だけでなく部数と読み取りモードも初期状態に戻ってしまいます。ご注意ください。

クリアボタンを押すと、コピーの部数だけが初期状態に戻ります。

ファクスモード



送信するときや手動受信するときは、ファクス／コピー切り替えボタンを押してファクスランプを点灯させます。
ディスプレイに次のように表示されます。



通常の受信は、コピーモードのままでも行うことができます。

電源を入れたとき、コピーモードにするかファクスモードにするかを設定できます。このモードを初期モードと呼びます。➔ **P.8-41**

ファクス／コピー切り替えボタンでモード変更しても、一定時間が過ぎると初期モードに自動的に戻ります。この機能をオートクリアと呼びます。戻らないように設定することもできます。➔ **P.8-41**

ファクス／コピー切り替えボタンを押してコピーモードに切り替えたときやオートクリアでコピーモードに戻るとき、濃度や部数などすべての設定が初期状態に戻ります。初期状態を変更することもできます。 ➔ **P.8-43**

ファクス／コピー切り替えボタンを押してファクスモードに切り替えたときやオートクリアでファクスモードに戻るとき、ファクス送信が終了したとき、ファクスの設定が初期状態に戻るように設定することができます。初期状態を変更することもできます。この設定をFAX ホームポジションと呼びます。 ➔ **P.8-41**

メモ

- *コピー中はファクスモードに切り替えることができません。ストップボタンでコピーを中止するかコピーの終了を待ってファクスモードに切り替えてください。*
- *より美しいコピーが必要な場合は、原稿台ガラスに原稿をセットしてコピーしてください。*

エナジーセーブモード

本機は一定の時間何も操作せずにいると自動的に省電力状態に切り替わるよう設定できます。これをエナジーセーブモードと呼びます。エナジーセーブモードは待機状態で電気の消費量を節約する機能です。エナジーセーブモードではディスプレイの表示が消え、操作パネルのランプが消灯し、エナジーセーバーボタンのみが点灯した状態になります。

エナジーセーブモードに切り替わる場合

ファクスの送信やコピーの操作、ファクスの受信、および各種の設定操作やレポートの出力操作をせずに一定時間経過するとエナジーセーブモードに切り替わるよう設定することができます。

→ ***P.8-40***

- エナジーセーブモードに切り替わるまでの時間を変更することができます。→ ***P.8-40***

次の場合はエナジーセーブモードに切り替わりません

・メモリに原稿が残っているとき
・記録紙や原稿が詰まっているとき
・トナーカートリッジが空になっているとき
・原稿がADFにセットされているとき
・ダイヤルインサービスを利用しているとき
・オプションの2回線ボード（→ ***P.10-6***）を取り付けているとき

通常の状態に切り替わる場合

次の場合はエナジーセーブモードを終了し、通常の状態に戻ります。

・送信やコピーの原稿をセットしたとき
・原稿を受信したとき
・レポートが自動出力されるとき
・電話として使用するとき
・エナジーセーバーボタンを押したとき

メモ

- *エナジーセーバーボタンはエナジーセーブモードを終了して通常の状態に戻すためのボタンです。エナジーセーブモードに切り替えるためのボタンではありません。*
- *オプションのハンドセットや一般の電話機を接続している場合、エナジーセーブモードに切り替わるように設定していると、自動受信した際に呼び出し音が鳴ります。呼び出し音を鳴らしたくない場合は、ハンドセットの呼び出し音量調整器を「切」にするか、接続した電話機の呼び出し音が鳴らないように設定してください。*
- *受信機能設定の"02 受信モード選択"（→ **P.8-33**）の項目で"03 ダイヤルインF/T切替"を選択しているときは、エナジーセーブの機能は無効になります。この場合、システム管理設定の"09 エナジーセーバー"（→ **P.8-40**）の項目で"01 する"を選択していても、エナジーセーブモードに切り替わることはありません。*

原稿のセットについて

原稿はADF（Auto Document Feeder: 自動原稿送り装置）または原稿台ガラスにセットします。原稿のサイズやコピー時の倍率によってセットする方向が異なります。

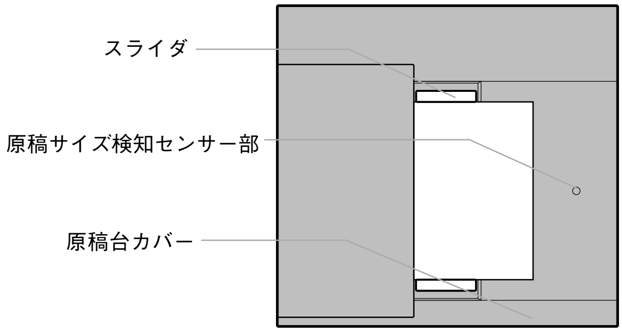
原稿の縦置きと横置き

ADF、原稿台ガラス、どちらに原稿をセットする場合でも、原稿の置き方には縦置きと横置きがあります。

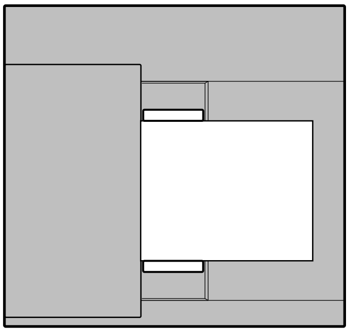
ADFにセットする場合（送信、等倍コピー時の例）

原稿を裏向きにしてADFにのせ、スライダを原稿の幅に合わせます。

セット方法について、詳しくは「コピーするには（→ **P.2-2**）」、「ADFへの送信原稿セット（→ **P.3-3**）」を参照してください。



縦置き：A5、B5



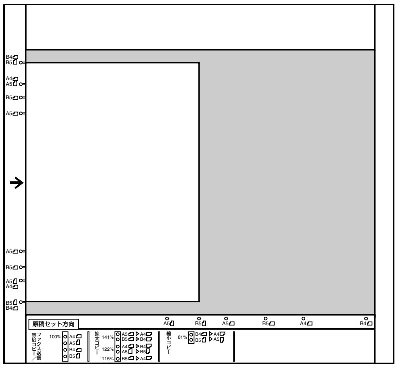
横置き：A4、B4、A3

お願い

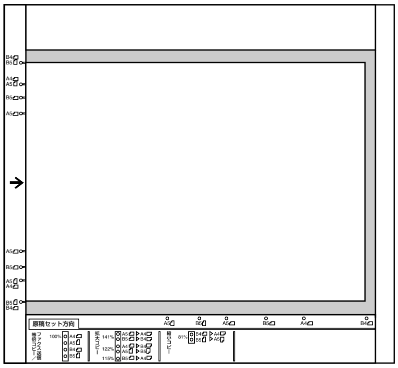
- *コピー中、またはファクス送信中に、ADFの原稿サイズ検知センサー部の上に5cm以上紙や手などを近づけないでください。原稿サイズを誤検知して、ミスコピーなどを起こす恐れがあります。*
- *コピー中、またはファクス送信中には、原稿台カバーにはさわらないでください。原稿台カバーが揺れて画像が乱れるときがあります。*

原稿台ガラスにセットする場合（送信、等倍コピー時の例）

原稿を裏向きにして原稿台ガラスにのせ､原稿のサイズに応じた原稿台ガラス左のサイズマークに原稿の両端を合わせます。
セット方法について、詳しくは「本などの原稿をコピーするには（➔ **P.2-6**）」、「本などの原稿を送信するには（➔ **P.3-10**）」を参照してください。



縦置き：A5、B5



横置き：A4、B4

メモ

原稿台ガラスにセットする場合は、ラベル表示を参考にして原稿セット方向を決めてください。

原稿サイズと倍率によるセット方向

送信やコピーをするときは、原稿セットの方向に注意してください。
原稿の置かれた向きによっては､送信した原稿やコピーの画像が欠けてしまうことがあります。
とくに､手元で結果を確認できない送信時や､コピーの倍率によって原稿セットの方向が変化する拡大／縮小コピー時は､次の表を確認して正しい向きにセットしてください。

送信、等倍コピー

倍率	原稿サイズ	記録紙サイズ	原稿セット方向
100％	A3	―	横置き※
	A4	A4	横置き
	A5	A5	縦置き
	B4	B4	横置き
	B5	B5	縦置き

※：A3サイズ原稿は原稿台ガラスにはセットできません。ADFに横置きでセットしてください。

拡大コピー

倍率	原稿サイズ	記録紙サイズ	原稿セット方向
200%	—	—	—
141%	A5	A4	横置き
	B5	B4	横置き
122%	A4	B4	横置き
	A5	B5	縦置き
115%	B5	A4	横置き

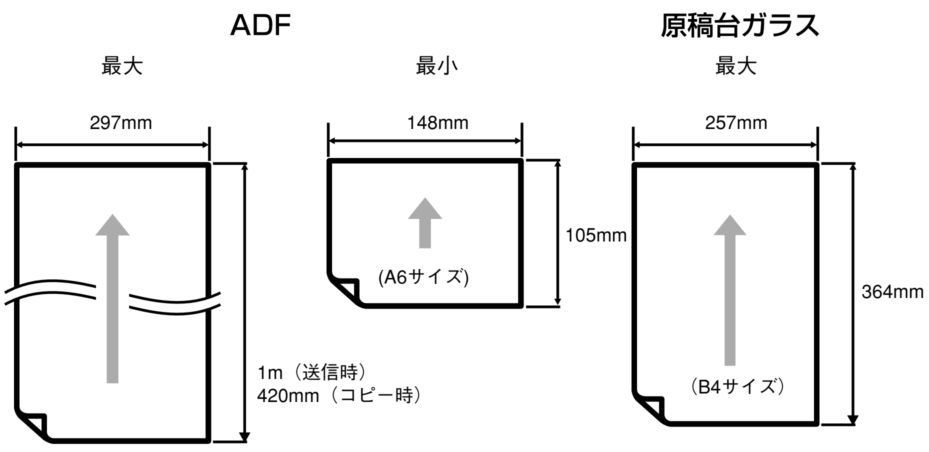
縮小コピー

倍率	原稿サイズ	記録紙サイズ	原稿セット方向
50%	—	—	—
70%	A3	A4	横置き※
	A4	A5	縦置き※
81%	B4	A4	横置き
	B5	A5	縦置き
86%	A3	B4	横置き※
	A4	B5	縦置き※

※：原稿台ガラスにはセットできません。ADF にセットしてください。

セットできる原稿サイズ

本機にセットできるのは、次の範囲の原稿サイズです。



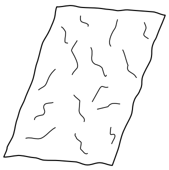
送信原稿の自動縮小

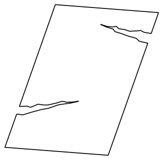
相手機の記録紙サイズに応じて、自動的に縮小して送信します。

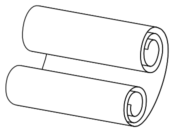
送信原稿＼相手機の最大記録紙	A3 サイズ原稿	B4 サイズ原稿	A4 サイズ原稿
A3 サイズ	そのまま（等倍）	そのまま（等倍）	そのまま（等倍）
B4 サイズ	B4 サイズに縮小	そのまま（等倍）	そのまま（等倍）
A4 サイズ	A4 サイズに縮小	A4 サイズに縮小	そのまま（等倍）

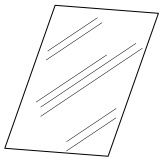
ADF にセットできない原稿

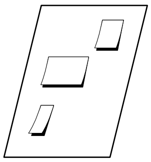
厚さが 0.06mm ～ 0.13mm の範囲以外の原稿はセットしないでください。また、次のような原稿は ADF にセットしないでください。途中でつまることがあります。このような原稿は原稿台ガラスにセットしてください。

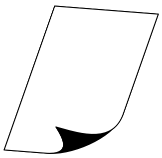

しわや折り目のある原稿

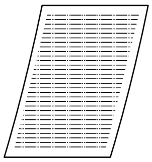

やぶれている原稿


はげしくカールしている原稿


コーティングされた原稿


切り貼りした原稿


ノンカーボン、裏カーボン紙の原稿


レポート用紙のようにノリで綴じられていた用紙（ノリの部分を取り除いてください）

お願い

- *クリップやホチキスの針は必ず取り除いてください。*
- *インクは乾かしてからセットしてください。*
- *サイズや厚さが異なる原稿をいっしょにセットしないでください。*

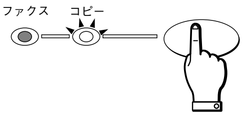
第 2 章

コピーするには

コピーするには

ADF（自動原稿送り装置）にはA4サイズの原稿が50枚、B4やA3サイズは20枚まで一度にセットできます。なお、本のような厚みのある原稿をコピーするときは、「本などの原稿をコピーするには」（➔ ***P.2-6***）を参照してください。

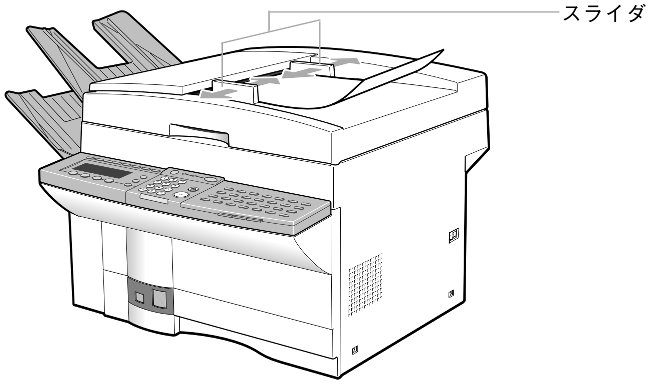
1 コピーモードにします



ファクス／コピー切り替えボタンを押して、コピーランプを点灯させてください。

2 原稿を裏向きにして ADF にのせます

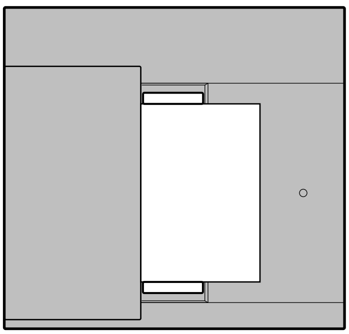
原稿の幅に合わせてスライダを調節します。



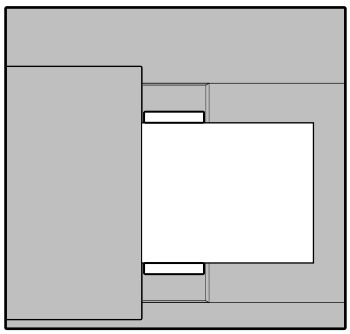
原稿がつきあたるまで、差し込んでください。

原稿セットの向き（等倍コピー時）

コピーする記録紙と同じ向きにセットします。



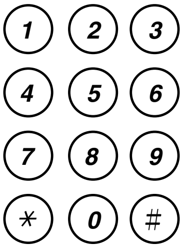
縦置き：A5、B5



横置き：A4、B4、A3

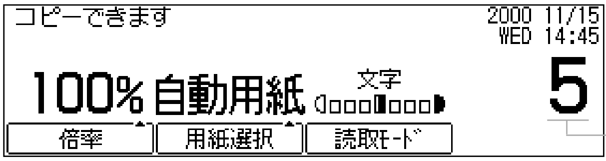
- 拡大／縮小コピーは倍率によって使用する記録紙が変わります。このため記録紙の向きによって、原稿セットの方向も変化します。「原稿サイズと倍率によるセット方向」（➔ ***P.1-11***）を参照して、正しい方向に原稿をセットしてください。

3 コピー部数を指定します



テンキーでコピー部数を指定します。99 部まで指定できます。

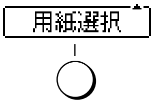
● 1 枚だけコピーする場合は、部数の指定は不要です。



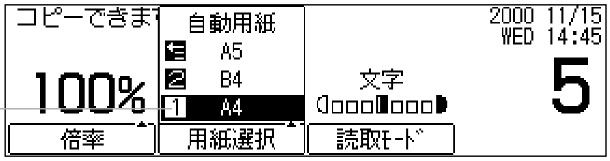
コピー部数

● 間違えたときはクリアボタンを押して指定しなおしてください。
● 原稿に合わせて濃度や画質を選択することができます。 ➔ ***P.2-13***

4 記録紙サイズを指定します



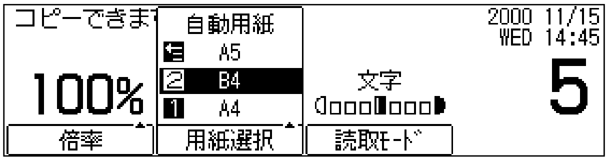
用紙選択ボタンで、コピーする記録紙のサイズが選択できます。



記録紙サイズ

● 特に指定しない場合は、適切なサイズの記録紙を自動的に選択する **"自動用紙**（自動用紙選択）**"** が選択されます（ただし、カセットやマルチフィーダにサイズの異なる記録紙がセットされている場合のみ)。詳しくは「自動用紙選択と自動変倍」（➔ ***P.2-11***）を参照してください。

用紙選択ボタンを押すごとに記録紙サイズが切り替わります。



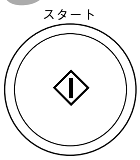
セット



記録紙サイズを選択し、セットボタンを押します。

● ご使用になる機会の多いサイズの記録紙は、上段カセットにセットしておくと便利です。
● 拡大または縮小してコピーすることもできます。 ➔ ***P.2-10***

5 スタートボタンを押します



原稿のコピーが始まります。

- 自動用紙（自動用紙選択）を指定してスタートボタンを押したとき、“適正サイズの用紙がありません”と表示された場合は、原稿に見合う大きさの記録紙がセットされていません。用紙選択ボタンで記録紙を選択しなおしてください。
  そのままスタートボタンを押すと、余白または画像の欠けがもっとも少ない記録紙が自動選択され、コピーがはじまります。

コピーを中止したいときはストップボタンを押してください。

お願い

- *原稿をコピーする場合、法律によって単にそのコピーを所有するだけで罰せられるものがありますのでご注意ください。次のものは法律でコピーが禁止されているものです。注意してください。*
  1.法律で禁止されているもの
  - *紙幣、貨幣、政府発行の有価証券、国債証券、地方債証券をコピーすることは禁止されています。たとえ、見本の印が押してあってもコピーすることはできません。*
  - *外国において流通する紙幣、貨幣、証券類のコピーも禁止されています。*
  - *政府の許可をとらない限り、未使用郵便切手、郵便はがきの類をコピーすることは禁止されています。*

  2.注意を要するもの
  - *民間発行の有価証券（株券、手形、小切手など）、定期券、回数券などは、事業会社が業務に供するための最低必要部数をコピーする以外は、政府の指導により注意を呼びかけられています。*
  - *政府発行のパスポート、公共機関や民間団体発行の免許証、許可証、身分証明書や通行券、食券などの切符類も許可なしにコピーしないでください。*

    ［関係法律］
    - *刑法*
    - *通貨及証券模造取締法*
    - *外国ニ於テ流通スル貨幣紙幣銀行券証券偽造変造及模造ニ関スル法律*
    - *郵便法*
    - *郵便切手類模造等取締法*
    - *印紙犯罪処罰法*
    - *印紙等模造取締法*

  3.著作権の目的となっているもの
  - *書類、音楽、絵画、版画、地図、図面、映画および写真などの著作物は、個人的に、または家庭内、その他これに準ずる限られた範囲で使用する以外はコピーを禁じられています。*
- *コピー中、またはファクス送信中には、原稿台カバーにはさわらないでください。原稿台カバーが揺れて画像が乱れるときがあります。*

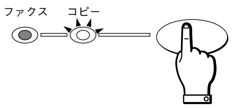
メモ

- *原稿台ガラスにゴミやホコリがついていると、コピーが汚れてしまいます。原稿台ガラスは常にきれいな状態にしておいてください。*➔ **P.8-21**
- *メモリに大量の原稿が記憶されていると、コピーできなくなることがあります。コピー中、ディスプレイに“メモリがいっぱいです”と表示されたときは、メモリ内に記憶された受信原稿をプリントするか、送信予約原稿の送信が終了してからコピーしなおしてください。*➔ **P.9-15**
  なお、このような場合でも原稿台ガラスからコピーすることはできます。また、ADFから1部ずつコピーすることもできます。

本などの原稿をコピーするには

本のように厚みのある原稿や破れた原稿、また傷みやすい原稿など、ADF（自動原稿送り装置）にセットできない原稿をコピーすることができます。

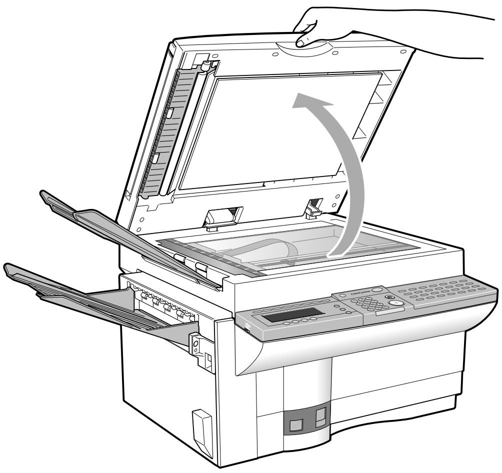
1 コピーモードにします



ファクス／コピー切り替えボタンを押して､コピーランプを点灯させてください。

2 原稿台カバーを開きます

イラストのように原稿台カバーを持ち上げてください。

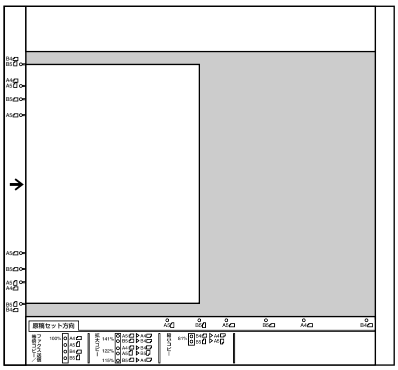


3 原稿を裏向きにして原稿台ガラスにのせます

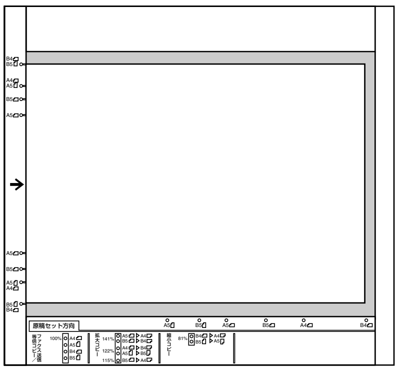
原稿のサイズに応じた原稿台左のサイズマークに原稿の両端を合わせます。

原稿セットの向き（等倍コピー時）

コピーする記録紙と同じ向きにセットします。



縦置き：A5、B5



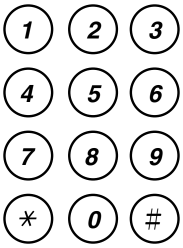
横置き：A4、B4

- 拡大／縮小コピーは倍率によって使用する記録紙が変わります。このため記録紙の向きによって、原稿セットの方向も変化します。原稿台ガラス手前のラベル表示、および「原稿サイズと倍率によるセット方向」（➔ ***P.1-11***）を参照して、正しい方向に原稿をセットしてください。

4 原稿台カバーを静かに閉じます

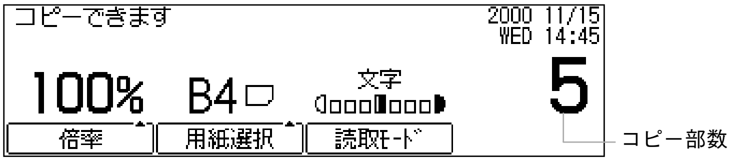
> ⚠注意
>
> - 原稿台カバーは手をはさまないように静かに閉じてください。けがの原因になることがあります。
> - 原稿台ガラスに本などの厚い原稿をセットしたときは、その本などの厚い原稿や原稿台カバーを上から強く押さえないでください。原稿台ガラスが破損して、けがの原因になることがあります。原稿台ガラスの許容荷重は2kgまでです（約500ページの電話帳1冊分）。

5 コピー部数を指定します



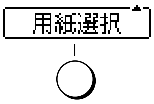
テンキーでコピー部数を指定します。99部まで指定できます。

- 1枚だけコピーする場合は、部数の指定は不要です。

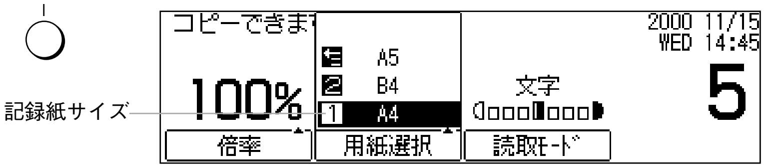


- 間違えたときはクリアボタンを押して指定しなおしてください。
- 原稿に合わせて濃度や画質を選択することができます。➔ ***P.2-13***

6 記録紙サイズを指定します

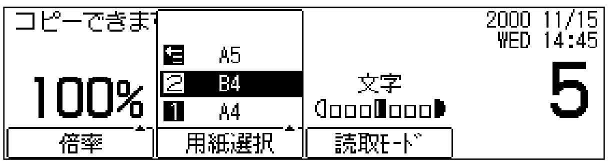


用紙選択ボタンで、コピーする記録紙のサイズが選択できます。



- 初期値では上段カセットの記録紙サイズが選択されています。

用紙選択ボタンを押すごとに記録紙サイズが切り替わります。

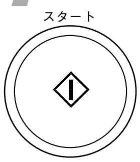




記録紙サイズを選択し、セットボタンを押します。

- ご使用になる機会の多いサイズの記録紙は、上段カセットにセットしておくと便利です。
- 拡大または縮小してコピーすることもできます。➔ ***P.2-10***
- とじ代や枠消し、ページ連写の設定をすることもできます。
  ➔ ***P.2-15,2-19,2-21***

7 スタートボタンを押します



原稿のコピーが始まります。

コピーを中止したいときはストップボタンを押してください。

メモ

原稿台ガラスにゴミやホコリがついていると、コピーが汚れてしまいます。原稿台ガラスは常にきれいな状態にしておいてください。➔ ***P.8-21***

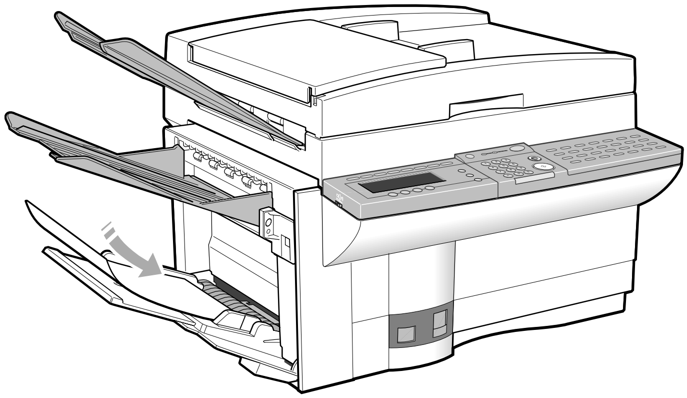
OHPフィルムやラベル用紙にコピーするには

コピー時にOHPフィルムやラベル用紙が使えます。

OHPフィルムやラベル用紙を使うとき

マルチフィーダトレイにOHPフィルムやラベル用紙を1枚ずつセットします。

- 必ず1枚ずつセットしてください。
- 記録紙カセットにセットすることはできません。



- 詳しくは「マルチフィーダトレイに記録紙をセットするには」（➔ **P.8-5**）を参照してください。

コピーが済んだらOHPフィルムやラベル用紙を取り除き、マルチフィーダトレイの記録紙サイズ切り替えスイッチをOFFにします。

お願い

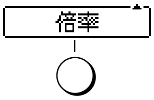
- *OHPフィルムやラベル用紙はコピーが済んだら必ずマルチフィーダトレイから取り除いてください。セットしたままだとファクス受信時にOHPフィルムやラベル用紙にプリントしてしまうことがあります。*
- *OHPフィルムやラベル用紙は記録紙カセットにセットしないでください。故障や誤動作の原因になります。*
- *マルチフィーダトレイを使用しないときは、記録紙サイズ切り替えスイッチをOFFにしてください。OFFにしていないと、カセットに記録紙がセットされているのにメモリ代行受信してしまうことがあります。*
- *ハガキはマルチフィーダトレイにも記録紙カセットにもセットできません。*

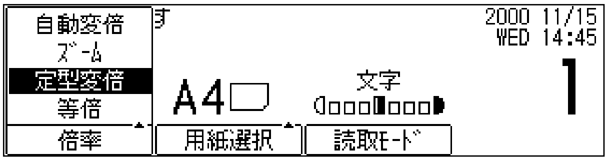
大きさを変えてコピーするには

原稿を拡大または縮小するコピーを変倍コピーと呼びます。本機の変倍コピーには、定型サイズから別の定型サイズに拡大または縮小する“定型変倍”、50% から 200% まで任意の倍率を設定できる“ズーム”があります。原稿と同じサイズでコピーする“等倍”に戻すこともできます。
また、原稿を ADF にセットした場合は、適切な変倍率を自動的にセットする“自動変倍（自動倍率設定）”を選択することもできます。詳しくは「自動用紙選択と自動変倍」（➔ ***P.2-11***）を参照してください。

定型変倍コピーを設定するには

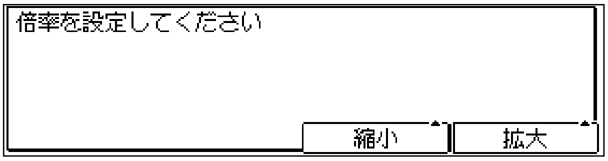
1 倍率ボタンで“定型変倍”を選択します。



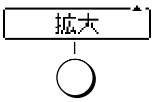




セットボタンを押します。

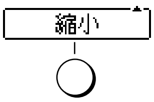


2 拡大ボタンまたは縮小ボタンでコピーの倍率を選択します

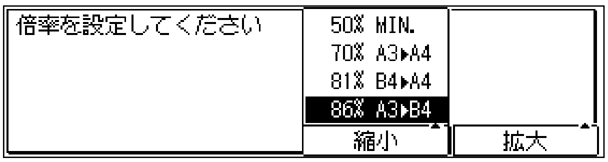


拡大ボタンを押すごとに、拡大率が切り替わります。





縮小ボタンを押すごとに、縮小率が切り替わります。





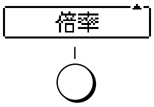
セットボタンを押します。

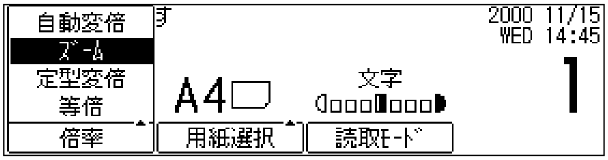
メモ

*原稿セットの方向にご注意ください。特に変倍コピー時は、倍率によって原稿の置き方が変わります。詳しくは「原稿サイズと倍率によるセット方向」（➔ **P.1-11**）を参照してください。*

ズームコピーを設定するには

1 倍率ボタンで“ズーム”を選択します

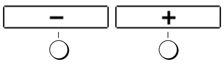


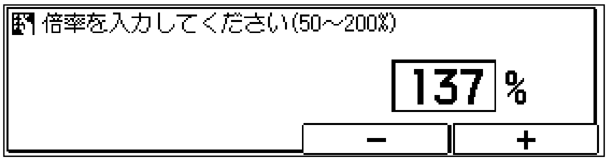




セットボタンを押します。

2 －ボタンまたは＋ボタンでコピーの倍率を設定します





- テンキーで倍率を入力することもできます。
- 間違えたときはクリアボタンを押して指定しなおしてください。

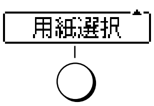


セットボタンを押します。

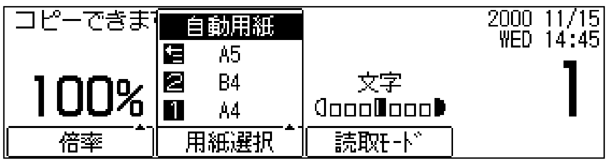
自動用紙選択と自動変倍

コピーの倍率と記録紙のサイズの組み合わせによっては、コピー画像の一部が欠けたり、余白が極端に大きくなることがあります。ADFに原稿をセットした場合は、適切な組み合わせを自動的に選択する二つの機能を活用できます。

自動用紙選択



セットした原稿サイズに適合する記録紙を自動的に選択する機能です。ADFに原稿をセットし、用紙選択ボタンで“自動用紙”を選択してください。



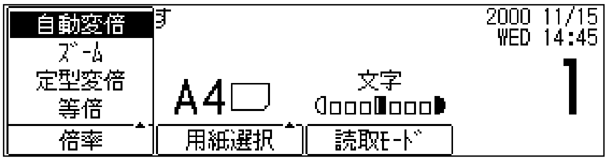
- 拡大や縮小などコピーの倍率を変更している場合は選択できません。
- 通常、ADFに原稿をセットすると、自動的に「自動用紙選択」となります（ただし、カセットやマルチフィーダにサイズの異なる記録紙がセットされている場合のみ）。

原稿と同じサイズの記録紙がない場合は“適正サイズの用紙がありません”というメッセージが表示されます。
もう一度スタートボタンを押すと、余白または画像の欠けがもっとも少ない記録紙を選択し、コピーを始めます。

● 用紙選択ボタンで記録紙サイズを選択しなおすこともできます。

自動変倍

変倍率を自動的にセットする機能です。
ADFに原稿をセットし、記録紙のサイズを選択してから、倍率ボタンで“自動変倍”を選択してください。



●「自動用紙選択」と同時には選択できません。“自動変倍”を選択したときは、記録紙サイズを確認してください。

● ズーム（50～200%）の範囲をこえる自動変倍はできません。

● 次の原稿サイズと記録紙サイズの組み合わせは、自動変倍の機能が働きません。定型変倍コピーで倍率を指定してコピーしてください。

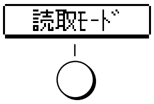
（原稿サイズ）		（記録紙サイズ）
B5 横	→	A4 横
B5 横	→	B4 横
A5 横	→	A4 横

メモ　*原稿台ガラスからのコピーでは、これらの機能は利用できません。*

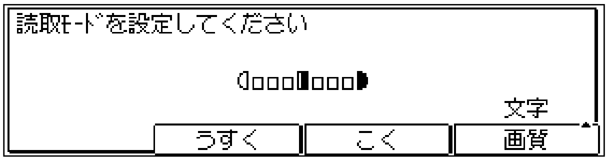
鮮明にコピーするには

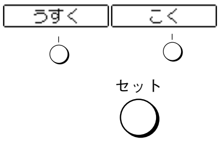
本機は、キヤノンが独自開発した新デジタル画像処理技術「ジェネシス」を搭載しています。複雑で細かな原稿も忠実にコピーできます。

文字や写真の濃度が気になるとき



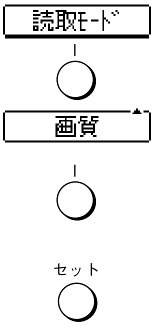
読み取りモードボタンを押すと次の画面になります。



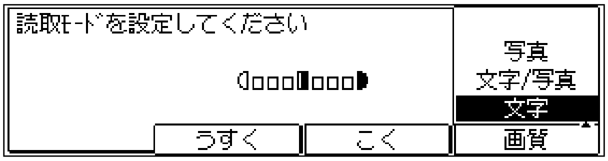


うすくボタンまたはこくボタンで適切な濃度を選択し、セットボタンを押します。

文字だけの原稿のとき

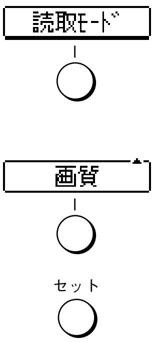


読み取りモードボタンを押したあと、画質ボタンで“文字”を選択します。

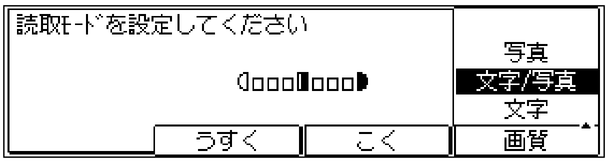


セットボタンを押します。
細かい文字もかすれずにはっきりとコピーできます。

写真と文字が両方あるとき

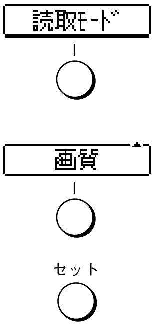


読み取りモードボタンを押したあと、画質ボタンで“文字／写真”を選択します。

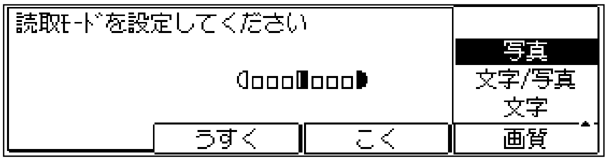


セットボタンを押します。
新聞や雑誌などの写真も鮮やかにコピーできます。

写真の中間調を活かしたいとき



読み取りモードボタンを押したあと、画質ボタンで“写真”を選択します。



セットボタンを押します。

写真のように中間調をもつ原稿がきれいにコピーできます。

メモ

- *コピーするときの解像度は変更できません。*
- *より美しいコピーが必要な場合は、原稿台ガラスに原稿をセットしてコピーしてください。*

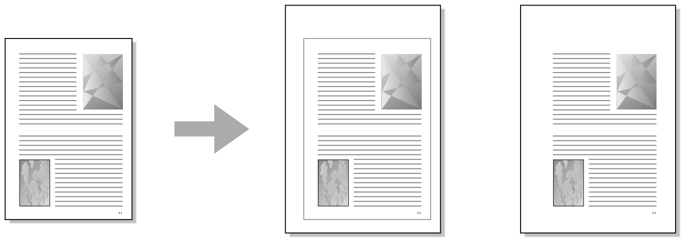
枠消しコピーするには

原稿台ガラスにセットした原稿をコピーする場合は、コピーに写る原稿の影や記録紙からはみ出した画像などを、一定幅の白い枠で消してコピーできます。この機能を枠消しと呼びます。
なお、ADF からコピーする場合は、枠消しの機能は働きません。
本機には 2 種類の枠消し機能が用意されています。

枠消しの種類

原稿枠消し

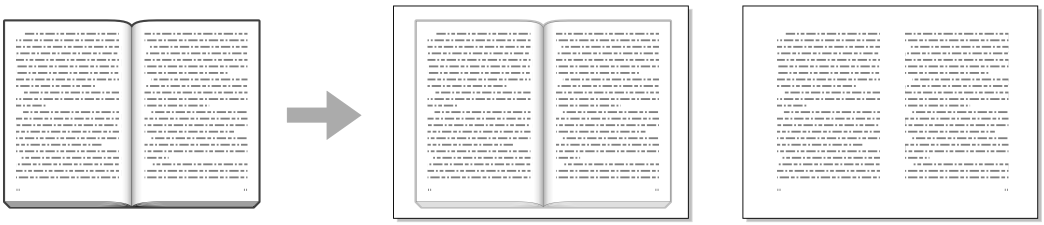
原稿のサイズに合わせて影を消します。原稿が記録紙より小さいときなどに写り込む、原稿の周辺部の影を消す場合に便利です。



通常のコピー　　原稿枠消し

ブック枠消し

見開きの本などをコピーしたときにできる原稿周辺部および原稿中央部の影を消します。原稿台ガラスから本や雑誌をコピーするときに便利です。

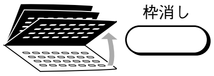


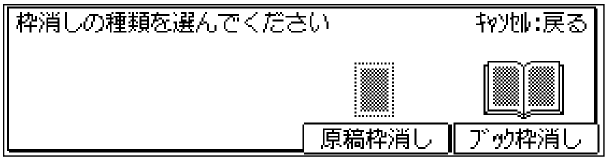
通常のコピー　　ブック枠消し

● 周囲の枠消しの幅は変更することができます。→ P.8-43

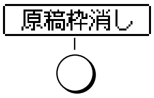
原稿枠消しを設定するには

1 3枚のワンタッチダイヤルパネルを開いて、枠消しボタンを押します





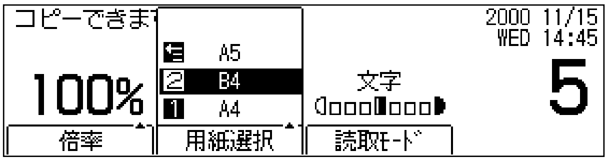
2 原稿枠消しボタンを押します

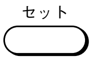


3 原稿サイズを選択します

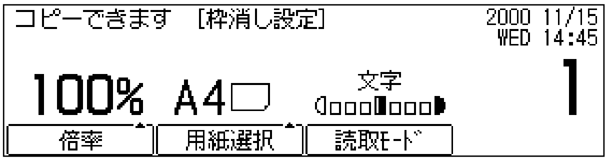


▼または▲ボタンで原稿サイズを選択します。



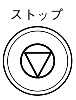


セットボタンを押します。



原稿枠消しの取消し

1 ストップボタンを押します

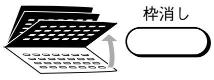


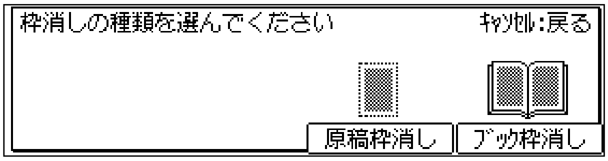
原稿枠消しの設定が取り消されます。

- ストップボタンを押すと、コピーの部数や読み取りモードなどすべての設定が初期値に戻ります。

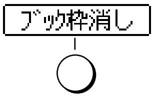
ブック枠消しを設定するには

1 3枚のワンタッチダイヤルパネルを開いて、枠消しボタンを押します





2 ブック枠消しボタンを押します

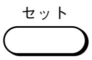


3 原稿サイズを選択します



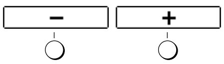
▼または▲ボタンで見開きの原稿サイズを選択します。



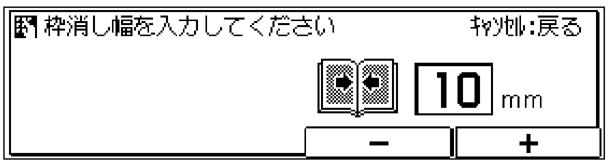


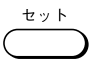
セットボタンを押します。

4 中央の枠消し幅を指定します

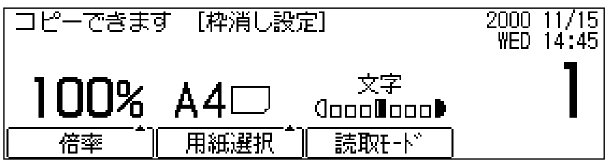


－または＋ボタン、あるいはテンキーで中央の枠消し幅を設定します。3 ～ 50mm の範囲で指定できます。



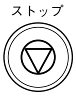


セットボタンを押します。



ブック枠消しの取消し

1 ストップボタンを押します



ブック枠消しの設定が取り消されます。

- ストップボタンを押すと、コピーの部数や読み取りモードなどすべての設定が初期値に戻ります。

メモ

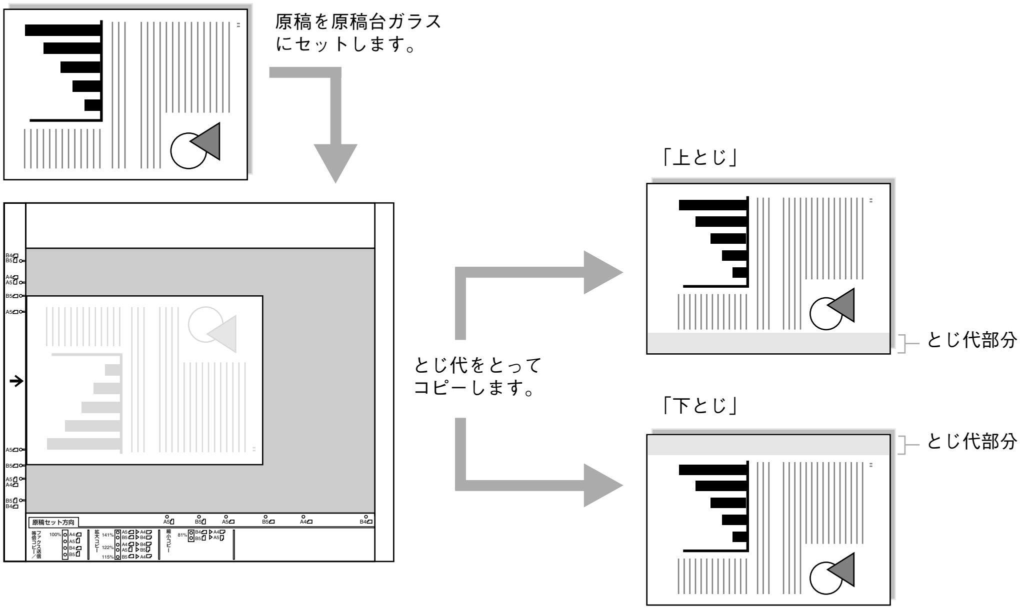
枠消しの機能はとじ代の機能と同時に使うことはできません。

とじ代を取ってコピーするには

原稿台ガラスにセットした原稿の上側または下側にとじ代として余白を取ってコピーすることができます。

とじ代の種類

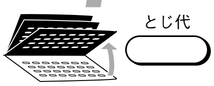
とじ代には「上とじ」と「下とじ」があります。



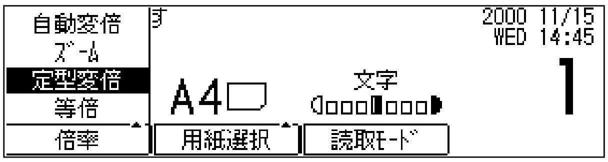
なお、ADF からコピーする場合は、とじ代の機能は働きません。

とじ代を設定するには

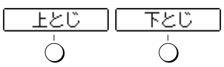
1 3枚のワンタッチダイヤルパネルを開いて、とじ代ボタンを押します



次の画面が表示されます。

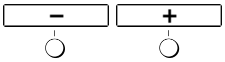


2 とじ代位置を選択します

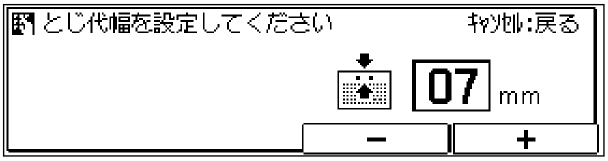


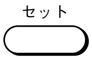
上とじまたは下とじボタンを押します。

3 とじ代幅を設定します

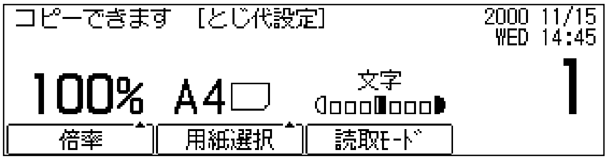


－または＋ボタン、あるいはテンキーでとじ代幅を設定します。
1 ～ 10mm の範囲で指定できます。



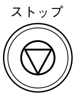


セットボタンを押します。



とじ代の取消し

1 ストップボタンを押します



とじ代の設定が取り消されます。

● ストップボタンを押すと、コピーの部数や読み取りモードなどすべての設定が初期値に戻ります。

メモ

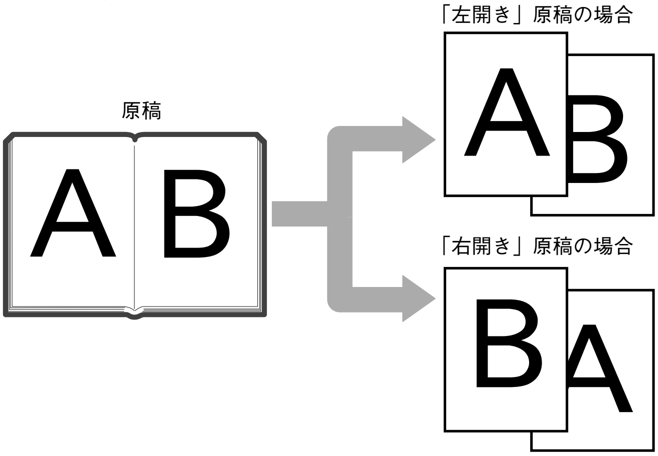
とじ代の機能は枠消しの機能やページ連写の機能と同時に使うことはできません。

見開き原稿をページ連写コピーするには

原稿台ガラスにセットした雑誌や本のような見開き原稿の左右ページを、一回の操作でそれぞれ別々の記録紙にコピーすることができます。この機能をページ連写と呼びます。なお、ADFからコピーする場合は、ページ連写の機能は働きません。

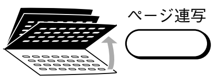
ページ連写の種類

ページ連写には「左開き」と「右開き」があります。それぞれ次の図のようにコピーされます。

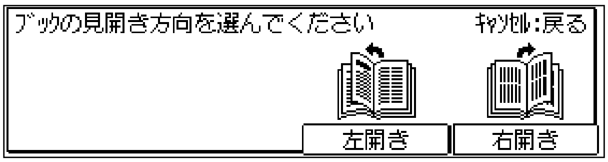


ページ連写を設定するには

1 3枚のワンタッチダイヤルパネルを開いて、ページ連写ボタンを押します

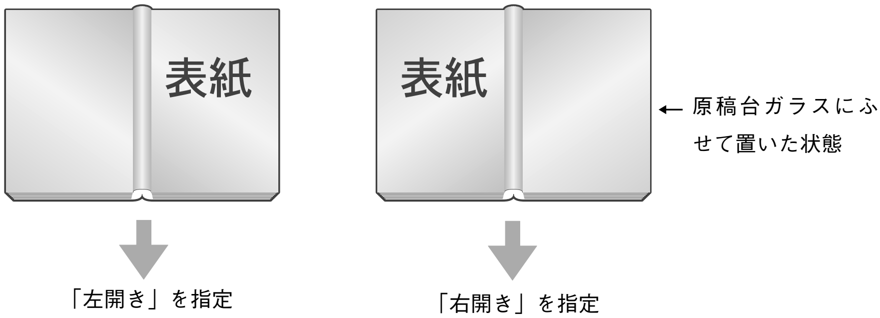


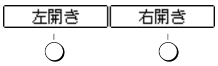
次の画面が表示されます。



2 ブックの開き方向を選択します

見開き原稿の左右どちらのページからコピーするかを、原稿台ガラスにふせて置いた状態によって選択します。





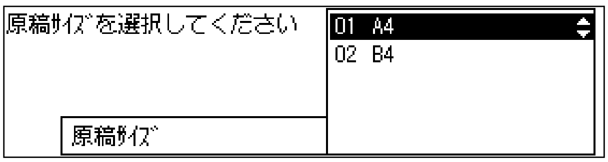
セットした原稿にあわせて、左開きまたは右開きボタンを押します。

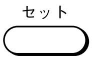
3 原稿サイズを選択します



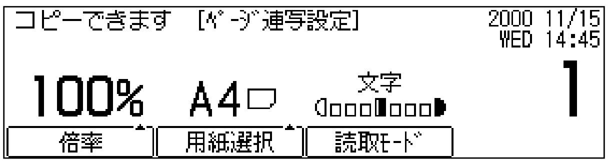
▼または▲ボタンで原稿サイズを選択します。

- 見開きA4サイズの原稿をA5サイズの記録紙2枚にページ連写する場合は“01 A4”を、見開きB4サイズの原稿をB5サイズの記録紙2枚にページ連写する場合は“02 B4”を選択します。



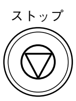


セットボタンを押します。



ページ連写の取消し

1 ストップボタンを押します



ページ連写の設定が取り消されます。

- ストップボタンを押すと、コピーの部数や読み取りモードなどすべての設定が初期値に戻ります。

メモ　*ページ連写の機能はとじ代の機能と同時に使うことはできません。*

第 3 章

送信するには

送信するための3つの方法

原稿の送信には、基本的にメモリ送信、ダイレクト送信、手動送信という3つの方法があります。状況に応じて使い分けてください。

メモリ送信 ― いちばん簡単ですばやい送信 ➔ *P.3-5*

セットした原稿をまとめてメモリに読み込んでから送信します。読み込みスピードが早く、原稿をすぐに持ち帰ることができます。メモリ送信中でも、他の原稿の送信予約ができます。

ダイレクト送信 ― 確認しながら優先的に送信 ➔ *P.3-7*

セットした原稿を1枚1枚確認しながら直接送信できます。メモリに複数の送信予約原稿があるときでも、セットした原稿が優先的に送信されます。

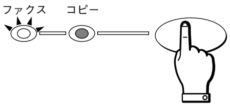
手動送信 ― 電話をしてから送信 ➔ *P.3-8*

電話で相手と通話したり、相手を確認したあと、原稿が送信できます。相手先のファクスから電話がかかってきたときも、原稿をセットすれば送信できます。なお、手動送信するためには、本機に電話機、またはオプションのハンドセットを接続する必要があります。

ADFへの送信原稿セット

ADF（自動原稿送り装置）にはA4サイズの原稿が50枚、B4やA3サイズは20枚まで一度にセットできます。なお、本のような厚みのある原稿を送信するときは、「本などの原稿を送信するには」（➔ **P.3-10**）を参照してください。

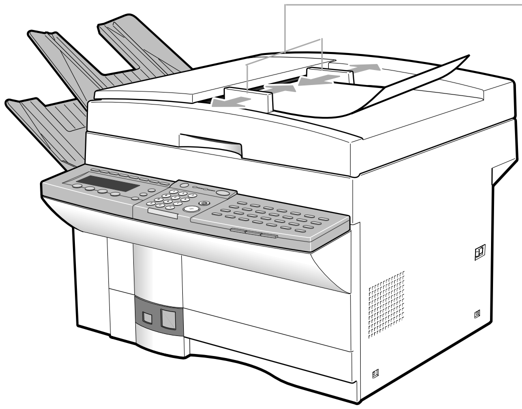
1 ファクスモードにします



ファクス／コピー切り替えボタンを押して、ファクスランプを点灯させてください。

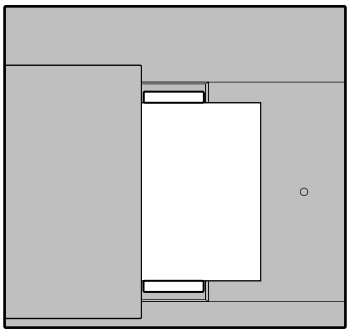
2 原稿を裏向きにしてADFにのせます

原稿の幅に合わせてスライダを調節します。

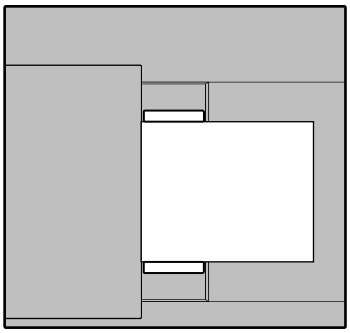


原稿がつきあたるまで、差し込んでください。

原稿セットの向き



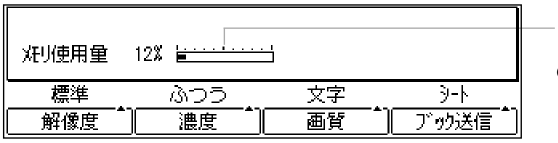
縦置き：A5、B5

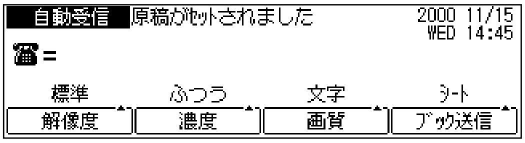


横置き：A4、B4、A3

第3章
送信するには

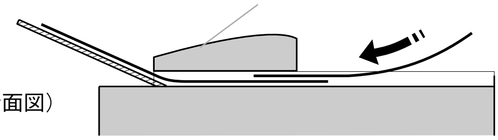
次のようなメッセージが表示されます。





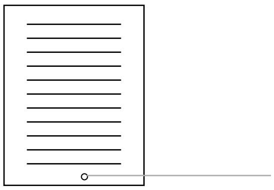
原稿を追加するには

原稿がつまるおそれがあるのでなるべく追加しないでください。どうしても必要な場合は、追加の原稿を上に重ねて軽く差し込みます。



原稿にスタンプを押すには

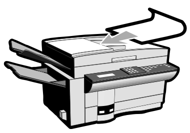
本機には、読み込みまたは送信の済んだ原稿にスタンプを押す機能があります。送信する前にスタンプボタンを押して、スタンプランプを点灯させてください。下の図の位置にスタンプが押されます。なお、原稿台ガラスから送信する場合、この機能は働きません。



- 定期的にインクの補充が必要です。 ➔ ***P.8-23***
- 手動送信やダイレクト送信時の送信済原稿だけにスタンプを押すか、メモリ送信時に読み込まれた原稿にもスタンプを押すか選択できます。
  ➔ ***P.8-32***（済みスタンプの種類）

メモ

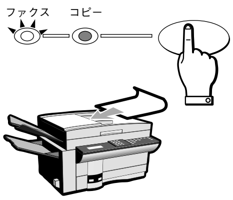
この使用説明書の他の部分では、送信原稿のADFへのセットを次のマークで示します。



メモリから送信するには

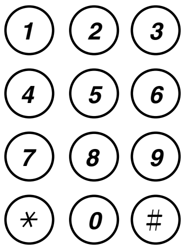
もっとも操作が簡単なのは、原稿をメモリに読み込ませてから送信する方法です。これをメモリ送信と呼びます。メモリ送信中でも同じ操作で他の原稿の送信予約ができます（デュアルアクセス機能）。
なお、ADF を使わずにメモリ送信するときは、「本などの原稿を送信するには」（➔ **P.3-10**）を参照してください。

1 ファクスモードにし、ADF に原稿をセットします ➔ **P.3-3**

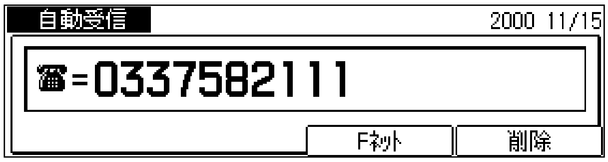


原稿に合わせて濃度や画質が設定できます。 ➔ **P.3-17**
発信人名称も選択できます。 ➔ **P.7-21**

2 相手の電話番号をダイヤルします

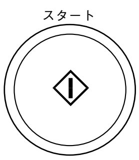


テンキーのほか､ワンタッチダイヤルや短縮ダイヤルが使用できます。 ➔ **P.6-5,6-12,6-20**

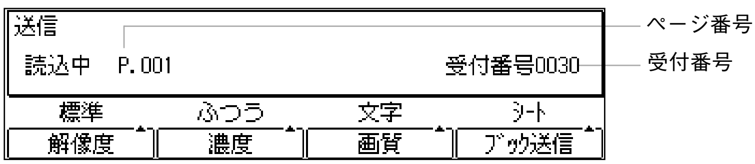


- 間違えたときは、クリアボタンを押してからダイヤルしなおしてください。
- ワンタッチダイヤルや短縮ダイヤルを使用すると､5秒後にダイヤルタイムアウト機能が働き、スタートボタンを押さなくても、原稿は自動的にメモリに読み込まれ、送信されます。この機能が働かないようにすることもできます。 ➔ **P.8-32**

3 スタートボタンを押します



原稿がメモリに読み込まれます。



読み込まれた原稿は、メモリから自動的に送信されます。
- ページ番号は、読み込み中の原稿が何枚目であるかを示しています。受付番号はメモリ内の原稿のプリントやクリアなどに使います。
➔ **P.3-24,5-38**

● 途中で送信を中止するときは、ストップボタンを押してください。「通信を中止しますか？」というメッセージが表示されたら［はい］を押してください。ただし、オプションの２回線ボードを取り付けている場合で２回線とも通信中のときは、ストップボタンを押すとどちらの通信を中止するのかを選択する画面が表示されます。▲または▼ボタンで中止する通信を反転表示させ、セットボタンを押してから［はい］を押してください。 ➔ ***P.3-16***

メモ

- *送信でエラーになった原稿は、自動的にメモリから消去されます。*
- *原稿の読み込み途中で送信が開始されます。この機能をクイックメモリ送信と呼びます。この機能がはたらかないように設定することもできます。* ➔ ***P.8-32***
- *メモリには64枚読み込めます。オプションのメモリを増設すると最大576枚読み込むことができます（キヤノンFAX標準チャートNo.1、標準モード使用時）。*
- *送信が正常に終了すると原稿は自動的にメモリから消去されます。*

同じ宛先への一括送信について

メモリに宛先が同じ複数の原稿が読み込まれているときは、それらの原稿は自動的にまとめて送信されます。この機能を宛先別一括送信と呼びます。

● 宛先別一括送信の機能がはたらかないように設定することもできます。
➔ ***P.8-32***（一括送信）

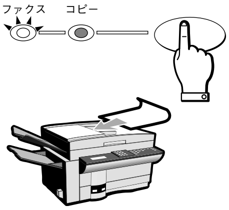
お願い

- *テンキーで宛先を指定した場合には、一括送信の機能ははたらきません。*
- *タイマー通信、ポーリング、親展、中継、Fコード、パスワードボタンを押した送信原稿は一括送信できません。*
- *Fコードやパスワードが登録されているワンタッチダイヤルや短縮ダイヤルで宛先を指定した場合には、一括送信の機能は働きません。*

原稿を直接送信するには

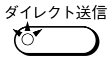
セットした原稿をメモリに読み込ませず直接送信する方法をダイレクト送信と呼びます。メモリ内に送信原稿が記憶されているときでも、ADFにセットした送信原稿を優先的に送信することができます。
なお、ADFを使わずにダイレクト送信することはできません。

1 ファクスモードにし、ADFに原稿をセットします ➔ P.3-3



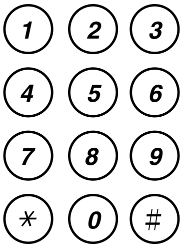
原稿に合わせて濃度や画質が設定できます。 ➔ P.3-17
発信人名称も選択できます。 ➔ P.7-21

2 ダイレクト送信ボタンを押します

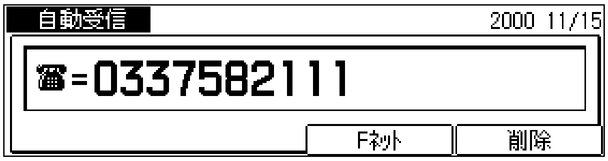


ダイレクト送信ランプの点灯を確認してください。

3 相手の電話番号をダイヤルします

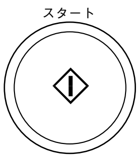


テンキーのほか、ワンタッチダイヤルや短縮ダイヤルが使用できます。 ➔ P.6-5,6-12



- 間違えたときは、クリアボタンを押してからダイヤルしなおしてください。

4 スタートボタンを押します



相手のファクスを呼び出し、原稿の送信がはじまります。

- 送信中は、受付番号や相手の電話番号、送信中のページ番号などが表示されます。
- 途中で送信を中止するときは、ストップボタンを押してください。

メモ

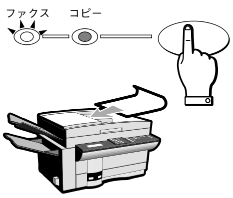
- *メモリに複数の送信予約原稿があるときでも、ダイレクト送信ボタンを押すと、セットした原稿が優先的に送信されます。*
- *送信を中断した場合、原稿がフィーダカバーの下につまった状態になることがあります。その場合はフィーダカバーを開いて原稿を取り出してください。*
  ➔ P.9-2

第3章
送信するには

相手に電話してから送信するには

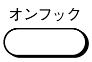
電話で相手と通話したり、相手を確認してから原稿を送信することを手動送信と呼びます。
手動送信するには、本機に電話機またはオプションのハンドセットを接続する必要があります。
なお、ADF を使わずに手動送信することはできません。

1 ファクスモードにし、ADF に原稿をセットします → P.3-3



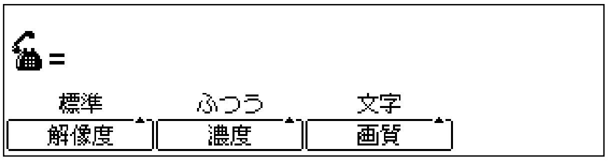
原稿に合わせて濃度や画質が設定できます。 → P.3-17

2 オンフックボタンを押します

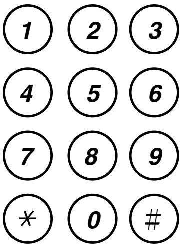


通信中ランプが点滅し、“ツー”という信号音が聞こえます。

- オンフックボタンを押さずにハンドセットを取ってもかまいません。
- 信号音の大きさを調整することができます。 → P.1-2



3 相手の電話番号をダイヤルします

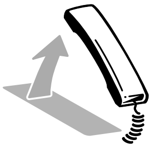


テンキーのほか、ワンタッチダイヤルや短縮ダイヤルが使用できます。 → P.6-5,6-12



- 間違えたときは、ストップボタンを押して手順 2 からやりなおしてください。

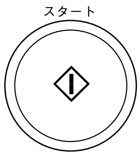
4 相手の声が聞こえたら、ハンドセットを取ります

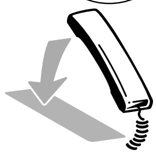


原稿を送信する前に相手にスタートボタンを押すよう伝えてください。相手のファクスが受信可能になると、“ピー”という信号音が聞こえます。

- 相手の声が聞こえても、ハンドセットを取るまでこちらの声は伝わりません。相手が出ないときは、オンフックボタンを押して電話を切ってください。
- “ピー”という信号音が聞こえたら、そのまま手順5に進んでください。

5 スタートボタンを押して、ハンドセットを戻します





原稿の送信がはじまります。

- 送信中、受付番号や相手の電話番号、送信中のページ番号などが表示されます。
- 途中で送信を中止するときは、ストップボタンを押してください。
- ハンドセットをきちんと戻しておかないと送信終了後“ピロピロピロ……”という警告音（オフフックアラーム）が鳴ります。警告音が鳴らないように設定することもできます。→ **P.8-28**

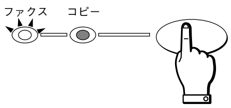
メモ

- *オプションの2回線ボードを取り付けている場合、回線1で通信していると手動送信できません。*→ **P.10-7**

本などの原稿を送信するには

本のように厚みのある原稿や破れた原稿、また傷みやすい原稿など、ADF（自動原稿送り装置）にセットできない原稿もそのまま送信することができます。

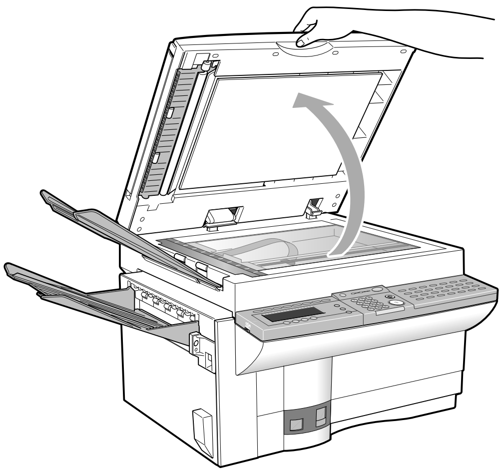
1 ファクスモードにします



ファクス／コピー切り替えボタンを押して､ファクスランプを点灯させてください。

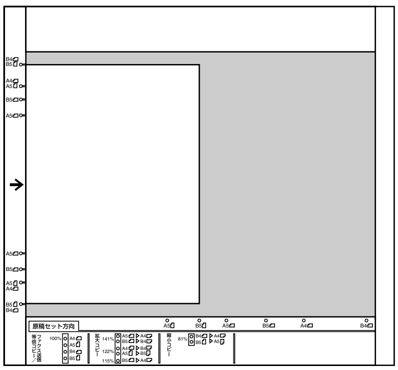
2 原稿台カバーを開きます

イラストのように原稿台カバーを持ち上げてください。

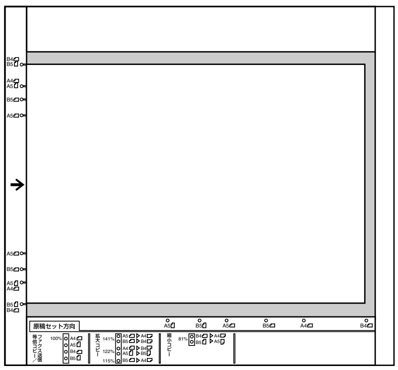


3 原稿を裏向きにして原稿台ガラスにのせます

原稿のサイズに応じた原稿台左のサイズマークに原稿の両端を合わせます。



縦置き：A5、B5



横置き：A4、B4

● 原稿に合わせて解像度や濃度、画質を選択することができます。

→ ***P.3-17***

お願い

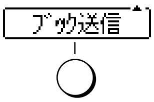
*原稿のセット方向を間違えると相手が受信したとき原稿の画像が欠けてしまうことがあります。原稿台ガラス手前のラベル表示、および「原稿サイズと倍率によるセット方向」（→ **P.1-11**）を参照して正しい方向でセットしてください。*

4 原稿台カバーを静かに閉じます

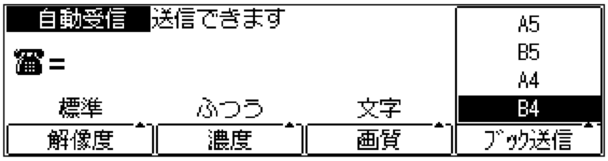
⚠注意

- 原稿台カバーは手をはさまないように静かに閉じてください。けがの原因になることがあります。
- 原稿台ガラスに本などの厚い原稿をセットしたときは、その本などの厚い原稿や原稿台カバーを上から強く押さえないでください。原稿台ガラスが破損して、けがの原因になることがあります。原稿台ガラスの許容荷重は2kgまでです（約500ページの電話帳1冊分）。

5 原稿読み取りサイズを指定します



ブック送信ボタンを押して原稿のサイズを指定します。



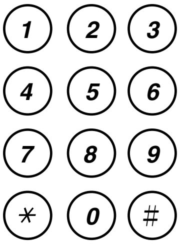
- ボタンを押すごとに、次の順序で読み取り原稿のサイズが切り替わります。

→ B4 → A4 → B5 → A5 ─┐（B4に戻る）

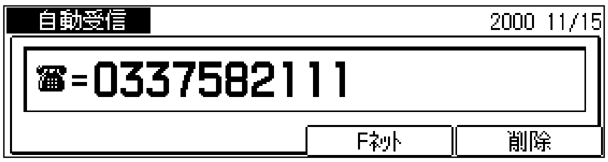


セットボタンを押します。

6 相手の電話番号をダイヤルします

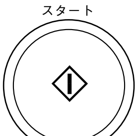


テンキーのほか、ワンタッチダイヤルや短縮ダイヤルが使用できます。→ **P.6-5,6-12,6-20**

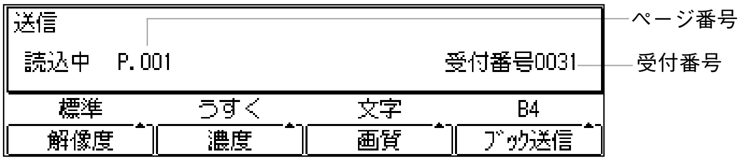


- 間違えたときは、クリアボタンを押してからダイヤルしなおしてください。
- 複数の相手先を入力して、同報送信（→ **P.3-19**）することもできます。
- 発信人名称も選択できます。→ **P.7-21**
- ダイヤルした後、発信人名称が選択できます。発信人名称は原稿がメモリへ読み込まれる前に選択してください。最初の電話番号をダイヤルしてから5秒以上、同報送信する場合は2番目以降の電話番号を入力してから10秒以上経過すると、ダイヤルタイムアウト機能が働き、自動的に原稿の読み込みが始まります。原稿の読み込みが始まると発信人名称の選択はできなくなります。→ **P.7-21**

7 1枚目の原稿を読み込ませます



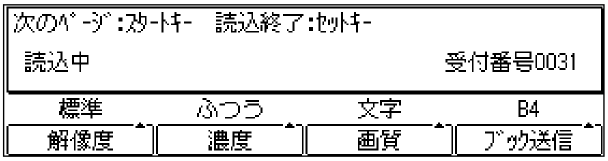
スタートボタンを押します。原稿がメモリに読み込まれます。



● ページ番号は、読み込み中の原稿が何枚目であるかを示しています。受付番号はメモリ内の原稿のプリントやクリアなどに使います。

➔ ***P.3-24,5-38***

読み込みが終わると、次のメッセージが表示されます。



原稿が1枚のときはこのまま手順の9へ進んでください。

● 1枚原稿を読み込んでから1分以上の間隔をあけると、自動的に原稿の送信が開始され、残りの原稿を読み込ませることができなくなってしまいます。

8 2枚目以降の原稿を読み込ませます

原稿の続きがある場合は、原稿台カバーを開け、読み込みの済んだ原稿を取り除いて次の原稿をセットしてからスタートボタンを押します。

すべての原稿を読み込ませるまでこの手順を繰り返してください。

● 読み込ませるページごとに読み取りサイズ、解像度、濃度、画質を変更できます。

送信する原稿をすべて読み込ませたら次の手順へ進みます。

● メモリには、他に原稿が記憶されていない状態で、キヤノンFAX標準チャートNo.1が標準モードで64枚読み込めます。

お願い

原稿読み込み中にメモリがいっぱいになると、ディスプレイに“メモリがいっぱいです”と表示され、読み込ませた原稿がすべて消去されます。

また、読み込ませることのできる原稿の枚数は、メモリ内に残っている受信原稿や送信予約原稿の量、および読み込ませる原稿の細かさや読み込み時の解像度などによって変化します。

原稿台ガラスから送信する場合、一度に読み込ませる原稿を少なめにしてください。

9 セットボタンを押します

セット
◯

読み込まれた原稿がメモリから送信されます。

● 途中で送信を中止するときは、ストップボタンを押してください。「通信を中止しますか？」というメッセージが表示されたら［はい］を押してください。ただし、オプションの2回線ボードを取り付けている場合で2回線とも通信中のときは、ストップボタンを押すとどちらの通信を中止するのかを選択する画面が表示されます。▲または▼ボタンで中止する通信を反転表示させ、セットボタンを押してから［はい］を押してください。➔ **P.3-16**

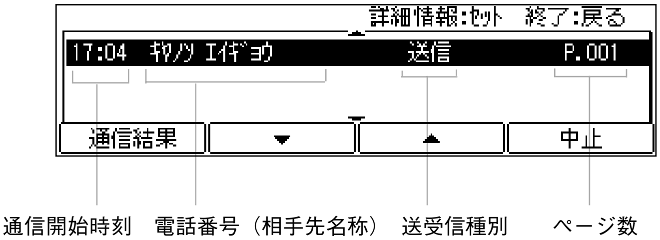
送信状況を確認するには

送信中の原稿や通信相手に関する情報を確認できます。また、送信結果についても確認できます。

送信状況を表示させるには

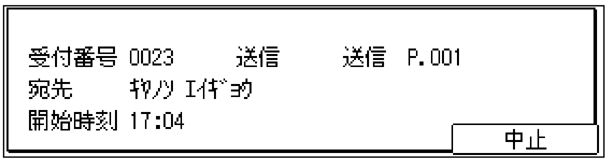
ファクス状況

ファクス状況ボタンを押します。



セットボタンを押してさらに詳細な情報を確認することもできます。

- オプションの２回線ボードを取り付けている場合、回線１の通信状況は確認画面の上部に、回線２の通信状況は確認画面の中央部に表示されます。2回線とも通信中のときは、情報を確認する通信を▲または▼ボタンで反転表示させ、そのあとセットボタンを押してください。



- 相手の機種によっては、相手の名前などが表示される場合もあります。

戻る

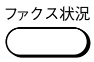
戻るボタンで待機画面に戻ります。

- 通信結果ボタンで通信の結果を確認することができます。
- 中止ボタンで送信を中止することもできます。中止ボタンを押して、“通信を中止しますか？”というメッセージが表示されたら［はい］を押してください。

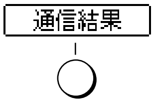
メモ

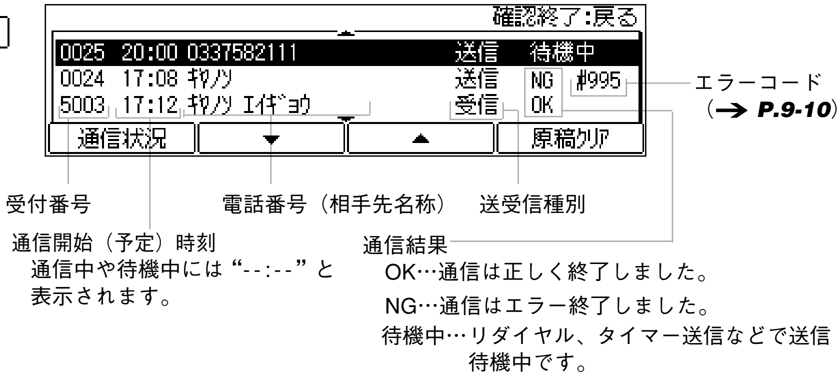
ダイレクト送信中や手動送信中にはファクス状況ボタンを押しても送信状況は表示されません。

送信結果を確認するには



ファクス状況ボタンを押します。通信状況の確認画面が表示されてから、通信結果ボタンを押します。





画面では一度に3件までの通信結果が確認できます。画面に表示しきれない通信結果は、▲または▼ボタンを押して表示させることができます。

- 通信開始（予定）時刻の新しい順に並んで、まず送信結果が、次に受信結果が表示されます。
- 過去40通信までさかのぼって確認できます。
- 送信の結果は、送信結果レポートや通信管理レポートでも確認できます。→ ***P.8-15,8-18***



戻るボタンで待機画面に戻ります。

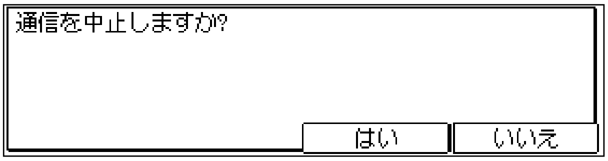
メモ

ダイレクト送信中や手動送信中にはファクス状況ボタンを押しても送信状況は表示されません。

送信を中止するには

送信を中止するときは、ファクスモードに切り替えてストップボタンを押します。ダイレクト送信のときは、すぐに送信が中止できます。メモリ送信のときは、送信中にストップボタンを押すと、つぎのように表示されます。表示されないときは、もう一度押してください。

- ● オプションの２回線ボードを取り付けている場合で２回線とも通信中のときは、ストップボタンを押すとどちらの通信を中止するのかを選択する画面が表示されます。▲または▼ボタンで中止する通信を反転表示させ、セットボタンを押してください。



［はい］を押すと、原稿の送信を中止できます。中止しないときは［いいえ］を押してください。

- ● 送信を中止しようとしてストップボタンを押しても、［はい］を押すまでは送信しつづけます。
- ● リダイヤル待機中やメモリ送信待機中の原稿の送信を中止するときは、ファクス状況ボタンを押して送信を取消してください。 ➔ **P.3-24**

お願い

ダイレクト送信を中断した場合、原稿がフィーダカバーの下につまった状態になることがあります。その場合はフィーダカバーを開いて原稿を取り出してください。 ➔ **P.9-2**

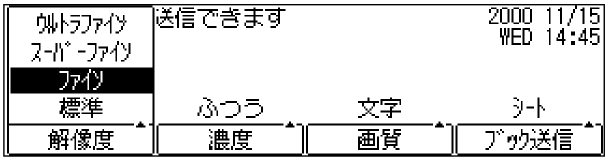
鮮明に送信するには

本機は、キヤノンが独自開発した新デジタル画像処理技術「ジェネシス」を搭載しています。複雑で細かな原稿も忠実に送信できます。

文字が細かいとき

解像度

解像度ボタンを押すごとに、送信時の解像度が切り替わります。



セット

“ファイン”、“スーパーファイン”、あるいは“ウルトラファイン”から適切な解像度を選択し、セットボタンを押します。
普通の原稿のときは、“標準”を選択してください。

- ファインにすると標準の倍の解像度、スーパーファインにすると標準の4倍の解像度、ウルトラファインでは標準の8倍の解像度で送信できます。ただし、標準のときよりも送信に時間がかかります。

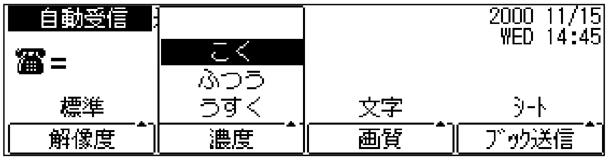
メモ

相手機がスーパーファインモードあるいはウルトラファインモードを持っていない場合、選択した解像度では送信されません。

文字や写真の濃度が気になるとき

濃度

濃度ボタンを押すごとに、読み取り濃度が切り替わります。



セット

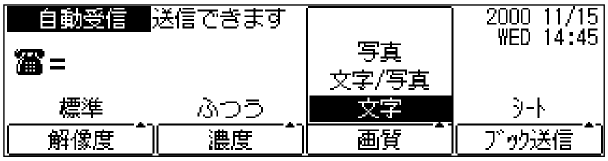
“こく”、“ふつう”、“うすく”から適切な濃度を選択し、セットボタンを押します。

- 色の薄い原稿のときは“こく”を、色の濃い原稿のときは“うすく”を選択して、送信するときの濃度を調整してください。

文字だけの原稿のとき

画質

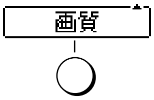
画質ボタンを数回押し、“文字”を選択します。



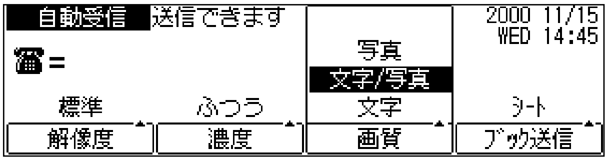
セット

セットボタンを押します。
細かい文字もかすれずにはっきりと送信できます。

写真と文字が両方あるとき



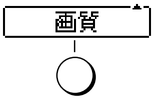
画質ボタンを数回押し、“文字／写真”を選択します。



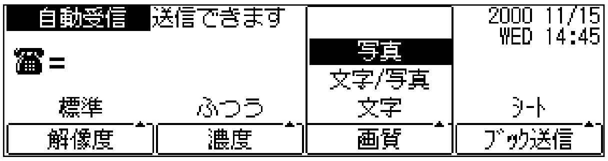


セットボタンを押します。
新聞や雑誌などの写真も鮮やかに送信できます。

写真の中間調を活かしたいとき



画質ボタンを数回押し、“写真”を選択します。





セットボタンを押します。
写真のように中間調をもつ原稿がきれいに送信できます。

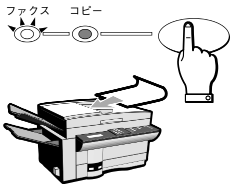
メモ

画質ボタンで“文字／写真”や“写真”を選択すると、“文字”を選択したときよりも送信に時間がかかります。

複数の相手に同じ文書を送信するには

１回の操作で、最大210ヵ所の相手に同じ原稿が送信できます。この機能を同報送信と呼びます。

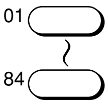
1 ファクスモードにし、ADF に原稿をセットします ➔ P.3-3



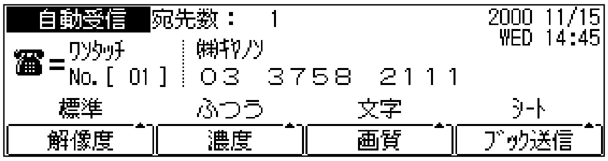
原稿に合わせて濃度や画質が設定できます。 ➔ P.3-17
発信人名称も選択できます。 ➔ P.7-21

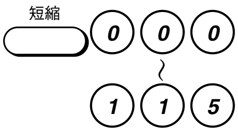
- ＡＤＦにセットできない原稿は、「本などの原稿を送信するには」（➔ P.3-10）の手順1～5を参照し、原稿台ガラスにセットしてください。

2 電話番号を順にダイヤルします

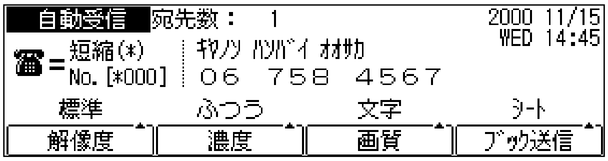


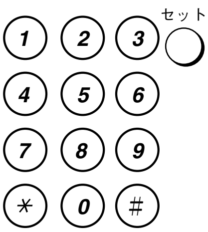
ワンタッチダイヤルでは、84ヵ所まで指定できます。 ➔ P.6-5



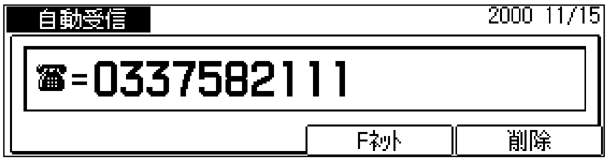


短縮ダイヤルでは、116ヵ所まで指定できます。 ➔ P.6-12



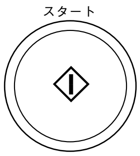


テンキーでダイヤルするときは、1件の電話番号を指定したら必ずセットボタンを押します。10ヵ所まで指定できます。



- 間違えたときは、クリアボタンを押して指定しなおしてください。
- 最初の電話番号をダイヤルしてから5秒以上、2番目以降の電話番号をダイヤルしてからは10秒以上の間隔をあけると、ダイヤルタイムアウト機能がはたらき、原稿のメモリへの読み込みが自動的に開始され、残りの宛先への同報送信ができなくなってしまいます。
- グループダイヤルを使うと、ボタンひとつで最大199ヵ所の相手が指定できます。 ➔ P.6-20

3 原稿をメモリに読み込ませます



スタートボタンを押します。原稿がメモリに読み込まれます。

- 原稿を原稿台ガラスにセットした場合は、「本などの原稿を送信するには」（➔ **P.3-12**）の手順7～8を参照し、すべての原稿をメモリに読み込ませてから、セットボタンを押してください。

原稿の読み込みが終わると、ワンタッチダイヤル、短縮ダイヤル、テンキーの順番に送信されます。送信が終了すると原稿は消去されます。

- 送信を中止したいときは、ストップボタンを押してください。“通信を中止しますか？”というメッセージが表示されたら［はい］を押してください。ストップボタンを押すと、すべての相手先への送信が中止されます（1ヵ所だけ送信を中止することはできません）。ただし、オプションの２回線ボードを取り付けている場合で２回線とも通信中のときは、ストップボタンを押すとどちらの通信を中止するのかを選択する画面が表示されます。▲または▼ボタンで中止する通信を反転表示させ、セットボタンを押してから［はい］を押してください。➔ **P.3-16**
- 応答しない相手先には、その他の相手先すべてに送信したあとで自動リダイヤルします。➔ **P.3-28**
- 同報送信のときだけマルチ通信結果レポート（複数の相手先の送信結果レポート）をプリントさせることができます。まず、プログラムボタンを“01 送信結果レポート予約”に設定しておきます。（➔ **P.8-48**）同報送信の電話番号をダイヤルする前にプログラムボタンを押し、［はい］を押すと、同報送信終了後にマルチ通信結果レポートがプリントされます。

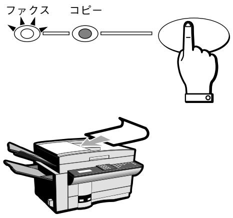
メモ

- *電話番号をダイヤルするとき、間隔があいてもダイヤルタイムアウトが働かないように設定することもできます。*➔ **P.8-32**
- *タイマー通信予約のとき、複数の相手を指定してタイマー同報送信することができます。*➔ **P.3-21**

送信時刻を指定するには

原稿をメモリに読み込ませておき、指定した時刻に送信するよう設定できます。この機能をタイマー通信と呼びます。通信料金の安い深夜の時間帯を指定するなど、通信コストを削減するために活用できます。タイマー送信は最大50件まで予約できます。

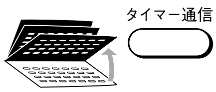
1 ファクスモードにし、ADFに原稿をセットします ➔ *P.3-3*



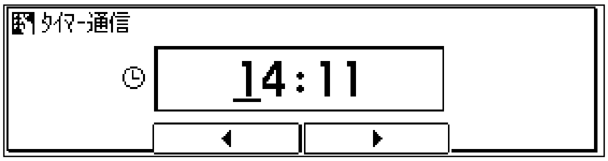
原稿に合わせて濃度や画質を設定することができます。➔ *P.3-17*

- ADFにセットできない原稿は、「本などの原稿を送信するには」（➔ *P.3-10*）の手順1～5を参照し、原稿台ガラスにセットしてください。

2 タイマー通信の予約項目を表示させます

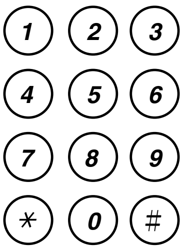


3枚のワンタッチダイヤルパネルを開いて、タイマー通信ボタンを押します。



現在の時刻が表示されます。

3 送信時刻を指定します

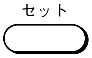


テンキーで送信時刻を指定します。時、分は、それぞれ24時間表示の2桁で指定します。1桁の場合は数字の前に0をつけます。



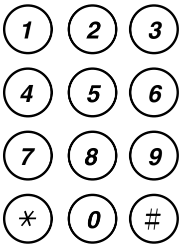
- 間違えたときは、クリアボタンを押して指定しなおしてください。
- ◀ または ▶ ボタンを押してカーソルを移動し、間違えた桁だけ修正することもできます。

4 相手の電話番号をダイヤルします



セットボタンを押します。

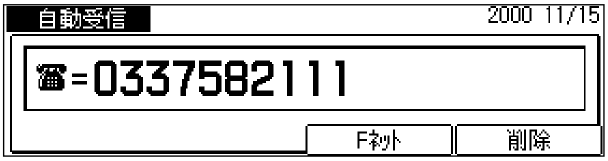




電話番号をダイヤルします。テンキーのほか、ワンタッチダイヤルや短縮ダイヤルで最大210ヵ所にダイヤルできます。

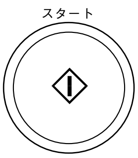
➔ ***P.6-5,6-12,6-20***

- 複数の相手を指定して、タイマー同報送信することもできます。
  ➔ ***P.3-19***



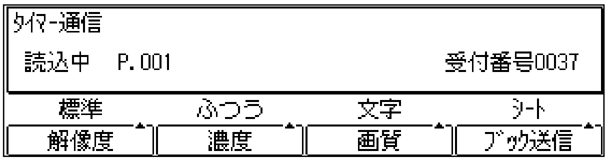
- テンキーでダイヤルするときは、電話番号の最後でセットボタンを押してください。
- 間違えたときは、クリアボタンを押してからダイヤルしなおしてください。

5 原稿をメモリに記憶させます



スタートボタンを押します。原稿の読み込みがはじまります。

- 原稿を原稿台ガラスにセットした場合は、「本などの原稿を送信するには」（➔ ***P.3-12***）の手順7～8を参照し、すべての原稿をメモリに読み込ませてから、セットボタンを押してください。
- 「発信人名称を選んでください」という画面が表示されたときは、発信人名称が選択できます（➔ ***P.7-21***）。選択しないときは、そのままセットボタンを押してください。

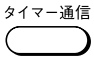


原稿は指定時刻に自動的に送信されます。送信が終了するとメモリに読み込まれた原稿は消去されます。

- 予約はファクス状況ボタンを押して確認できます。また、原稿リストで確認することもできます。原稿リストの出力は、レポートボタンを押してから、▲または▼ボタンで“04 原稿リスト”を選択し、セットボタンを押してください。
- タイマー通信はファクス状況ボタンで中止することができます。
→ **P.3-24**

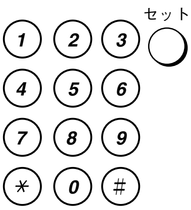
その他の時刻設定

親展送信（→ **P.5-46**）や中継指示送信（→ **P.5-61**）、Fコード送信（→ **P.5-42**）の操作途中で、原稿の送信時刻が設定できます。



操作の途中でタイマー通信ボタンを押すと、送信時刻の設定画面が表示されます。





テンキーで時刻を指定し、セットボタンを押します。送信の時刻が設定され、自動的にタイマー通信ボタンを押す前の表示に戻ります。

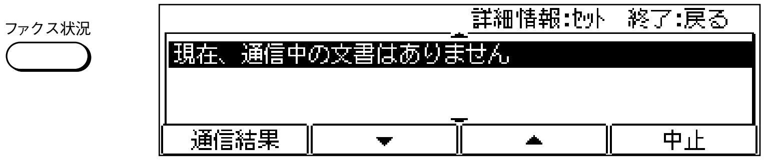
メモ

- *原稿が、相手に確実に送信されたかどうか、ファクス状況ボタンや通信管理レポートなどで確認することをお勧めします。*
- *多くの相手にタイマー同報送信するときは、すべての相手に送信し終わるまで多少時間がかかります。*

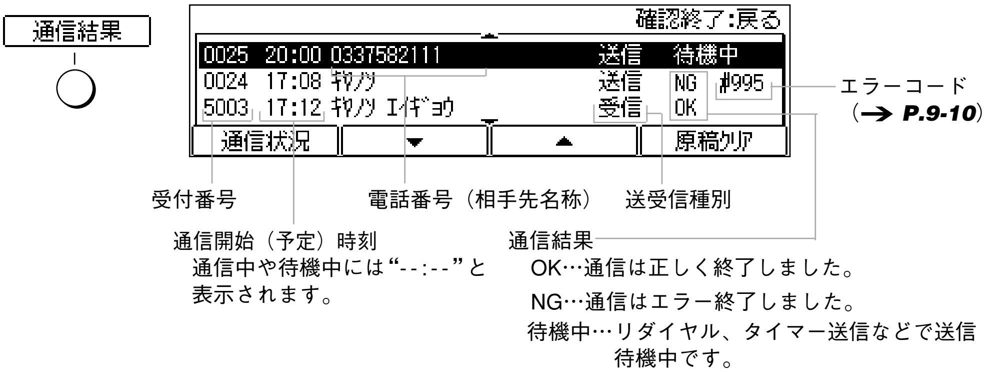
メモリ内の原稿を削除するには

受付番号がわかっている原稿は、ファクス状況ボタンでメモリから削除できます。

1 ファクス状況ボタンを押します



2 通信結果ボタンを押します



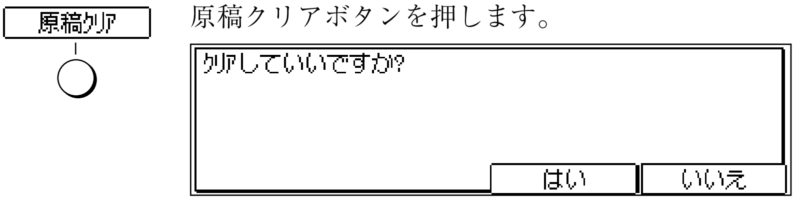
3 原稿の受付番号を指定します

▼または▲ボタンで取り消したい原稿の受付番号を選択します。

- 原稿リストで送信予約された原稿を確認できます。レポートボタンを押してから、▼または▲ボタンで“04 原稿リスト”を選択し、セットボタンを押してください。

4 原稿を削除します

原稿クリアボタンを押します。



［はい］を押すと、原稿がクリアされます。［いいえ］を押すと手順2に戻ります。

戻るボタンを押すと、待機状態に戻ることができます。

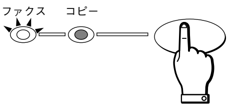
メモ　*メモリ照会の機能を使って、メモリ内の原稿をクリアすることもできます。*
→ P.5-39

電話として活用するには

原稿を送受信するだけでなく、普通の電話機と同じように使うことができます。オンフックボタンを使うと、受話器を取らなくてもダイヤルできます。なお、電話として活用するには、本機に電話機またはオプションのハンドセットを接続する必要があります。

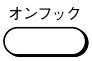
➔ ***P.7-7,7-8***

1 ファクスモードにします



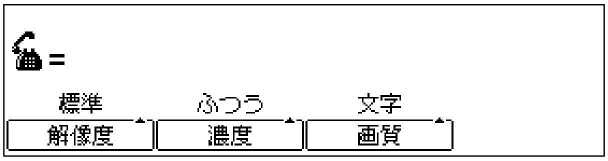
ファクス／コピー切り替えボタンを押して、ファクスランプを点灯させてください。

2 オンフックボタンを押します

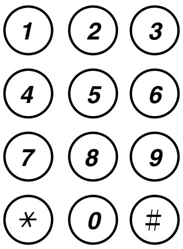


通信中ランプが点滅し、“ツー”という信号音が聞こえます。

- オンフックボタンを押さずにハンドセットを取ってもかまいません。
- 信号音の大きさを調整することができます。➔ ***P.1-2***



3 相手の電話番号をダイヤルします

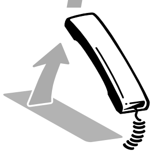


テンキーのほか、ワンタッチダイヤルや短縮ダイヤルが使用できます。➔ ***P.6-5,6-12***



間違えたときは、ストップボタンを押して手順2からやりなおしてください。

4 相手の声が聞こえたら、ハンドセットを取って通話します



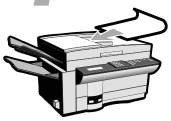
- 手順２でオンフックボタンを押したときは、相手の声が聞こえても、ハンドセットを取るまでこちらの声は伝わりません。相手が出ないときは、オンフックボタンを押して電話を切ってください。

- *プッシュホンサービスを利用する場合、相手が出たらトーン［＊］ボタンを押してください。（本機をトーン回線で使用しているときは、この操作は不要です）*
- *オプションの2回線ボードを取り付けている場合、回線1で通信していると電話が使えません。*➔ ***P.10-6***

海外に送信するには

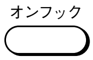
海外の相手に原稿を送信するときは、国際ダイヤル通話番号、国番号、市外局番、電話番号の順でダイヤルする必要があります。

1 ADF に原稿をセットし、ファクスモードにします ➔ P.3-3

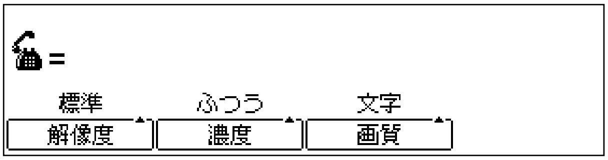


原稿に合わせて濃度や画質が設定できます。 ➔ P.3-17

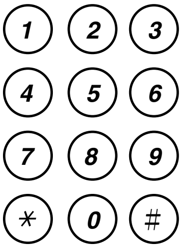
2 オンフックボタンを押します



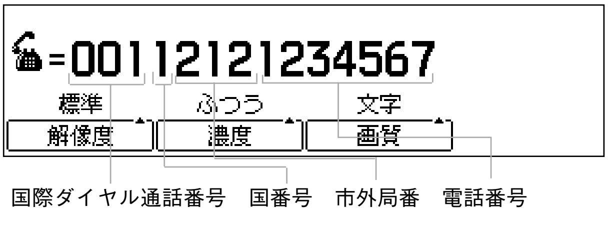
通信中ランプが点滅し“ツー”という信号音が聞こえます。
信号音の大きさを調整することができます。 ➔ P.1-2



3 相手の電話番号をダイヤルします

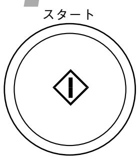


国際ダイヤル通話番号、相手の国番号、市外局番、電話番号の順でダイヤルします。
たとえば、アメリカのニューヨーク（国番号 1、市外局番 212）にある123-4567番のファクスに原稿を送信する場合は、国際ダイヤル通話番号→ 1 → 212 → 1234567 の順でダイヤルしてください。



- 間違えたときは、ストップボタンを押して手順2からやりなおしてください。
- 相手の電話番号をワンタッチダイヤルや短縮ダイヤルに登録しておくこともできます。 ➔ P.6-2,6-9

4 “ピー”という信号音が聞こえたら、スタートボタンを押します



原稿の送信がはじまります。

お願い

国際ダイヤルを利用できない一部の地域では、ここで説明した操作では通信できません。
国際通信の詳細は、ご利用になる国際電話会社にお問い合わせください。

メモ

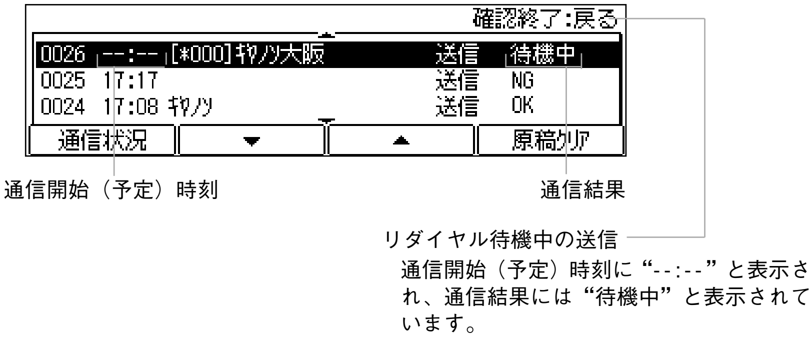
海外に送信して、たびたびエラーが発生するときは、その電話番号をワンタッチダイヤルまたは短縮ダイヤルに登録し、国際送信の種別や送信スピードを変更してみてください。 → **P.6-28**
なお、国際送信の種別や送信スピードを変更しても、海外への送信がうまくいかないときは、ご利用の国際電話会社にお問い合わせください。

相手が話し中だったときは

相手が話し中などで原稿が送信できなかったときは、2分間待機したあとで自動的に送信しなおします（自動リダイヤル）。最後にダイヤルした相手を、リダイヤルボタンを押して呼び出すこともできます（手動リダイヤル）。

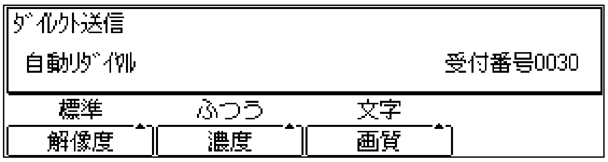
リダイヤル待機中には（自動リダイヤル）

ファクス状況ボタンを押してから、通信結果ボタンを押します。ディスプレイに次のように表示されます。



● リダイヤルの必要がないときは、▲または▼ボタンを押してリダイヤル待機中の送信を反転表示させ、原稿クリアボタンを押します。"クリアしていいですか？"というメッセージが表示されたら［はい］を押してください。

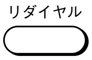
ダイレクト送信のときは、ディスプレイにつぎのように表示されます。リダイヤル待機中には、原稿をADFにセットしたままにしておいてください。



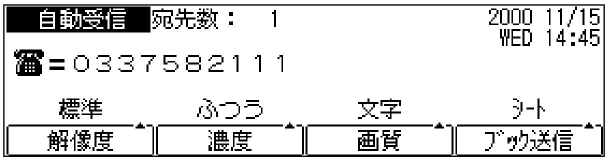
● リダイヤルの必要がないときはストップボタンを押してください。
● 自動リダイヤルしたとき、相手がまだ話し中だった場合は、さらに2分間待機してもう一度リダイヤルします。それでも相手が話し中のときは、送信を中止しエラー送信レポートをプリントします。➔ ***P.8-18***
● 自動リダイヤルしないように設定することもできます。➔ ***P.8-32***

メモ　*自動リダイヤルのリダイヤル間隔やリダイヤル回数を変更することもできます。*
➔ ***P.8-32***

もう一度同じ相手を呼び出すときは（手動リダイヤル）



リダイヤルボタンを押してください。テンキーで最後にダイヤルした相手の電話番号が表示され相手を呼び出します。



- 中止したいときはストップボタンを押してください。

ECM 方式での通信について

本機は、ECM 方式で通信するように設定されています。ECM というのは、Error Correction Mode（自動誤り訂正モード）の頭文字をとった呼びかたです。

ＥＣＭ方式で通信すると、送信側と受信側で送受信状態を確認し合いながら通信するため、画像の通信エラーを防ぐことができます。

- 相手がECM方式で通信するように設定されていないときは、通常の方式で通信します。
- ECM方式で通信していても、回線の状態によっては画像エラーが発生することがあります。また、回線のトラブルなどがあると、エラーを訂正しながら送信するため通常の通信にくらべて時間がかかってしまいます。

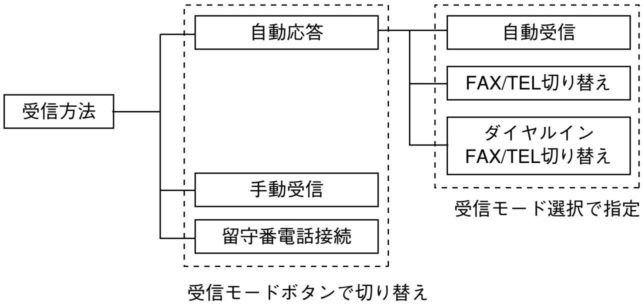
メモ　*ECM方式で通信しないよう設定することもできます。* → **P.8-32,8-33**

第 4 章

受信するには

受信するための基本的な設定

受信には、「自動受信」など操作のいらない自動応答と、着信時にお客様がFAXと電話を切り替える「手動受信」があります。また、留守番電話を接続して「留守モード」を活用することもできます。それぞれの設定は受信モードボタンで変更します。
自動応答には、「自動受信」をはじめ「FAX/TEL切り替え」およびNTTのダイヤルインサービスを利用した「ダイヤルインFAX/TEL切り替え」があります。自動応答のタイプは、あらかじめ受信機能設定の"受信モード選択"で指定しておきます。本機ではあらかじめ「自動受信」に設定されています。



自動受信 ― いちばん簡単な受信

ファクス専用の回線で使うときに設定してください。相手からファクスが送られてきたら自動的に受信します。ファクス専用のため、相手が電話をかけてきても通話できません。

FAX/TEL切り替え ― 電話とファクスを自動で切り替え

一本の電話回線でファクスと電話を自動的に切り替えて使いたいとき設定してください。相手がファクスなら自動的に受信します。相手が電話のときは呼び出し音で知らせます。 ➔ ***P.4-5***
また、NTTのダイヤルインサービスを利用して1本の電話回線に2種類の電話番号を設定し、ファクスと電話を使い分けることもできます（ダイヤルインFAX/TEL切り替え）。 ➔ ***P.4-10***
なお、FAX/TEL切り替えをするには、本機に電話機またはオプションのハンドセットを接続する必要があります。 ➔ ***P.7-7,7-8***

手動受信 ― 電話を受けてから受信

おもに電話として使いたいときに設定してください。相手がファクスでも電話でも、呼び出し音で知らせます。相手がファクスのときは、スタートボタンで受信できます。なお、手動受信するには、本機に電話機またはオプションのハンドセットを接続する必要があります。 ➔ ***P.7-7,7-8***

自動的に受信するには

ファクス専用に使うときには自動受信に設定しておきます。本機ではあらかじめ自動受信に設定されています。

1 原稿を自動的に受信します

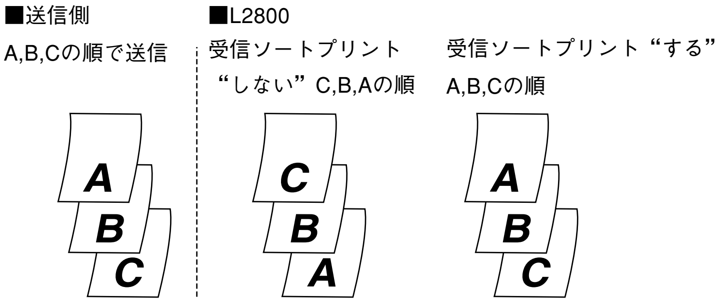
受信した原稿がプリントされます。

メモ

- *受信した原稿をプリントせずに、メモリに記憶しておくように設定することもできます。* ➔ ***P.5-33***（*メモリ受信*）
- *電話機またはオプションのハンドセットが接続されていれば、自動受信したときに呼び出し音をならすようにすることもできます。* ➔ ***P.8-34***（*着信呼び出し*）

相手が送信してきたのと同じ順番になるようにプリントするには

受信原稿はページ単位で記録紙にプリントされるため、本機では、先に受信した原稿からプリントされ、あとの原稿はその上に重なるようにプリントされます。そのため相手が送信してきた順番とは逆になってしまいます。原稿を後から並べ替えるのが面倒なときは、プリント設定項目の受信ソートプリント（➔ ***P.8-36***）を“する”に設定すると、下の図のように最後に受信した原稿からプリントされ、相手が送信してきたのと同じ順番になります。



- 受信ソートプリントを“する”に設定すると、すべての原稿の受信が終わるまでプリントがはじまらないため、プリントが終了するまでの時間は通常の場合より長くなります。

受信設定を確認 / 変更するには

ディスプレイの表示で、自動受信か手動受信か確認できます。本機はあらかじめ自動受信に設定されています。

自動受信またはFAX/TEL切り替えに設定されているとき

自動受信

ディスプレイ左上に“自動受信”と表示されています。

- 受信モードボタンを押して、“手動受信”と表示させると、手動受信になります（受信モードボタンを押しても“手動受信”と表示されないときは、ダイヤルインFAX/TEL切り替えに設定されています）。
- ディスプレイの表示だけでは、FAX/TEL切り替えが設定されているか自動受信が設定されているのかは判断できません（確認方法は **P.4-5** を参照してください）。

手動受信に設定されているとき

手動受信

ディスプレイ左上に“手動受信”と表示されています。

- 受信モードボタンを押して、“自動受信”と表示させると、自動受信になります。

ダイヤルインFAX/TEL切り替えに設定されているとき

自動受信

ディスプレイ左上に“自動受信”と表示されています。

- ダイヤルインFAX/TEL切り替えに設定されているときは、受信モードボタンを押しても“手動受信”や“留守”に受信設定を変更することはできません。
- ディスプレイの表示だけでは、ダイヤルインFAX/TEL切り替えが設定されてるかどうかは判断できません（確認方法は **P.4-5** を参照してください）。

お願い

手動受信をするときは、原稿はセットしないでください。

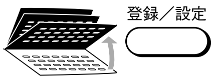
メモ

- *“留守”表示のときは留守モードになります。留守番電話が接続されていなかったり、接続している留守番電話が“留守”状態にセットされていないときに“留守”表示にすると正常に受信できません。* ➔ **P.4-19**
- *手動受信に設定されているときでも、呼び出し音が一定時間以上鳴り続けると、自動受信に切り替わるように設定することができます。* ➔ **P.8-34**（自動受信切り替え）
- *自動受信のとき、呼び出し音は鳴りませんが、鳴るように設定することもできます。* ➔ **P.8-34**（着信呼び出し）
- *オプションの2回線ボードを取り付けて2つの回線を接続している場合、受信設定できるのは回線1だけです。* ➔ **P.10-6**

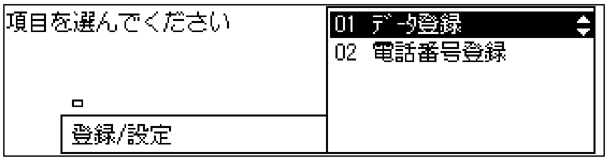
FAX/TEL切り替えの確認と設定変更

自動受信状態のときFAX/TEL切り替えに設定されているかどうかは、ディスプレイの表示だけでは判断できません。登録／設定ボタンを使って、設定の確認や変更を行ってください。

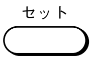
1 登録／設定ボタンを押します



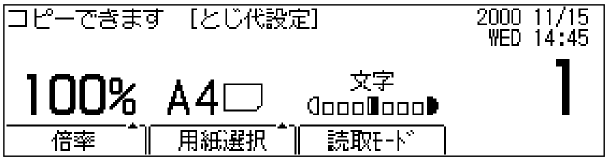
3枚のワンタッチダイヤルパネルを開いて、登録／設定ボタンを押します。



2 自動受信の設定項目を表示させせます

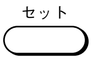


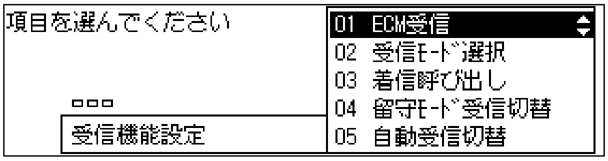
セットボタンを押します。





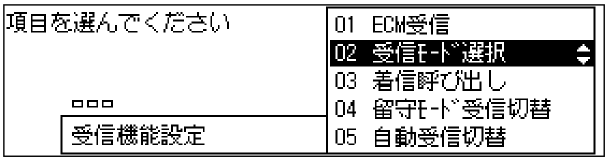
▼または▲ボタンで、"04 受信機能設定" を選択し、セットボタンを押します。



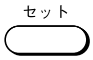




▼または▲ボタンで、"02 受信モード選択" を選択します。



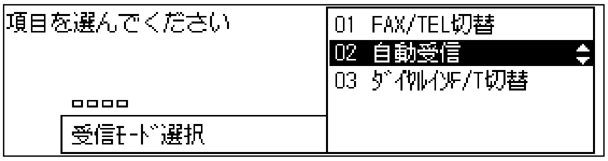
3 自動受信のモードを選択します



セットボタンを押します。現在設定されているモードが反転表示されています。

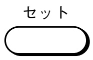


▼または▲ボタンで自動受信のモードを選択します。



お願い *NTTとダイヤルインサービスの利用契約をしているとき以外は、「ダイヤルインF/T切替」を選択しないでください。電話やファクスを受けることができなくなってしまいます。*

4 自動受信のモードを確定します



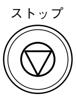
選択した受信モードを確認し、セットボタンを押します。

自動受信に設定したとき：他の受信機能の設定表示に変わります。そのまま手順5に進んでください。

FAX/TEL 切り替えに設定したとき：FAX/TEL 切り替えの設定をさらに細かく設定することができます。FAX/TEL 切り替えを細かく設定するときは、「FAX/TEL 切り替えの呼び出し設定」（→ **P.4-7**）の項目を参照してください。変更の必要がないときは、そのまま手順5に進んでください。

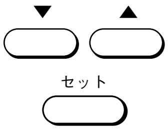
ダイヤルイン FAX/TEL 切り替えに設定したとき：「2種類の電話番号の設定」（→ **P.4-11**）の項目を参照して、電話用、ファクス用の番号をそれぞれ設定してください。

5 ストップボタンを押して設定操作を終了します



待機状態に戻ることができます。

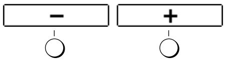
FAX/TEL 切り替えの呼び出し設定（FAX/TEL 切り替えを細かく設定するとき）



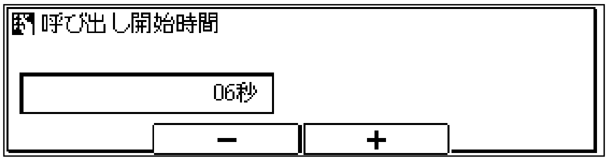
FAX/TEL 切り替えでは、“01 呼び出し開始時間”、“02 呼び出し時間”、“03 呼び出し後の動作”、“04 音声応答” の 4 つの項目が設定できます。

▼または▲ボタンでいずれかの項目を選択し、セットボタンを押して各項目の設定を変更します。設定したあとは、ユーザーデータリストをプリントして内容を確認してください。 **➔ *P.8-34,8-46***

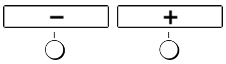
呼び出し開始時間



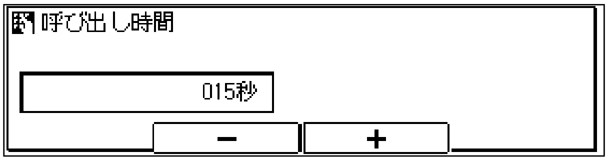
電話を受けてから呼び出し音を鳴らすまでの時間を－または＋ボタンあるいはテンキーで設定します。設定範囲は0～30（秒）です（あらかじめ 6 秒に設定されています）。



呼び出し時間



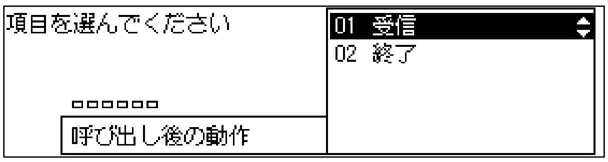
呼び出し音を鳴らし続ける時間を－または＋ボタンあるいはテンキーで設定します。設定範囲は 15 ～ 300（秒）です（あらかじめ 15 秒に設定されています）。



呼び出し後の動作



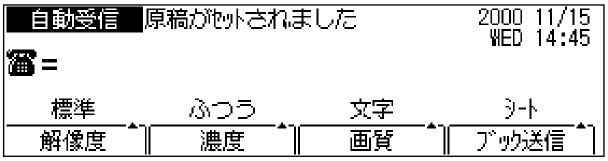
呼び出し音を鳴らしてもこちらが電話に出ないときの本機の動作を設定します。ファクス受信状態にする “受信” と、電話を切る “終了” のいずれかを▼または▲ボタンで選択します。（あらかじめ “受信” が選択されています）。

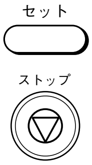




音声応答

応答メッセージを流すかどうか設定できます。音声応答“しない”と“する”のいずれかを▼または▲ボタンで選択します（あらかじめ“しない”が選択されています）。





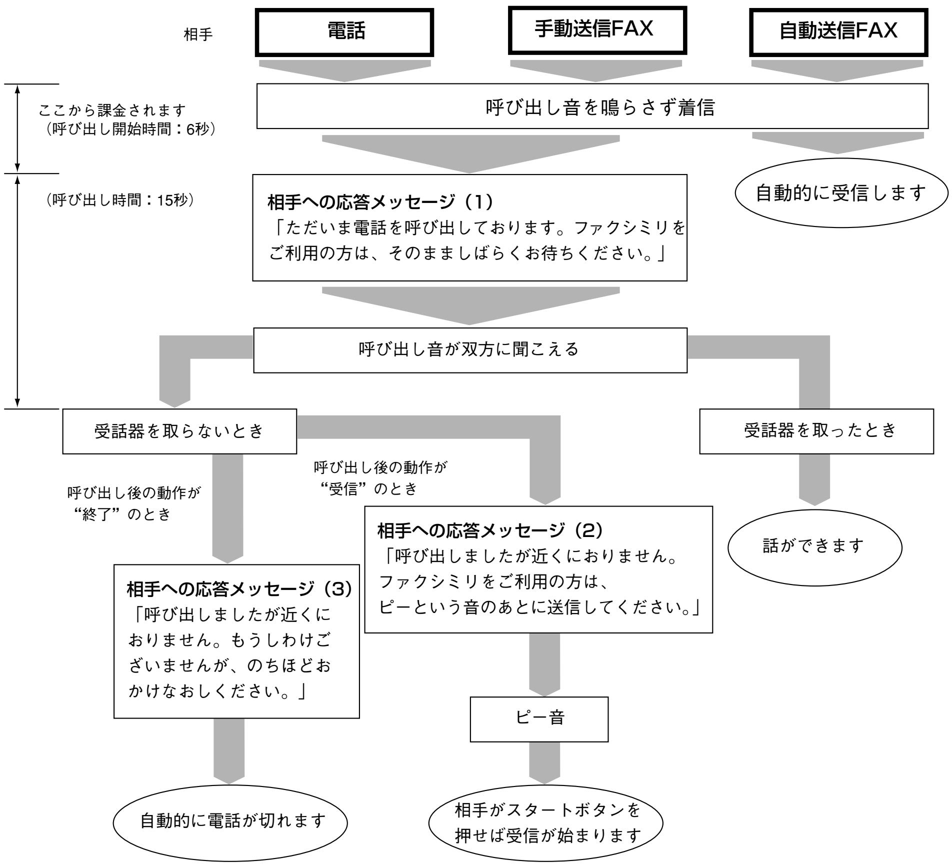
それぞれの項目の設定が終了したら、セットボタンを押してからストップボタンを押します。

メモ

- *操作の途中でストップボタンを押すと、いつでも待機状態に戻ることができます。*
- *オプションの2回線ボードを取り付けて2つの回線を接続している場合でも、FAX/TEL切り替えに設定できるのは回線1だけです。* ➔ **P.10-7**

FAX/TEL切り替えの音声応答をするように設定したときは

相手が電話かファクスかを判断するために6秒かかります。その間、必要なときには相手に次のようなメッセージを流すように設定することができます。 → P.8-34



メモ

電話がかかってくると、相手が電話かファクスかを判断して、6秒後に呼び出しか受信を開始します。相手には、着信したときから通話料金がかかります。

1本の電話回線で2種類の電話番号を活用するには

NTTのダイヤルインサービスを利用すると､1本の回線に複数の電話番号が設定できます。本機でも、ファクス用と電話用の2種類の電話番号を別々に設定することができます。

ダイヤルインサービスを活用すると

NTTのダイヤルインサービスを利用すると、1本の回線に複数の電話番号を設定することができます。本機では、あらかじめ電話用、ファクス用の番号をそれぞれ登録することにより､ファクスと電話を確実に切り替えて使用することができます。

メモ

- *相手には、電話のときは電話用の番号を、ファクスのときはファクス用の番号をダイヤルしてもらうよう、あらかじめダイヤルインサービスの電話番号を知らせておいてください。*
- *オプションの2回線ボードを取り付けて2つの回線を接続している場合でも、ダイヤルインサービスを利用できるのは回線1だけです。* ➔ **P.10-7**

ダイヤルインサービスを利用するには

1本の回線に2種類の電話番号を設定するためには、NTTとダイヤルインサービスの利用契約をする必要があります｡サービスの詳細については、最寄りのNTT窓口へお問い合わせください。

- ダイヤルインサービスと次のサービスは同時に利用できません。
  - ・キャッチホンサービス　・トリオホンサービス
  - ・転送電話サービス　・電話会議サービス
  - ・トーキー案内サービス
- Fネット（ファクシミリ通信網）とは同時に利用することができますが、利用形態に一部制約があります。
- 一部の地域ではダイヤルインサービスが利用できない場合があります。

お願い

ダイヤルインサービスの利用契約の際には、複数の電話番号を区別するための送出番号は必ず4桁にしてください。

2種類の電話番号を設定すると

ダイヤルインサービスを利用するために2種類の電話番号を設定すると、受信モードは常に自動受信に固定されます。

- 通信相手がファクス用の番号をダイヤルした場合は、自動的にファクス受信します。相手が電話であっても呼び出し音は鳴りません。
- 通信相手が電話用の番号をダイヤルした場合は､呼び出し音を鳴らして知らせます。相手がファクスの場合でも、自動受信することはできません。
- 本機の留守番電話接続機能は活用できません（➔ **P.4-19**）。留守番電話を接続し、通信相手が電話用の番号をダイヤルした場合は、電話機の留守番機能が働きます。そのときメッセージは録音できますが、ファクスの受信はできません。
- 本機のリモート受信機能は活用できません。➔ **P.4-18**
- エナジーセーブの機能は活用できません。➔ **P.1-9**

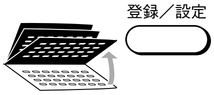
お願い *NTTとダイヤルインサービスの利用契約をした場合、ダイヤルインサービスの開通日に合わせて、2種類の電話番号を必ず設定してください。開通日前に設定したり開通日をすぎても設定せず他のモードのままの場合、電話やファクスを受けることができなくなります。*

2種類の電話番号の設定

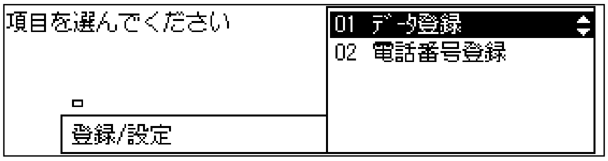
ダイヤルインサービスを利用するために2種類の電話番号を設定するときは、次の手順で操作してください。

- 2種類の電話番号は、ダイヤルインサービスの開通日に合わせて設定してください。開通日前に設定したり、開通日を過ぎても設定しない場合、電話やファクスが使用できなくなります。

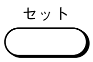
1 登録／設定ボタンを押します



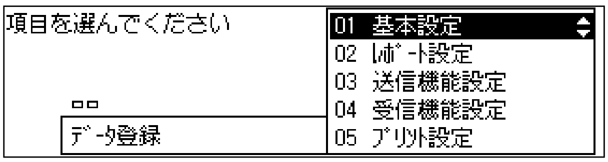
3枚のワンタッチダイヤルパネルを開いて、登録／設定ボタンを押します。

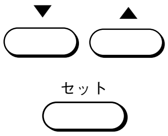


2 受信モード選択の項目を表示させます

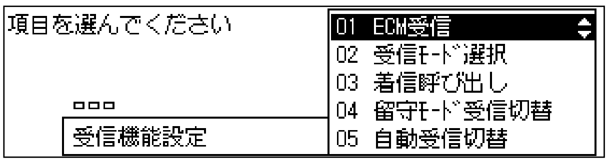


セットボタンを押します。





▼または▲ボタンで、“04 受信機能設定”を選択し、セットボタンを押します。

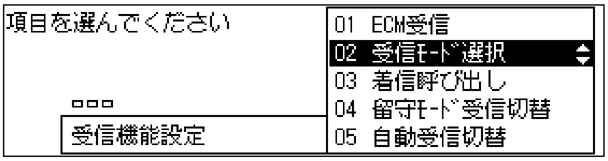


第4章

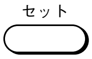
受信するには



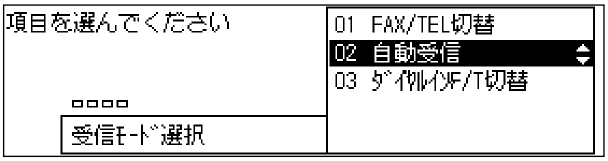
▼または▲ボタンで、“02 受信モード選択”を選択します。



3 ダイヤルインサービスのモードを選択します

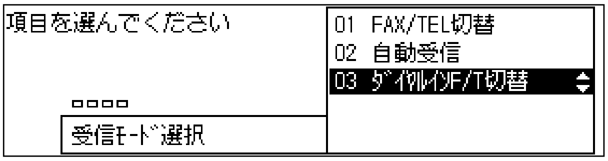


セットボタンを押します。現在設定されているモードが反転表示されています。

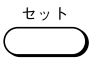




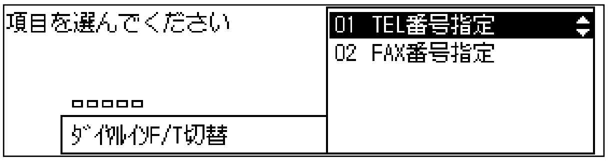
▼または▲ボタンで、“03 ダイヤルイン F/T 切替”を選択します。

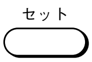


4 電話用の番号を設定します

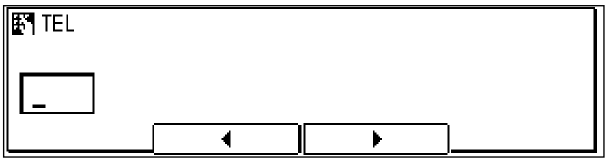


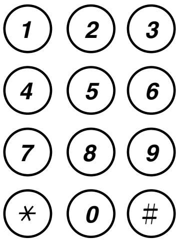
“03 ダイヤルインF/T切替”のモードが反転表示されていることを確認し、セットボタンを押します。“01 TEL番号指定”が反転表示されます。



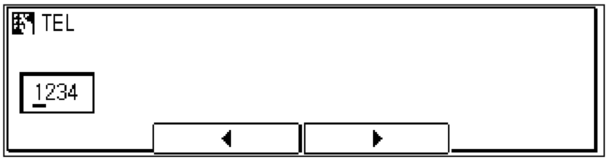


セットボタンを押します。

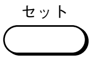




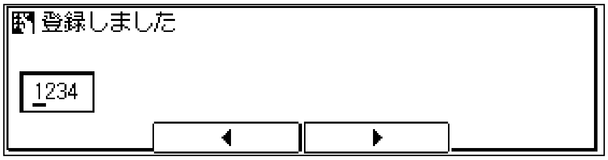
ダイヤルインサービスの契約時に確認した、電話用として使う4桁の番号（電話番号の下4桁）を入力します。
番号を間違えないように注意してください。間違った番号を入力すると電話を受けることができなくなります。

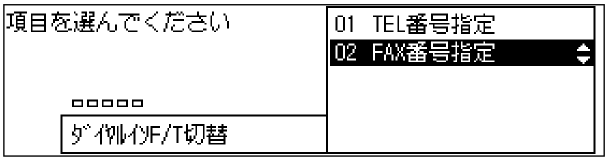


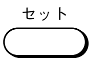
5 ファクス用の番号を設定します



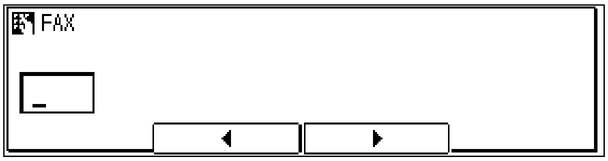
セットボタンを押します。番号が登録されたことを確認するためのメッセージが表示されたあと、“02 FAX番号指定” が反転表示されます。

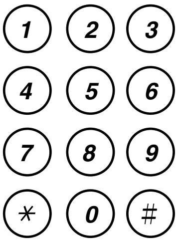




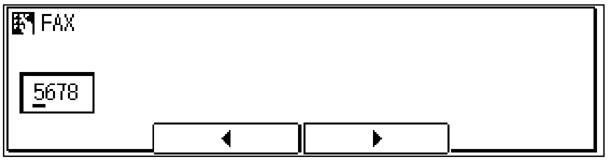


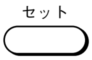
セットボタンを押します。



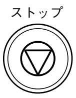


ダイヤルインサービスの契約時に確認した､ファクス用として使う4 桁の番号（電話番号の下 4 桁）を入力します。
番号を間違えないように注意してください｡間違った番号を入力するとファクスを受けることができなくなります。





セットボタンを押すと、番号が登録されたことを確認するためのメッセージが表示されたあと、他の設定項目が表示されます。



ストップボタンを押すと待機状態に戻ることができます。

お願い

ダイヤルインサービスの利用にともない、ファクス用の電話番号が変更されたときは、発信元情報として登録している電話番号を変更してください。

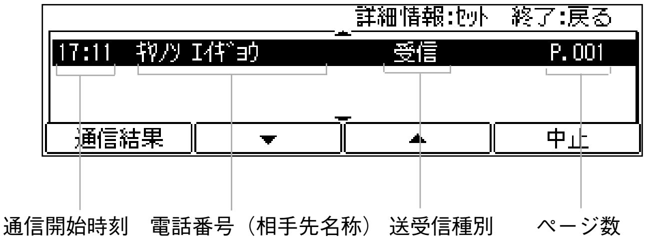
受信状況を確認するには

受信中には、受信原稿や通信相手に関する情報を確認できます。また、受信結果についても確認できます。

受信状況を表示させるには

ファクス状況

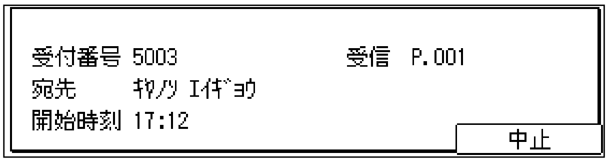
ファクス状況ボタンを押します。



セット

セットボタンを押してさらに詳細な情報を確認することもできます。

- オプションの２回線ボードを取り付けている場合、回線１の通信状況は確認画面の上部に、回線２の通信状況は確認画面の中央部に表示されます。2回線とも通信中のときは、情報を確認する通信を▲または▼ボタンで反転表示させ、そのあとセットボタンを押してください。



- 相手の機種によっては、相手の名前などが表示される場合もあります。

戻る

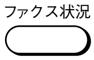
戻るボタンで待機画面に戻ります。

- 通信結果ボタンで通信の結果を確認することができます。
- 中止ボタンで選択した受信を中止することもできます。中止ボタンを押して、"通信を中止しますか？"というメッセージが表示されたら［はい］を押してください。

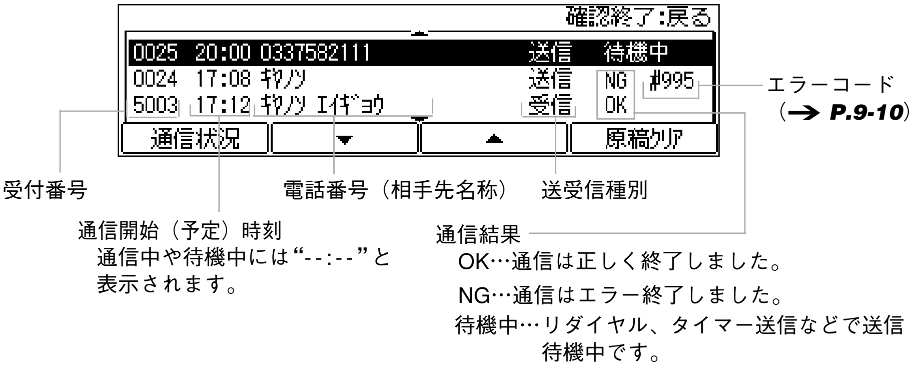
メモ

手動受信中はファクス状況ボタンを押しても受信状況は表示されません。

受信結果を確認するには



ファクス状況ボタンを押します。通信状況の確認画面が表示されてから、通信結果ボタンを押します。





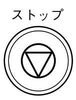
画面では一度に3件までの通信結果が確認できます。画面に表示しきれない通信結果は、▲または▼ボタンを押して表示させることができます。

- 受付時間の新しい順に並んで、まず送信結果が、次に受信結果が表示されます。
- 過去40通信までさかのぼって確認できます。
- 受信の結果は、受信結果レポートや通信管理レポートでも確認できます。
  → P.8-15,8-19



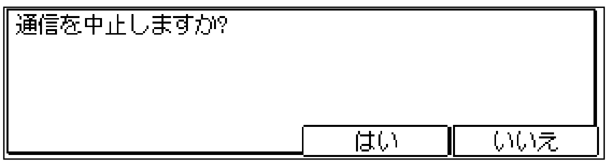
戻るボタンで待機画面に戻ります。

受信を中止するには



受信を中止するときは、ファクスモードに切り替えてストップボタンを押します。手動受信のときは、すぐに受信が中止できます。自動受信のときは、受信中にストップボタンを押すと、つぎのように表示されます。表示されないときは、もう一度押してください。

- オプションの2回線ボードを取り付けている場合で2回線とも通信中のときは、ストップボタンを押すとどちらの通信を中止するのかを選択する画面が表示されます。▲または▼ボタンで中止する通信を反転表示させ、セットボタンを押してください。



［はい］を押すと、原稿の受信を中止できます。中止しないときは［いいえ］を押してください。

- 受信を中止しようとしてストップボタンを押しても、［はい］を押すまでは受信しつづけます。

呼び出し音が鳴ったら

手動受信のときは、相手がファクスでも電話でも呼び出し音で知らせます。FAX/TEL切り替えのときは、相手が電話のときだけ呼び出し音が鳴ります。自動受信のときは、呼び出し音は鳴りません。なお、本機に電話機またはオプションのハンドセットを接続していないと、この操作はできません。

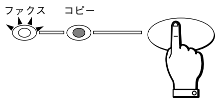
1 呼び出し音が鳴ったらハンドセットを取ります



相手の声が聞こえたら通話してください。" ポーポーポー " という信号音が聞こえたり、なにも応答がない場合は、つぎの操作に進んでください。

● FAX/TEL切り替えに設定していても、相手のファクス信号によっては、呼び出し音が鳴ることがあります。

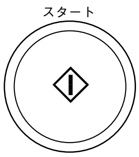
2 原稿を受信するときはファクスモードにします



ファクス／コピー切り替えボタンを押して、ファクスランプを点灯させてください。

● コピー中はファクスモードに切り替えることができません。ストップボタンでコピーを中止してから、ファクスモードに切り替えてください。

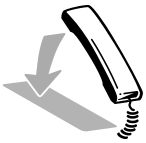
3 スタートボタンを押します



原稿の受信がはじまります。

● こちらから電話をかけたときでも、この操作で原稿が受信できます。

4 ハンドセットを戻します



ファクスの受信がはじまったらハンドセットを戻してください。

● ハンドセットをきちんと戻しておかないと受信終了後 " ピロピロピロ……" という警告音（オフフックアラーム）が鳴ります。警告音が鳴らないように設定することもできます。→ P.8-28

メモ

- *FAX/TEL切り替えに設定していると、こちらが電話口に出なくても着信するため相手側に通話料金がかかります。*
- *オプションの2回線ボードを取り付けて2つの回線を接続している場合でも、FAX/TEL切り替えや手動受信に設定できるのは回線1だけです。* → P.10-7

接続した電話機から受信操作するには

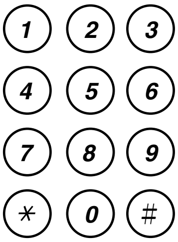
電話機を接続すると、その電話機から受信用のID番号を指定して受信操作することができます。この機能をリモート受信と呼びます。

1 呼び出し音が鳴ったら、接続した電話機の受話器を取ります



相手の声が聞こえたら通話してください。" ポーポー " という信号音が聞こえたり、なにも応答がない場合は、つぎの操作に進んでください。

2 ID 番号をダイヤルします



25をダイヤルしてください（プッシュ式の電話機、回転ダイヤル式の電話機どちらの場合も同じです）。本体側で原稿の受信がはじまります。

● ID 番号は変更することができます。 ➔ ***P.8-34***

3 受話器を戻します



受信が開始されます。

● 留守番電話などのような特殊な電話機を接続しているときは、リモート受信できないこともあります。

● ダイヤルインサービスを利用すると、リモート受信機能は活用できません。 ➔ ***P.4-10***

メモ

● *リモート受信しないように設定することもできます。また、受話器を置くだけでリモート受信するように設定することもできます。* ➔ ***P.8-34***

● *オプションの2回線ボードを取り付けて2つの回線を接続している場合でも、リモート受信機能が使用できるのは回線1だけです。* ➔ ***P.10-7***

● *オプションの2回線ボードを取り付けている場合、電話機接続端子に電話回線を接続します。このため、オプションのハンドセットを接続した場合はもう1台の電話機を接続することはできません。* ➔ ***P.10-6***

留守番電話を活用するには

留守番電話を接続すると（➔ ***P.7-7***）、留守モードが活用できます。ただし、留守番電話を接続していなかったり、留守番電話を"留守"状態にセットしないと受信できません。

外出するときは

外出する前に、つぎのように操作してください。

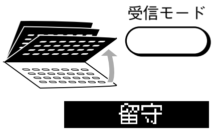
1 留守番電話をセットします

セットのしかたは、お手持ちの留守番電話の「使用説明書」を参照してください。

● 留守番電話の応答メッセージ例：
「はい、○○です。ただいま外出しております。メッセージのあるかたはピーという発信音のあとお話しください。ファクシミリのかたはスタートボタンまたは送信ボタンを押してください。」

● 留守番電話を活用しているときに、FAX/TEL切り替えの機能がうまくはたらかないときは、留守番電話の応答メッセージのはじめの4秒間を無音状態にしてみてください。

2 “留守モード”に設定します



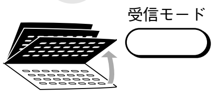
3枚のワンタッチダイヤルパネルを開いて、受信モードボタンを押し、ディスプレイに“留守”を表示させます。

電話がかかってくると

留守中にかかってきた電話に対応できるだけでなく、相手がファクスなら自動的に受信します。

● 電話がかかってくると、留守番電話がメッセージを流します。
● 相手が電話のときは、留守番電話が相手の伝言を録音します。
● 相手がファクスのときは、自動的に受信します。

帰宅したときは



3枚のワンタッチダイヤルパネルを開いて、受信モードボタンを押し、“留守”表示を消します。留守番電話の留守番設定も解除します。

相手が何も話さないときは

6秒後に自動的にファクスに切り替わります。

- 相手の無音状態が続いたときに、ファクスに切り替わるまでの時間は、変更することができます。 ➔ **P.8-34**（留守モード→受信切り替え）
- ファクスに切り替わらないように設定することもできます。➔ **P.8-34**
  ただし、ファクスに切り替わらないように設定した場合でも、相手がスタートボタン（または、送信ボタン）を押したときは受信できます。

お願い

無音の状態が続くと自動的に切れてしまう留守番電話をお使いの場合は、電話が切れる時間より前に自動的にファクスに切り替わるように時間を短く設定してください。

メモ

- *留守番電話機の種類によっては、この機能が活用できないものもあります。*
- *ダイヤルインサービスを利用すると、本機の留守番電話機能は活用できません。*➔ **P.4-10**
- *オプションの2回線ボードを取り付けて2つの回線を接続している場合でも、留守モードに設定できるのは回線1だけです。*➔ **P.10-7**

記録紙やトナーが切れたときの受信方法

自動受信に設定されているときは、記録紙やトナーカートリッジのトナーが切れても原稿はメモリに記憶され受信できます。この機能をメモリ代行受信といいます。

記録紙が切れたときには

記録紙が切れると、操作パネルのエラーランプが点滅し、つぎのメッセージが表示されます。記録紙を補給してください。

➔ P.8-2



● 記録紙を補給すると、エラーランプとメッセージは自動的に消えます。

トナーが切れたときには

トナーが切れると、操作パネルのエラーランプが点滅し、つぎのメッセージが表示されます。

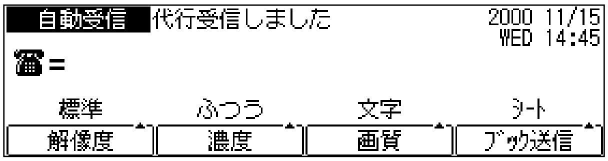
トナーカートリッジを交換してください。 ➔ P.8-9



● トナーカートリッジの交換が終了したら、エラーランプとメッセージは自動的に消えます。

メモリ代行受信したときには

つぎのメッセージが表示されます。



● 記録紙やトナーが切れてもメモリ代行受信しないように設定することができます。また、メモリ代行受信したときにアラームを鳴らすよう設定することもできます。 ➔ P.8-34

受信した原稿をプリントするには

記録紙を補給、またはトナーカートリッジを交換すると、エラーランプが消え、メモリに記憶されていた原稿が自動的に記録紙にプリントされます。

- 受信した原稿がすべてプリントされると、メモリ内の原稿は自動的に消去されます。

メモ

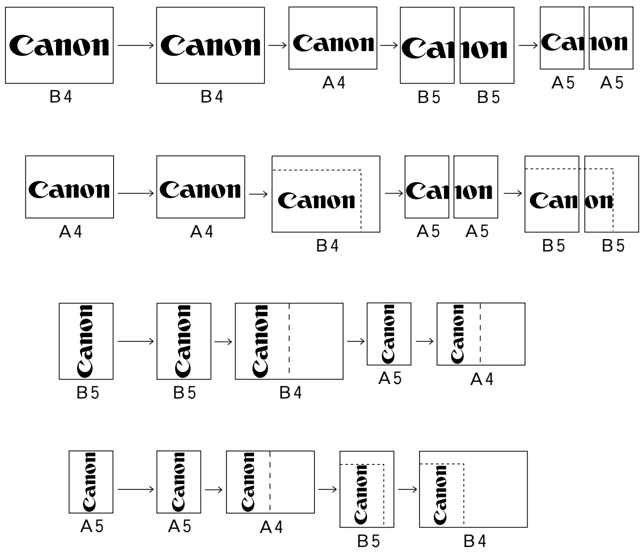
- *メモリがいっぱいのときは、メモリ代行受信機能ははたらきません。*
- *マルチフィーダトレイの記録紙サイズ切り替えスイッチがOFFになっていない場合、記録紙がカセットにセットされているのにメモリ代行受信になってしまうことがあります。*
- *64枚の受信原稿をメモリに受信できます。また、オプションのメモリを増設すると最大576枚までの原稿を受信できます（キヤノンFAX標準チャートNo. 1、標準モード使用時）。*
- *代行受信した原稿のサイズと補給した記録紙のサイズが異なるとき、メモリ内の原稿がプリントされないことがあります。* ➔ **P.8-35**（カセット選択）
  このとき、ファクスモードに切り替え、スタートボタンを押して「ちがうサイズの記録紙にプリント?」(➔ **P.9-13***)というメッセージが表示されてから［はい］を押すと、記録紙サイズの優先順位（*➔ **P.4-23***）にしたがって選択された別のサイズの記録紙にメモリ内の原稿をプリントします。*
- *「カートリッジが空になりました」表示をしているのに新しいカートリッジが手元にないときは、印字継続を“する”に設定すれば、しばらくの間プリントし続けることができます。* ➔ **P.8-36**（印字継続）

記録紙サイズの優先順位

記録紙は相手が送ってきた原稿（送信原稿）と同じサイズのものが自動的に選択されます。

同じサイズの記録紙がないときは、つぎの優先順位で記録紙が選択されます。全ての記録紙がなくなったらメモリ代行受信（➔ **P.4-21**）をします。

送信原稿	記録紙の優先順位



メモ

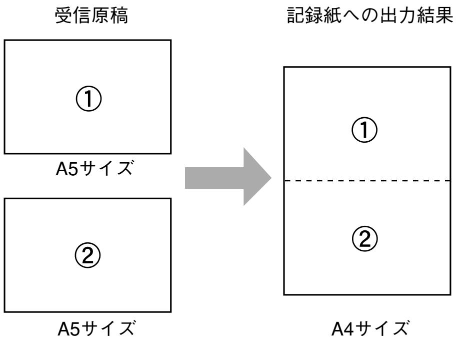
- *送信原稿がA3のときの記録紙優先順位は送信原稿がB4のときと同じになります。*
- *オプションのFXL-カセットフィーダ3がセットされているとき、2つの記録紙カセットとマルチフィーダに同じサイズの記録紙がセットされているときは、上段記録紙カセット、下段記録紙カセット、マルチフィーダの順に記録紙が選択されます。*
- *プリント中にそれまで使用していたカセットの記録紙がなくなっても、自動的に他のカセットの記録紙が選択されます。*
- *少し長いサイズで送られてきた原稿を、複数の記録紙に分けずに1枚に収まるサイズに縮小してプリントできます。*➔ **P.8-36**

複数の受信原稿を1枚にまとめるには

1通信で受信する原稿のサイズが小さい場合には、2ページまたは3ページ分の原稿を、サイズの大きな記録紙にまとめて出力することができます。この機能をN in 1記録と呼びます。

N in 1 記録の例

1ページの記録紙に何ページ分の受信原稿を記録することができるかは、受信した原稿のサイズにより異なります。
たとえば、A5サイズの受信原稿は、2ページ分をまとめてA4サイズの記録紙に出力することができます。



● 受信原稿のページとページの区切りは、点線で示されます。

メモ

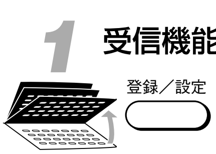
N in 1記録は、受信原稿を記録紙に出力するときと、メモリ照会ボタンを使って、メモリ内に記憶した受信原稿を記録紙に出力するときだけ機能します。

➔ P.5-39

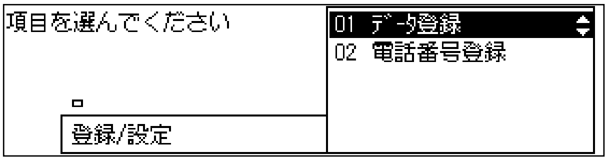
N in 1 記録を設定するには

N in 1記録を設定するときは、つぎの手順で操作してください。

1 受信機能設定の設定項目を表示させます

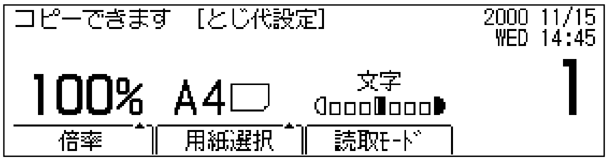


ワンタッチダイヤルパネルを3枚開いて、登録／設定ボタンを押します。



セット

セットボタンを押します。

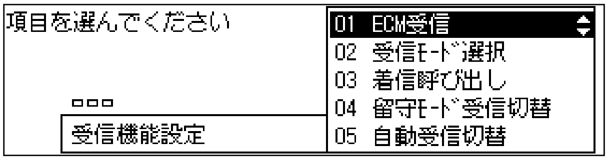


▼または▲ボタンを押して、“04 受信機能設定” を反転表示させます。

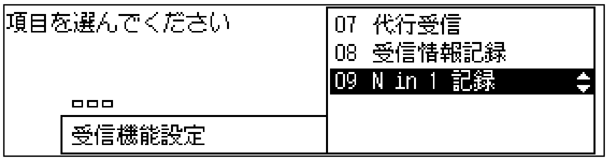
2 N in 1 記録の設定項目を表示させます

セット

セットボタンを押します。



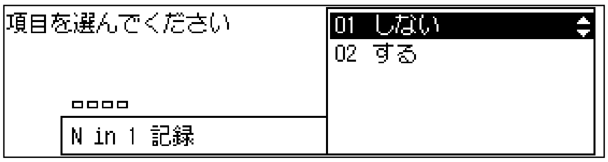
▼または▲ボタンを押して、“09 N in 1 記録” を反転表示させます。



3 N in 1 記録を設定します

セット

セットボタンを押します。



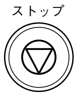
▼または▲ボタンを押して、“ する” を反転表示させます。

セット

セットボタンを押します。

- N in 1 記録をやめる場合は、“しない” を反転表示させ、セットボタンを押してください。

4 N in 1 記録の設定を終了します



ストップボタンを押し、待機状態に戻ります。

第 5 章

いろいろな送受信

相手がセットした原稿を受信するには

相手機で原稿を送信することができる状態にしておいてもらい、本機からダイヤルすることによって原稿を受信することができます。この機能をポーリング受信と呼びます。

ポーリング受信するためには

本機は、F コード（➔ ***P.5-42***）がサポートされている各社のファクスはもちろん、F コードがサポートされていないキヤノンのファクスからもポーリング受信できます。

相手機が F コードをサポートしているファクスの場合

相手機の特定のポーリングボックスに蓄積された原稿を受信できます。ポーリングボックスは F コードで指定します。相手機のポーリングボックスに設定された F コードを確認しておいてください。なお、相手機のポーリングボックスにパスワードが設定されている場合は、パスワードも指定する必要があります。

相手機が F コードをサポートしていないキヤノンのファクスの場合

相手機のポーリング ID を 255（2 進数：11111111）に設定するよう依頼しておき、F コードとパスワードを指定せずにポーリング受信します。

ポーリング受信するときは、相手機に原稿がセットされているか、相手機のポーリングボックスに原稿が蓄積されている必要があります。

ポーリング受信するときは

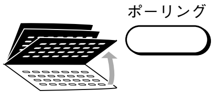
ポーリング受信するときは、つぎの手順で操作してください。

● 相手機に原稿がセットされている必要があります。

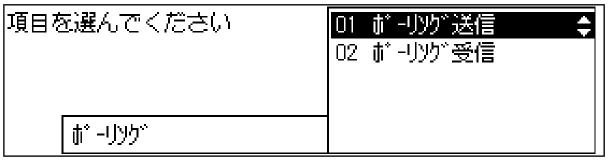
1 ファクスモードにします

ファクス／コピー切り替えボタンを押して、ファクスランプを点灯させてください。

2 ポーリング受信の設定項目を表示させます

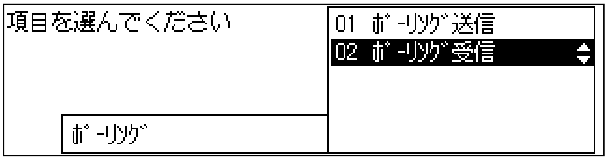


3枚のワンタッチダイヤルパネルを開いて、ポーリングボタンを押します。

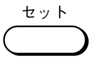




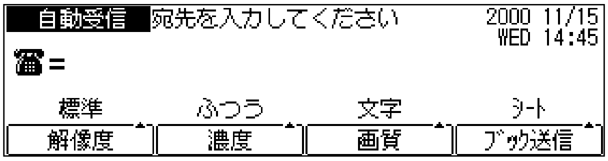
▼または▲ボタンを押して、“02 ポーリング受信”を選択します。

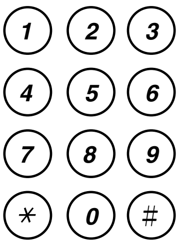


3 相手の電話番号をダイヤルします



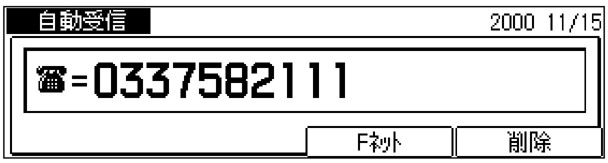
セットボタンを押します。





電話番号をダイヤルします。テンキーのほか、ワンタッチダイヤルや短縮ダイヤルが使用できます。 ➔ P.6-5,6-12,6-20

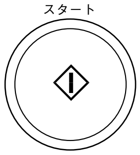
- 複数の相手を指定して、ポーリング受信することもできます。最大210ヵ所まで指定できます。



- テンキーでダイヤルするときは、電話番号の最後でセットボタンを押してください。
- 相手機がITU-T規格のFコードやパスワードを設定しているとき、ポーリング受信するためには、ITU-T規格のFコードとパスワードの設定が必要となります。 ➔ P.5-4

● ITU-T規格のFコードとパスワードを設定するときは、「ポーリング受信時のFコードとパスワードの設定」(→ **P.5-4**) で説明している操作をしてから手順4に進んでください。

4 スタートボタンを押します



相手を呼びだし、セットされている原稿を受信します。

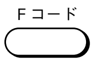
● 原稿の受信を中断したいときは、まず、ストップボタンを押してください。「通信を中止しますか？」というメッセージが表示されたら［はい］を押してください。ただし、オプションの2回線ボードを取り付けている場合で2回線とも通信中のときは、ストップボタンを押すとどちらの通信を中止するのかを選択する画面が表示されます。▲または▼ボタンで中止する通信を反転表示させ、セットボタンを押してから［はい］を押してください。 → **P.3-16**

メモ *オプションの2回線ボードを取り付けている場合でも、ポーリング受信で使用されるのは、2回線設定の"03 送信回線設定"で、優先使用に指定されている回線または送信禁止が指定されていない回線だけです。このため、複数の相手先を指定しても、2つの回線で同時にポーリング受信することはできません。*
→ **P.8-45**

ポーリング受信時のFコードとパスワードの設定

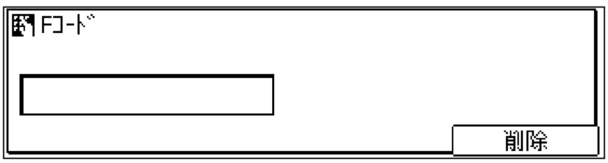
ITU-T規格のFコードとパスワードを設定している相手の原稿をポーリング受信するときは、相手の電話番号をダイヤルしたあとに、Fコードやパスワードを設定する必要があります。

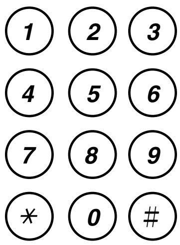
Fコードの設定



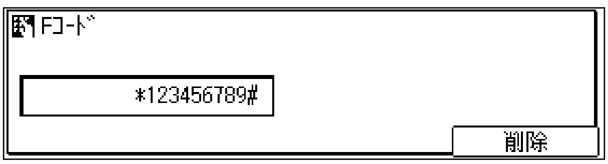
ポーリング受信の宛先を入力した後、Fコードボタンを押します。

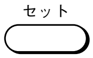
● 電話番号をダイヤルしてからFコードボタンを押すまでに5秒以上の間隔をあけると、ダイヤルタイムアウト機能がはたらき、通信が自動的に開始され、Fコードを指定できなくなってしまいます。





テンキーでFコードを入力します。20桁以内で、数字、＊、#、スペースが入力できます。

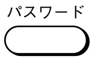




セットボタンを押します。

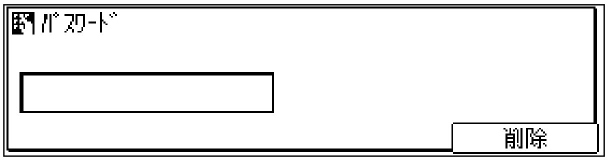
● パスワードの設定が必要ないときは、スタートボタンを押してポーリング受信を始めてください。

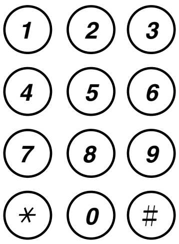
パスワードの設定



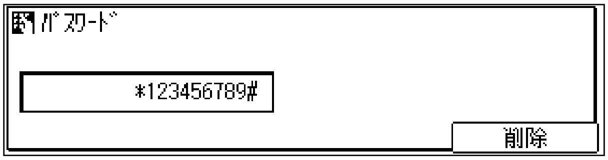
ポーリング受信の宛先を入力したあと、パスワードボタンを押します。

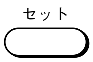
● Fコードを入力してからパスワードボタンを押すまでに5秒以上の間隔をあけると、ダイヤルタイムアウト機能がはたらき、通信が自動的に開始され、パスワードを指定できなくなってしまいます。





テンキーで、パスワードを入力します。20桁以内で、数字、＊、＃、スペースが入力できます。





セットボタンを押します。

● このまま、「ポーリング受信するときは」(➔ P.5-4)の手順 4 に戻ってください。

指定した時刻にポーリング受信するには

時刻を指定してポーリング受信することもできます。この機能を定時ポーリング受信と呼びます。

定時ポーリングするためには

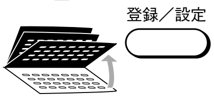
相手がキヤノンのファクスの場合には、ポーリングIDを255に設定するようあらかじめ依頼しておきます。また、メモリ内に定時ポーリングボックスを設定しておく必要があります。

- 定時ポーリングボックスは、汎用ボックス（➔ ***P.5-74***）、中継ボックス（➔ ***P.5-64***）、ポーリングボックス（➔ ***P.5-19***）、親展ボックス（➔ ***P.5-52***）、転送（➔ ***P.5-27***）と合わせて70個まで設定できます。それぞれのボックスは暗証番号で管理できます。
- 定時ポーリングボックス作成前に、定時ポーリングする相手先の電話番号をワンタッチダイヤル（➔ ***P.6-2***）または短縮ダイヤル（➔ ***P.6-9***）に登録しておいてください。

定時ポーリングボックスの作成

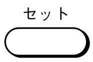
定時ポーリング受信するときは、つぎの手順で操作してください。

1 メモリ管理の設定項目を表示させます

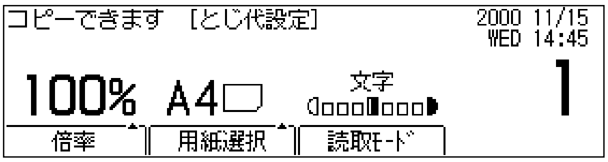


3枚のワンタッチダイヤルパネルを開いて、登録／設定ボタンを押します。



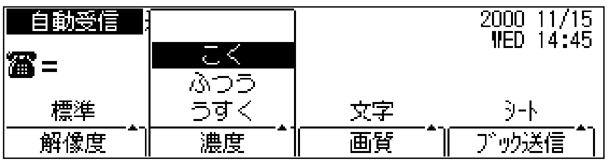


セットボタンを押します。

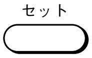




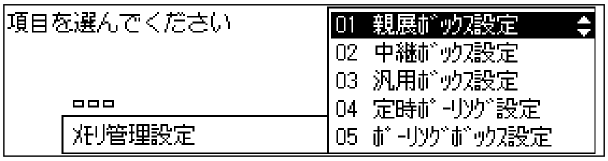
▼または▲ボタンを押して、"06 メモリ管理設定" を反転表示させます。



2 定時ポーリングの設定項目を表示させます

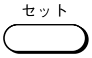


セットボタンを押します。

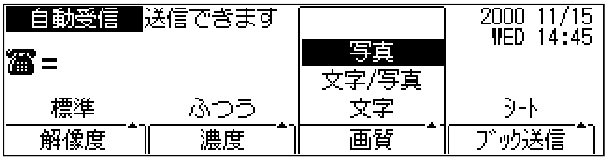




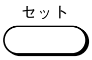
▼または▲ボタンを押して、"04 定時ポーリング設定" を反転表示させます。



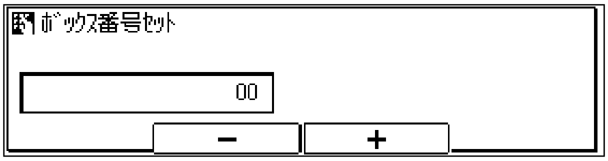
セットボタンを押します。

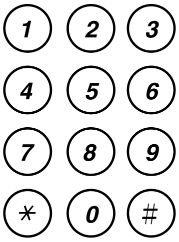


3 定時ポーリングボックスの番号を指定します

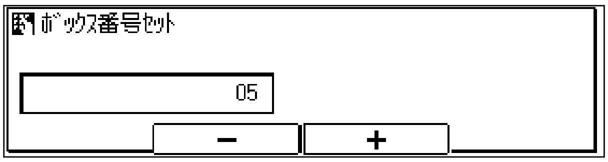


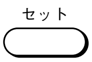
セットボタンを押します。



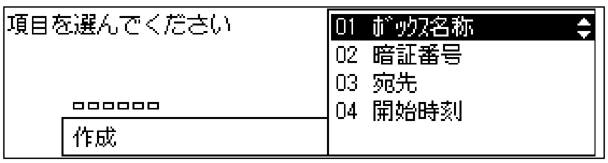


テンキーでボックス番号を入力します。00 ～ 99 までの番号が設定できます。−または＋ボタンを押して、ボックス番号を選択することもできます。





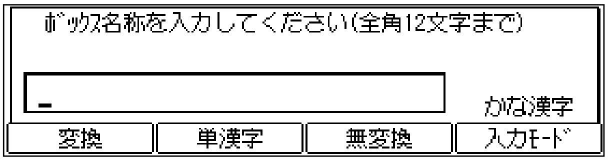
セットボタンを押します。



4 定時ポーリング用のボックスの名称を指定します

セット

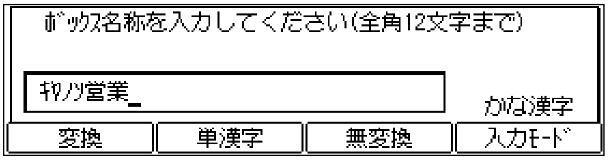
セットボタンを押します。



A

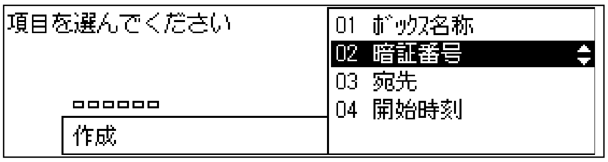
Z

ワンタッチダイヤルボタンでボックス名称を入力します。文字の入力方法については、「文字を登録するには」（→ ***P.6-34***）を参照してください。



セット

セットボタンを押します。「登録しました」とメッセージが表示されたあと、自動的に“02 暗証番号”の設定項目が反転表示されます。



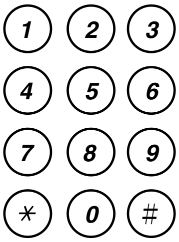
- 暗証番号の設定が必要ないときは、▼ボタンを押して、“03 宛先”を反転表示させ、手順6に進んでください。

5 暗証番号を設定します

セット

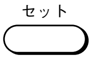
セットボタンを押します。



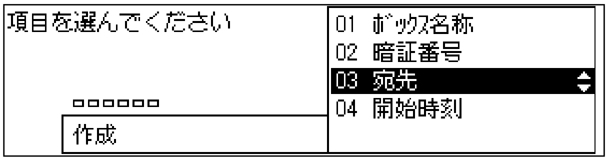


テンキーで 4 桁の暗証番号を入力します。"0000"～"9999" の範囲で数字が指定できます。

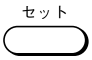




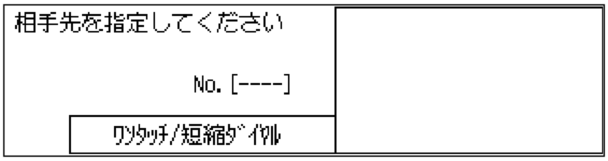
セットボタンを押します。

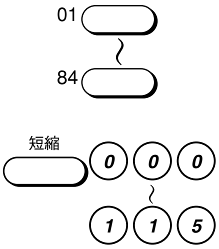


6 相手の電話番号を登録します



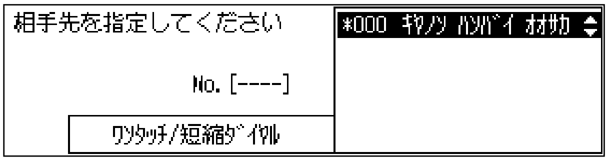
セットボタンを押します。

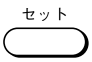




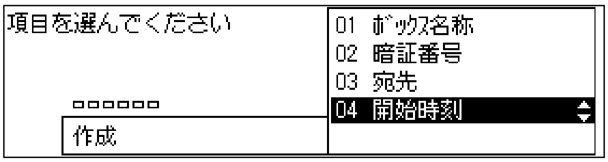
ワンタッチダイヤルまたは短縮ダイヤルが使用できます。
複数の相手を登録して、ポーリング受信することもできます。最大 200ヵ所まで登録できます。

● テンキーで相手の電話番号を登録することはできません。

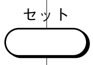




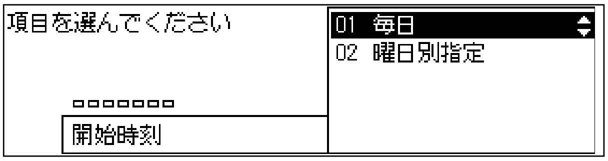
セットボタンを押します。



7 ポーリング受信の開始時刻を設定します。



セットボタンを押します。

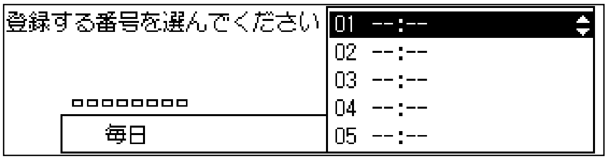


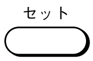
定時ポーリングを毎日行う場合は“01 毎日”を、曜日を決めて行う場合は“02 曜日別指定”を選択します。



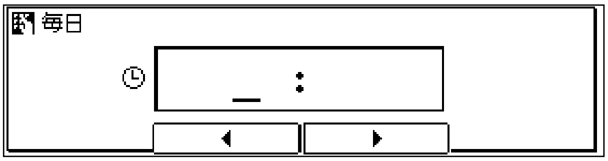
▼または▲ボタンを押していずれかを反転表示させ、セットボタンを押します。

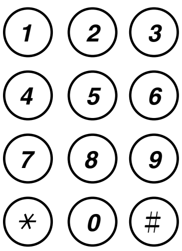
“01 毎日”を選択した場合





セットボタンを押します。
開始時刻の入力画面が表示されます。

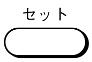




テンキーで時刻を指定します。



- 間違えたときは、クリアボタンを押してから入力しなおしてください。

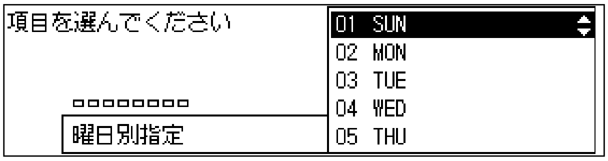


セットボタンを押します。

- 開始時刻の登録番号は1～5まであり、1日のうち最大5時刻まで開始時刻が指定できます。登録番号は▼または▲ボタンで選択できます。複数の時刻を設定するときは、登録時刻を選択してから、開始時刻の入力の操作を繰り返してください。
- すべての時刻を登録する必要はありません。

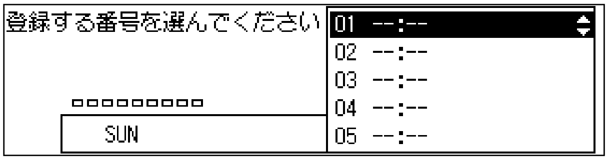
“02 曜日別指定”を選択した場合

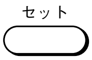
曜日の選択画面が表示されます。



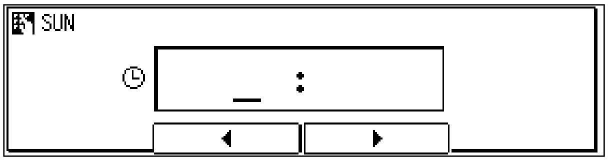


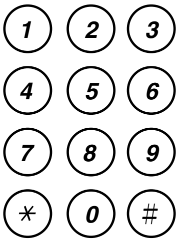
定時ポーリング受信する曜日を選択します。
▼または▲ボタンを押して設定する曜日を反転表示させ、セットボタンを押します。





セットボタンを押します。
開始時刻の入力画面が表示されます。

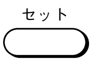




テンキーで時刻を指定します。



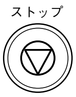
- 間違えたときは、クリアボタンを押してから入力しなおしてください。



セットボタンを押します。

- 開始時刻の登録番号は1～5まであり、1日のうち最大5時刻まで開始時刻が指定できます。登録番号は▼または▲ボタンで選択できます。複数の時刻を設定するときは、登録時刻を選択してから、開始時刻の入力の操作を繰り返してください。
- すべての時刻を登録する必要はありません。
- 複数の曜日に定時ポーリングを設定する場合は、曜日の選択と開始時刻の指定を繰り返してください。

8 待機状態に戻ります



ストップボタンを押し、待機状態に戻ります。

メモ　*手順6で、複数の相手を登録したときは、定時ポーリング開始時刻になると、登録した複数の相手から順次ポーリング受信します。*

定時ポーリングボックスの設定変更

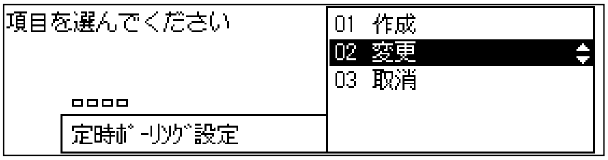
定時ポーリングボックスの設定を変更するときは､つぎの手順で操作してください。

1 定時ポーリングボックスの作成手順の1～2にしたがって定時ポーリングボックスの設定項目を表示させます → *P.5-6*

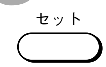
2 定時ポーリングの設定変更項目を表示させます



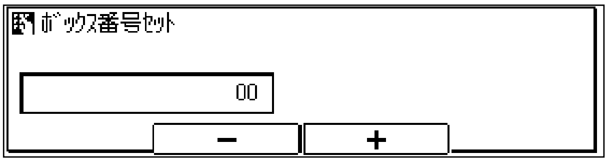
▼または▲ボタンを押して、“02 変更”を反転表示させます。

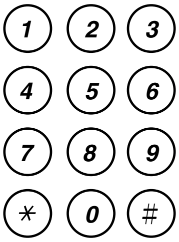


3 定時ポーリングボックスの番号を指定します

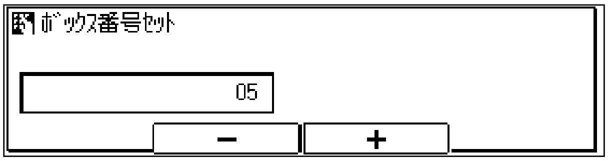


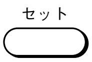
セットボタンを押します。





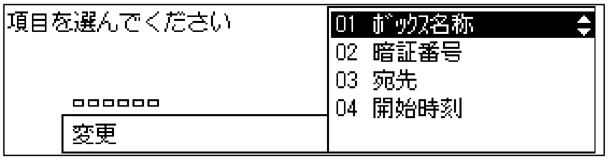
テンキーで変更するボックスの番号を入力します。−または＋ボタンを押して、ボックスの番号を選択することもできます。





セットボタンを押します。

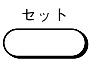
● 暗証番号を設定しているときは、4桁の暗証番号を入力してからセットボタンを押してください（暗証番号は表示されません）。



4 変更したい設定項目を表示させます

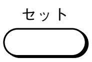


▼または▲ボタンを押して、変更したい項目を反転表示させ、セットボタンを押します。



設定内容を変更します。

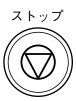
● 暗証番号を変更する場合は、現在の暗証番号を入力し(暗証番号は表示されません)、セットボタンを押してから、新しい暗証番号を入力します。



セットボタンを押して変更を確定します。

● 続けて他の項目の設定内容を変更することができます。

5 待機状態に戻ります



ストップボタンを押し、待機状態に戻ります。

定時ポーリングボックスの取り消し

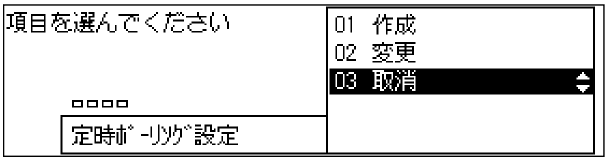
定時ポーリングボックスを取り消すときは、つぎの手順で操作してください。

1 定時ポーリングボックスの作成の手順1～2にしたがって定時ポーリングボックスの設定項目を表示させます ➔ P.5-6

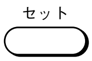
2 定時ポーリングの設定取り消し項目を表示させます



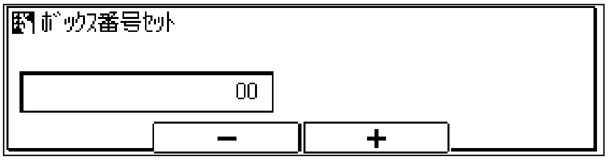
▼または▲ボタンを押して、“03 取消”を反転表示させます。

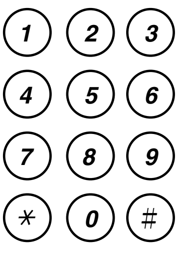


3 定時ポーリングボックスの番号を指定します

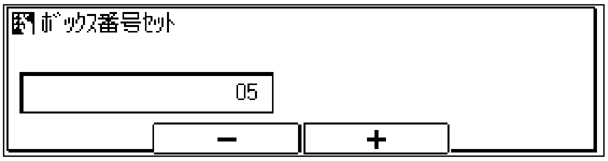


セットボタンを押します。



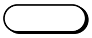


テンキーで取り消すボックスの番号を入力します。－または＋ボタンを押して、ボックスの番号を選択することもできます。



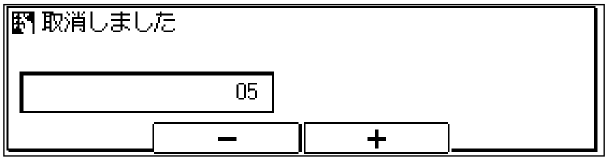
4 定時ポーリングの設定を取り消します

セット



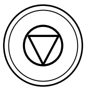
セットボタンを押します。

● 暗証番号を設定しているときは、4桁の暗証番号を入力してからセットボタンを押してください（暗証番号は表示されません）。



5 待機状態に戻ります

ストップ



ストップボタンを押し、待機状態に戻ります。

呼び出しを受けて送信するには

原稿をメモリに記憶させておき、相手からの操作で原稿が送信できます。この機能をポーリング送信と呼びます。

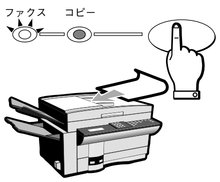
ポーリング送信するためには

ポーリング送信する前に、あらかじめ、メモリ内に原稿を記憶させるためのポーリングボックスを作成し（➔ ***P.5-19***）、そのポーリングボックスに設定したFコードとパスワードを相手に連絡しておく必要があります。なお、パスワードは必ずしも設定する必要はありません。複数のポーリングボックスを作成して、各ボックスに異なる原稿を記憶させておけば、相手は必要な原稿を選んで受信できます。

- Fコードをサポートしていないファクスにポーリング送信する場合や相手を選ばず無条件にポーリング送信する場合は、ボックス番号“00”のポーリングボックスを使用します。ボックス番号“00”のポーリングボックスは、Fコードとパスワードを設定せずに使用できる特別なポーリングボックスです。
- ポーリングボックスは、汎用ボックス（➔ ***P.5-74***）、中継ボックス（➔ ***P.5-64***）、定時ポーリングボックス（➔ ***P.5-6***）、親展ボックス（➔ ***P.5-52***）、転送（➔ ***P.5-27***）と合わせて70個まで設定できます。それぞれのボックスは暗証番号で管理できます。

ポーリング送信するときには

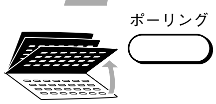
1 ファクスモードにし、ADFに原稿をセットします ➔ *P.3-3*



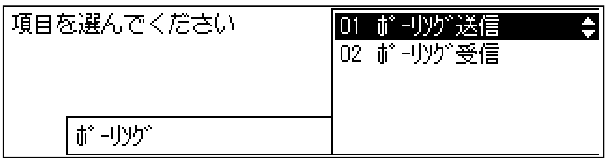
原稿に合わせて濃度や画質が設定できます。 ➔ ***P.3-17***

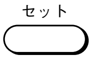
- ADFにセットできない原稿は、「本などの原稿を送信するには」（➔ ***P.3-10***）の手順1〜5を参照し、原稿台ガラスにセットしてください。

2 ポーリング送信の設定項目を表示させます

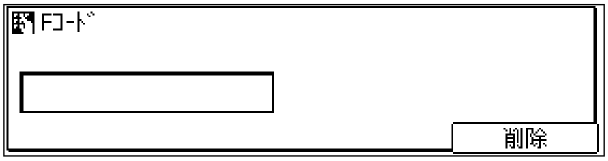


ワンタッチダイヤルパネルを3枚開いて、ポーリングボタンを押します。



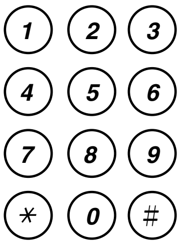


セットボタンを押します。

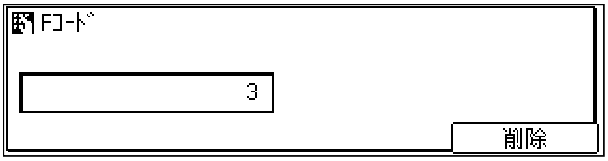


● F コードとパスワードが設定されていないボックス番号 “00” のポーリングボックスに原稿を記憶させる場合、発信人名称が登録されているときはこのまま手順4に、発信人名称が登録されていないときはこのまま手順5に進みます。

3 ポーリングボックスのＦコードを指定します

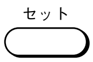


テンキーでポーリングボックスのＦコードを入力します。



● 発信人名称が登録されていないときは、このまま手順5に進みます。

4 発信人名称を選択します



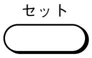
セットボタンを押します。





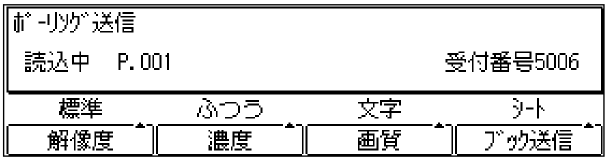
▼または▲ボタンを押して、希望の発信人名称を反転表示させます。

5 原稿をメモリに記憶させます



セットボタンを押します。原稿の読み込みがはじまります。

● 原稿を原稿台ガラスにセットした場合は、「本などの原稿を送信するには」(➔ ***P.3-12***) の手順7～8を参照し、すべての原稿をメモリに読み込ませてから、セットボタンを押してください。



通信相手がポーリング受信操作すると原稿が送信されます。送信が終了すると原稿はメモリから消去されます。

● 原稿がメモリから消去されないように設定することもできます。
➔ ***P.5-24***

● ポーリング送信は、メモリ照会の原稿クリアで中止できます。
➔ ***P.5-39***

ポーリングボックスを設定するには

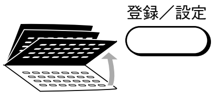
ポーリング送信するためには、あらかじめメモリ内にポーリングボックスを設定しておく必要があります。

ポーリングボックスの作成

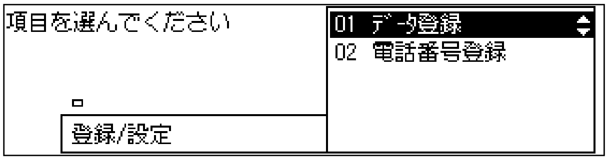
ポーリングボックスは、汎用ボックス（➔ ***P.5-74***）、中継ボックス（➔ ***P.5-64***）、定時ポーリングボックス（➔ ***P.5-6***）、親展ボックス（➔ ***P.5-52***）、転送（➔ ***P.5-27***）と合わせて70個まで設定できます。それぞれのボックスは暗証番号で管理できます。

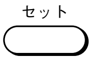
● F コードをサポートしていないファクスにポーリング送信する場合や相手を選ばず無条件にポーリング送信する場合は、ボックス番号“00”のポーリングボックスを使用します。ボックス番号“00”のポーリングボックスは、F コードとパスワードを設定せずに使用できる特別なポーリングボックスです。

1 メモリ管理項目を表示させます

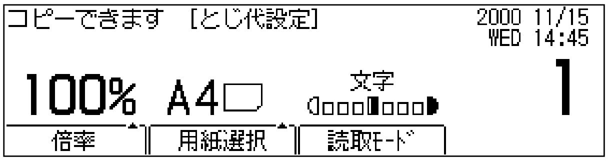


ワンタッチダイヤルパネルを3枚開いて、登録／設定ボタンを押します。



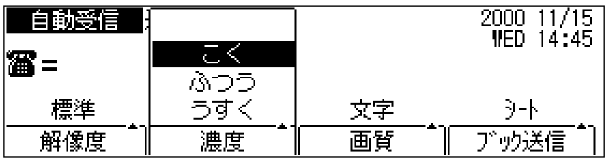


セットボタンを押します。

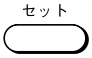




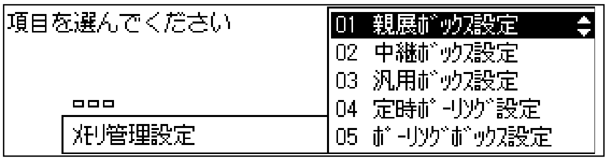
▼または▲ボタンを押して、“06 メモリ管理設定” を反転表示させます。



2 ポーリングボックスの設定項目を表示させます



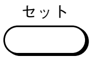
セットボタンを押します。



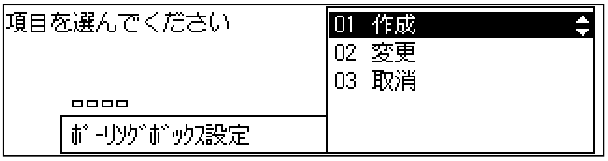


▼または▲ボタンを押して、“05 ポーリングボックス設定” を反転表示させます。

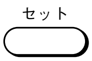




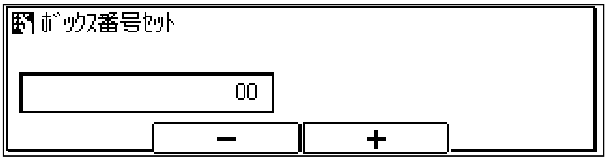
セットボタンを押します。

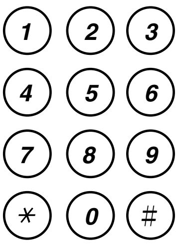


3 ポーリングボックスの番号を指定します

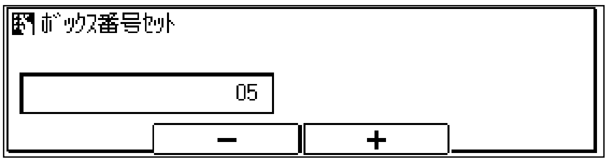


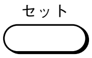
セットボタンを押します。



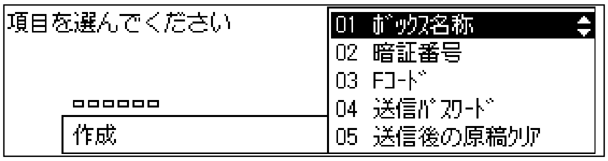


テンキーでボックス番号を入力します。00 ～ 99 までの番号が設定できます。−または＋ボタンを押して、ボックス番号を選択することもできます。

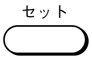




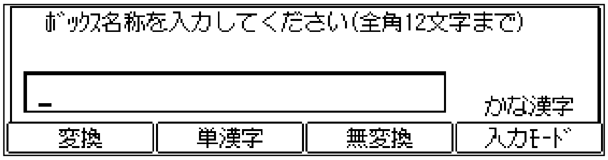
セットボタンを押します。

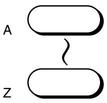


4 ボックスの名称を指定します

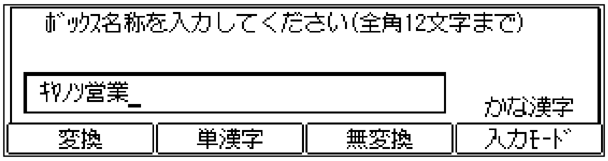


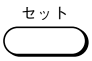
セットボタンを押します。



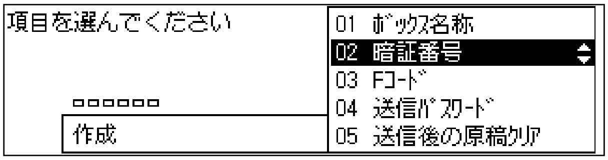


ワンタッチダイヤルボタンでボックス名称を入力します。文字の入力方法は、「文字を登録するには」（➔ **P.6-34**）の説明を参照してください。

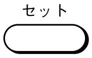




セットボタンを押します。「登録しました」とメッセージが表示されたあと、自動的に暗証番号の設定項目が反転表示されます。

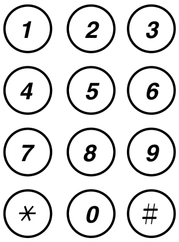


5 暗証番号を設定します



セットボタンを押します。

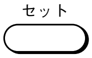




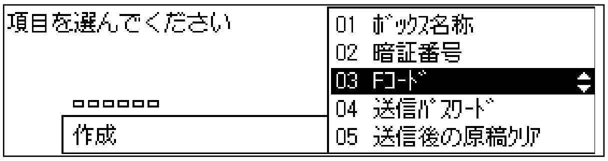
テンキーで4桁の暗証番号を入力します。“0000”～“9999”の範囲で数字が指定できます。



- この暗証番号は、ポーリングボックスの設定変更やポーリングボックスの取り消しを制限するためのものです。

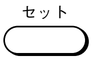


セットボタンを押します。

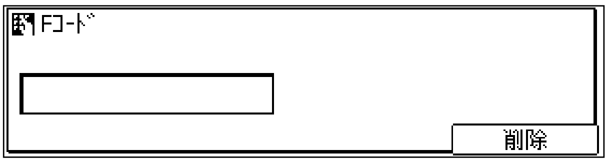


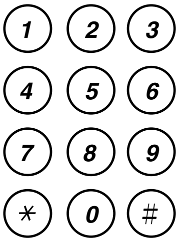
- 次からの手順でITU-T規格のFコードや送信パスワード（→ **P.5-42**）が設定できます。
- Fコードとパスワードを設定せずにボックス番号“00”のポーリングボックスを作成するときは、▼または▲ボタンを押して“05 送信後の原稿クリア”を反転表示させ、手順8に進んでください。

6 Fコードを設定します



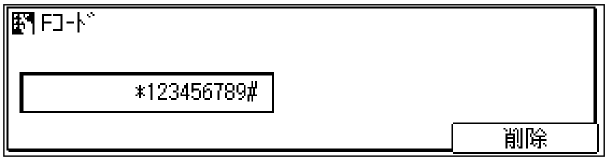
セットボタンを押します。

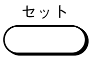




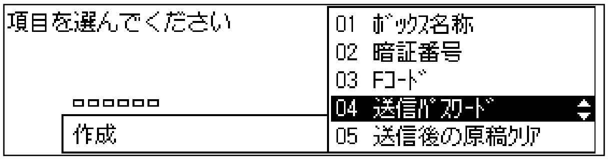
テンキーでFコードを入力します。20桁以内で、数字、＊と＃、スペースが入力できます。

● 定時ポーリングや親展ボックス、中継ボックスおよび汎用ボックスに登録済みのＦコードは使用できません。

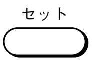




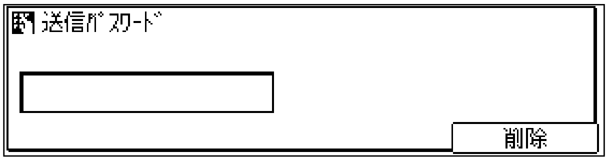
セットボタンを押します。

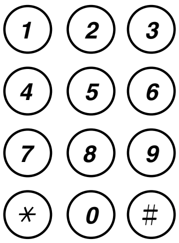


7 送信パスワードを設定します

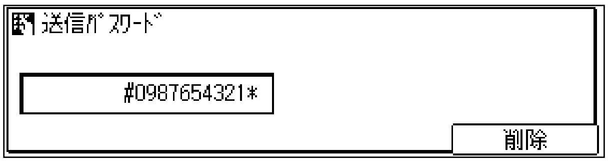


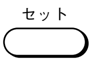
セットボタンを押します。



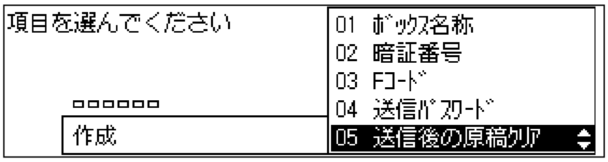


テンキーで送信パスワードを入力します。20桁以内で、数字、＊と＃、スペースが入力できます。

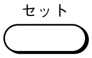




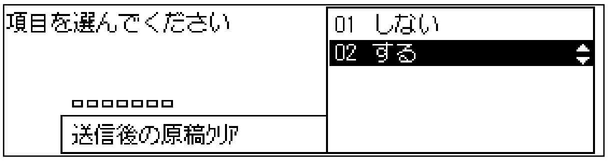
セットボタンを押します。



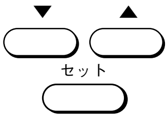
8 送信後の原稿処理を選択します



セットボタンを押します。



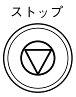
複数の相手に送信したい場合は“しない”を、それ以外の場合は“する”を選択します。



▲または▼ボタンを押していずれかを反転表示させ、セットボタンを押します。

●“しない”を選択した場合はポーリングボックス内に原稿が残ります。この原稿はメモリ照会で消去できます。 ➔ ***P.5-39***

9 待機状態に戻ります



ストップボタンを押し、待機状態に戻ります。

ポーリングボックスの設定変更

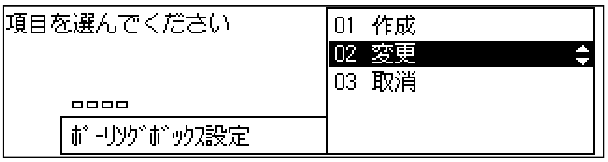
ポーリングボックスの名称や暗証番号などを変更するときは、次の手順で操作してください。

1 ポーリングボックスの作成の手順１～２にしたがって、ポーリングボックスの設定項目を表示させます ➔ ***P.5-19***

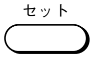
2 ポーリングボックスの設定変更項目を表示させます



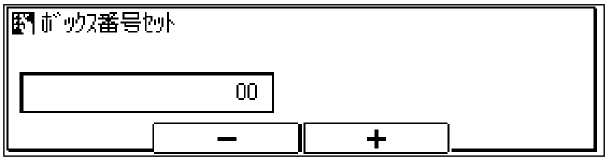
▼または▲ボタンを押して、“02 変更”を反転表示させます。

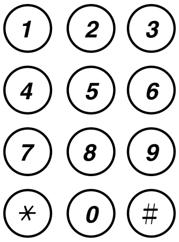


3 ポーリングボックスの番号を指定します

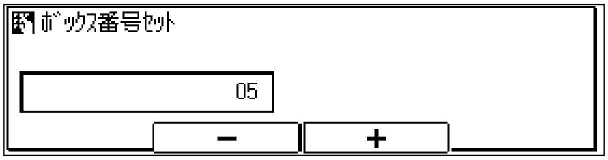


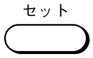
セットボタンを押します。





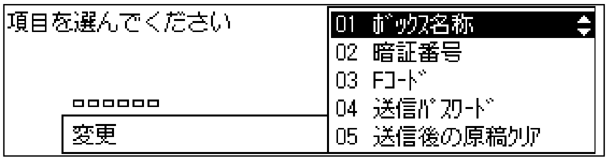
テンキーで変更するボックスの番号を入力します。－または＋ボタンを押して、ボックスの番号を選択することもできます。





セットボタンを押します。

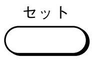
●暗証番号を設定しているときは4桁の暗証番号を入力してからセットボタンを押してください（暗証番号は表示されません）。



4 ポーリングボックスの各項目を変更します

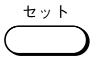


▼または▲ボタンを押して、変更したい項目を反転表示させ、セットボタンを押します。



設定内容を変更します。

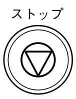
●暗証番号を変更する場合は、現在の暗証番号を入力し(暗証番号は表示されません)、セットボタンを押してから、新しい暗証番号を入力します。



セットボタンを押して変更を確定します。

●続けて他の項目の設定内容を変更することができます。

5 待機状態に戻ります



ストップボタンを押し、待機状態に戻ります。

ポーリングボックスの取り消し

ポーリングボックスを取り消すときは、次の手順で操作してください。

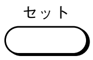
1 ポーリングボックスの作成の手順１〜２にしたがって、ポーリングボックスの設定項目を表示させます ➔ P.5-19

2 ポーリングボックスの取り消し項目を表示させます

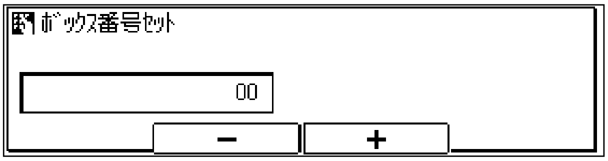


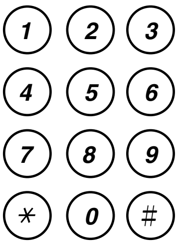
▼または▲ボタンを押して、“03 取消”を反転表示させます。

3 ポーリングボックスの番号を指定します

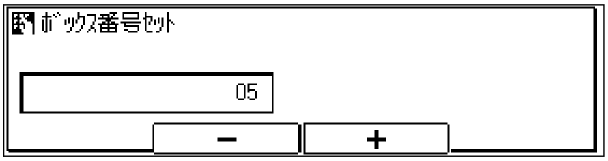


セットボタンを押します。

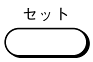




テンキーで取り消すボックスの番号を入力します。−または＋ボタンを押して、ボックスの番号を選択することもできます。

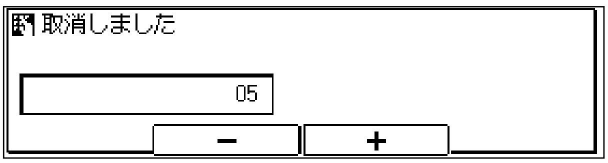


4 ポーリングボックスを取り消します

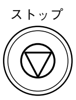


セットボタンを押します。

- 暗証番号を設定しているときは、4桁の暗証番号を入力してからセットボタンを押してください（暗証番号は表示されません）。



5 待機状態に戻ります



ストップボタンを押し、待機状態に戻ります。

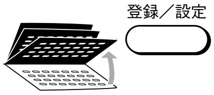
受信原稿を転送したいときには

受信した原稿を自動的に他のファクスに転送できます。転送機能を活用すると、オフィスが無人になる夜間や休日に、受信した原稿を自宅のファクスなどに転送することができます。

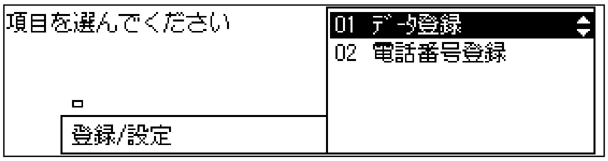
転送の条件設定

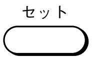
次の手順で転送先や転送時間などをあらかじめ設定しておきます。

1 メモリ管理項目を表示させます

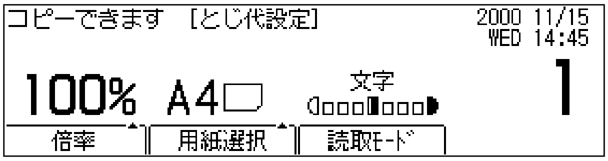


ワンタッチパネルを 3 枚開いて、登録／設定ボタンを押します。



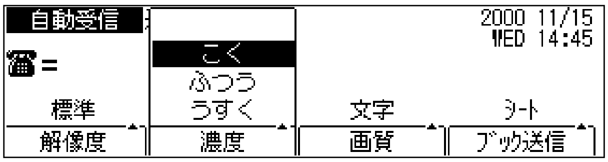


セットボタンを押します。

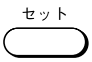




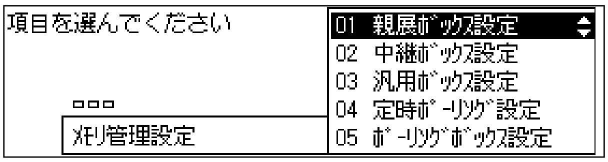
▼または▲ボタンを押して、“06 メモリ管理設定” を反転表示させます。



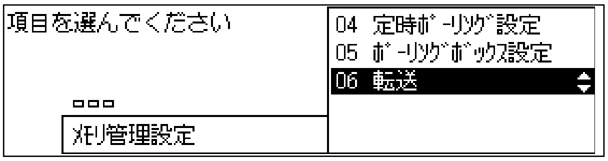
2 転送の設定項目を表示させます



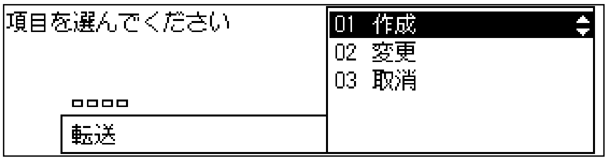
セットボタンを押します。



▼または▲ボタンを押して、“06 転送”を反転表示させます。

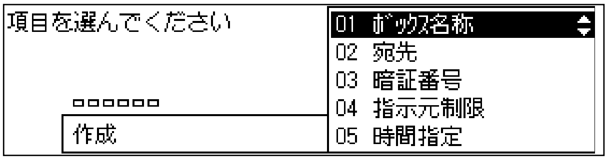


セットボタンを押します。

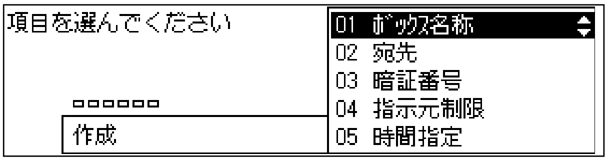


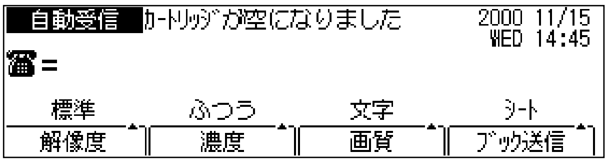
3 転送の各項目を指定します

セットボタンを押します。



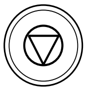
▼または▲ボタンを押すたびに、転送のいずれかの設定項目（→ ***P.5-29***）が反転表示されます。





セットボタンを押すと、反転表示されている項目が選択できます。

- 「転送の設定項目」を参照して、転送の条件を設定してください。
- それぞれの項目を設定したあと、セットボタンを押すと設定が確定します。続けて、他の項目を設定することもできます。

ストップ


設定の途中でもストップボタンで、待機状態に戻ることができます。

転送の設定項目

転送では、つぎのような項目が設定できます。

設定項目	設定内容	設定値（※はご購入時の設定）
01 ボックス名称	任意の名前が設定可能。	全角12文字まで入力可能。
02 宛先	受信原稿の転送先が登録可能。	ワンタッチダイヤル、短縮ダイヤル合わせて最大200ヵ所登録可能。
03 暗証番号	転送の設定内容を保護するための暗証番号。設定すると転送項目の設定を変更したり、削除するとき必要。	4桁の数字が入力可能。
04 指示元制限	原稿を送信してきたのが指示元として登録されている通信相手以外のときに、受信制限するかどうか選択可能。	“01 しない”※ “02 する”
（相手先指定）	指示元制限“02 する”のとき、照合するための相手が登録可能。送信してきたのが指示元登録されていない通信相手のときは原稿を受信しない。	ワンタッチダイヤル、短縮ダイヤル合わせて最大200ヵ所登録可能。
05 時間指定 “01 ＯＮ時刻”	転送機能の起動時刻。転送機能の起動時刻を24時間制で5時刻まで設定可能。“02 曜日別指定”を選択すると“01 SUN”～“07 SAT”まで、各曜日ごとに24時間制で5時刻まで設定可能(最大、35時刻)。	“01 毎日”※ “02 曜日別指定”
“02 ＯＦＦ時刻”	転送機能の解除時刻。転送機能の解除時刻を24時間制で5時刻まで設定可能。“02 曜日別指定”を選択すると“01 SUN”～“07 SAT”まで、各曜日ごとに24時間制で5時刻まで設定可能(最大、35時刻)。	“01 毎日”※ “02 曜日別指定”
06 受信原稿プリント	本機でも受信原稿をプリントするかどうか選択可能。	“01 しない”※ “02 する”
（受信プリント部数）	受信原稿プリントが“02 する”のとき、受信原稿のプリント枚数を設定可能。	01～99枚の範囲で設定可能。 “01 枚”※

メモ

- *転送の対象となるのは、通常の受信原稿です。親展ボックス（➔ **P.5-52**）、中継ボックス（➔ **P.5-64**）、汎用ボックス（➔ **P.5-74**）で受信した原稿は、転送の対象にはなりません。*
- *手動受信原稿も転送の対象にはなりません。*
- *ON時刻で毎日を選択したときは、ON時刻で曜日は選択できません。ON時刻で曜日を選択したときは、ON時刻で毎日は選択できません（OFF時刻の場合も同じです）。*
- *ON時刻で毎日を選択したときでも、OFF時刻で曜日が選択できます。ON時刻で曜日を選択し、OFF時刻で毎日を選択してもかまいません。*

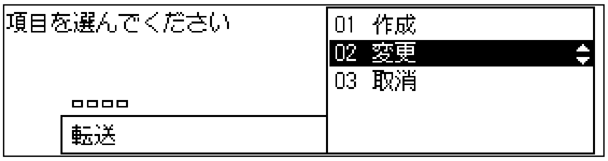
転送の設定変更

転送の設定を変更するときはつぎの手順で操作してください。

1 転送の条件設定の手順1～2にしたがって転送の設定項目を表示させます ➔ P.5-27

2 転送の設定変更項目を表示させます

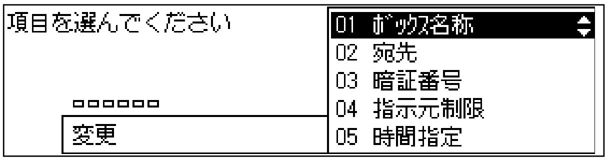
▼または▲ボタンを押して、“02 変更”を反転表示させます。



3 転送の各項目を変更します

セットボタンを押します。

● 暗証番号を設定しているときは、4桁の暗証番号を入力してからセットボタンを押してください（暗証番号は表示されません）。



▼または▲ボタンを押して変更したい項目を表示させ、セットボタンを押します。

設定内容を変更します。

● 宛先や指示元制限の相手を追加するときは、追加する相手を登録したワンタッチダイヤルボタンもしくは短縮ダイヤルボタンを押します。
● 宛先や指示元制限の相手を削除するときは、▼または▲ボタンを押して削除したい相手を反転表示させ、クリアボタンを押します。
● 暗証番号を変更する場合は、現在の暗証番号を入力し（暗証番号は表示されません）、セットボタンを押してから、新しい暗証番号を入力します。

セットボタンを押して変更を確定します。

● 続けて他の項目の設定内容を変更することができます。

4 待機状態に戻ります

ストップ

ストップボタンを押し、待機状態に戻ります。

転送設定の取り消し

転送の設定を取り消すときはつぎの手順で操作してください。

1 転送の条件設定手順1～2にしたがって転送の設定項目を表示させます → P.5-27

2 転送の取り消し項目を表示させます

▼または▲ボタンを押して、"03 取消" を反転表示させます。

項目を選んでください	01 作成
	02 変更
□□□□	03 取消
転送	

3 転送設定を取り消します

セット

セットボタンを押します。

- 暗証番号を設定しているときは、4桁の暗証番号を入力してからセットボタンを押してください（暗証番号は表示されません）。

取消しました	01 作成
	02 変更
□□□□	03 取消
転送	

4 待機状態に戻ります

ストップ

ストップボタンを押し、待機状態に戻ります。

設定時間外に受信原稿を転送したいときは

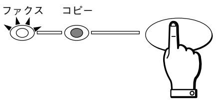
あらかじめ設定しておいた転送時間帯以外にも、操作パネルの転送ボタンで転送機能を起動したり解除することができます。

転送機能を起動するときは

つぎの操作で転送機能を起動することができます。

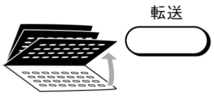
- あらかじめ転送の条件が設定されていないときは、転送ボタンは機能しません。➔ ***P.5-27***

1 ファクスモードにします



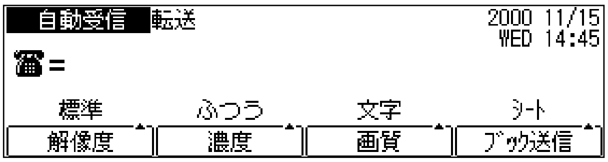
ファクス／コピー切り替えボタンを押して、ファクスランプを点灯させてください。

2 転送ボタンを押します



ワンタッチパネルを3枚開いて、転送ボタンを押します。

- 暗証番号が設定されているときは、転送ボタンを押したあとに4桁の暗証番号を入力してセットボタンを押してください。➔ ***P.5-29***



- 転送ボタンで転送機能を起動した場合でも、ユーザデータの転送項目で設定されているOFF時刻になると、自動的に転送機能が解除されます。➔ ***P.5-29***

転送機能を解除するときは

ファクスモードで、ディスプレイに「転送」と表示されているときに転送ボタンを押すと、転送機能が解除されます。

- 暗証番号が設定されているときは、転送ボタンを押したあとに4桁の暗証番号を入力してセットボタンを押してください。➔ ***P.5-29***

メモリで受信するには

受信原稿をメモリに記憶させ、記録紙にプリントしないように設定することができます。この機能をメモリ受信と呼びます。この機能を活用すると、夜間や休日など、オフィスが無人になる時間帯に受信した原稿をメモリに記憶させておくことができます。メモリ受信した原稿は、あとから記録紙にプリントできます。

メモリ受信するには

あらかじめ、登録／設定ボタンを使ってメモリ受信の各項目を設定しておく必要があります。

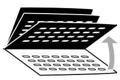
● メモリ受信の各項目が設定されているときは、操作パネルのメモリ受信ボタンでもメモリ受信機能を起動したり、メモリ受信を解除できます。
➔ ***P.5-37***

記録紙やトナーがなくなったときに自動的にメモリ受信する「メモリ代行受信」（➔ ***P.4-21***）は何も設定する必要はありません。

メモリ受信の条件設定

曜日や時間帯などをきめて、自動的にメモリ受信機能を起動したり解除したりするときは、つぎの手順で操作してください。

1 システム管理項目を表示させます



登録／設定

ワンタッチパネルを 3 枚開いて、登録／設定ボタンを押します。

項目を選んでください	01 デ゛-タ登録
	02 電話番号登録
□	
登録/設定	

セット

セットボタンを押します。

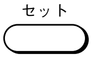
項目を選んでください	01 基本設定
	02 レポ゛-ト設定
	03 送信機能設定
□□	04 受信機能設定
デ゛-タ登録	05 プ゛リント設定

▼ ▲

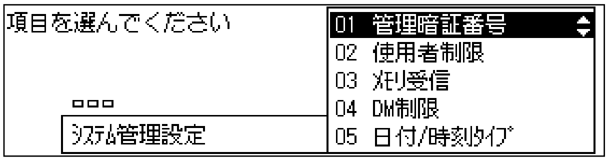
▼または▲ボタンを押して、“07 システム管理設定” を反転表示させます。

項目を選んでください	04 受信機能設定
	05 プ゛リント設定
	06 メモリ管理設定
□□	07 システム管理設定
デ゛-タ登録	08 コピ゛-機能設定

2 メモリ受信の設定項目を表示させます

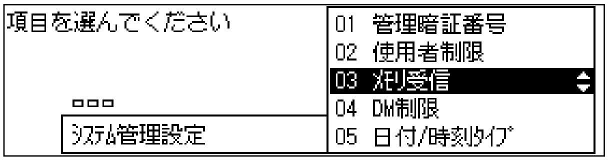


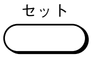
セットボタンを押します。
管理暗証番号を設定しているときは、4桁の暗証番号を入力してからセットボタンを押してください。



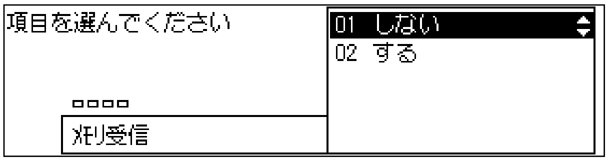


▼または▲ボタンを押して、“03 メモリ受信”を反転表示させます。





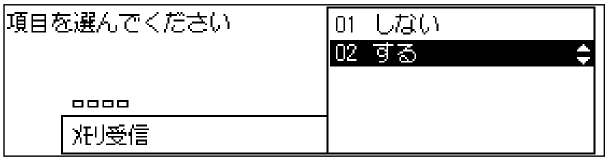
セットボタンを押します。



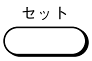
3 メモリ受信機能を選択します



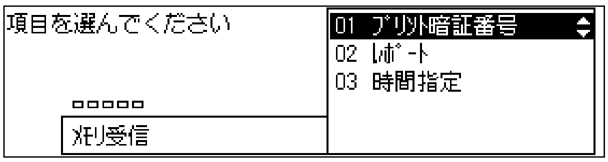
▼または▲ボタンを押して、“する” を反転表示させます。



4 メモリ受信の各項目を設定します

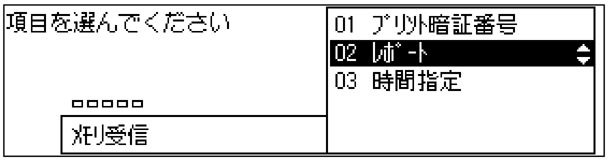


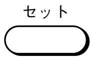
セットボタンを押します。





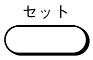
▼または▲ボタンを押すたびに、メモリ受信のいずれかの設定項目が反転表示されます。



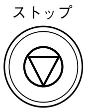


セットボタンを押すと、反転表示されている項目が選択できます。

●「メモリ受信の設定項目」を参照して、メモリ受信の条件を設定してください。



● それぞれの項目を設定したあと、セットボタンを押すと設定が確定します。続けて、他の項目を設定することもできます。



設定の途中でもストップボタンで、待機状態に戻ることができます。

メモリ受信の設定項目

メモリ受信では、つぎの各項目が設定できます。

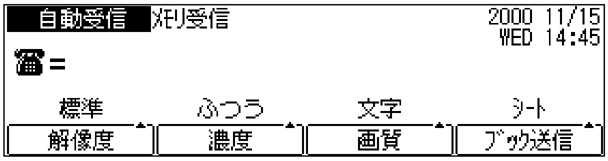
設定項目	設定内容	設定値 （※はご購入時の設定）
01 プリント暗証番号	設定した場合、メモリ受信原稿をプリントするときにプリント暗証番号の入力が必要。また、メモリ受信機能を有効にする場合、あるいは無効にする場合にもプリント暗証番号の入力が必要。	4桁の数字が入力可能。
02 レポート	受信原稿をプリントしないだけでなく受信結果レポートや通信結果レポートのプリントも禁止するかどうか選択可能。	“01 プリントする” “02 プリントしない”※
03 時間指定	時間帯をきめてメモリ受信するかどうか選択可能。	“01 しない”※ “02 する”
“01 ＯＮ時刻”	メモリ受信機能の起動時刻。毎日のメモリ受信機能の起動時刻を24時間制で5時刻まで設定可能。“02 曜日別指定”を選択すると“01 SUN”～“07 SAT”まで、各曜日ごとに24時間制で5時刻まで設定可能(最大35時刻)。	“01 毎日”※ “02 曜日別指定”
“02 ＯＦＦ時刻”	メモリ受信機能の解除時刻。毎日のメモリ受信機能の解除時刻を24時間制で5時刻まで設定可能。“02 曜日別指定”を選択すると“01 SUN”～“07 SAT”まで、各曜日ごとに24時間制で5時刻まで設定可能(最大35時刻)。	“01 毎日”※ “02 曜日別指定”

メモ

- *ON時刻で毎日を選択したときは、ON時刻で曜日は選択できません。ON時刻で曜日を選択したときは、ON時刻で毎日は選択できません（OFF時刻の場合も同じです）。*
- *ON時刻で毎日を選択したときでも、OFF時刻で曜日が選択できます。ON時刻で曜日を選択し、OFF時刻で毎日を選択してもかまいません。*

メモリ受信状態の表示

メモリ受信項目の時間指定のON時刻になると、メモリ受信機能が自動的にはたらきます。ファクスモードのときはつぎのメッセージが表示されます。



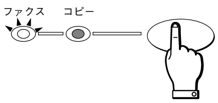
時間指定のOFF時刻になると、メモリ受信機能は自動的に解除されます。

● ON時間中に受信した原稿は、OFF時刻になるとプリント暗証番号が設定されている場合でも自動的にプリントされます。

メモリ受信した原稿をプリントするには

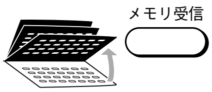
メモリ受信した原稿をプリントするときは、つぎの手順で操作してください。

1 ファクスモードにします



ファクス／コピー切り替えボタンを押して、ファクスランプを点灯させてください。

2 メモリ受信ボタンを押します



ワンタッチダイヤルパネルを3枚開いて、メモリ受信ボタンを押します。

メモリ受信機能が解除され、受信原稿がプリントされます。

● プリント暗証番号が設定されている場合は、メモリ受信ボタンを押したあとに4桁の暗証番号を入力し、セットボタンを押してください。
→ **P.5-35**

● 受信した原稿がすべてプリントされると、メモリ内の原稿は自動的に消去されます。

メモ

● 64枚の受信原稿をメモリに受信できます。また、オプションのメモリを増設すると最大576枚までの原稿を受信できます（キヤノンFAX標準チャートNo. 1、標準モード使用時）。

指定時間外にメモリ受信したいときには

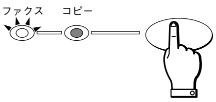
メモリ受信の時間指定で設定されている時間外でも、操作パネルのメモリ受信ボタンでメモリ受信機能を起動したり解除することができます。

メモリ受信機能を起動するときは

つぎの操作でメモリ受信機能を起動することができます。

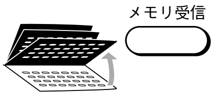
- あらかじめメモリ受信の条件件が設定されていないときは、メモリ受信ボタンは機能しません。➔ **P.5-33**
- システム管理設定でメモリ受信を“しない”に設定すると、メモリ受信ボタンは無効になります。

1 ファクスモードにします



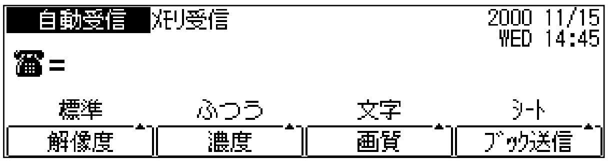
ファクス／コピー切り替えボタンを押して、ファクスランプを点灯させてください。

2 メモリ受信ボタンを押します



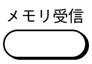
ワンタッチダイヤルパネルを3枚開いて、メモリ受信ボタンを押します。

- プリント暗証番号が設定されている場合は、メモリ受信ボタンを押したあとに4桁の暗証番号を入力しセットボタンを押してください。
➔ **P.5-35**



- メモリ受信ボタンでメモリ受信機能を起動したり解除しても、設定したON時刻やOFF時刻になると、自動的に設定された状態に切り替わります。➔ **P.5-35**

メモリ受信機能を解除するときは



ファクスモードで、ディスプレイに「メモリ受信」と表示されているときにメモリ受信ボタンを押すと、メモリ受信機能が解除されます。

- プリント暗証番号が設定されている場合は、メモリ受信ボタンを押したあとに4桁の暗証番号を入力しセットボタンを押してください。
➔ **P.5-35**

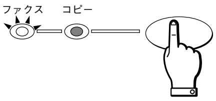
メモリ内の原稿を確認するには

メモリ内に記憶されている原稿のリストをプリントすることができます。メモリに記憶された原稿はプリントしたり、クリアしたり、相手を変更して送信したりすることもできます。

原稿リストのプリント

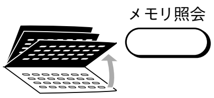
原稿リストをプリントするときは次の手順で操作してください。

1 ファクスモードにします

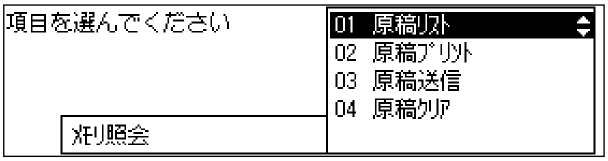


ファクス／コピー切り替えボタンを押して、ファクスランプを点灯させてください。

2 メモリ照会の項目を表示させます

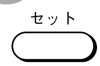


ワンタッチダイヤルパネルを3枚開いて、メモリ照会ボタンを押します。

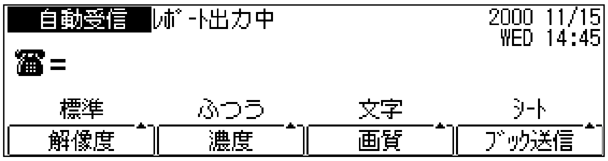


● メモリ内に原稿が記憶されていない場合は、“蓄積画像がありません”と表示されます。

3 セットボタンを押します



原稿リストのプリントがはじまります。



● 原稿リストは、次のようにプリントされます。

2000 07/16 20:00 FAX 03 3758 2111　　ｷﾔﾉﾝ本社　　001

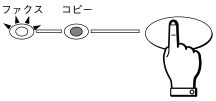
****
***　原稿リスト　***
****

受付番号	通信モード	相手先	枚数	受付時刻	開始時刻	発信人名称
0049	同報送信	[03]ｷﾔﾉﾝ販売仙台	1	07/16 17:41	10:00	ｷﾔﾉﾝ本社
0050	送信	[03]ｷﾔﾉﾝ販売仙台	1	07/16 17:55	10:00	ｷﾔﾉﾝ本社
5018	親展受信		1	07/16 15:39		
5031	親展受信		1	07/16 18:31		
5032	代行受信		1	07/16 18:46		

メモリ内の原稿を扱うには

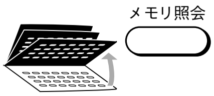
メモリ内の原稿をプリントしたりクリアする場合や相手を変更して送信する場合は、次の手順で操作してください。

1 ファクスモードにします



ファクス／コピー切り替えボタンを押して、ファクスランプを点灯させてください。

2 メモリ照会の設定項目を表示させます



ワンタッチダイヤルパネルを3枚開いて、メモリ照会ボタンを押します。

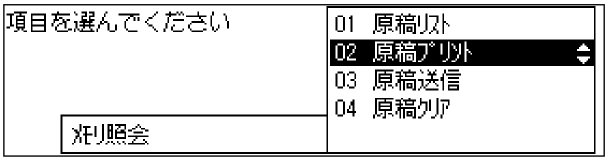
3 処理項目を選択します



▼または▲ボタンで、希望する原稿への処理項目を反転表示させます。

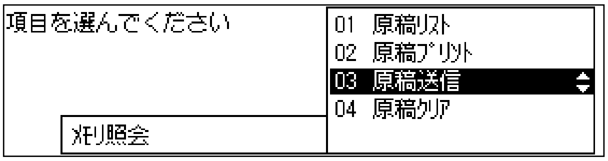
メモリ内の原稿をプリントするとき

“02 原稿プリント”を反転表示させます。



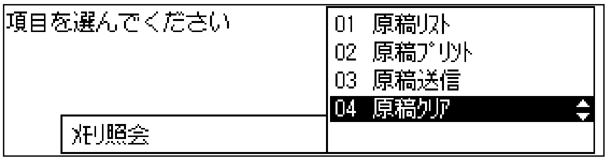
メモリ内の原稿を相手を変えて送信するとき

“03 原稿送信”を反転表示させます。

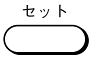


メモリ内の原稿をクリアするとき

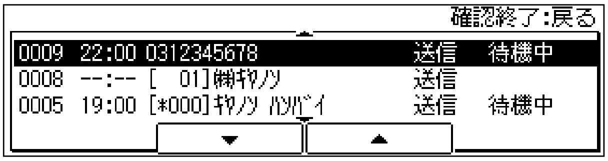
“04 原稿クリア”を反転表示させます。



4 原稿を選択します



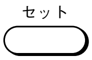
セットボタンを押します。次のような画面が表示されます。





▼または▲ボタンを押して受付番号を検索します。

● 受付番号は、原稿リストで確認できます。➔ P.5-38



セットボタンを押します。

● 親展ボックスやポーリングボックスなどの原稿をプリントする場合、それらのボックスに暗証番号が設定されているときは、4桁の暗証番号を入力しセットボタンを押してください。

5 各処理別に操作を続けます

このあと、手順の3で選択した処理ごとに操作を続けます。

メモリ内の原稿をプリント

①“1ページのみ出力？”と表示されます。1ページ目だけをプリントしたいときは［はい］を、全ページをプリントしたい場合は［いいえ］を押してください。

②プリントが終了したらストップボタンを押して待機状態に戻ります。

メモリ内の原稿を相手を変えて送信

新しい送信先の電話番号を入力してセットボタンを押します。

- テンキーで入力する場合は、セットボタンを2回押してください。
- 「発信人名称を選んでください」という画面が表示されたときは、発信人名称が選択できます（➔ **P.7-21**）。選択しないときは、そのままセットボタンを押してください。

メモリ内の原稿をクリア

①［はい］を押します。原稿がクリアされます。

②ストップボタンを押して待機状態に戻ります。

メモ　*相手を変えて送信することができるのは、ポーリング送信、メモリ代行受信、親展受信した原稿だけです。*

F コードを使って送信するには

原稿を送信するときに、ITU-T（国際電気通信連合の通信規格などを制定する部門）の国際標準規格にしたがった F コードやパスワードを指定することができます。この機能を F コード送信と呼びます。

F コードとは

ファクス内にはメモリと呼ばれる画像情報を記憶する装置があります。F コードはメモリ内の特定の場所を示すために使われる番号です。また、パスワードは、その場所への送信や受信を制限するために使われる暗証番号です。それぞれ 20 桁以内の数字、＊、＃、スペースで構成されます。

メモリ内の特定の場所を銀行口座に、記憶された画像情報をお金に例えると、F コードは口座番号、パスワードはキャッシュカードの暗証番号に相当します。

口座番号と暗証番号が照合され一致すると口座からお金が引き出せるように、F コードをサポートしたファクス同士で通信するときに F コードとパスワードを指定して相手のファクス内のメモリに記憶された画像情報を引き出すことができます。また、口座にお金を振り込むように F コードで指定された場所へ画像情報を送信することもできます。

なお、F コードをサポートした従来のキヤノンファクスでは、F コードは ITU-T サブアドレスと呼ばれ、F コード送信はアドレス指定送信と呼ばれています。

F コード送信でできること

本機では、親展ボックス、中継ボックス、ポーリングボックス、汎用ボックスなどの各種メモリボックスを識別するために F コードが使用されています。L2800 同士での親展、中継、ポーリングなどの通信は、それぞれの機能ボタンを押して行ってください。F コード送信は、つぎのような通信を行う場合にお使いください。

- L2800 の汎用ボックスに原稿を送信する場合、F コード送信します。原稿がどのように扱われるかは、その汎用ボックスの設定内容によって変わります。→ ***P.5-77***
- F コードをサポートしている他社のファクスのメモリ内の特定の場所へ送信する場合、F コード送信します。原稿がどのように扱われるかは、原稿が記憶されたメモリ内の場所の設定内容によって変わります。たとえば、本機の親展ボックスに相当するメモリ内の場所を F コードで指定した場合は親展扱いの文書としてメモリに記憶されます。

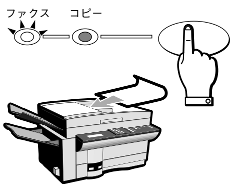
メモ *相手機のメモリ内の特定の場所（ポーリングボックスなど）に記憶された原稿を受信する場合は、あらかじめその場所のFコードとパスワードを相手に確認し、ポーリング受信してください。*➔ ***P.5-2***

Fコード送信するには

原稿を送信するとき、通信相手のファクスが設定しているITU-T規格の通信用Fコードとパスワードを指定するときは、つぎの手順で操作してください。

- 電話番号をダイヤルしてからFコードボタンを押すまでに5秒以上の間隔をあけると、ダイヤルタイムアウト機能がはたらき、原稿の送信が自動的に開始され、Fコードを指定できなくなってしまいます。ダイヤルタイムアウト機能の解除は「送信機能設定のメニュー項目」（➔ ***P.8-31***）を参照してください。

1 ファクスモードにし、ADFに原稿をセットします ➔ ***P.3-3***

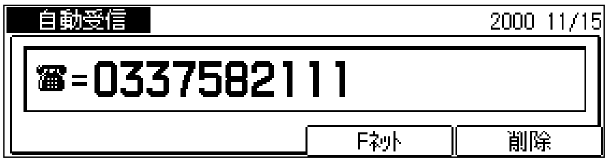


原稿に合わせて濃度や画質が設定できます。 ➔ ***P.3-17***
発信人名称も選択できます。 ➔ ***P.7-21***

- ADFにセットできない原稿は、「本などの原稿を送信するには」（➔ ***P.3-10***）の手順1～5を参照し、原稿台ガラスにセットしてください。

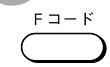
2 相手の電話番号をダイヤルします

テンキーのほか、ワンタッチダイヤルや短縮ダイヤルが使用できます。 ➔ ***P.6-5,6-12***

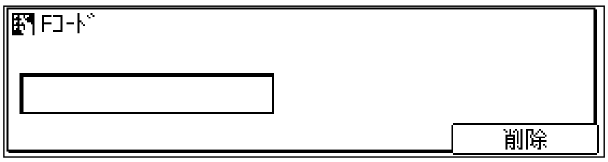


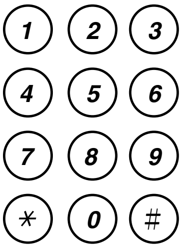
- テンキーでダイヤルするときは、電話番号の最後でセットボタンを押してください。

3 Fコードを指定します



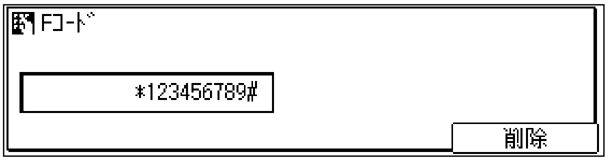
ワンタッチダイヤルパネルを3枚開いて、Fコードボタンを押します。

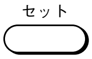




テンキーを使って、Fコードを入力します。20桁以内で、数字、＊、＃、スペースが入力できます。

● 相手機のFコードと、スペースも含めて完全に一致するように指定してください。

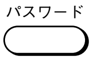




セットボタンを押します。

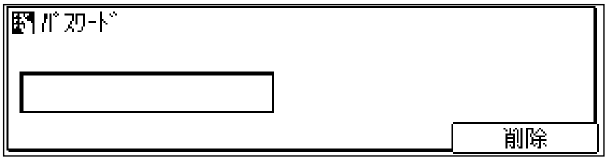
● 相手機がパスワードを設定していないときは、本機でパスワードを設定する必要はありません。手順5に進んでください。

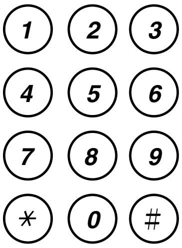
4 パスワードを指定します



パスワードボタンを押します。

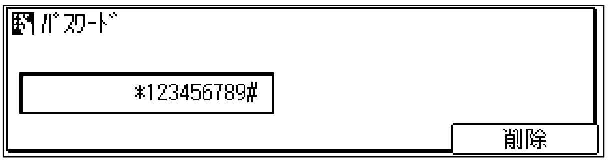
● Fコードを入力してからパスワードボタンを押すまでに5秒以上の間隔をあけると、ダイヤルタイムアウト機能がはたらき、原稿の送信が自動的に開始され、パスワードを指定できなくなってしまいます。

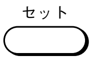




テンキーを使って、パスワードを入力します。20桁以内で、数字、＊、＃、スペースが入力できます。

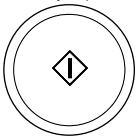
● 相手機のパスワードとスペースも含めて完全に一致するように指定してください。





セットボタンを押します。

5 原稿を送信します



スタートボタンを押します。原稿の送信がはじまります。

- 原稿を原稿台ガラスにセットした場合は、「本などの原稿を送信するには」（➔ P.3-12）の手順7～8を参照し、すべての原稿をメモリに読み込ませてから、セットボタンを押してください。

原稿には、指定したFコードやパスワードが付加されて送信されます。送信が終了すると、メモリに読み込まれた原稿は自動的に消去されます。

- 途中で送信を中断するときは、ストップボタンを押してください。「通信を中止しますか？」というメッセージが表示されたら［はい］を押してください。ただし、オプションの2回線ボードを取り付けている場合で2回線とも通信中のときは、ストップボタンを押すとどちらの通信を中止するのかを選択する画面が表示されます。▲または▼ボタンで中止する通信を反転表示させ、セットボタンを押してから［はい］を押してください。➔ P.3-16

関係者だけに送信したいとき

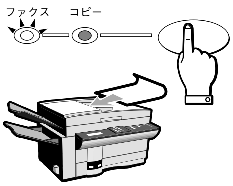
関係者以外の目に触れさせたくない原稿を、通信相手のファクスのメモリ内に設定された親展ボックスに送信することができます。通常、メモリ内の親展ボックスで受信した原稿は、暗証番号を入力しないかぎり記録紙には出力されません。これを親展送信と呼びます。

親展送信するには

あらかじめ通信相手のファクスの親展ボックスや汎用ボックスに登録されたFコードとパスワードを確認しておきます。相手のファクスに親展ボックスや汎用ボックスが設定されていないと親展送信できません。

親展送信するときは

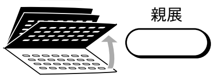
1 ファクスモードにし、ADF に原稿をセットします ➔ *P.3-3*



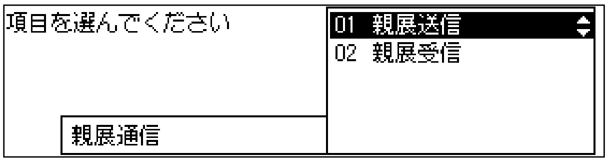
原稿に合わせて濃度や画質が設定できます。 ➔ *P.3-17*
発信人名称も選択できます。 ➔ *P.7-21*

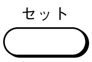
- ADF にセットできない原稿は、「本などの原稿を送信するには」（➔ *P.3-10*）の手順 1 ～ 5 を参照し、原稿台ガラスにセットしてください。

2 親展送信の項目を表示させます

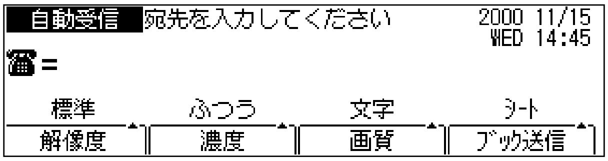


ワンタッチダイヤルパネルを 3 枚開いて、親展ボタンを押します。

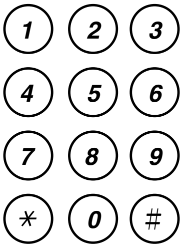




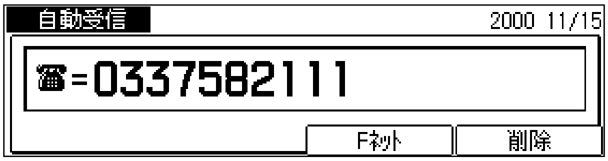
セットボタンを押します。



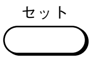
3 相手の電話番号をダイヤルします



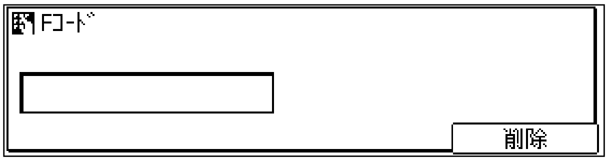
テンキーのほか、ワンタッチダイヤルや短縮ダイヤルが使用できます。 → P.6-5,6-12

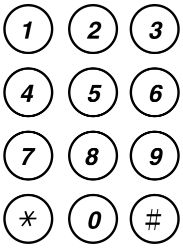


4 相手の親展ボックスのＦコードを入力します



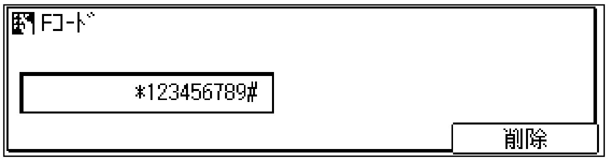
セットボタンを押します。

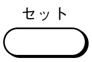




テンキーを使って、Fコードを入力します。20桁以内で、数字、＊、＃、スペースが入力できます。

- 相手機のＦコードと、スペースも含めて完全に一致するように指定してください。

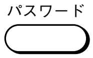




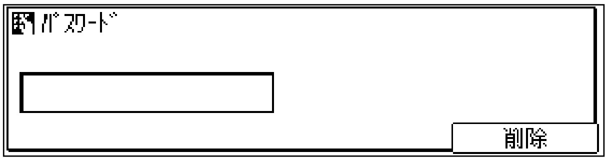
セットボタンを押します。

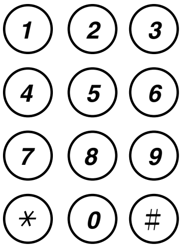
- 相手機がパスワードを設定していないときは、本機でパスワードを設定する必要はありません。このまま手順６に進んでください。

5 パスワードを指定します



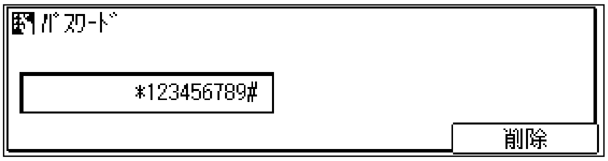
パスワードボタンを押します。

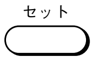




テンキーを使って、パスワードを入力します。20桁以内で、数字、＊、＃、スペースが入力できます。

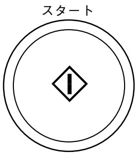
● 相手機のパスワードとスペースも含めて完全に一致するように指定してください。





セットボタンを押します。

6 原稿を送信します



スタートボタンを押します。原稿の送信がはじまります。

● 原稿を原稿台ガラスにセットした場合は、「本などの原稿を送信するには」（➔ **P. 3-12**）の手順7～8を参照し、すべての原稿をメモリに読み込ませてから、セットボタンを押してください。

原稿には、指定したFコードやパスワードが付加されて送信されます。送信が終了すると、メモリに読み込まれた原稿は自動的に消去されます。

● 途中で送信を中断するときは、ストップボタンを押してください。「通信を中止しますか？」というメッセージが表示されたら［はい］を押してください。ただし、オプションの2回線ボードを取り付けている場合で2回線とも通信中のときは、ストップボタンを押すとどちらの通信を中止するのかを選択する画面が表示されます。▲または▼ボタンで中止する通信を反転表示させ、セットボタンを押してから［はい］を押してください。➔ **P.3-16**

メモ　*タイマー親展送信することもできます。*（➔ **P.3-23**）

関係者だけが受信原稿を確認したいとき

関係者以外の目に触れさせたくない原稿をメモリで受信し、暗証番号を入力しないとプリントできないように設定できます。これを親展受信と呼びます。

親展受信するには

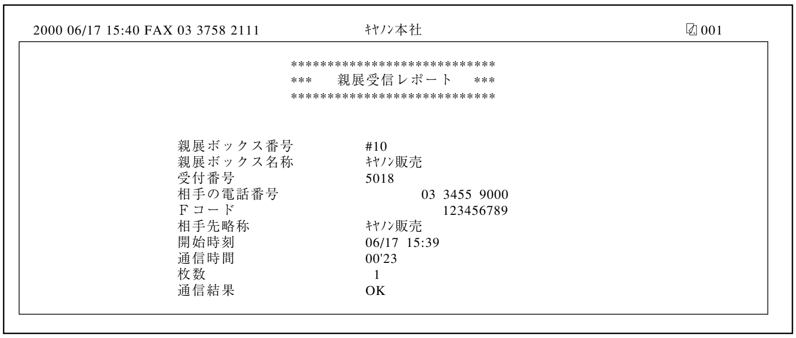
あらかじめ親展ボックスを設定し（➔ ***P.5-52***）、親展ボックスに登録したFコードとパスワードを相手に連絡しておきます。
親展受信したことを知らせる親展受信レポートをプリントするように設定しておいてください。

- お買いあげ時、親展受信レポートはプリントするように設定されています。プリントしないように設定しなおすこともできます。➔ ***P.8-30***

親展受信すると

親展受信すると、つぎのメッセージが表示されます。





2000 06/17 15:40 FAX 03 3758 2111　　キヤノン本社　　001

****
***　親展受信レポート　***
****

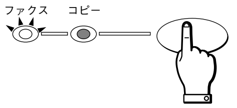
親展ボックス番号	#10
親展ボックス名称	キヤノン販売
受付番号	5018
相手の電話番号	03 3455 9000
Fコード	123456789
相手先略称	キヤノン販売
開始時刻	06/17 15:39
通信時間	00'23
枚数	1
通信結果	OK

- 親展ボックスが複数設定されているときは、プリント操作の前に親展受信レポートで受信した親展ボックスを確認してください。

受信した原稿をプリントするには

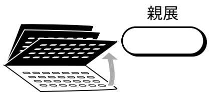
親展受信した原稿は、受信した親展ボックスのFコードを指定し暗証番号を入力するとプリントできます。

1 ファクスモードにします

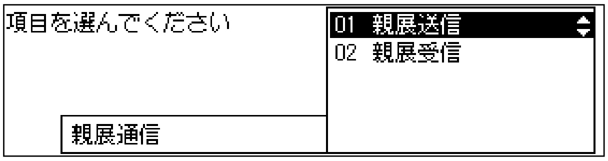


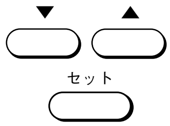
ファクス／コピー切り替えボタンを押して、ファクスランプを点灯させてください。

2 親展受信の項目を表示させます

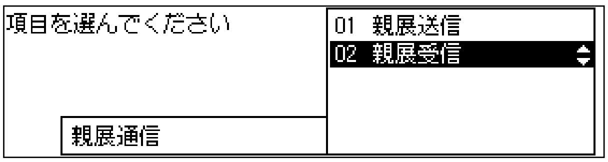


ワンタッチダイヤルパネルを3枚開いて、親展ボタンを押します。

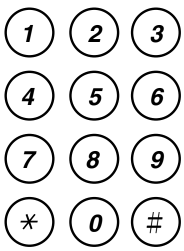


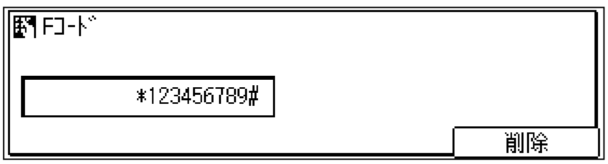


▼または▲ボタンを押して“02 親展受信”を反転表示させ、セットボタンを押します。

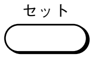


3 原稿を受信した親展ボックスのＦコードをテンキーで指定します





4 暗証番号を入力します

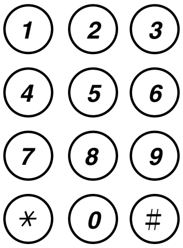


セットボタンを押します。

● 親展ボックス作成（→ **P.5-52**）のときに暗証番号を設定していないときは、ここで受信原稿がプリントされます。

暗証番号が設定されているときは、つぎのように表示されます。



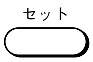


親展ボックスの暗証番号を入力します。

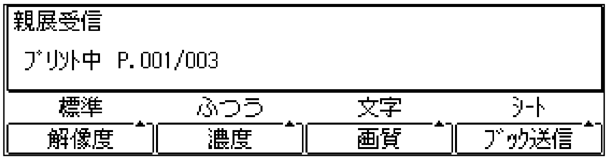


● 暗証番号は表示されません。暗証番号を正しく入力しないと、受信原稿はプリントされません。

5 受信原稿をプリントします



セットボタンを押します。受信原稿のプリントがはじまります。



プリントが終了すると、自動的に待機状態に戻ります。

親展ボックスを設定するには

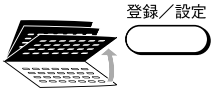
親展受信するためには、あらかじめメモリ内に親展ボックスを設定しておく必要があります。

親展ボックスに登録したFコードとパスワードは通信相手に連絡しておいてください。

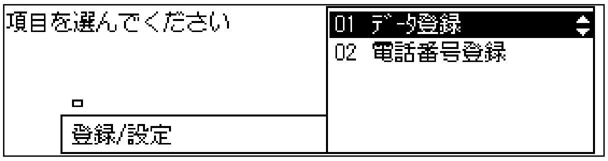
親展ボックスの作成

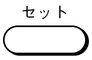
親展ボックスは、汎用ボックス（➔ ***P.5-74***）、中継ボックス（➔ ***P.5-64***）、ポーリングボックス（➔ ***P.5-19***）、定時ポーリング（➔ ***P.5-6***）、転送（➔ ***P.5-27***）と合わせて70個まで設定できます。それぞれのボックスは暗証番号で管理できます。

1 メモリ管理項目を表示させます

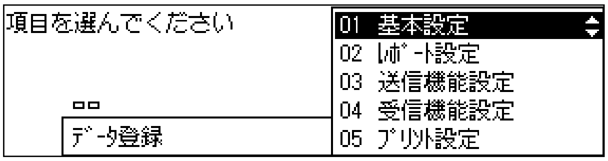


ワンタッチダイヤルパネルを3枚開いて、登録／設定ボタンを押します。



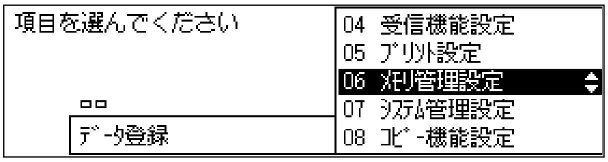


セットボタンを押します。

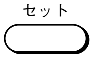




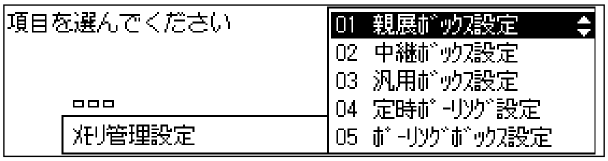
▼または▲ボタンを押して、"06 メモリ管理設定"を反転表示させます。

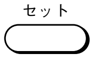


2 親展ボックスの設定項目を表示させます

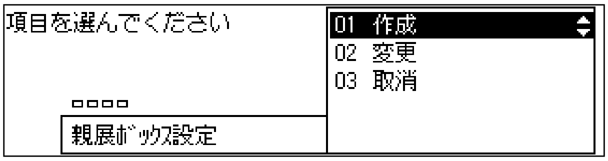


セットボタンを押します。

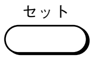




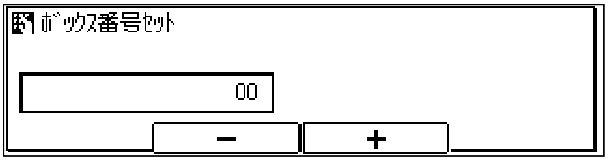
セットボタンを押します。

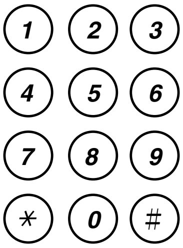


3 親展ボックスの番号を指定します

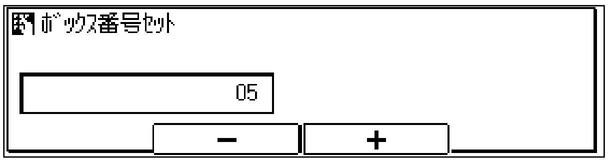


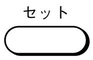
セットボタンを押します。



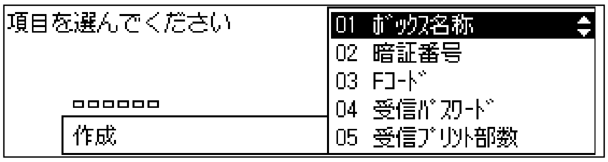


テンキーでボックス番号を入力します。00～99までの番号が設定できます。－または＋ボタンを押して、ボックスの番号を選択することもできます。

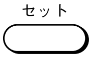




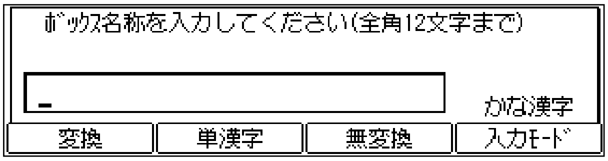
セットボタンを押します。

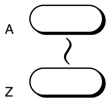


4 親展ボックスの名称を指定します

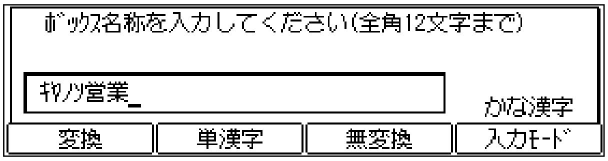


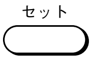
セットボタンを押します。



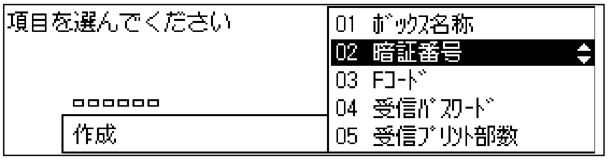


ワンタッチダイヤルボタンでボックス名称を入力します。文字の入力方法は、「文字を登録するには」(➔ ***P.6-34***)の説明を参照してください。



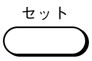


セットボタンを押します。「登録しました」というメッセージが表示されたあと、自動的に暗証番号の設定項目が反転表示されます。



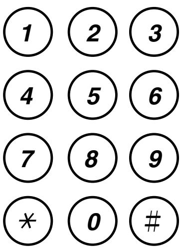
- 暗証番号は親展ボックスの受信原稿をプリントするときに鍵として機能します。➔ ***P.5-51***

5 暗証番号を設定します



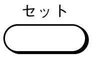
セットボタンを押します。



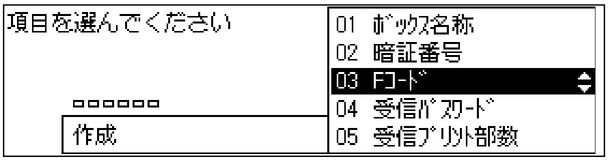


テンキーで4桁の暗証番号を入力します。"0000"~"9999"の範囲で数字が指定できます。

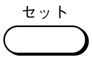




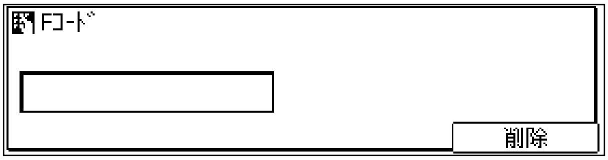
セットボタンを押します。

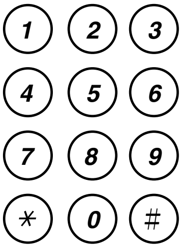


6 Fコードを設定します



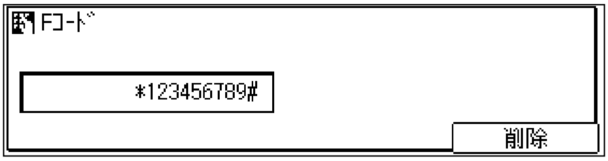
セットボタンを押します。

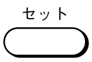




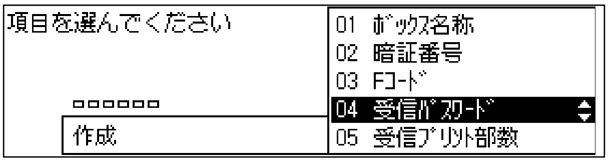
テンキーでFコードを入力します。20桁以内で、数字、＊と＃、スペースが入力できます。

- 他のポーリングボックスや親展ボックス、中継ボックスおよび汎用ボックスに登録済みのFコードは使用できません。

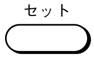




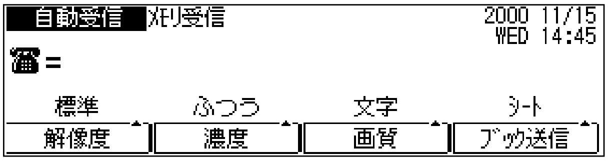
セットボタンを押します。

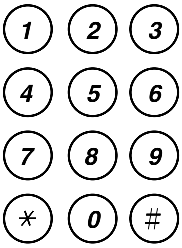


7 受信パスワードを設定します

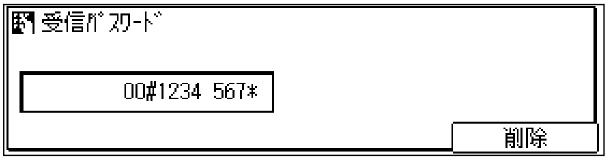


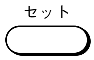
セットボタンを押します。



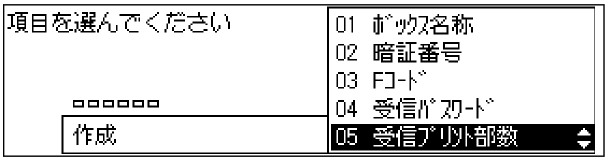


テンキーで受信パスワードを入力します。20桁以内で、数字、＊と＃、スペースが入力できます。

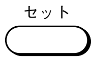




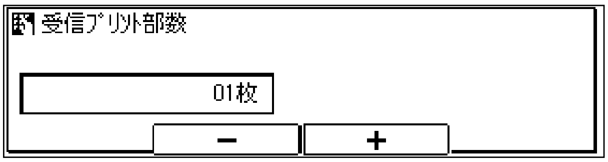
セットボタンを押します。

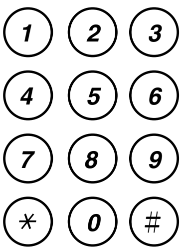


8 受信プリント部数を設定します



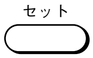
セットボタンを押します。





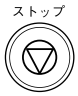
親展受信した原稿をプリントする部数を設定します。
テンキーでプリントする部数を入力します。−または＋ボタンを押してプリントする部数を増減することもできます。

- プリントが1部しか必要ない場合は特に設定する必要はありません。



セットボタンを押します。
続けて、別の親展ボックスを作成するときは、そのまま手順3～8を繰り返してください。

9 待機状態に戻ります



ストップボタンを押し、待機状態に戻ります。

メモ

設定した暗証番号は絶対に忘れないでください。設定した暗証番号の確認方法はありません。正しい暗証番号を入力しないと親展受信した原稿はプリントできなくなります。

親展ボックスの設定変更

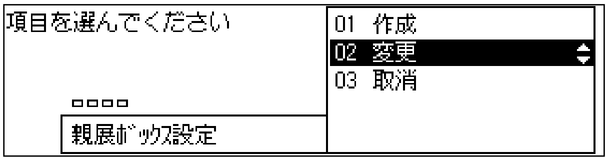
親展ボックスの設定を変更するときは次の手順で操作してください。

1 親展ボックスの作成の手順1～2にしたがって、親展ボックスの設定項目を表示させます ➔ P.5-52

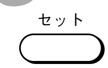
2 親展ボックスの設定変更項目を表示させます



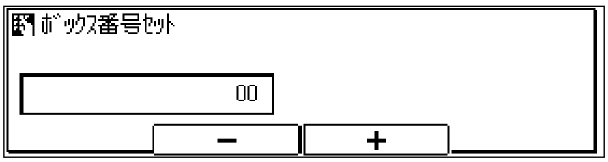
▼または▲ボタンを押して、“02 変更”を反転表示させます。

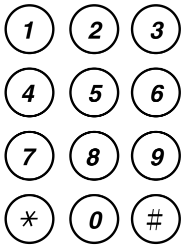


3 親展ボックスの番号を指定します



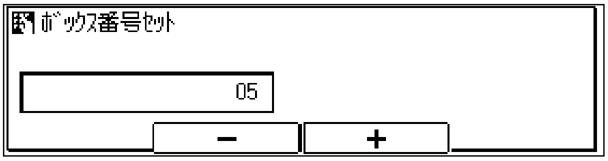
セットボタンを押します。

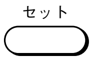




テンキーで変更するボックスの番号を入力します。－または＋ボタンを押して、ボックスの番号を選択することもできます。

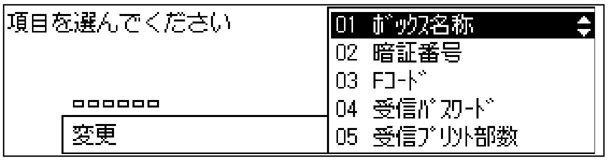
● ボックスの番号はユーザデータリストで確認できます。➔ *P.8-46*



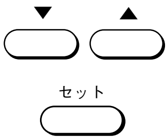


セットボタンを押します。

● 暗証番号を設定しているときは、4桁の暗証番号を入力してからセットボタンを押してください（暗証番号は表示されません）。



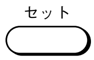
4 親展ボックスの各項目を変更します



▼または▲ボタンを押して、変更したい項目を表示させ、セットボタンを押します。

設定内容を変更します。

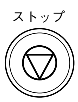
● 暗証番号を変更する場合は、現在の暗証番号を入力し（暗証番号は表示されません）、セットボタンを押してから、新しい暗証番号を入力します。



セットボタンを押して変更を確定します。

● 続けて他の項目の設定内容を変更することができます。

5 待機状態に戻ります



ストップボタンを押し、待機状態に戻ります。

親展ボックスの取り消し

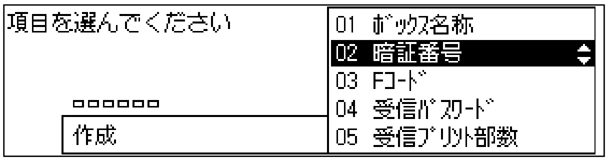
親展ボックスを取り消すときは次の手順で操作してください。

1 親展ボックスの作成の手順１～２にしたがって、親展ボックスの設定項目を表示させます ➔ P.5-52

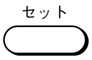
2 親展ボックスの設定項目を表示させます



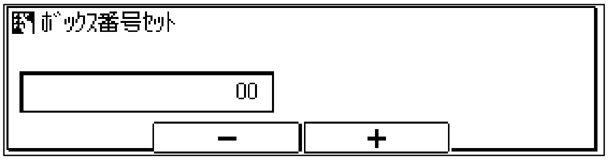
▼または▲ボタンを押して、“03 取消”を反転表示させます。

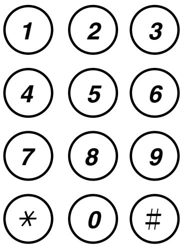


3 親展ボックスの番号を指定します



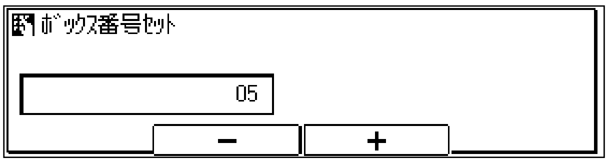
セットボタンを押します。



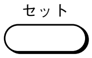


テンキーで取り消すボックスの番号を入力します。－または＋ボタンを押して、ボックスの番号を選択することもできます。

● ボックスの番号はユーザデータリストで確認できます。➔ P.8-46

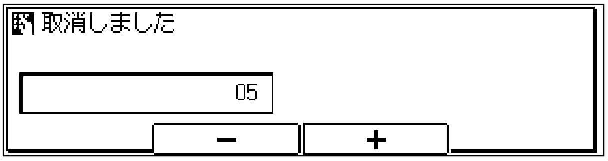


4 親展ボックスを取り消します

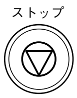


セットボタンを押します。

● 暗証番号を設定しているときは、4桁の暗証番号を入力してからセットボタンを押してください（暗証番号は表示されません）。



5 待機状態に戻ります



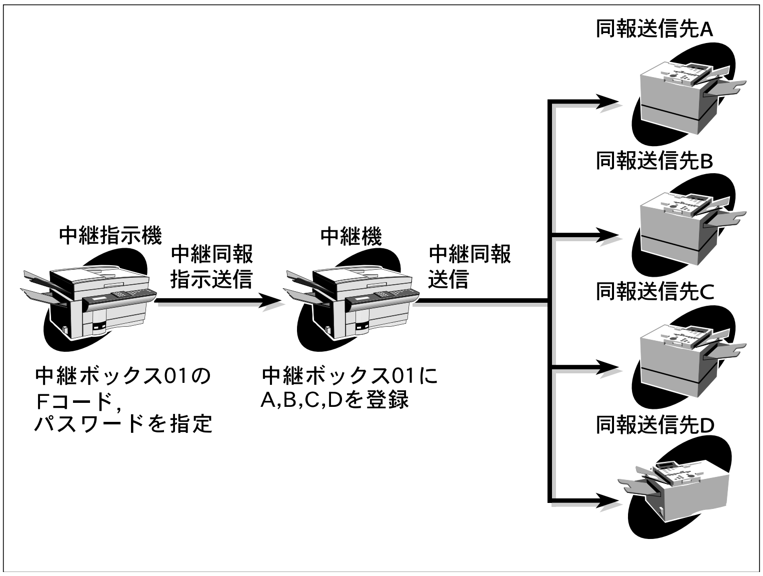
ストップボタンを押し、待機状態に戻ります。

別のファクスに送信を中継させるには

遠距離の複数の相手に同一の原稿を送信するとき、中継用の1台のファクスに原稿を送信し、そこから同報送信することができます。中継用ファクスへの原稿送信を中継指示送信、中継用ファクスからの同報送信を中継同報送信と呼びます。中継同報送信については「受信した原稿を複数の相手に中継するには」（➔ **P.5-64**）を参照してください。

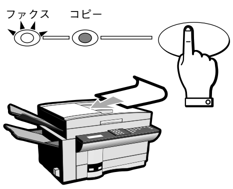
中継指示送信するためには

通信相手となる中継用のファクスが、中継同報送信する相手をグループとして、中継用のFコードやパスワードとともに登録している必要があります。中継指示送信では、その中継用のFコードとパスワードを指定して送信します。あらかじめ中継用のFコードとパスワードを相手先に確認しておいてください。



中継指示送信するときには

1 ファクスモードにし、ADFに原稿をセットします ➔ **P.3-3**

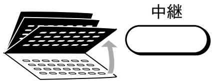


原稿に合わせて濃度や画質が設定できます。 ➔ **P.3-17**
発信人名称も選択できます。 ➔ **P.7-21**

- ADFにセットできない原稿は、「本などの原稿を送信するには」（➔ **P.3-10**）の手順1～5を参照し、原稿台ガラスにセットしてください。

第5章
いろいろな送受信

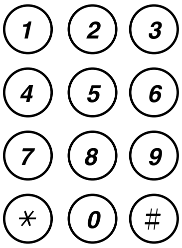
2 中継指示送信の項目を表示させます



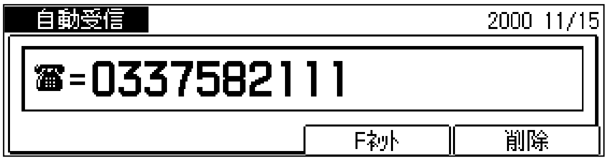
ワンタッチダイヤルパネルを3枚開いて、中継ボタンを押します。



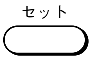
3 相手の電話番号をダイヤルします



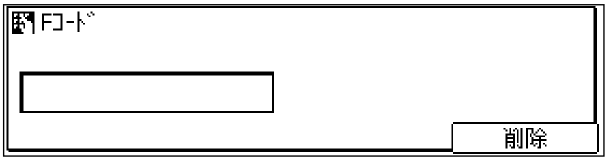
テンキーのほか、ワンタッチダイヤルや短縮ダイヤルが使用できます。 → ***P.6-5,6-12***

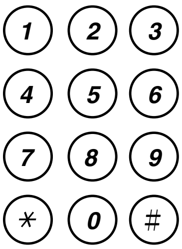


4 相手の中継ボックスのＦコードを入力します。



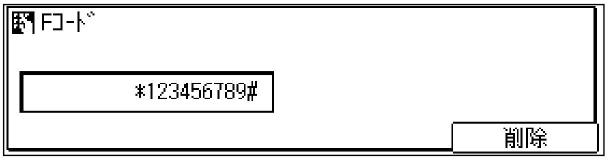
セットボタンを押します。

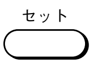




テンキーを使って、Fコードを入力します。20桁以内で、数字、＊、＃、スペースが入力できます。

- 相手機のＦコードと、スペースも含めて完全に一致するように指定してください。

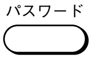




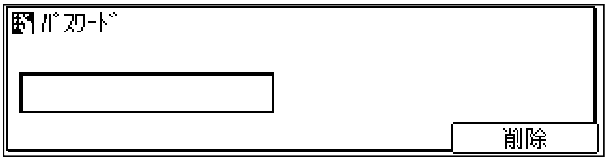
セットボタンを押します。

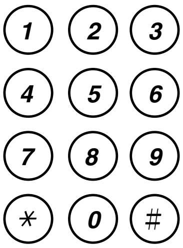
- 相手機がパスワードを設定していないときは、本機でパスワードを設定する必要はありません。このまま手順6に進んでください。

5 パスワードを指定します



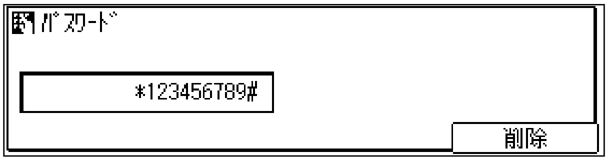
パスワードボタンを押します。

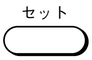




テンキーを使って、パスワードを入力します。20桁以内で、数字、＊、＃、スペースが入力できます。

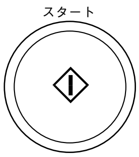
- 相手機のパスワードとスペースも含めて完全に一致するように指定してください。





セットボタンを押します。

6 原稿を送信します



スタートボタンを押します。原稿の送信がはじまります。

- 原稿を原稿台ガラスにセットした場合は、「本などの原稿を送信するには」（→ **P.3-12**）の手順7～8を参照し、すべての原稿をメモリに読み込ませてから、セットボタンを押してください。

原稿には、指定したFコードやパスワードが付加されて送信されます。送信が終了すると、メモリに読み込まれた原稿は自動的に消去されます。

- 途中で送信を中断するときは、ストップボタンを押してください。「通信を中止しますか？」というメッセージが表示されたら［はい］を押してください。ただし、オプションの２回線ボードを取り付けている場合で２回線とも通信中のときは、ストップボタンを押すとどちらの通信を中止するのかを選択する画面が表示されます。▲または▼ボタンで中止する通信を反転表示させ、セットボタンを押してから［はい］を押してください。→ **P.3-16**

メモ　*タイマー中継指示送信することもできます。（→ **P.3-23**）*

受信した原稿を複数の相手に中継するには

複数の相手を中継グループとして中継ボックスに登録しておくと、他のファクスからの中継同報の指示により、受信原稿を中継送信することができます。この機能を中継同報送信と呼びます。

中継同報送信するためには

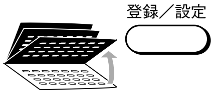
あらかじめ中継同報送信する相手を中継グループとして中継ボックスに登録しておく必要があります。中継ボックスに登録したFコードとパスワードは通信相手に連絡しておいてください。

● 中継ボックスは、親展ボックス（➔ ***P.5-52***）、ポーリングボックス（➔ ***P.5-19***）、定時ポーリング（➔ ***P.5-6***）、汎用ボックス（➔ ***P.5-74***）、転送（➔ ***P.5-27***）の設定と合わせて70個まで設定できます。

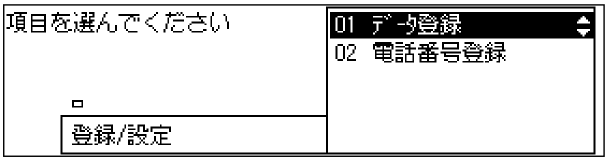
中継ボックスの作成

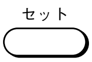
中継グループを中継ボックスに登録するときには、いくつかの設定項目があります。中継グループ登録の基本となる設定と、中継ボックスの設定内容を保護するための暗証番号の設定のしかたを説明します。このほかの設定項目については「中継ボックスの設定項目」（➔ ***P.5-70***）を参照してください。

1 メモリ管理項目を表示させます

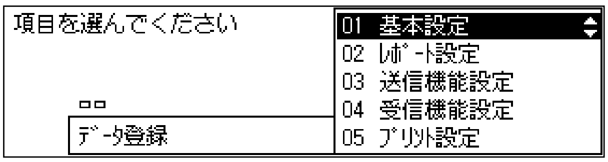


ワンタッチダイヤルパネルを3枚開いて、登録／設定ボタンを押します。

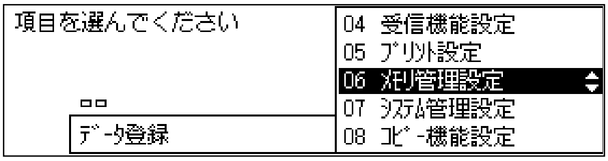




セットボタンを押します。

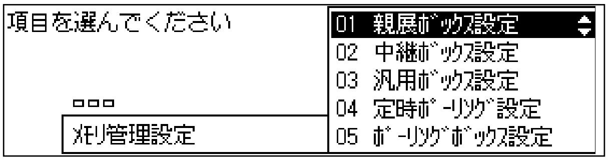


▼または▲ボタンを押して、“06 メモリ管理設定”を反転表示させます。

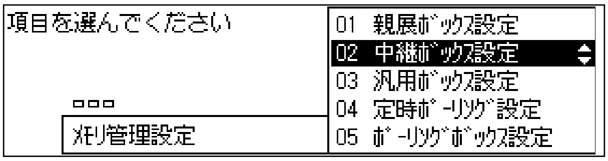


2 中継ボックスの設定項目を表示させます

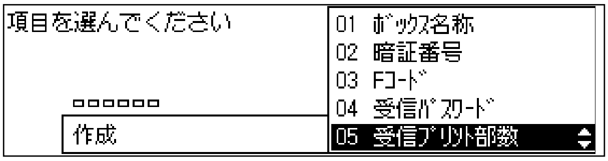
セットボタンを押します。



▼または▲ボタンを押して、“02 中継ボックス設定”を反転表示させます。

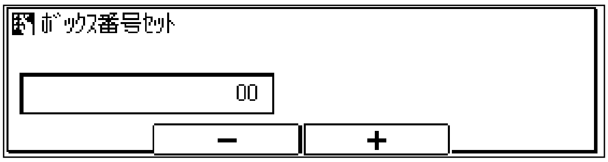


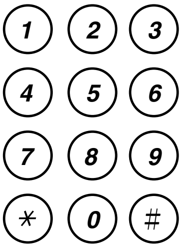
セットボタンを押します。



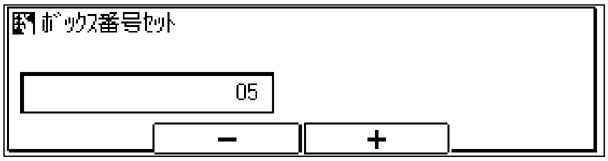
3 中継ボックスの番号を指定します

セットボタンを押します。



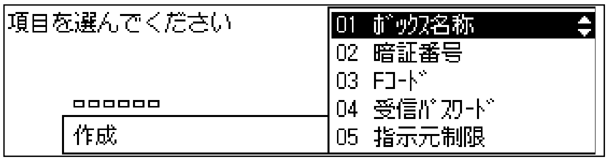


テンキーでボックス番号を入力します。00 ～ 99 までの番号が設定できます。－または＋ボタンを押して、ボックスの番号を選択することもできます。



セット

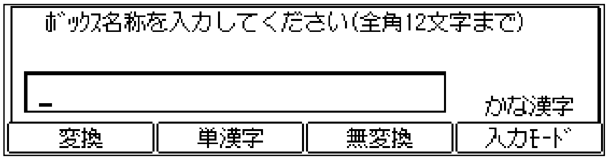
セットボタンを押します。

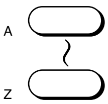


4 中継ボックスに登録する名称を指定します

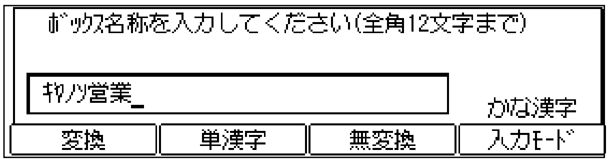
セット

セットボタンを押します。



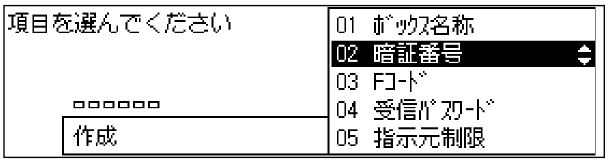


ワンタッチダイヤルボタンで名称を入力します。文字の入力方法は、「文字を登録するには」（➔ ***P.6-34***）の説明を参照してください。



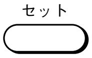
セット

セットボタンを押します。登録終了のメッセージが表示されたあと、暗証番号の設定項目が表示されます。



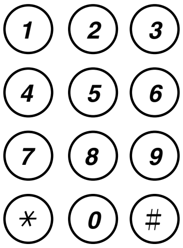
● 暗証番号の設定が必要ないときは、▼または▲ボタンで“03 F コード”を表示させ、手順 6 に進んでください。

5 暗証番号を設定します



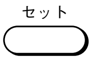
セットボタンを押します。



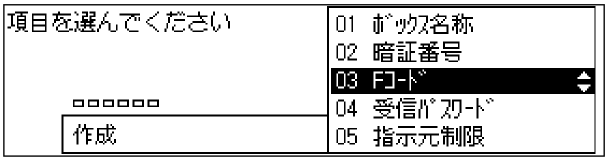


テンキーで4桁のパスワードを入力します。“0000” ～ “9999” の範囲で数字が指定できます。

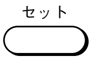




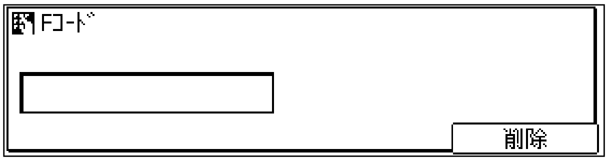
セットボタンを押します。

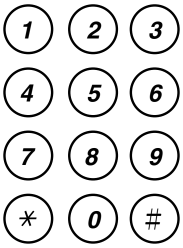


6 Fコードを設定します



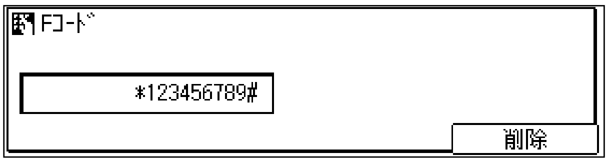
セットボタンを押します。



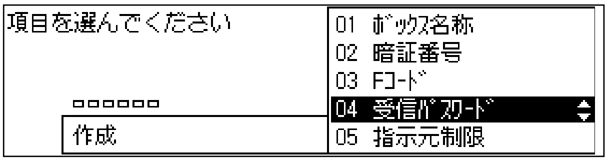


テンキーでFコードを入力します。20桁以内で、数字、＊と＃、スペースが入力できます。

- 他のポーリングボックスや親展ボックス、中継ボックスおよび汎用ボックスに登録済みのＦコードは使用できません。

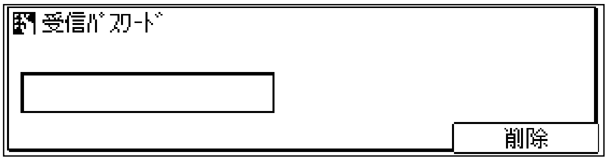


セットボタンを押します。

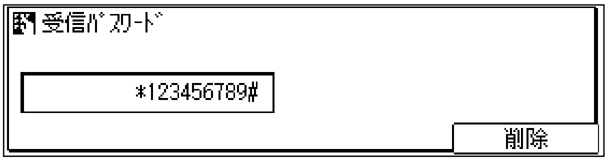


7 受信パスワードを設定します

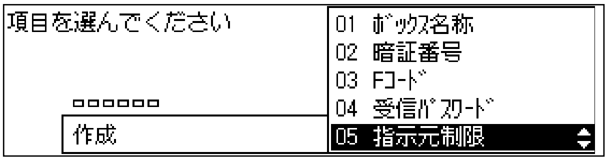
セットボタンを押します。



テンキーで受信パスワードを入力します。20桁以内で、数字、＊と＃、スペースが入力できます。

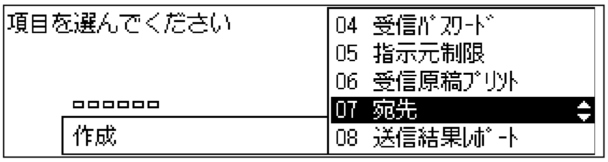


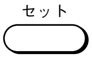
セットボタンを押します。



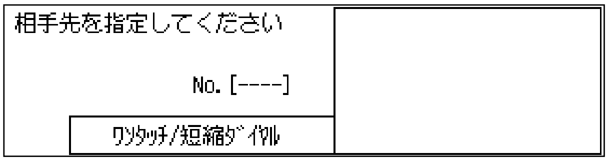
8 中継同報送信の相手を登録します

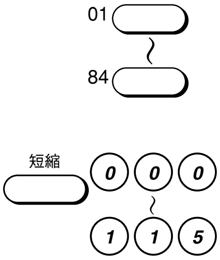
▼または▲ボタンを押して、“07 宛先”を反転表示させます。



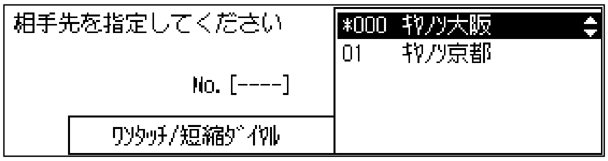


セットボタンを押します。

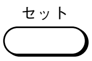




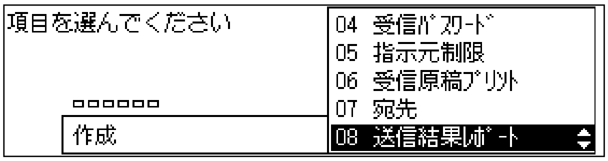
ワンタッチダイヤルまたは短縮ダイヤルで最大200ヵ所の相手が登録できます。 ➔ ***P.6-5,6-12,6-20***



● テンキーで相手を登録することはできません。



セットボタンを押します。



● ここまでの操作で、中継同報送信するための基本的な項目の設定は終了です。続けて他の項目を設定することもできます。 ➔ ***P.5-70***
● ストップボタンで、待機状態に戻ることができます。

お願い *設定した暗証番号は忘れないでください。中継ボックスの設定内容を変更したり、中継ボックスを削除することができなくなります。*

中継ボックスの設定項目

各中継ボックスには、つぎのような項目が設定できます。

設定項目	設定内容	設定値（※はご購入時の設定）
01 ボックス名称	任意の名称が設定可能。	全角12文字まで入力可能。
02 暗証番号	中継ボックスの設定内容を保護するための暗証番号が設定可能。設定するとボックスの設定を変更したり、削除するときに必要。	4桁の数字が入力可能。
03 Fコード	ITU-T規格。メモリ内での中継ボックスの位置を示すのに必要。	1～20桁の範囲で数字、#、*、スペースが入力可能。
04 受信パスワード	ITU-T規格。受信した原稿に付加されているパスワードと照合するときに必要。合致しないときは原稿を受信しない。	1～20桁の範囲で数字、#、*、スペースが入力可能。
05 指示元制限	中継指示してきた通信相手が登録されているかどうかの確認を行うかを選択。	“01 しない” “02 する”※
(相手先指定)	指示元制限「する」のとき、照合するための相手が登録可能。	ワンタッチダイヤル、短縮ダイヤル合わせて最大200ヵ所登録可能。
06 受信原稿プリント	受信した中継指示原稿をプリントするかどうか選択可能。	“01 しない”※ “02 する”
(部数指定)	“06 受信原稿プリント”が“02 する”のとき、受信した中継指示原稿をプリントする枚数を指定可能。	テンキーで入力。01～99枚の範囲で指定可能。
07 宛先	最大200ヵ所の同報宛先が登録可能。	ワンタッチダイヤル、短縮ダイヤルで登録。
08 送信結果レポート	中継指示してきた通信相手に、中継同報の送信結果を通知するかどうか選択可能。	“01 送信しない” “02 送信する”※
09 送信開始時刻	中継同報送信の送信時刻が設定可能。24時間制で5時刻まで設定可能。	テンキーで入力。
10 中継同報	中継同報送信を許可するかどうか選択可能。	“01 する”※ “02 しない”

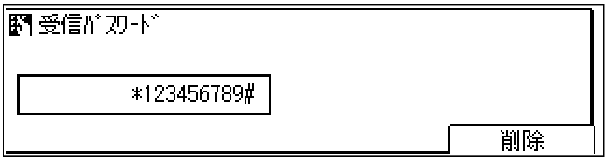
中継ボックスの設定変更

中継ボックスの設定を変更するときは次の手順で操作してください。

1 中継ボックスの作成の手順１～２にしたがって、中継ボックスの設定項目を表示させます ➔ ***P.5-64***

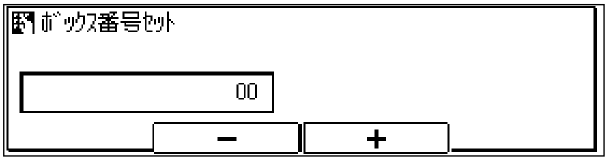
2 中継ボックスの設定変更項目を表示させます

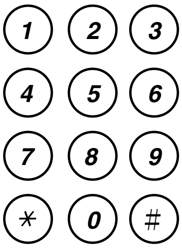
▼または▲ボタンを押して、“02 変更”を反転表示させます。



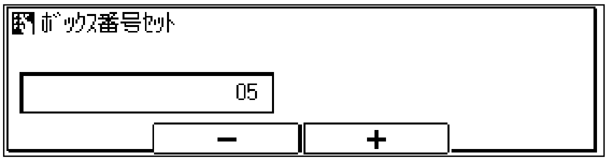
3 中継ボックスの番号を指定します

セットボタンを押します。



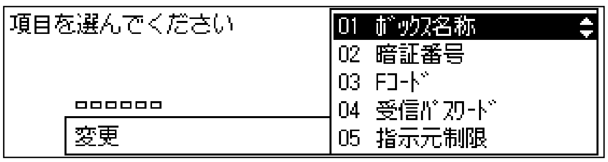


テンキーで変更するボックス番号を入力します。−または＋ボタンを押して、ボックスの番号を選択することもできます。



セットボタンを押します。

- 暗証番号を設定しているときは、4桁の暗証番号を入力してからセットボタンを押してください（暗証番号は表示されません）。



第５章

いろいろな送受信

4 中継ボックスの各項目を変更します

▼または▲ボタンを押して変更したい項目を表示させ、セットボタンを押します。

セット

設定内容を変更します。

- 宛先や指示元制限の相手を追加するときは、追加する相手を登録したワンタッチダイヤルボタンもしくは短縮ダイヤルボタンを押します。
- 宛先や指示元制限の相手を削除するときは、▼または▲ボタンを押して削除したい相手を反転表示させ、クリアボタンを押します。
- 暗証番号を変更する場合は、現在の暗証番号を入力し（暗証番号は表示されません）、セットボタンを押してから、新しい暗証番号を入力します。

セット

セットボタンを押して変更を確定します。

- 続けて他の項目の設定内容を変更することができます。

5 待機状態に戻ります

ストップ

ストップボタンを押し、待機状態に戻ります。

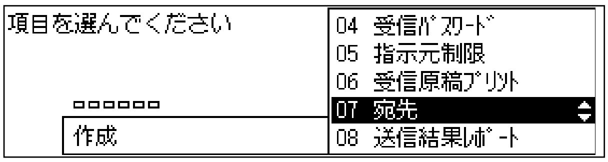
中継ボックスの取り消し

中継ボックスを取り消すときは次の手順で操作してください。

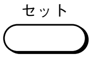
1 中継ボックスの作成の手順１～２にしたがって、中継ボックスの設定項目を表示させます ➔ P.5-64

2 中継ボックスの取り消し項目を表示させます

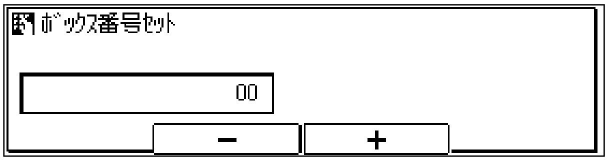
▼または▲ボタンを押して、“03 取消”を反転表示させます。

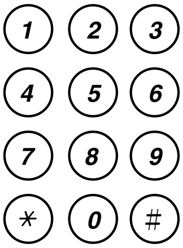


3 中継ボックスの番号を指定します

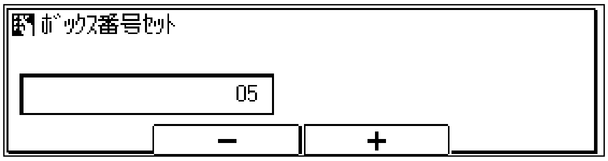


セットボタンを押します。

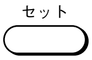




テンキーで取り消すボックスの番号を入力します。−または＋ボタンを押して、ボックスの番号を選択することもできます。

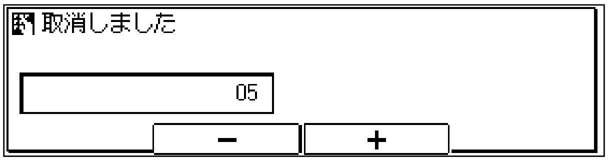


4 中継ボックスを取り消します

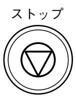


セットボタンを押します。

● 暗証番号を設定しているときは、4桁の暗証番号を入力してからセットボタンを押してください（暗証番号は表示されません）。



5 待機状態に戻ります



ストップボタンを押し、待機状態に戻ります。

汎用ボックスを活用するには

汎用ボックスは、ITU-T（国際電気通信連合の通信規格などを制定する部門）で制定された規格にしたがってさまざまな通信を行うためのものです。

汎用ボックスの概要

汎用ボックスは、ITU-T規格のFコードや送受信パスワードを利用して、通信におけるさまざまな機能を、メーカーや機種の枠を超えて使えるようにするための機能です。

ITU-T規格のFコードやパスワードを持っている機種であれば、親展通信や掲示板機能などの機能を利用することができます。

Fコードとパスワード

Fコードは、メモリ内に設定されたさまざまなボックスを区別するときに必要になります。パスワードは、原稿をまちがって送受信しないための鍵となるものです。

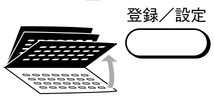
- Fコードとパスワードについて、詳しくは「Fコードを使って送信するには（➔ ***P.5-42***）」を参照してください。

汎用ボックスの設定

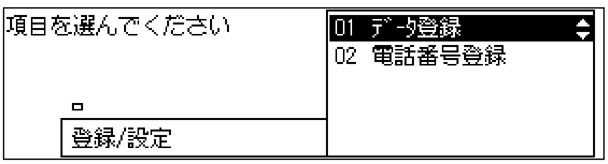
汎用ボックスを活用するには、登録／設定ボタンを使ってあらかじめ汎用ボックスの各項目を設定しておく必要があります。

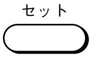
- 汎用ボックスは、中継ボックス（➔ ***P.5-64***）、親展ボックス（➔ ***P.5-52***）、ポーリングボックス（➔ ***P.5-19***）、定時ポーリング（➔ ***P.5-6***）、転送（➔ ***P.5-27***）と合わせて70個まで設定できます。

1 メモリ管理の設定項目を表示させます

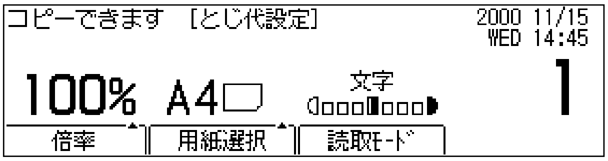


ワンタッチダイヤルパネルを3枚開いて、登録／設定ボタンを押します。



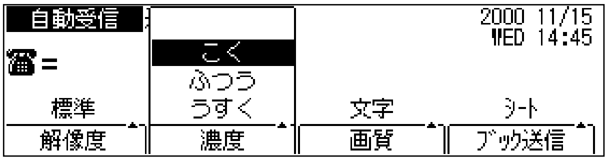


セットボタンを押します。

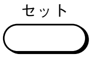




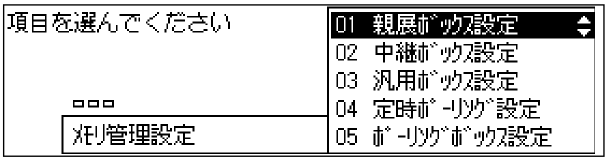
▼または▲ボタンを押して、“06 メモリ管理設定” を反転表示させます。



2 汎用ボックスの設定項目を表示させます

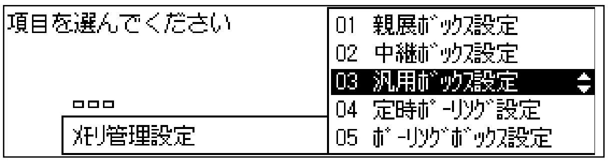


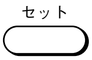
セットボタンを押します。



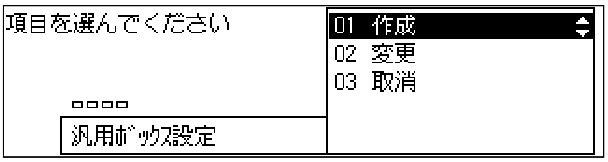


▼または▲ボタンを押して、“03 汎用ボックス設定” を反転表示させます。

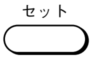




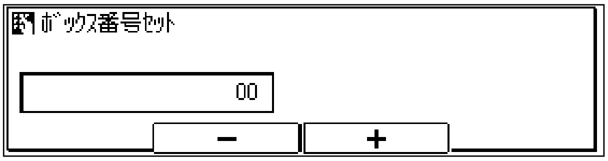
セットボタンを押します。

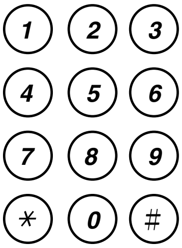


3 汎用ボックスの番号を指定します

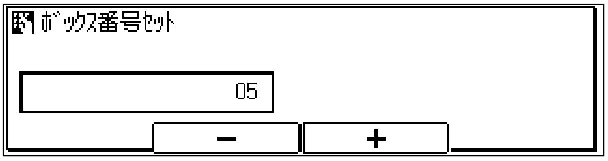


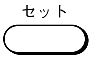
セットボタンを押します。



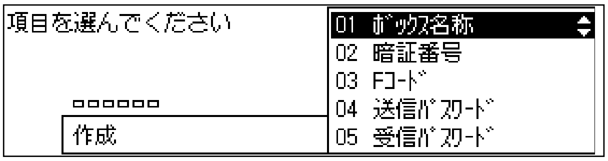


テンキーでボックス番号を入力します。00～99までの番号が設定できます。－または＋ボタンを押して、ボックスの番号を選択することもできます。





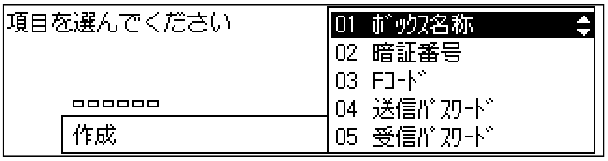
セットボタンを押します。

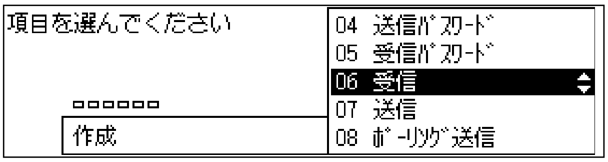


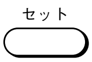
4 汎用ボックスの各項目を指定します



▼または▲ボタンを押すたびに、汎用ボックスのいずれかの設定項目が反転表示されます。







セットボタンを押すと、反転表示されている項目が選択できます。

- 設定項目の詳細については「汎用ボックスの設定項目」を参照してください。
- 設定の途中でもストップボタンで、待機状態に戻ることができます。

汎用ボックスの設定項目

各汎用ボックスでは、つぎのような項目が設定できます。

設定項目	設定内容	設定値（※はご購入時の設定）
01 ボックス名称	任意の名称が設定可能。	全角12文字まで入力可能。
02 暗証番号	汎用ボックスの設定内容を保護するための暗証番号が設定可能。設定するとボックスの設定を変更したり、削除するときに必要。	4桁の数字が入力可能。
03 Fコード（必ず設定してください）	ITU-T規格。メモリ内で汎用ボックスを区別するのに必要。	1～20桁の範囲で数字、＃、＊、スペースが入力可能。
04 送信パスワード	ITU-T規格。汎用ボックスからのポーリング送信原稿に付加するパスワード。相手先の受信パスワードと照合され、合致しない場合は、原稿はポーリング送信されない。	1～20桁の範囲で数字、＃、＊、スペースが入力可能。
05 受信パスワード	ITU-T規格。受信した原稿に付加されているパスワードと照合するためのパスワード。合致しないときは原稿を受信しない。	1～20桁の範囲で数字、＃、＊、スペースが入力可能。
06 受信	汎用ボックスでの受信を許可するかどうか選択できます。	“01 許可する” “02 許可しない”※
“01 指示元制限”	原稿を受信するときに、通信相手の登録を確認するかどうか選択可能。	“01 しない”※ “02 する”
（相手先指定）	指示元制限“02 する”のとき、照合するための相手先が登録可能。	ワンタッチダイヤル、短縮ダイヤル合わせて最大200ヵ所登録可能。
“02 受信原稿プリント”	受信した原稿をプリントするかどうか選択可能。	“01 しない” “02 する”※
“01 原稿プリント方法”	受信原稿プリント“02 する”のとき、さらにプリント方法が選択可能。	“自動”※ “手動”
“02 受信プリント部数”	受信原稿プリント“02 する”のとき、受信した原稿をプリントする枚数を指定可	テンキーで入力。01～99枚の範囲で指定可能。

設定項目	設定内容	設定値（※はご購入時の設定）
07 送信	汎用ボックスからの送信を許可するかどうか選択可能。	“01 許可する” “02 許可しない”※
“01 宛先”	送信する相手の電話番号が登録可能。	ワンタッチダイヤル、短縮ダイヤル合わせて最大200ヵ所登録可能。
“02 送信原稿” “01受信原稿”	汎用ボックスで受信した原稿を送信対象とするかどうか選択可能。	“01 送信しない” “02 送信する”※
(送信結果 レポート)	受信原稿“02 送信する”のとき、原稿を送信してきた相手に中継送信結果を通知するかどうか選択可能。	“01 送信しない” “02 送信する”※
“02 読み込み原稿 送信”	汎用ボックスに読み込んだ原稿を送信対象とするかどうか選択可能。	“01 送信しない” “02 送信する”※
“03 送信開始時刻”	原稿の送信時刻が設定できます。毎日の送信開始時刻は24時間制で5時刻まで設定可能。“02 曜日別指定”を選択すると“01 SUN”～“07 SAT”まで、各曜日ごとに24時間制で5時刻まで設定可能(最大35時刻)。	“01 毎日”※ “02 曜日別指定”
08 ポーリング送信	汎用ボックスからのポーリング送信を許可するかどうか選択可能。	“01 許可する” “02 許可しない”※
“01 送信後の原稿 クリア”	ポーリング送信後、汎用ボックスに記憶されていた原稿をクリアするかどうか選択可能。	“01 しない” “02 する”※
“02 送信原稿” “01 受信原稿”	汎用ボックスで受信した原稿をポーリング送信の対象とするかどうか選択可能。	“01 送信しない” “02 送信する”※
“02 読み込み原稿”	汎用ボックスに読み込んだ原稿をポーリング送信の対象とするかどうか選択可能。	“01 送信しない” “02 送信する”※

変更した内容は、セットボタンを押したときに登録されます。

メモ *Fコードはメモリ内に設定されたボックスを区別するためのものです。本機にすでに設定されている他のFコードと同じ値は設定できません。*

汎用ボックスの活用例（掲示板機能）

必要な情報を汎用ボックスに読み込ませておき、他のファクスのポーリング受信機能を使ってその情報を引き出すことができます。これを汎用ボックスの掲示板機能と呼びます。

掲示板機能を活用すると、たとえば在庫情報や新製品に関する情報などを汎用ボックスに読み込ませておき、必要なときに全国どこからでも引き出すことが可能になります。

- 掲示板機能を使って引き出すことが可能となる情報の数や量は、汎用ボックスの設定数や情報量によって異なります。

本機の汎用ボックスを掲示板にするとき

つぎのように設定してください。

ボックス内の設定項目	設定内容
ボックス番号	2桁の数字(００～９９)。
ボックス名称	全角12文字までの文字。
暗証番号	4桁の数字(００００～９９９９)。
Fコード	20桁以内の数字，＃，＊，スペース。
送信パスワード	20桁以内の数字，＃，＊，スペース。
受信パスワード	不要。
受信	許可しない。
送信	許可しない。
ポーリング送信	許可する。
送信後の原稿クリア	しない。
(送信原稿-受信原稿)	送信しない。
(送信原稿-読み込み原稿)	送信する。

- Fコードは電話回線を通じて汎用ボックスの情報を引き出すときに照合するためのものです。汎用ボックスの作成時に指定するボックス番号と混同しないように注意してください。

掲示板の情報を引き出すとき

汎用ボックスに読み込ませた情報を外出先のファクスや他の支店などのファクスで引き出すときは、ポーリング受信機能を使ってください。ポーリング受信するときは、Fコードと受信パスワードを指定してください。

- 受信パスワードは、掲示板として使っている本機の汎用ボックスの送信パスワードと完全に一致するよう指定してください。

汎用ボックスの設定変更

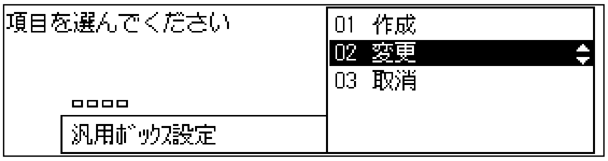
汎用ボックスの設定を変更するときは次の手順で操作してください。

1 汎用ボックスの作成の手順1～2にしたがって、汎用ボックスの設定項目を表示させます ➔ P.5-74

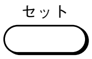
2 汎用ボックスの設定変更項目を表示させます



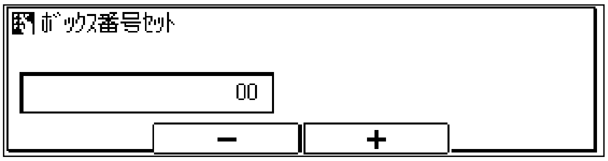
▼または▲ボタンを押して、“02 変更”を反転表示させます。

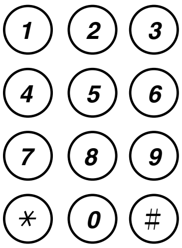


3 汎用ボックスの番号を指定します

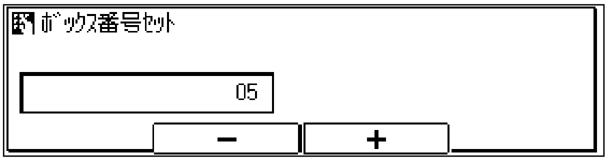


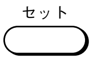
セットボタンを押します。





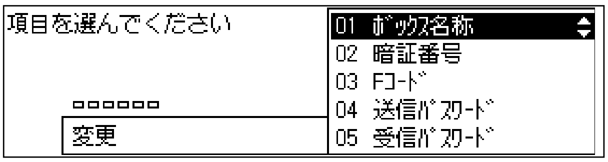
テンキーで変更するボックスの番号を入力します。－または＋ボタンを押して、ボックスの番号を選択することもできます。





セットボタンを押します。

● 暗証番号を設定しているときは、4桁の暗証番号を入力してからセットボタンを押してください（暗証番号は表示されません）。



4 汎用ボックスの各項目を変更します

▼または▲ボタンを押して変更したい項目を表示させ、セットボタンを押します。

設定内容を変更します。

- 宛先や指示元制限の相手を追加するときは、追加する相手を登録したワンタッチダイヤルボタンもしくは短縮ダイヤルボタンを押します。
- 宛先や指示元制限の相手を削除するときは、▼または▲ボタンを押して削除したい相手を反転表示させ、クリアボタンを押します。
- 暗証番号を変更する場合は、現在の暗証番号を入力し(暗証番号は表示されません)、セットボタンを押してから、新しい暗証番号を入力します。

セットボタンを押して変更を確定します。

- 続けて他の項目の設定内容を変更することができます。

5 待機状態に戻ります

ストップボタンを押し、待機状態に戻ります。

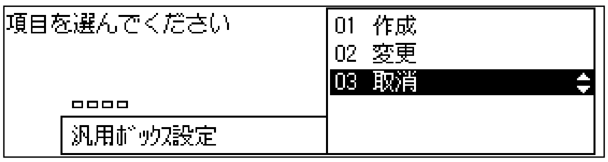
汎用ボックスの取り消し

汎用ボックスを取り消すときは次の手順で操作してください。

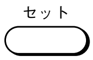
1 汎用ボックスの作成の手順1～2にしたがって、汎用ボックスの設定項目を表示させます → P.5-74

2 汎用ボックスの取り消し項目を表示させます

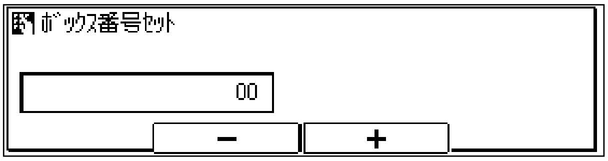
▼または▲ボタンを押して、“03 取消”を反転表示させます。

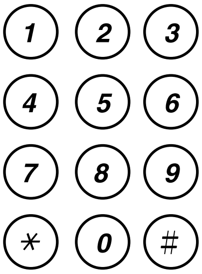


3 汎用ボックスの番号を指定します

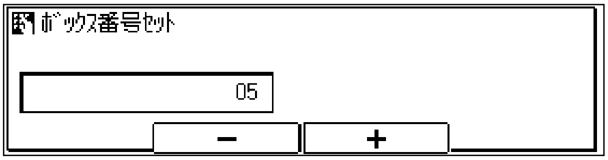


セットボタンを押します。

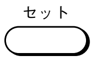




テンキーで取り消すボックスの番号を入力します。−または+ボタンを押して、ボックスの番号を選択することもできます。

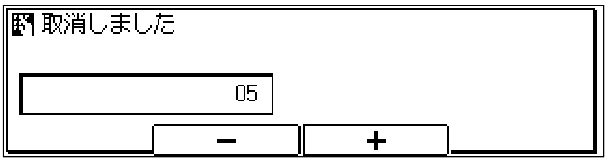


4 汎用ボックスを取り消します

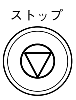


セットボタンを押します。

● 暗証番号を設定しているときは、4桁の暗証番号を入力してからセットボタンを押してください（暗証番号は表示されません）。



5 待機状態に戻ります



ストップボタンを押し、待機状態に戻ります。

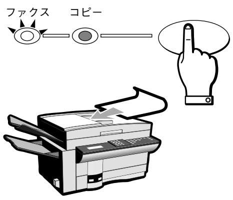
汎用ボックスから送信するには

汎用ボックスを活用して送信するときは、本機に設定している汎用ボックスに原稿を記憶させておきます。原稿は汎用ボックスの設定にしたがって自動的に送信されます。

汎用ボックスから送信するときは、つぎの手順で操作してください。

● 汎用ボックスから送信するときは、登録／設定ボタンを使って、あらかじめ汎用ボックスを設定しておく必要があります。➔ ***P.5-74***

1 ファクスモードにし、ADF に原稿をセットします ➔ ***P.3-3***

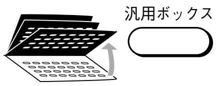


原稿に合わせて濃度や画質が設定できます。➔ ***P.3-17***

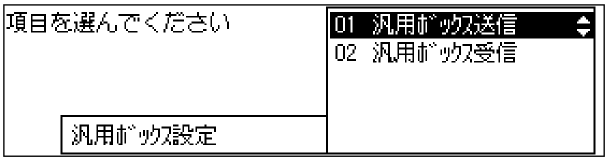
発信人名称も選択できます。➔ ***P.7-21***

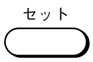
● ADF にセットできない原稿は、「本などの原稿を送信するには」（➔ ***P.3-10***）の手順 1 ～ 5 を参照し、原稿台ガラスにセットしてください。

2 汎用ボックスの設定項目を表示させます

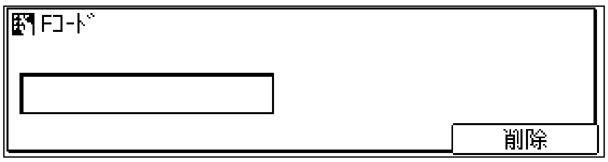


ワンタッチダイヤルパネルを3枚開いて、汎用ボックスボタンを押します。

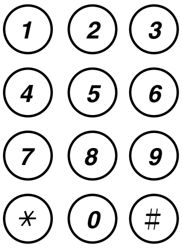




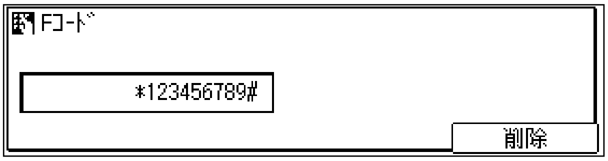
セットボタンを押します。



3 汎用ボックスのFコードを指定します

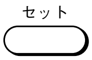


テンキーで汎用ボックスのFコードを入力します。



● 発信人名称が登録されていないときは、次の手順をとばし、手順5に進みます。

4 発信人名称を選択します

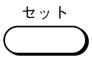


セットボタンを押します。



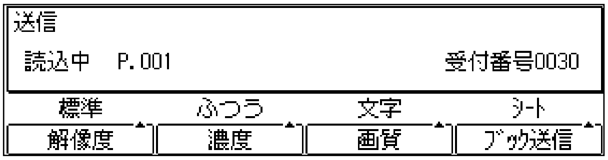
▼または▲ボタンを押して、希望の発信人名称を反転表示させます。

5 原稿をメモリに記憶させます



セットボタンを押します。原稿の読み込みがはじまります。

● 原稿を原稿台ガラスにセットした場合は、「本などの原稿を送信するには」（→ ***P.3-12***）の手順7～8を参照し、すべての原稿をメモリに読み込ませてから、セットボタンを押してください。



原稿は汎用ボックスの設定にしたがって自動的に送信されます。

● 設定されている送信時刻前に送信を中止したいときは、ファクス状況ボタンで中止することができます。→ ***P.3-24***

メモ

汎用ボックスの設定で“07 送信”の“02 送信原稿”－“02 読み込み原稿”が“01 送信しない”のときは、汎用ボックスに原稿を読み込ませることはできません。

汎用ボックスで受信した原稿をプリントするには

汎用ボックスを活用して受信した原稿は汎用ボックスに記憶されています。それらを手動でプリントすることができます。

汎用ボックスで受信するには

汎用ボックスで受信するためには、登録／設定ボタンを使って、あらかじめ汎用ボックスを設定しておく必要があります。

→ P.5-74

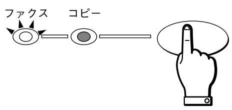
汎用ボックスの原稿をプリントするには

汎用ボックスの設定項目の“06 受信”で“02 受信原稿プリント”が“する”に設定されており、“01 原稿プリント方法”が“02 手動”に設定されているときは、手動プリントの操作をおこなうまで受信原稿はプリントされません。

- “02 受信原稿プリント”が“しない”に設定されているときは、受信原稿はプリントできません。“する”に設定しなおしてください。
- “02 受信原稿プリント”が“する”、“01 原稿プリント方法”が“01 自動”に設定されているときは、汎用ボックスで受信した原稿は自動的にプリントされます。

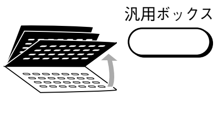
汎用ボックスで受信した原稿を手動でプリントするときは、つぎの手順で操作してください。

1 ファクスモードにします

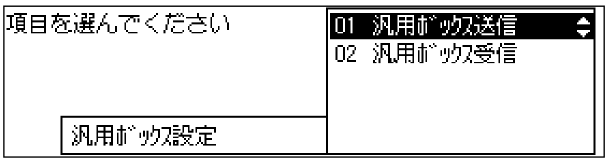


ファクス／コピー切り替えボタンを押して、ファクスランプを点灯させてください。

2 汎用ボックスの設定項目を表示させます



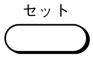
ワンタッチダイヤルパネルを3枚開いて、汎用ボックスボタンを押します。



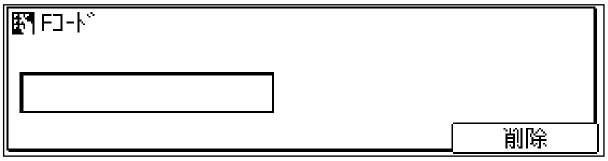


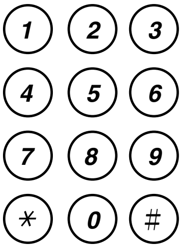
▼または▲ボタンを押して、“02 汎用ボックス受信”を反転表示させます。

3 汎用ボックスのＦコードを指定します

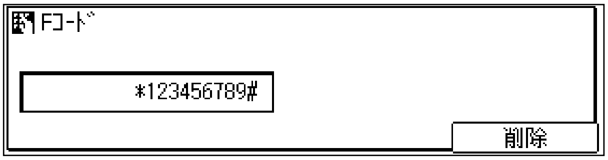


セットボタンを押します。

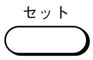




テンキーでＦコードを入力します。



4 セットボタンを押します



汎用ボックスの受信原稿がプリントされます。

- 暗証番号を設定しているときは、4桁の暗証番号を入力してからセットボタンを押してください（暗証番号は表示されません）。

プリントが終了すると、自動的に待機状態に戻ります。

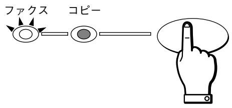
ファクス情報サービスを活用するには

各種の情報をファクスで取り出すことができる「ファクス情報サービス」を利用すると、スキーのゲレンデ情報や観光情報、ビジネス関連情報などがファクスで手軽に入手できます。また、本機がダイヤル回線に接続されている場合でも、トーン送出機能を使って、各種のプッシュホンサービスを利用することもできます。

情報サービスを受信するには

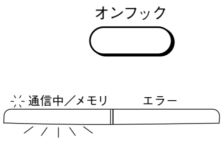
ファクス情報サービスから情報を入手する場合は、つぎの手順で操作してください。

1 ファクスモードにします



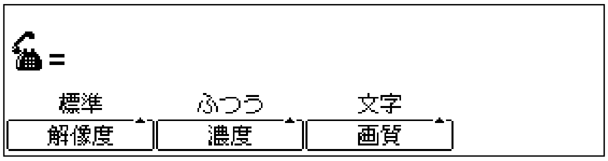
ファクス／コピーボタンを押して、ファクスランプを点灯させてください。

2 オンフックボタンを押します

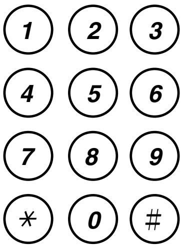


通信中／メモリランプが点滅し、“ツー”という信号音が聞こえます。

- オンフックボタンを押さずに、受話器を取ってもかまいません。
- 信号音の大きさを調整することができます。 → ***P.1-2***



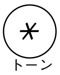
3 相手の電話番号をダイヤルします



テンキーのほか、ワンタッチダイヤルや短縮ダイヤルが利用できます。 → ***P.6-5,6-12***



4 トーン信号に切り替えます

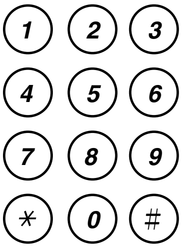


相手の音声が聞こえたらトーンボタンを押します。トーンボタンを押されたことを示す“T”という文字が表示されます。

● トーン回線（プッシュ回線）で使用しているときは、この操作は必要ありません。



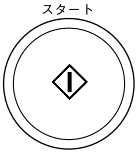
5 プッシュホンサービスを利用します



テンキーを使って、必要な番号を入力します。

● プッシュホンサービスにより、操作方法は異なります、ご利用になるプッシュホンサービスの内容や操作方法については、あらかじめサービスの提供元などに確認してください。

6 受信状態にする必要があるときはスタートボタンを押します



サービスの利用を終了するときは、オンフックボタンを押すか、受話器を取っていた場合は元に戻します。

● プッシュホンサービスによっては、本機が接続されている回線の電話番号を入力したあと、いったん回線を切ると情報を送信してくるものもあります。

メモ

*Fネット契約をしている場合は、Fネットのファクシミリ案内サービスを活用して、情報を簡単に取り出すことができます。「Fネットについて」（➔ **P.10-4**）を参照してください。*

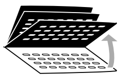
第6章

ダイヤル登録のしかた

ワンタッチダイヤルの登録と使いかた

ワンタッチダイヤルには、84ヵ所の通信相手が登録できます。それぞれのワンタッチダイヤルボタンには120桁までの電話番号と相手の名前を登録できます。相手の名前には、ひらがな、漢字、全角記号は8文字まで、カタカナ、英数字、半角記号は16文字まで入力できます。ワンタッチダイヤルのほかに、短縮番号を利用した短縮ダイヤルにも登録できます。 ➔ ***P.6-9***

1 電話番号の登録項目を表示させます



登録／設定

ワンタッチダイヤルパネルを3枚開いて、登録／設定ボタンを押します。

項目を選んでください	01 ﾃﾞｰﾀ登録
	02 電話番号登録
登録/設定	

▼ ▲

▼または▲ボタンを押して"02 電話番号登録"を反転表示させます。

項目を選んでください	01 ﾃﾞｰﾀ登録
	02 電話番号登録
登録/設定	

2 ワンタッチダイヤルを選択します

セット

セットボタンを押します。

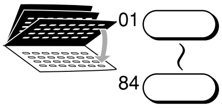
項目を選んでください	01 ﾜﾝﾀｯﾁﾀﾞｲﾔﾙ登録
	02 短縮ﾀﾞｲﾔﾙ登録
	03 ｸﾞﾙｰﾌﾟﾀﾞｲﾔﾙ登録
電話番号登録	

セット

セットボタンを押して、登録番号を表示させます。

登録する番号を選んでください	01 未登録です
	02 未登録です
	03 未登録です
	04 未登録です
ﾜﾝﾀｯﾁﾀﾞｲﾔﾙ登録	05 未登録です

3 ダイヤルの登録番号を選択します

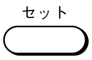


ワンタッチダイヤルパネルを閉じて、登録したい番号のワンタッチダイヤルボタンを押します。

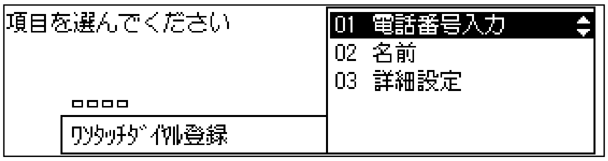
● ワンタッチダイヤルパネルをすべて閉じると01～28、1枚だけ開いたときは29～56、2枚開いたときは57～84のワンタッチダイヤルボタンが選択できます。

▼または▲ボタンを押して、選択することもできます。

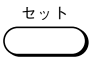
● すでに登録済みの番号には相手の名前や電話番号が表示されますグループダイヤルとして登録されている番号は「グループダイヤル登録」と表示されます。



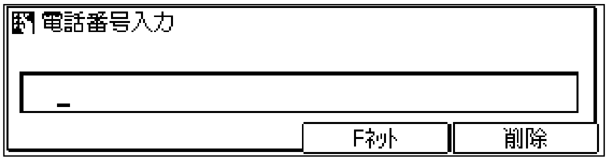
セットボタンを押します。



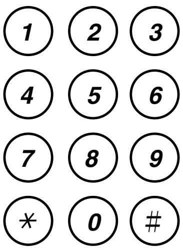
4 電話番号を登録します



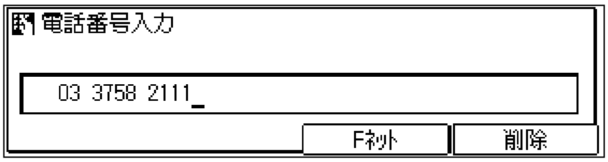
セットボタンを押します。

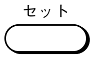


● すでに登録されている電話番号を削除するときは、クリアボタンを押してください。

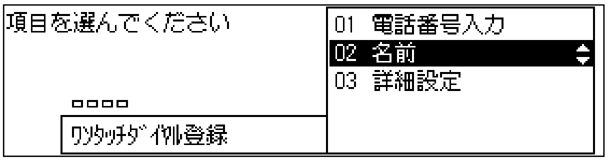


テンキーで電話番号を入力します。スペースボタンで空白を入れてもかまいません。電話番号はスペースを含めて120桁まで入力できます。

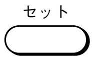




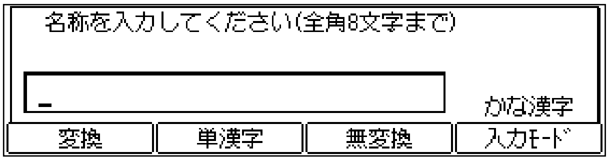
セットボタンを押します。「登録しました」とメッセージが表示されたあと、自動的に“02 名前”の登録項目が反転表示されます。

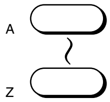


5 相手の名前を登録します

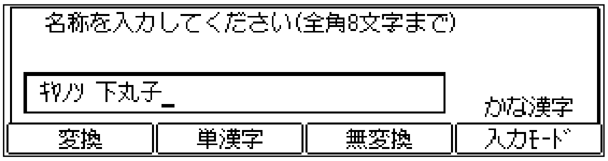


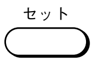
セットボタンを押します。



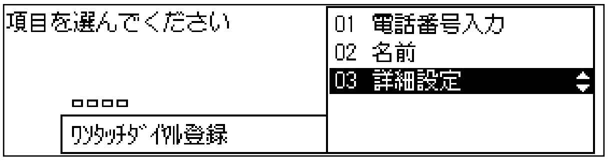


ワンタッチダイヤルボタンで名前を入力します。文字の入力方法は、「文字を登録するには」（➔ ***P.6-34***）の説明を参照してください。名前には、ひらがな、漢字、全角記号は8文字まで、カタカナ、英数字、半角記号は16文字まで入力できます。





セットボタンを押します。「登録しました」とメッセージが表示されたあと、自動的に“03 詳細設定”の設定項目が表示されます。

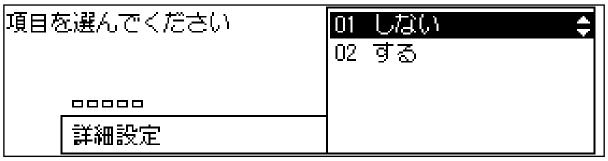


6 通信機能を設定するかどうか選択します

電話番号や名前のほか、オプションとして、送信時刻、ITU-T規格のFコードやパスワード、送信スピード、国際送信、ECM送信などの通信機能を設定することができます。

● 通信機能は、必要がなければ設定しなくてもかまいません。

セットボタンを押します。



オプションの通信機能を設定する場合は“する”を、設定しない場合は“しない”を選択します。▼または▲ボタンを押していずれかを反転表示させ、セットボタンを押します。

“しない”を選択した場合

別の登録番号が反転表示されます。続けて他のワンタッチダイヤルを登録するときは、手順3からの操作を繰り返してください。

“する”を選択した場合

通信機能の設定項目が表示されます。通信機能の設定方法については、「ダイヤル登録で設定できる通信機能」(➔ ***P.6-23***) の説明を参照してください。

7 ダイヤルの登録を終了します

ストップボタンを押すと、ワンタッチダイヤルの登録を終了し待機状態に戻ります。

メモ

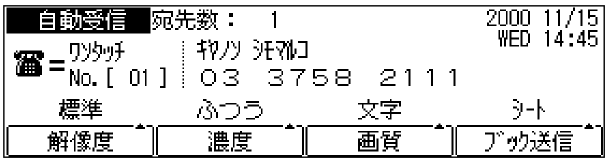
- *登録操作の途中でも、ストップボタンを押せば、いつでも待機状態に戻ることができます。*
- *ワンタッチダイヤルに登録した相手の名前を宛先ラベルに書いてワンタッチダイヤルパネルに貼っておくと便利です。*

ワンタッチダイヤルの使いかた

01 〜 84

電話番号をダイヤルするとき、テンキーの代わりにワンタッチダイヤルボタンを押します。登録した電話番号と相手先の名前が表示されます。

- ワンタッチダイヤルパネルをすべて閉じると01～28、1枚だけ開いたときは29～56、2枚開いたときは57～84のワンタッチダイヤルボタンが選択できます。



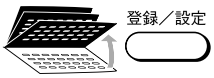
- 間違えたときは、クリアボタンを押してからワンタッチダイヤルボタンを押しなおしてください。
- ワンタッチダイヤルボタンを押したあと、5秒（宛先を複数指定したときは10秒）以上経過すると、ダイヤルタイムアウトが働き、原稿が自動的にメモリに読み込まれます。原稿をすぐにメモリに読み込ませたいときは、スタートボタンを押してください。

メモ　*ワンタッチダイヤルに時刻を設定したときは、その時刻になってからダイヤルされます。* ➔ ***P.6-24***

ワンタッチダイヤルの削除

ワンタッチダイヤルの登録内容を削除するときは、つぎの手順で操作してください。

1 電話番号の登録項目を表示させます

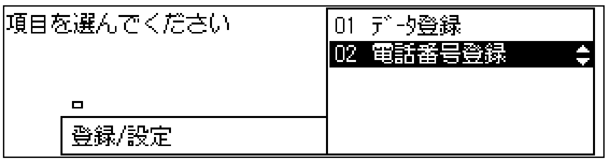


ワンタッチダイヤルパネルを3枚開いて、登録／設定ボタンを押します。

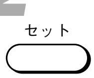




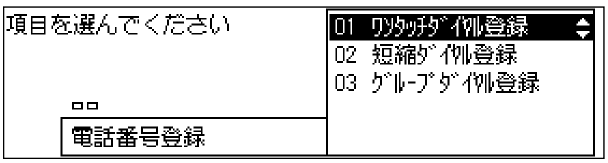
▼または▲ボタンを押して、“02 電話番号登録” を反転表示させます。



2 ワンタッチダイヤルを選択します

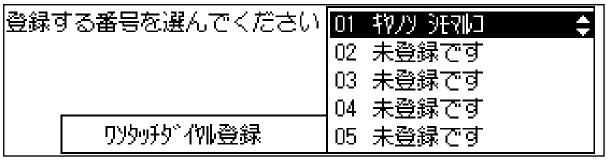


セットボタンを押します。

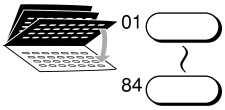


セット

セットボタンを押します。



3 ダイヤルの登録番号を選択します



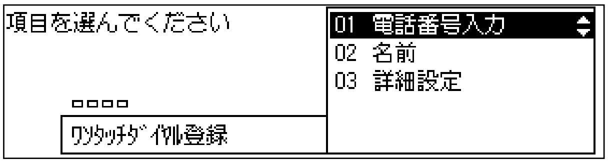
ワンタッチダイヤルパネルを閉じて、削除したい登録番号のワンタッチダイヤルボタンを押します。

- ワンタッチダイヤルパネルをすべて閉じると01～28、1枚だけ開いたときは29～56、2枚開いたときは57～84のワンタッチダイヤルボタンが選択できます。▼または▲ボタンを押して選択することもできます。

4 電話番号を削除します

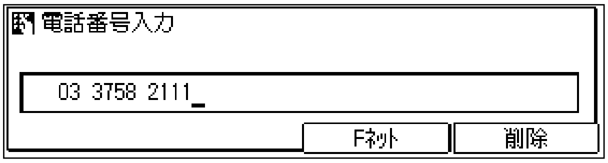
セット

セットボタンを押します。



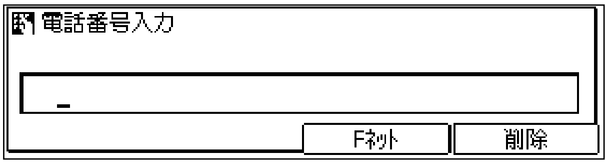
セット

セットボタンを押します。



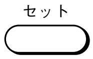
クリア

クリアボタンを押します。登録内容が削除されます。



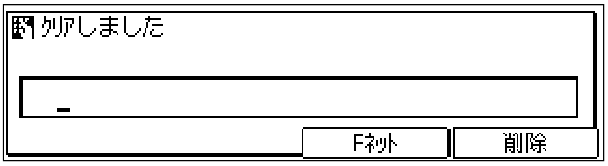
第6章

ダイヤル登録のしかた

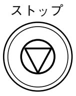


セットボタンを押します。

● 電話番号を削除すると、その他の登録内容もすべて削除されます。



5 ワンタッチダイヤルの削除を終了します

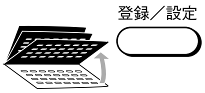


ストップボタンを押すと、待機状態に戻ることができます。

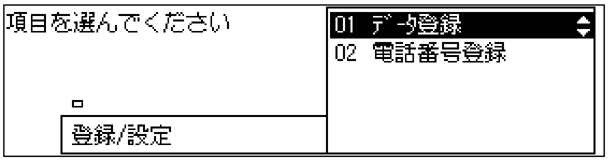
短縮ダイヤルの登録と使いかた

短縮ダイヤルには、116ヵ所の通信相手が登録できます。それぞれの短縮ダイヤルには120桁までの電話番号と相手の名前が登録できます。相手の名前には、ひらがな、漢字、全角記号は8文字まで、カタカナ、英数字、半角記号は16文字まで入力できます。短縮ダイヤルのほかに、ワンタッチダイヤルボタンを利用したワンタッチダイヤルにも登録できます。 → ***P.6-2***

1 電話番号の登録項目を表示させます

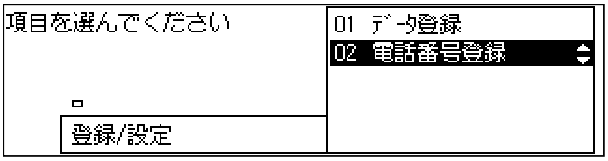


ワンタッチダイヤルパネルを3枚開いて、登録／設定ボタンを押します。

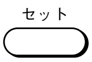




▼または▲ボタンを押して、“02 電話番号登録” を反転表示させます。



2 短縮ダイヤルを選択します

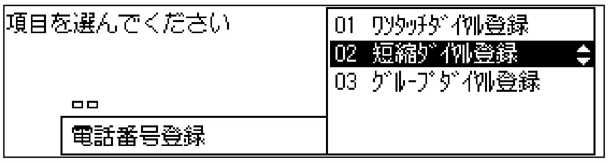


セットボタンを押します。

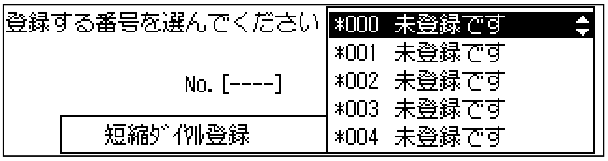




▼または▲ボタンを押して、“02 短縮ダイヤル登録” を反転表示させます。



セットボタンを押して、登録番号を表示させます。

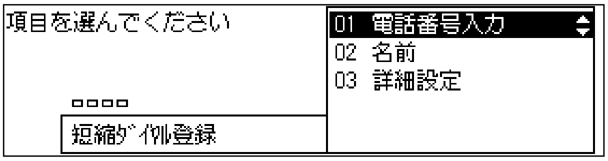


3 ダイヤルの登録番号を選択します

短縮ボタンを押し、登録する3桁の短縮ダイヤル番号をテンキーで指定します。
▼または▲ボタンを押して選択することもできます。

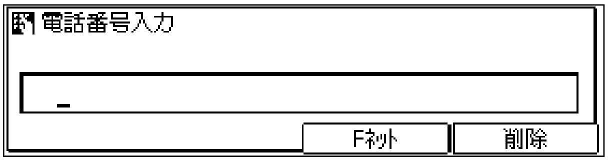
- すでに登録済みの番号には相手の名前や電話番号が表示されます。グループダイヤルとして登録されている番号は「グループダイヤル登録」と表示されます。

セットボタンを押します。



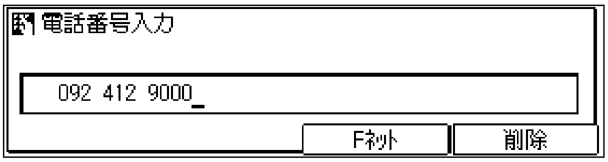
4 電話番号を登録します

セットボタンを押します。



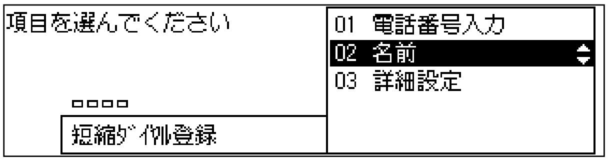
- すでに登録されている電話番号を削除するときは、クリアボタンを押してください。

テンキーで電話番号を入力します。スペースボタンで空白を入れてもかまいません。電話番号はスペースを含めて120桁まで入力できます。



セット

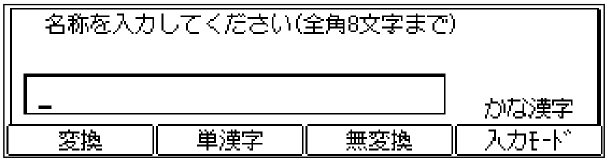
セットボタンを押します。「登録しました」とメッセージが表示されたあと、自動的に“02 名前”の登録項目が反転表示されます。



5 相手の名前を登録します

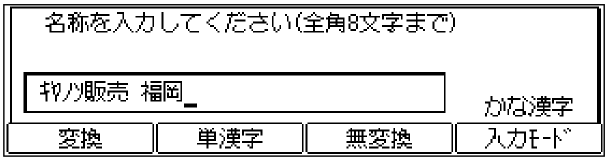
セット

セットボタンを押します。



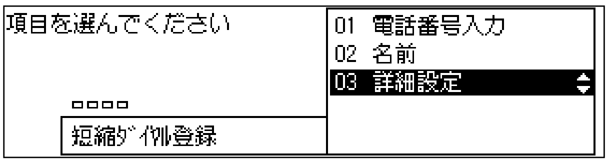
A
〜
Z

ワンタッチダイヤルボタンで名前を入力します。文字の入力方法は、「文字を登録するには」（➔ **P.6-34**）の説明を参照してください。名前には、ひらがな、漢字、全角記号は8文字まで、カタカナ、英数字、半角記号は16文字まで登録できます。



セット

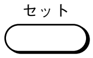
セットボタンを押します。「登録しました」とメッセージが表示されたあと、自動的に“03 詳細設定”の設定項目が反転表示されます。



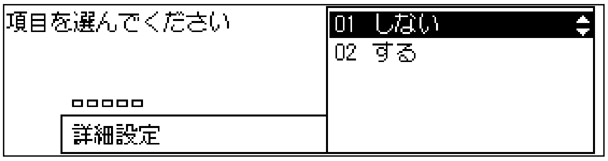
6 通信機能を設定するかどうか選択します

電話番号や名前のほか、オプションとして、送信時刻、ITU-T規格のFコードやパスワード、送信スピード、国際送信、ECM送信などの通信機能を設定することができます。

● 通信機能は、必要がなければ設定しなくてもかまいません。



セットボタンを押します。





オプションの通信機能を設定する場合は“する”を、設定しない場合は“しない”を選択します。▼または▲ボタンを押していずれかを反転表示させ、セットボタンを押します。

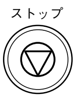
“しない”を選択した場合

別の登録番号が反転表示されます。続けて他の短縮ダイヤルを登録するときは、手順3からの操作を繰り返してください。

“する”を選択した場合

通信機能の設定項目が表示されます。通信機能の設定方法については、「ダイヤル登録で設定できる通信機能」（➔ ***P.6-23***）の説明を参照してください。

7 ダイヤルの登録を終了します

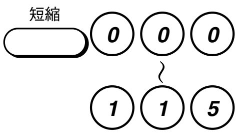


ストップボタンを押すと、短縮ダイヤルの登録を終了し待機状態に戻ります。

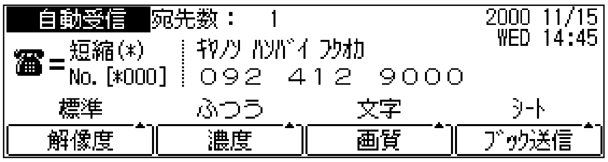
メモ

登録操作の途中でもストップボタンを押せば、いつでも待機状態に戻ることができます。

短縮ダイヤルの使いかた



電話番号をダイヤルするとき、短縮ボタンを押してからテンキーで3桁の登録番号を指定してください。登録した電話番号と相手の名前が表示されます。



- 間違えたときは、クリアボタンを押してから指定しなおしてください。
- 短縮ダイヤルで相手先を指定したあと、5秒（宛先を複数指定したときは10秒）以上経過すると、ダイヤルタイムアウトが働き、原稿が自動的にメモリに読み込まれます。原稿をすぐにメモリに読み込ませたいときは、スタートボタンを押してください。

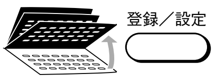
メモ

短縮ダイヤルに時刻を設定したときは、その時刻になってからダイヤルされます。 ➔ **P.6-24**

短縮ダイヤルの削除

短縮ダイヤルの登録内容を削除するときは、つぎの手順で操作してください。

1 電話番号の登録項目を表示させます



ワンタッチダイヤルパネルを3枚開いて、登録／設定ボタンを押します。

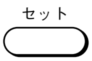
```
項目を選んでください        01 デ-タ登録
                            02 電話番号登録
登録/設定
```



▼または▲ボタンを押して、"02 電話番号登録" を反転表示させます。

```
項目を選んでください        01 デ-タ登録
                            02 電話番号登録
登録/設定
```

2 短縮ダイヤルを選択します

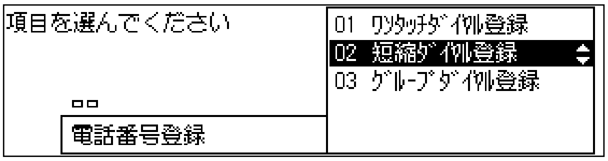


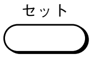
セットボタンを押します。

```
項目を選んでください        01 ワンタッチダイヤル登録
                            02 短縮ダイヤル登録
                            03 グループダイヤル登録
電話番号登録
```

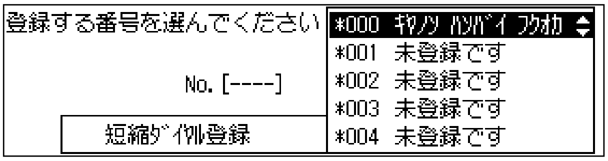


▼または▲ボタンを押して、"02 短縮ダイヤル" を反転表示させます。

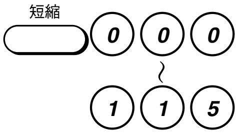




セットボタンを押します。

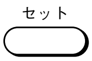


3 短縮ダイヤルの登録番号を選択します

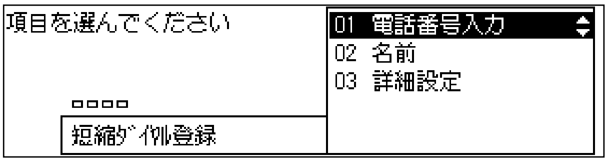


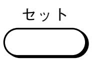
短縮ボタンを押し、削除したい3桁の登録番号をテンキーで指定します。
▼または▲ボタンを押して選択することもできます。

4 電話番号を削除します

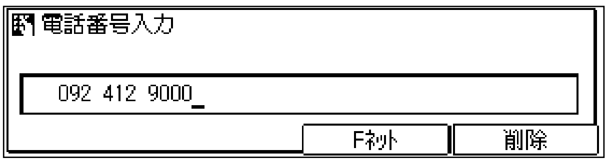


セットボタンを押します。



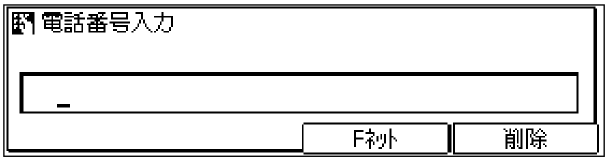


セットボタンを押します。



クリア

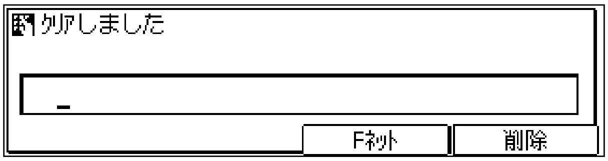
クリアボタンを押します。登録内容が削除されます。



セット

セットボタンを押します。

● 電話番号を削除すると、その他の登録内容もすべて削除されます。



5 短縮ダイヤルの削除を終了します

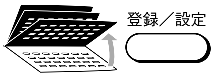
ストップ

ストップボタンを押すと、待機状態に戻ることができます。

グループダイヤルの登録と使いかた

ワンタッチダイヤルや短縮ダイヤルをグループダイヤルとして使うことができます。1つのグループダイヤルには、ワンタッチダイヤル、短縮ダイヤルあわせて最大199ヵ所までをグループとして登録できます。

1 電話番号の登録項目を表示させます



ワンタッチダイヤルパネルを3枚開いて、登録／設定ボタンを押します。

項目を選んでください	01 データ登録
	02 電話番号登録
登録/設定	

▼または▲ボタンを押して、"02 電話番号登録" を反転表示させます。

項目を選んでください	01 データ登録
	02 電話番号登録
登録/設定	

2 グループダイヤルを選択します

セット

セットボタンを押します。

項目を選んでください	01 ワンタッチダイヤル登録
	02 短縮ダイヤル登録
	03 グループダイヤル登録
電話番号登録	

▼または▲ボタンを押して、"03 グループダイヤル登録" を反転表示させます。

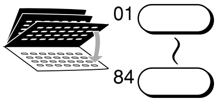
項目を選んでください	01 ワンタッチダイヤル登録
	02 短縮ダイヤル登録
	03 グループダイヤル登録
電話番号登録	

セット

セットボタンを押して、登録番号を表示させます。

登録する番号を選んでください	01 キヤノン シモマルコ
	02 未登録です
	03 未登録です
	04 未登録です
グループダイヤル登録	05 未登録です

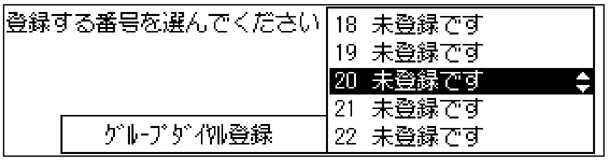
3 ダイヤルの登録番号を選択します

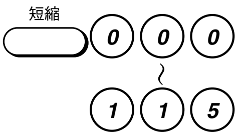


ワンタッチダイヤルをグループダイヤルとして使用するときは、ワンタッチダイヤルパネルを閉じて、ワンタッチダイヤルを指定します。

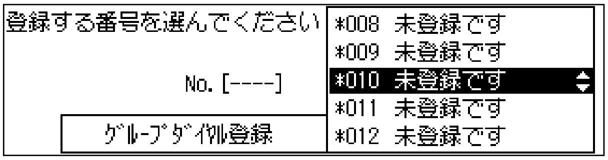
- ワンタッチダイヤルパネルをすべて閉じると01～28、1枚だけ開いた状態のときは29～56、2枚開いたときは57～84のワンタッチダイヤルボタンが選択できます。

▼または▲ボタンを押して選択することもできます。

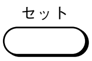




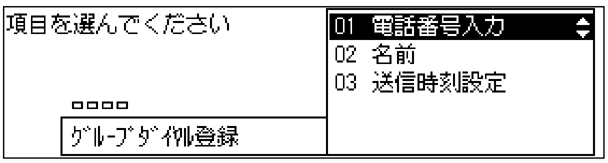
短縮ダイヤルをグループダイヤルとして使用するときは、短縮ボタンを押してから、短縮ダイヤル番号を3桁の数字で指定します。



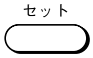
- すでに登録済みの番号には相手の名前や電話番号が表示されます。グループダイヤルとして登録されている番号は「グループダイヤル登録」と表示されます。



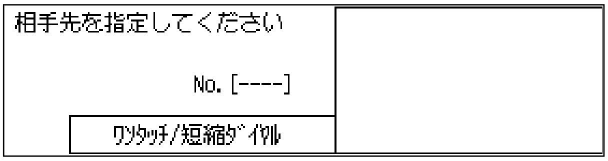
セットボタンを押します。



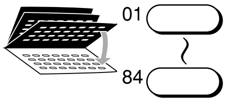
4 複数の相手先を登録します



セットボタンを押します。

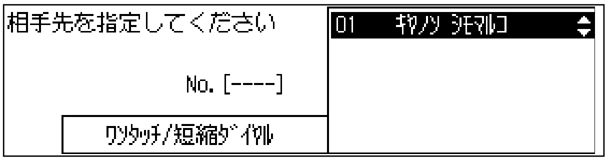


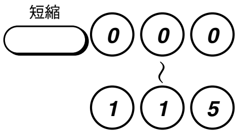
● テンキーでは登録できません。



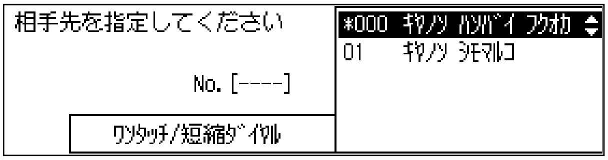
ワンタッチダイヤルをグループに登録するときは、ワンタッチダイヤルパネルを閉じて登録したいワンタッチダイヤルボタンを押してください。複数のワンタッチダイヤルを連続して指定することができます。

● グループダイヤルとして登録してあるワンタッチダイヤルを登録することもできます。

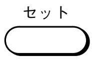




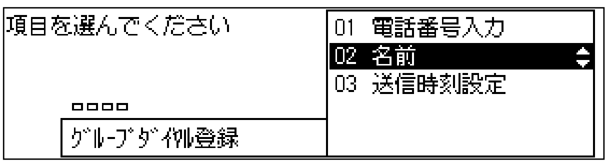
短縮ダイヤルをグループに登録するときは、短縮ボタンと3桁の数字で指定してください。複数の短縮ダイヤルを連続して指定することができます。



● すでに登録済みの電話番号は、▼または▲ボタンで表示させてからクリアボタンで削除できます。グループダイヤルを削除するときは、登録されたすべての電話番号を削除してからセットボタンを押してください。電話番号を追加するときはその番号が登録されているワンタッチダイヤルや短縮ダイヤルを押します。



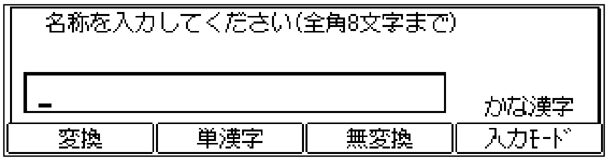
セットボタンを押すと、自動的に“02 名前”の項目が反転表示されます。



5 グループの名前を登録します

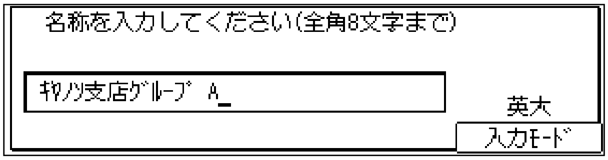
セット

セットボタンを押します。



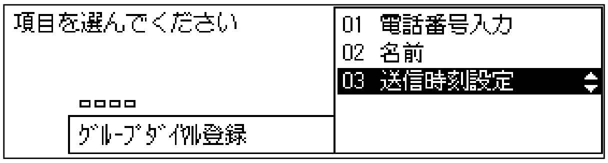
A 〜 Z

ワンタッチダイヤルボタンで名前を入力します。文字の入力方法は、「文字を登録するには」（➔ **P.6-34**）の説明を参照してください。



セット

セットボタンを押します。「登録しました」とメッセージが表示されたあと、自動的に“03 送信時刻設定”の項目が反転表示されます。



6 送信時刻を設定します

セット

戻る

セットボタンを押すと送信時刻が設定できます。「送信時刻の設定」（➔ **P.6-24**）を参照してください。

- 設定の必要がないときは、戻るボタンを押します。そのまま別のダイヤル番号が登録できます。手順3から繰り返してください。

7 ダイヤルの登録を終了します

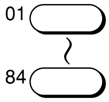
ストップ

ストップボタンを押すと、グループダイヤルの登録を終了し待機状態に戻ります。

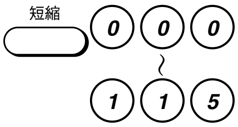
メモ

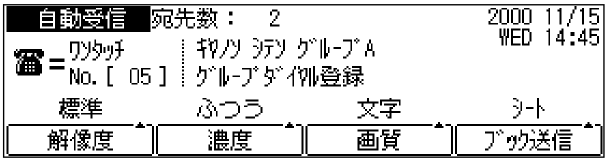
登録操作の途中でもストップボタンを押せば、いつでも待機状態に戻ることができます。

グループダイヤルの使いかた



グループダイヤルを登録したワンタッチダイヤルボタンを押すか、短縮ボタンを押してからテンキーで3桁の登録番号を指定してください。登録した名前が表示されます。





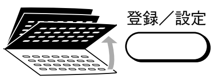
- 間違えたときは、クリアボタンを押してからグループダイヤルを指定しなおしてください。
- グループダイヤルを指定したあと、5秒（グループダイヤルを複数指定したときは10秒）以上経過すると、ダイヤルタイムアウトが働き、原稿が自動的にメモリに読み込まれます。原稿をすぐにメモリに読み込ませたいときは、スタートボタンを押してください。

メモ　*グループダイヤルに時刻を設定したときは、その時刻になってからダイヤルされます。* ***➔ P.6-24***

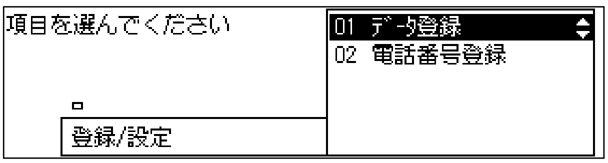
グループダイヤルの削除

グループダイヤルの登録内容を削除するときは、つぎの手順で操作してください。

1 電話番号の登録項目を表示させます

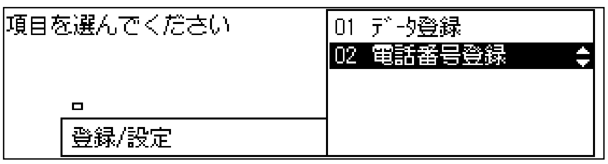


ワンタッチダイヤルパネルを3枚開いて、登録／設定ボタンを押します。





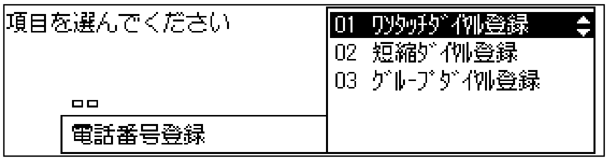
▼または▲ボタンを押して、“02 電話番号登録” を反転表示させます。



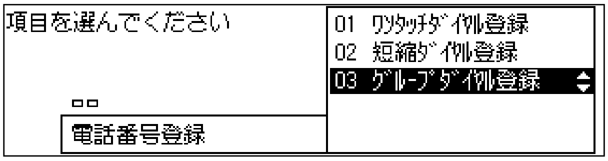
2 グループダイヤルを選択します

セット

セットボタンを押します。

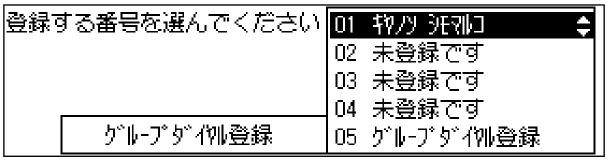


▼または▲ボタンを押して、“03 グループダイヤル登録”を反転表示させます。



セット

セットボタンを押します。



3 グループダイヤルの登録番号を選択します

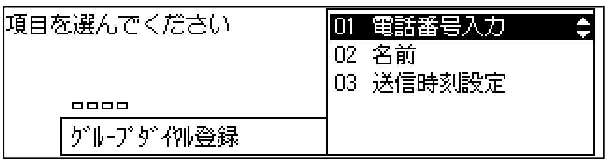
グループダイヤルとして登録されたワンタッチダイヤルまたは短縮ダイヤルの登録番号を表示させます。

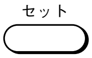
- グループダイヤルとして登録されたワンタッチダイヤルを削除したいときは、ワンタッチダイヤルボタンで登録番号を選択してください。ワンタッチダイヤルパネルをすべて閉じると01～28、1枚だけ開いたときは29～56、2枚開いたときは57～84のワンタッチダイヤルボタンが選択できます。
- グループダイヤルとして登録された短縮ダイヤルを削除したいときは短縮ボタンを押して、3桁の登録番号を入力して選択してください。
- ▼または▲ボタンを押して、グループダイヤルとして登録されたワンタッチダイヤルや短縮ダイヤルを選択することもできます。

4 電話番号を削除します

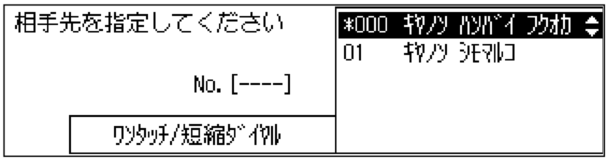
セット

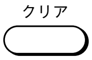
セットボタンを押します。



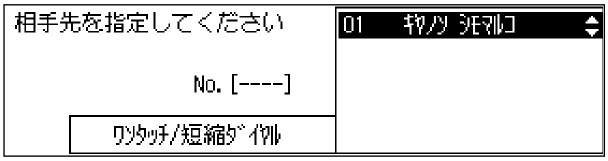


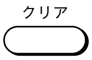
セットボタンを押します。登録されている相手の電話番号と名前が表示されます。



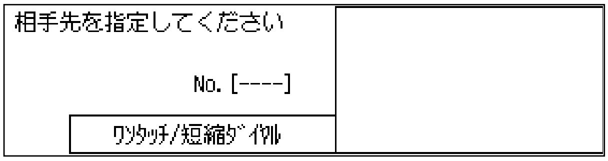


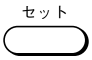
クリアボタンを押します。
表示されていた相手の電話番号と名前が消え別の相手の電話番号と名前が表示されます。





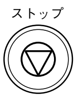
グループダイヤルに登録されていたすべての相手の電話番号と名前が消え、つぎのように表示されるまでクリアボタンを連続して押します。





セットボタンを押します（この時点で、登録されていたグループダイヤルが削除されます）。

5 グループダイヤルの削除を終了します



ストップボタンを押すと、待機状態に戻ることができます。

ダイヤル登録で設定できる通信機能

ワンタッチダイヤルや短縮ダイヤルを登録するときに、電話番号や相手の名前などのほか、オプションとして送信時刻、ITU-T規格のFコードやパスワード、国際送信モード、送信スピード、ECM通信などの通信機能を指定することができます。
グループダイヤル登録時には送信時刻が指定できます。

通信機能設定の選択

ワンタッチダイヤルや短縮ダイヤルの登録時、送信時刻、ITU-T規格のFコードやパスワード、国際送信モード、送信スピード、ECM通信などを設定するには、オプションの通信機能の設定を有効にするかどうか選択する必要があります。

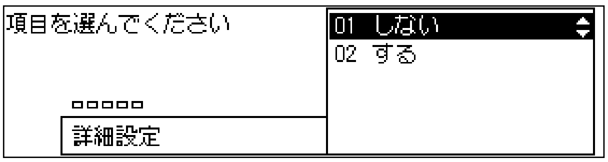
1 電話番号や相手の名前を登録します

ワンタッチダイヤルへの登録方法については、「ワンタッチダイヤルの登録と使いかた」(➔ **P.6-2**) の手順1～5を参照してください。
短縮ダイヤルへの登録方法については、「短縮ダイヤルの登録と使いかた」(➔ **P.6-9**) の手順1～5を参照してください。
相手の名前の登録が終了すると、"03 詳細設定" の項目が反転表示されます。

2 通信機能の設定を有効にします

セット

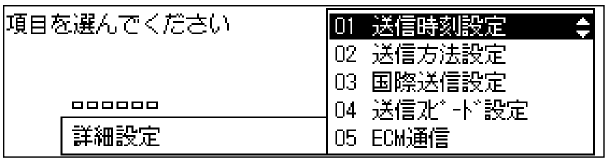
セットボタンを押します。



▼ ▲

▼または▲ボタンでを押して、"する" を反転表示させ、セットボタンを押します。

セット



▼ ▲

▼または▲ボタンを押して、通信機能の設定項目を選択できます。
● 通信機能の設定項目の設定操作については、このあとの各項目の説明を参照してください。

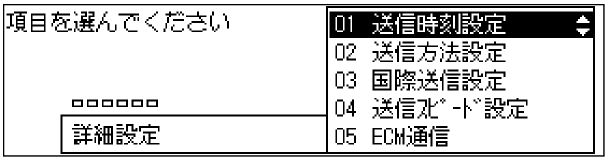
送信時刻の設定

ワンタッチダイヤルや短縮ダイヤルの登録時、またグループダイヤルの登録時に、送信開始時刻を設定しておくと、同じ宛先へ送付する複数の文書を順次メモリに記憶させておき、設定した時刻にまとめて送信することができるため、通信コストが削減できます。

● ワンタッチダイヤルや短縮ダイヤルの送信時刻を設定するためには、あらかじめ通信機能の設定項目を有効にしておく必要があります。「通信機能設定の選択」(➔ **P.6-23**) を参照してください。

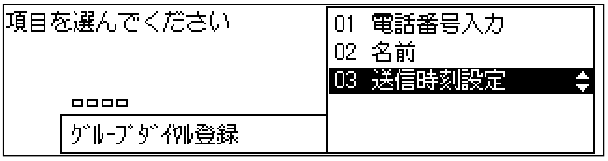
1 時刻の設定項目を表示させます

ワンタッチダイヤルや短縮ダイヤルの登録時は、通信機能設定を有効にし、“01 送信時刻設定” が反転表示されていることを確認します。

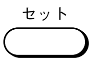


● 反転表示されていないときは、反転表示されるまで▼または▲ボタンを押してください。

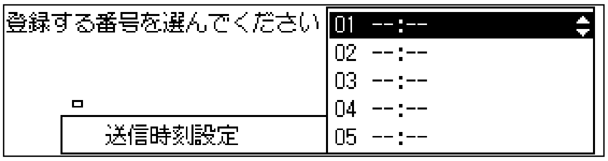
グループダイヤルの登録時は、グループの名前を登録したあと、“03 送信時刻設定” が反転表示されていることを確認します。

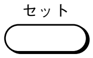


2 送信時刻を設定します

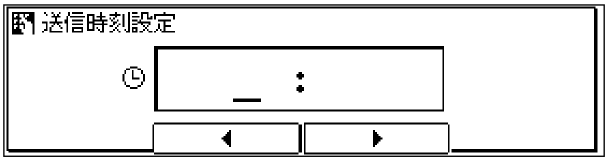


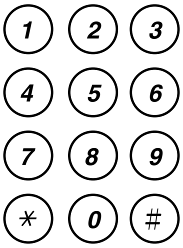
セットボタンを押します。





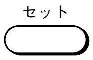
セットボタンを押します。



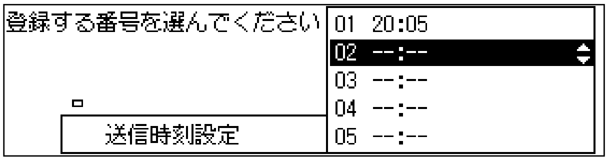


テンキーで送信時刻を指定します。時刻は24時間表示です。時、分は、それぞれ2桁で指定します。1桁の場合は、数字の前に0を付けます。





セットボタンを押します。



- 送信時刻の登録番号は1〜5まであり、1日のうち最大5時刻まで送信時刻が指定できます。登録番号は、▼または▲ボタンで選択できます。複数の時刻を設定するときは、登録番号を選択してから、手順2の操作を繰り返してください。
- すべての時刻を登録する必要はありません。

3 送信時刻の設定を終了します



戻るボタンを押します。ワンタッチダイヤル、短縮ダイヤル登録時は、“02 送信方法設定”の項目が表示されます。グループダイヤル登録時は、そのまま別のダイヤル番号が登録できます。

- ストップボタンを押して、待機状態に戻ることもできます。

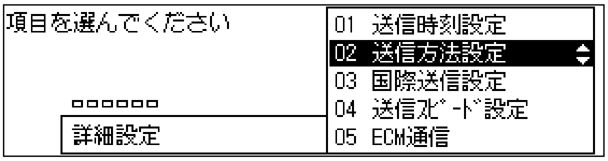
Fコードとパスワードのダイヤル登録で設定できる通信機能設定

ワンタッチダイヤル、短縮ダイヤルの登録時に、ITU-T規格のFコードとパスワードを設定しておくことができます。

- ITU-T 規格の F コードやパスワードについては、「F コードとは」（➔ **P.5-42**）を参照してください。
- ITU-T規格のFコードやパスワードを設定するためには、あらかじめ通信機能の設定項目を有効にしておく必要があります。「通信機能設定の選択」（➔ **P.6-23**）を参照してください。

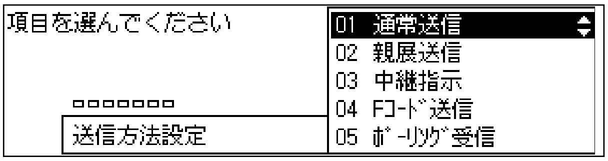
1 送信方法の設定項目を選択します

通信機能設定を有効にしたあと、▼または▲ボタンを押して“02 送信方法設定”を反転表示させます。



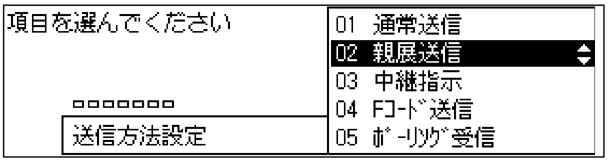
2 送信方法を指定します

セットボタンを押します。



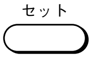
▼または▲ボタンを押して、“02 親展送信”、“03 中継指示”、“04 Fコード送信”、“05 ポーリング受信”のうち、目的に合った項目を反転表示させます。

- 設定する内容は“02 親展送信”から“05 ポーリング受信までですべて同じです。

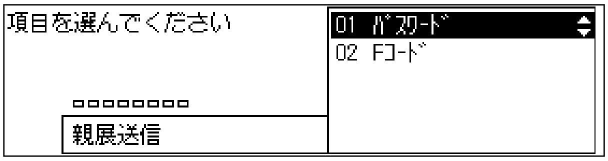


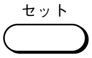
- ここでは“02 親展送信”の例を使用します。

3 パスワードを指定します

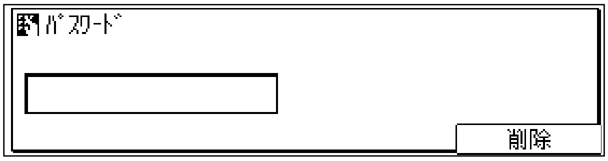


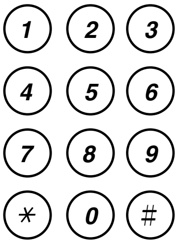
セットボタンを押します。



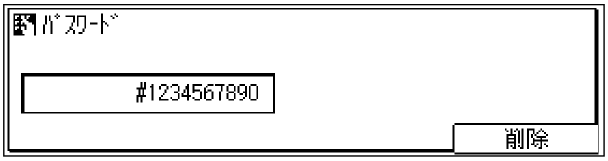


セットボタンを押します。

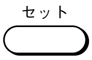




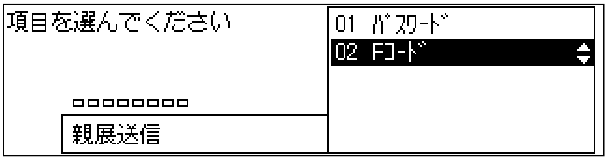
テンキーを使ってパスワードを入力します。20桁以内の数字、＊、#、スペースが入力できます。



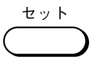
- パスワードは、スペースの位置も含めて、相手機のパスワードと完全に一致するように指定してください。
- 相手機がパスワードを設定していないときは、パスワードを設定する必要はありません。なにも入力しないでつぎの手順に進んでください。



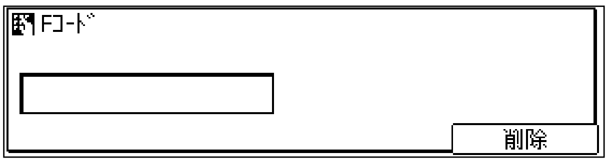
セットボタンを押します。

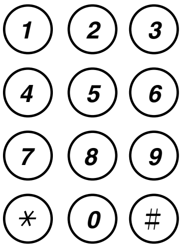


4 Fコードを指定します

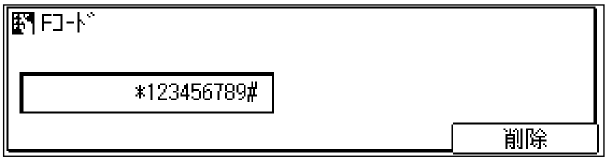


セットボタンを押します。



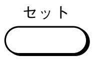


テンキーを使ってFコードを入力します。20桁以内の数字、＊、#、スペースが入力できます。



● Fコードは、スペースの位置も含めて、相手機のFコードと完全に一致するように指定してください。

5 Fコードとパスワードの設定を終了します



セットボタンを押します。“03 国際送信設定”の項目が反転表示されます。

● ストップボタンを押して、待機状態に戻ることもできます。

国際送信の設定

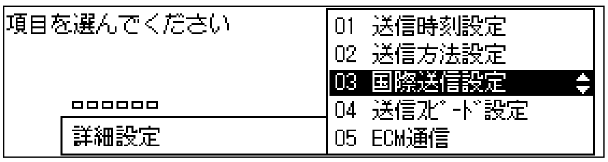
ワンタッチダイヤルや短縮ダイヤルに海外の通信相手を登録するとき、国際送信の種別が設定できます。

● お買い上げ時は、国内送信に設定されています。海外の通信相手に原稿を送信したとき、送信エラーがよく発生する場合は、国際送信設定(1)〜国際送信設定(3)のいずれかを設定してみてください。
● 国際送信を設定するためには、あらかじめ通信機能の設定項目を有効にしておく必要があります。「通信機能設定の選択」(➔ ***P.6-23***)を参照してください。

1 国際送信の設定項目を選択します



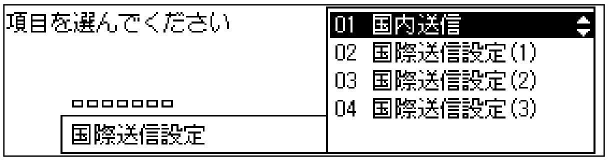
通信機能設定を有効にしたあと、▼または▲ボタンを押して“03 国際送信設定”を反転表示させます。



2 国際送信の種別を選択します

セット

セットボタンを押します。



▼または▲ボタンを押して、“02 国際送信設定(1)”、“03 国際送信設定(2)”、“04 国際送信設定(3)”のいずれかを反転表示させせます。

● まず、“02 国際送信設定（1）”を選択してみてください。エラーが解消されないときは、（2）、（3）の順に選択し、調整してみてください。

3 国際送信の設定を終了します

セット

セットボタンを押します。“04 送信スピード設定”の項目が反転表示されます。

● ストップボタンを押して、待機状態に戻ることもできます。

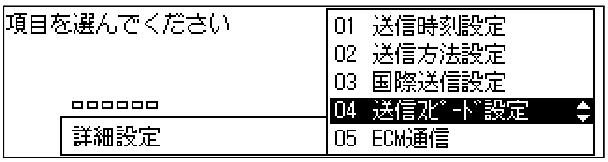
送信スピードの設定

ワンタッチダイヤル、短縮ダイヤルの登録時に、原稿を送信するときのスピードが設定できます。回線状態が安定している地域の通信相手には送信スピードを上げて、より快適な送信ができます。また回線状態が悪い地域の通信相手に原稿を送信するときなどに、通信エラーが発生しにくいように調整することができます。

● お買い上げ時、送信スピードは 33600bps に設定されています。14400bps、9600bps または 4800bps に変更することができます。
● 送信スピードを設定するためには、あらかじめ通信機能の設定項目を有効にしておく必要があります。「通信機能設定の選択」（→ **P.6-23**）を参照してください。

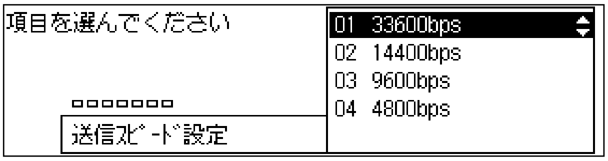
1 送信スピードの設定項目を選択します

通信機能設定を有効にしたあと、▼または▲ボタンを押して“04 送信スピード設定”を反転表示させせます。



2 送信スピードを選択します

セットボタンを押します。



▼または▲ボタンを押して“01 33600bps”、“02 14400bps”、“03 9600bps”、“04 4800bps”のいずれかを反転表示させます。

3 送信スピードの設定を終了します

セットボタンを押します。“05 ECM 通信”の項目が反転表示されます。

● ストップボタンを押して、待機状態に戻ることもできます。

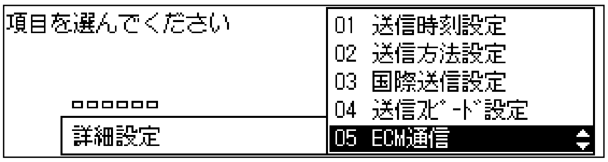
ECM 通信の設定

ワンタッチダイヤル、短縮ダイヤルの登録時に、ECM通信をするかどうか選択できます。ECM 通信とは、送信側と受信側のファクスで通信状態を確認しながら通信する方法です。回線の状態が悪いときでもより確実な通信ができます。

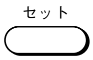
● お買い上げ時、ECM 通信は“する”に設定されています。
● ECM通信を設定するためには、あらかじめ通信機能の設定項目を有効にしておく必要があります。「通信機能設定の選択」(→ ***P.6-23***)を参照してください。

1 ECM 通信の設定項目を選択します

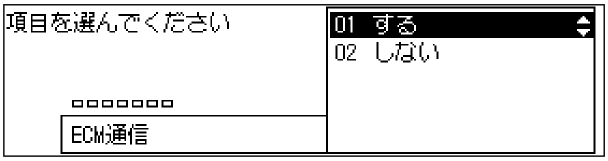
通信機能設定を有効にしたあと、▼または▲ボタンを押して“05 ECM 通信”を反転表示させます。



2 ECM通信するかどうか選択します



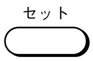
セットボタンを押します。





ECM通信する場合は“する”を、ECM通信しない場合は“しない”を、▼または▲ボタンを押して反転表示させせます。

3 ECM通信の設定を終了します



セットボタンを押します。他のワンタッチダイヤルまたは短縮ダイヤルの登録番号が表示されます。

● ストップボタンを押して、待機状態に戻ることもできます。

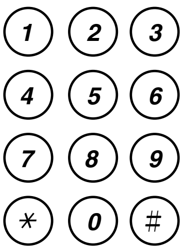
内線から送信する場合の登録例

通常、内線に接続している電話機から外線にかけるときは、外線発信番号が必要になります。
ここでは、本機が内線に接続されているとき、“03-3758-2111”の相手をワンタッチダイヤルの“01”に登録する方法を説明します。同様の手順で短縮ダイヤルに登録することもできます。なお、外線への発信番号は“0”とします。

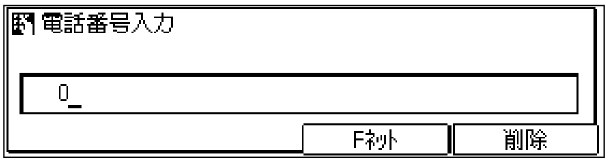
1 ワンタッチダイヤルの登録番号を選択します

具体的な操作手順は、「ワンタッチダイヤルの登録と使いかた」（→ **P.6-2**）を参照してください。

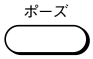
2 外線の発信番号を入力します



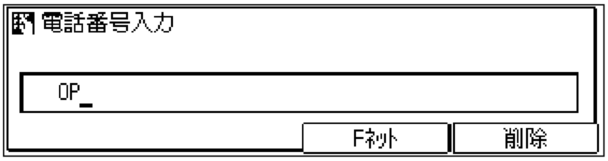
テンキーで、外線の発信番号0を入力します。



3 ポーズボタンを押します

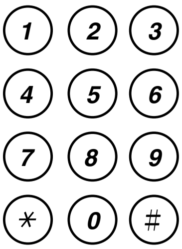


ポーズボタンを1回押すと、"P" が表示され2秒間のポーズ時間が設定されます。

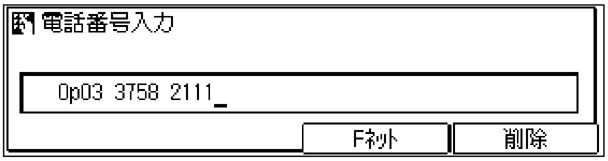


● あらかじめ、外線の発信番号をダイヤルしてから外線につながるまでの時間を確認しておき、必要に応じてポーズボタンを何度か押してください。

4 相手の電話番号を入力します



テンキーを使って、相手の電話番号を入力します。
番号を見やすくするためにスペースボタンで空白を入れてもかまいません。



● このあとの操作については、「ワンタッチダイヤルの登録と使いかた」(→ **P.6-2**)を参照してください。

メモ　*2秒間に設定されているポーズ時間を変更することができます。* → **P.8-32**

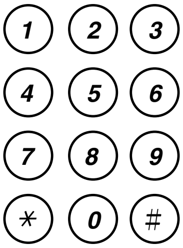
国際ダイヤル利用時の登録例

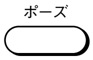
ワンタッチダイヤルや短縮ダイヤルに、海外の通信相手を登録することができます。海外の通信相手を登録するときは、あらかじめ「海外に送信するには」(→ **P.3-26**)を参照してください。

1 ダイヤルの登録番号を選択します

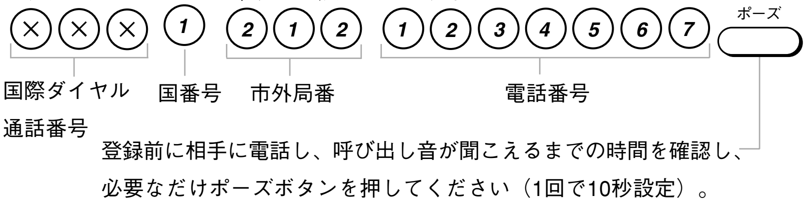
具体的な操作手順は、「ワンタッチダイヤルの登録と使いかた」(→ **P.6-2**)または「短縮ダイヤルの登録と使いかた」(→ **P.6-9**)を参照してください。

2 相手の電話番号を指定します





国際ダイヤル通話番号、相手の国番号、市外局番、電話番号の順で入力します。また、相手が出るまでの時間をあらかじめ確認しておき、ポーズボタンを使って調整します。

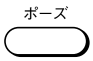


● このあとの操作については、「ワンタッチダイヤルの登録と使いかた」(➔**P.6-2**) または「短縮ダイヤルの登録と使いかた」(➔**P.6-9**) を参照してください。

メモ　*電話番号の最後にセットされるポーズ（大文字のPで表示）は、10秒間に設定されています。この設定時間は変更できません。*

海外への送信がうまくいかないとき

本機は、電話番号をダイヤルし終わって、相手からのファクス信号が返ってこないと、自動的に回線を切るしくみになっています。回線が自動的に切れたときは、通信管理レポートに“#018”のエラーコードが記録されます。



通信管理レポートに“#018”のエラーコードが記録されたときは、番号を入力したあと、最後にポーズボタンを2回押してみてください。それでもうまくいかないときは、さらにポーズボタンを押してみるようにしてください。

● 海外に送信したときに“#018”以外のエラーがよく発生する場合は、ワンタッチダイヤルや短縮ダイヤルへ登録するとき、通信機能の国際送信の設定を変更してみてください。➔ **P.6-28**

● ポーズ時間を追加したり、国際送信の設定を変更しても、海外への送信がうまくいかないときは、ご利用になる会社にお問い合わせください。

文字を登録するには

ワンタッチダイヤルボタンの01から61までを使って文字が入力できます。発信元情報、ワンタッチダイヤルや短縮ダイヤルなどを登録するときは、必要に応じてワンタッチダイヤルボタンで文字を入力してください。

メモ　*数字はテンキーを使って入力してください。*

入力モードについて

本機では、漢字、ひらがな、カタカナ、アルファベット（大文字、小文字)、記号、スペースなどを使って、略称などの文字を入力することができます。
漢字の読み、ひらがな、カタカナは、ワンタッチダイヤルパネルのA～Zまでのアルファベットの表示を参照しながらローマ字入力方式で入力することができます。ひらがな入力した文字は漢字に変換することもできます。

文字を入力するときには、つぎの6種類の入力モードが指定できます。

1. かな漢字モード
漢字やひらがなを入力するためのモードです。ディスプレイの右端に「かな漢字」と表示されます。 ➔ ***P.6-36***

2．カタカナモード
カタカナを入力するためのモードです。ディスプレイの右端に「カタカナ」と表示されます。 ➔ ***P.6-40***

3. 英大文字モード
アルファベットの大文字を入力するためのモードです。ディスプレイの右端に「英大」と表示されます。 ➔ ***P.6-41***

4. 英小文字モード
アルファベットの小文字を入力するためのモードです。ディスプレイの右端に「英小」と表示されます。 ➔ ***P.6-41***

5. 記号モード
記号を入力するためのモードです。ディスプレイの右端に「記号」と表示されます。 ➔ ***P.6-42***

6. コード入力モード
記号や読みのわからない漢字などを4桁のJISコードで入力するためのモードです。入力モードボタンの上に「区点コード」と表示されます。 ➔ ***P.6-43***

文字の入力方式

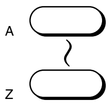
下記の表は、漢字の読み、ひらがな、カタカナを入力するときのローマ字入力規則の一覧表です。ワンタッチダイヤルパネルのＡ～Ｚまでのアルファベットの表示を参照しながら入力してください。

A	あ	ア	HA	は	ハ	GA	が	ガ	VU		ヴ	HYA	ひゃ	ヒャ
I	い	イ	HI	ひ	ヒ	GI	ぎ	ギ				HYU	ひゅ	ヒュ
U	う	ウ	HU,FU	ふ	フ	GU	ぐ	グ	XA	ぁ	ァ	HYO	ひょ	ヒョ
E	え	エ	HE	へ	ヘ	GE	げ	ゲ	XI	ぃ	ィ			
O	お	オ	HO	ほ	ホ	GO	ご	ゴ	XU	ぅ	ゥ	MYA	みゃ	ミャ
									XE	ぇ	ェ	MYU	みゅ	ミュ
KA	か	カ	MA	ま	マ	ZA	ざ	ザ	XO	ぉ	ォ	MYO	みょ	ミョ
KI	き	キ	MI	み	ミ	ZI,JI	じ	ジ						
KU	く	ク	MU	む	ム	ZU	ず	ズ	XYA	ゃ	ャ	RYA	りゃ	リャ
KE	け	ケ	ME	め	メ	ZE	ぜ	ゼ	XYU	ゅ	ュ	RYU	りゅ	リュ
KO	こ	コ	MO	も	モ	ZO	ぞ	ゾ	XYO	ょ	ョ	RYO	りょ	リョ
SA	さ	サ	YA	や	ヤ	DA	だ	ダ	XTU	っ	ッ	GYA	ぎゃ	ギャ
SI,SHI	し	シ	YU	ゆ	ユ	DI	ぢ	ヂ				GYU	ぎゅ	ギュ
SU	す	ス	YO	よ	ヨ	DU	づ	ヅ	KYA	きゃ	キャ	GYO	ぎょ	ギョ
SE	せ	セ				DE	で	デ	KYU	きゅ	キュ			
SO	そ	ソ	RA	ら	ラ	DO	ど	ド	KYO	きょ	キョ	ZYA,JA	じゃ	ジャ
			RI	り	リ							ZYU,JU	じゅ	ジュ
TA	た	タ	RU	る	ル	BA	ば	バ	SYA,SHA	しゃ	シャ	ZYO,JO	じょ	ジョ
TI,CHI	ち	チ	RE	れ	レ	BI	び	ビ	SYU,SHU	しゅ	シュ			
TU,TSU	つ	ツ	RO	ろ	ロ	BU	ぶ	ブ	SYO,SHO	しょ	ショ	DYA	ぢゃ	ヂャ
TE	て	テ				BE	べ	ベ				DYU	ぢゅ	ヂュ
TO	と	ト	WA	わ	ワ	BO	ぼ	ボ	TYA,CHA	ちゃ	チャ	DYO	ぢょ	ヂョ
			WO	を	ヲ				TYU,CHU	ちゅ	チュ			
NA	な	ナ				PA	ぱ	パ	TYO,CHO	ちょ	チョ	BYA	びゃ	ビャ
NI	に	ニ	NN	ん	ン	PI	ぴ	ピ				BYU	びゅ	ビュ
NU	ぬ	ヌ				PU	ぷ	プ	NYA	にゃ	ニャ	BYO	びょ	ビョ
NE	ね	ネ				PE	ぺ	ペ	NYU	にゅ	ニュ			
NO	の	ノ				PO	ぽ	ポ	NYO	にょ	ニョ	PYA	ぴゃ	ピャ
												PYU	ぴゅ	ピュ
												PYO	ぴょ	ピョ

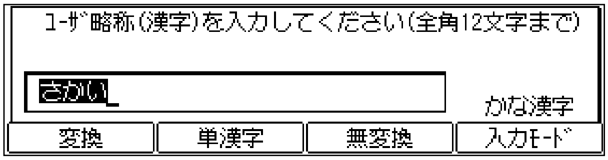
漢字やかなを入力するときは

ディスプレイの右端に「かな漢字」と表示されているとき、漢字やひらがなが入力できます。表示されていないときは、入力モードボタンを何度か押して「かな漢字」と表示させてください。
たとえば、「坂井めぐみ」と入力するときは、つぎの手順で操作してください。ここではユーザ略称を登録するときの画面を例に説明しています。

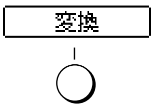
1 漢字の読みを入力します



A～Zのワンタッチダイヤルボタンを組み合わせて、SAKAIと入力します。



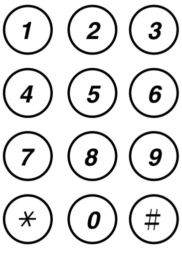
2 漢字を選択します



変換ボタンを押し、漢字の候補を表示させます。

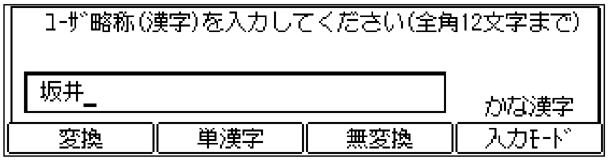


● 適切な漢字が表示されないときは、▼または▲ボタンあるいは変換ボタンで他の候補を表示させることができます。

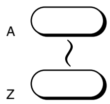


テンキーで、適切な漢字の番号を指定します。

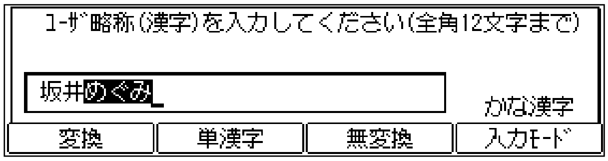
● ▼または▲ボタンあるいは変換ボタンを押しても、適切な漢字の候補が表示されないときは、「単漢字」方式で漢字を1文字ずつ入力してください。→ P.6-37

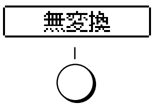


3 ひらがなを入力します

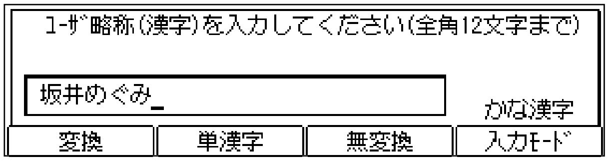


A ～ Z のワンタッチダイヤルボタンを組み合わせて、MEGUMI と入力します。





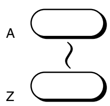
無変換ボタンを押します。



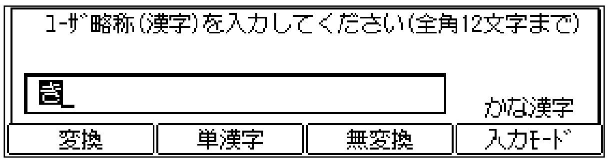
漢字を 1 文字ずつ入力するには（単漢字変換）

漢字を 1 文字ずつ入力するときは、1 文字分の読みを入力して単漢字ボタンで変換してください。
たとえば、「木」という文字を入力するときは、つぎの手順で操作してください。

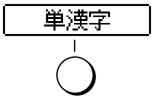
1 漢字の読みを入力します。



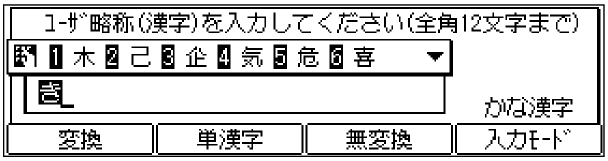
A ～ Z のワンタッチダイヤルボタンで、KI と入力します。



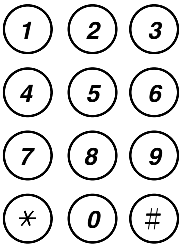
2 漢字を選択します



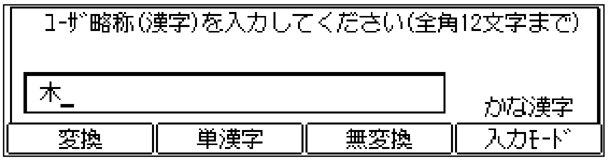
単漢字ボタンを押し、漢字の候補を表示させます。



● 適切な漢字が表示されないときは、▼または▲ボタンあるいは単漢字ボタンで他の候補を表示させることができます。



テンキーで、適切な漢字の番号を指定します。



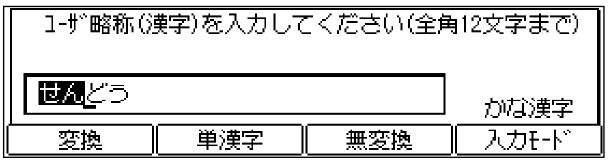
読みを区切って１文字ずつ入力するには

2文字以上の漢字の読みを入力して変換した場合、適切な漢字が表示されなかったときは、読みを細かく区切って単漢字変換してください。
たとえば、「仙道」という漢字を入力したいのに、変換ボタンで表示できなかったときは、つぎの手順で操作してください。

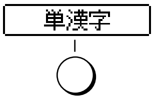
1 読みの区切りを指定します



読みが適切に区切られるまで、◀または▶ボタンを押します。



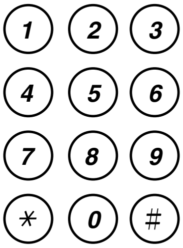
2 漢字を選択します



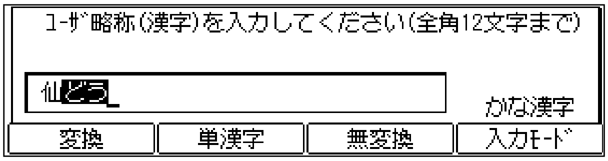
単漢字ボタンを押し、漢字の候補を表示させます。



● 適切な漢字が表示されないときは、▼または▲ボタンあるいは単漢字ボタンで他の候補を表示させることができます。



テンキーで、適切な漢字の番号を指定します。



3 つぎの漢字を選択します

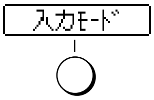
手順2と同じ要領で、適切な漢字を入力してください。

● 入力を間違えたときは、削除ボタンまたは◀ボタンを押して直前に入力した文字を削除してから入力しなおしてください。クリアボタンを押して最初から入力しなおすこともできます。
● 漢字を1文字ずつ単漢字変換で入力することもできます。➔ P.6-37
● 2文字以上の漢字の読みを入力して変換した場合、適切な漢字が表示されなかったときは、読みを細かく区切って単漢字変換で入力することもできます。➔ P.6-38
● スペースボタンで空白を入れることができます。
● ユーザ略称や発信人名称などを漢字で登録すると、相手機が漢字に対応したキヤノンのファクスであれば相手の通信管理レポートなどにこちらのユーザ略称や発信人名称などが漢字でプリントされます。ただし、相手機がサポートしていない第二水準漢字を使用した場合、その漢字がプリントされるべき場所はスペース（空白)になります。

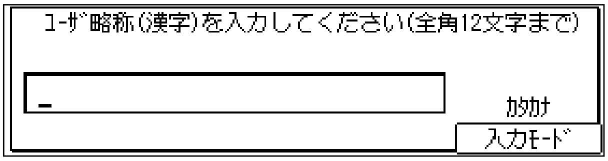
カタカナを入力するときは

ディスプレイの右端に「カタカナ」と表示されているとき、カタカナが入力できます。
たとえば、「キヤノン」と入力するときは、つぎのように操作します。

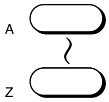
1 入力モードを切り替えます



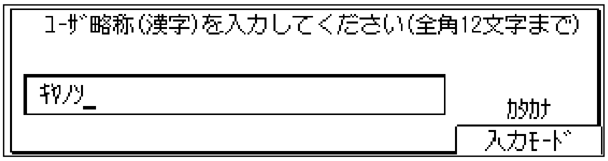
入力モードボタンを何度か押して、「カタカナ」と表示させます。



2 カタカナを入力します



A ～ Z のワンタッチダイヤルボタンを組み合わせて、KIYANONN と入力します。

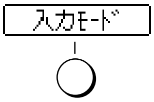


- 入力を間違えたときは、削除ボタンまたは ◀ ボタンを押して直前に入力した文字を削除してから入力しなおしてください。クリアボタンを押して最初から入力しなおすこともできます。
- スペースボタンで空白を入れることができます。

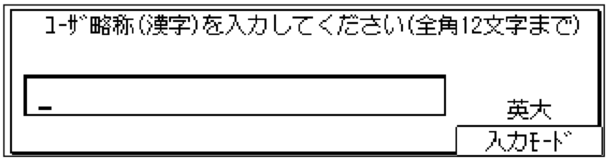
アルファベットを入力するときは

ディスプレイの右端に、「英大」と表示されているときはアルファベットの大文字が、「英小」と表示されているときはアルファベットの小文字が入力できます。
たとえば、「Canon」と入力するときは、つぎのように操作します。

1 入力モードを切り替えます



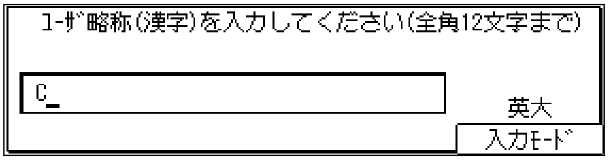
入力モードボタンを何度か押して、ディスプレイの右端に「英大」と表示させます。



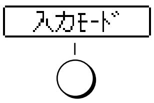
2 文字を入力します



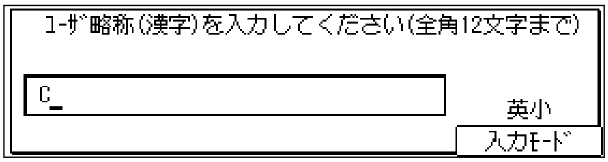
ワンタッチダイヤルボタンで、C を入力します。



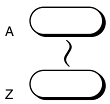
3 入力モードを切り替えます



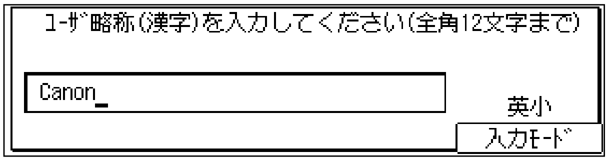
入力モードボタンを押し、ディスプレイ右端に「英小」と表示させます。



4 文字を入力します



A～Zのワンタッチダイヤルボタンを組み合わせて、ANONと入力します。

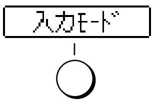


- 入力を間違えたときは、削除ボタンまたは◀ボタンを押して直前に入力した文字を削除してから入力しなおしてください。クリアボタンを押して最初から入力しなおすこともできます。
- スペースボタンで空白を入れることができます。

記号を入力するには

記号を入力するときは、つぎの手順で操作してください。

1 入力モードを切り替えます



入力モードボタンを何度か押して、ディスプレイの右端に「記号」と表示させます。



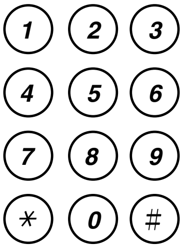
2 目的の記号をさがします



目的の記号が表示されるまで、▼または▲ボタンを押してください。



3 記号を指定します



目的の記号が表示されたら、その記号の番号をテンキーで指定します。



- かな漢字モード、カタカナモード、英大文字モード、英小文字モードでも、ワンタッチダイヤルボタンの27から61までを使って、直接記号を入力することができます。ワンタッチダイヤルパネルの記号の表示を参照して、目的の記号を入力してください。
- 入力を間違えたときは、削除ボタンまたは◀ボタンを押して直前に入力した文字を削除してから入力しなおしてください。クリアボタンを押して最初から入力しなおすこともできます。

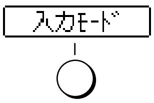
コードで入力するには

文字や記号をコードで入力することができます。読みのわからない漢字などの入力に便利です。
たとえば、「亜」を入力するときは、つぎの手順で操作してください。

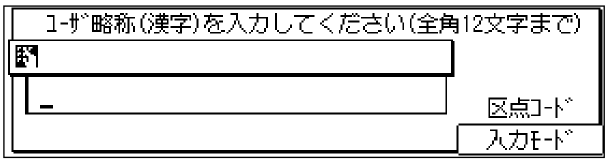
1 文字や記号のコードを区点コード表で調べます

入力したい文字を区点コード表（➔ **P.10-13,10-19**）で探します。区点コード表のその文字がある位置の、左端の番号と上端の番号を組合わせた4桁の番号が区点コードになります。
「亜」の区点コードは「1601」です。

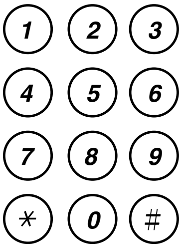
2 入力モードを切り替えます



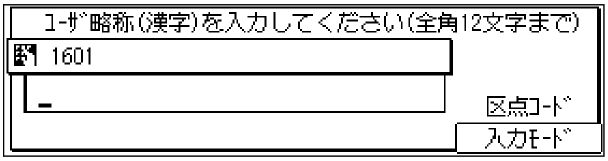
入力モードボタンを何度か押して、ディスプレイの右端に「区点コード」と表示させます。



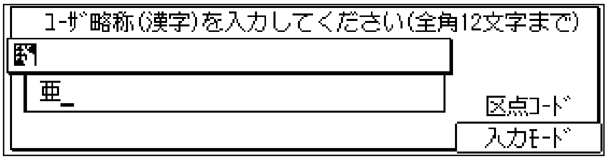
3 コードを指定します



テンキーで、文字や記号のコードを入力します。



コード番号の最後の桁を入力すると、4桁のコードに適合する文字が表示されます。

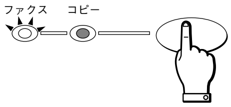


- 入力を間違えたときは、削除ボタンまたは◀ボタンを押して直前に入力した文字を削除してから入力しなおしてください。クリアボタンを押して最初から入力しなおすこともできます。
- ユーザ略称や発信人名称などを漢字で登録すると、相手機が漢字に対応したキヤノンのファクスであれば相手の通信管理レポートなどにこちらのユーザ略称や発信人名称などが漢字でプリントされます。ただし、相手機がサポートしていない第二水準漢字を使用した場合、その漢字がプリントされるべき場所はスペース(空白)になります。

登録した電話番号を確認するには

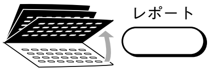
ワンタッチダイヤル、短縮ダイヤル、グループダイヤルに登録されている内容を電話番号リストで確認することができます。

1 ファクスモードにします



ファクス／コピー切り替えボタンを押して、ファクスランプを点灯させてください。

2 レポートの項目を表示させます



ワンタッチダイヤルパネルを3枚開いて、レポートボタンを押します。

項目を選んでください	01 通信管理ﾚﾎﾟｰﾄ
	02 ﾀﾞｲﾔﾙﾘｽﾄ
	03 ﾕｰｻﾞﾃﾞｰﾀ
	04 原稿ﾘｽﾄ
ﾚﾎﾟｰﾄ	05 親展ﾒﾓﾘﾚﾎﾟｰﾄ

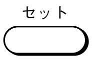
3 ダイヤルリストを選択します



▼または▲ボタンを押して、“02 ダイヤルリスト”を反転表示させます。

項目を選んでください	01 通信管理ﾚﾎﾟｰﾄ
	02 ﾀﾞｲﾔﾙﾘｽﾄ
	03 ﾕｰｻﾞﾃﾞｰﾀ
	04 原稿ﾘｽﾄ
ﾚﾎﾟｰﾄ	05 親展ﾒﾓﾘﾚﾎﾟｰﾄ

4 電話番号リストの種類を選択します



セットボタンを押します。

項目を選んでください	01 ﾜﾝﾀｯﾁﾀﾞｲﾔﾙﾘｽﾄ1
	02 短縮ﾀﾞｲﾔﾙﾘｽﾄ1
	03 ﾜﾝﾀｯﾁﾀﾞｲﾔﾙﾘｽﾄ2
	04 短縮ﾀﾞｲﾔﾙﾘｽﾄ2
ﾀﾞｲﾔﾙﾘｽﾄ	05 ｸﾞﾙｰﾌﾟﾀﾞｲﾔﾙﾘｽﾄ

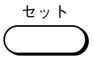
▼または▲ボタンを押して、プリントする電話番号リストを反転表示させます。

“01 ワンタッチダイヤルリスト1”、“02 短縮ダイヤルリスト1”
ワンタッチダイヤルや短縮ダイヤルに登録された､相手の電話番号や相手先略称、送信方法および送信時間が確認できます。

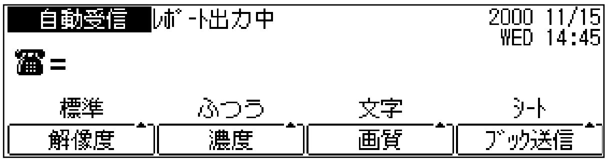
“03 ワンタッチダイヤルリスト2”、“04 短縮ダイヤルリスト2”
ダイヤルリスト1の内容にくわえ、送信スピードやFコードなど詳細な登録内容が確認できます。

“05 グループダイヤルリスト”
グループダイヤルに登録されたワンタッチダイヤルや短縮ダイヤルが確認できます。

5 電話番号リストをプリントします。



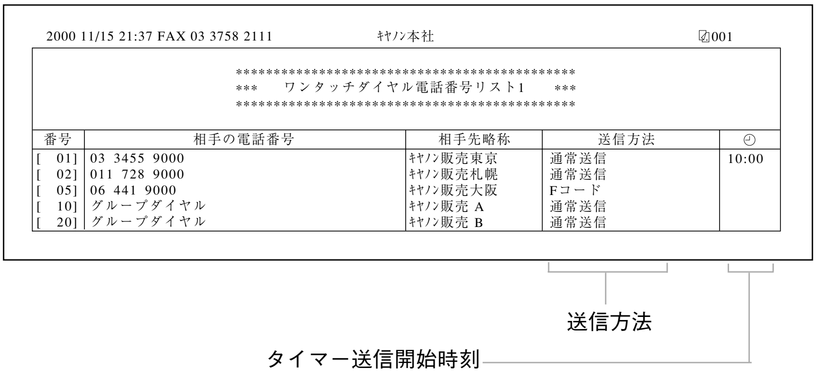
セットボタンをおします。



電話番号リストのプリントがはじまります。

● 送信中は電話番号リストのプリントに時間がかかることがあります。

ワンタッチダイヤル電話番号リスト1



2000 11/15 21:37 FAX 03 3758 2111　　ｷﾔﾉﾝ本社　　001

****
***　ワンタッチダイヤル電話番号リスト1　***
****

番号	相手の電話番号	相手先略称	送信方法	◴
[01]	03 3455 9000	ｷﾔﾉﾝ販売東京	通常送信	10:00
[02]	011 728 9000	ｷﾔﾉﾝ販売札幌	通常送信	
[05]	06 441 9000	ｷﾔﾉﾝ販売大阪	Fコード	
[10]	グループダイヤル	ｷﾔﾉﾝ販売 A	通常送信	
[20]	グループダイヤル	ｷﾔﾉﾝ販売 B	通常送信	

短縮ダイヤル電話番号リスト１

2000 11/15 21:38 FAX 03 3758 2111　　キヤノン本社　　001

****

***　短縮ダイヤル電話番号リスト1　***

****

番号	相手の電話番号	相手先略称	送信方法	◴
[*000]	082 248 9000	キヤノン販売広島	通常送信	
[*001]	0878 21 9000	キヤノン販売高松	通常送信	
[*002]	092 411 9000	キヤノン販売福岡	通常送信	

グループダイヤル電話番号リスト

2000 11/15 15:14 FAX 03 3758 2111　　キヤノン本社　　001

****

***　グループダイヤル電話番号リスト　***

****

[10] キヤノン販売B	[*001]	0878 21 9000	キヤノン販売高松
	[02]	011 728 9000	キヤノン販売札幌
	[04]	06 441 9000	キヤノン販売大阪
[20] キヤノン販売A	[*000]	092 412 9000	キヤノン販売福岡
	[01]	03 3455 9000	キヤノン販売
	[04]	06 441 9000	キヤノン販売大阪

ワンタッチ電話番号リスト２

2000 11/15 15:15 FAX 03 3758 2111　　キヤノン本社　　001

****

***　ワンタッチダイヤル電話番号リスト2　***

****

[01]	相手の電話番号	03 3455 9000
	相手先略称	キヤノン販売
	送信スピード	33600bps(0)
	送信方法	通常送信
	ECM通信	する
[02]	相手の電話番号	011 728 9000
	相手先略称	キヤノン販売札幌
	送信スピード	14400bps(0)
	送信方法	Ｆコード送信
	Fコード	123456789
	ECM通信	する
[03]	相手の電話番号	022 265 9000
	相手先略称	キヤノン販売仙台
	送信時刻	(1)10:00　(2)12:00　(3)13:00　(4)14:00　(5)15:00
	送信スピード	9600bps(0)
	送信方法	通常送信
	ECM通信	しない
[10]	相手の電話番号	グループダイヤル
	相手先略称	キヤノン販売 B
[20]	相手の電話番号	グループダイヤル
	相手先略称	キヤノン販売 A

短縮ダイヤル電話番号リスト２

2000 11/15 15:17 FAX 03 3758 2111　　ｷﾔﾉﾝ本社　　☑001

****
***　短縮ダイヤル電話番号リスト2　***
****

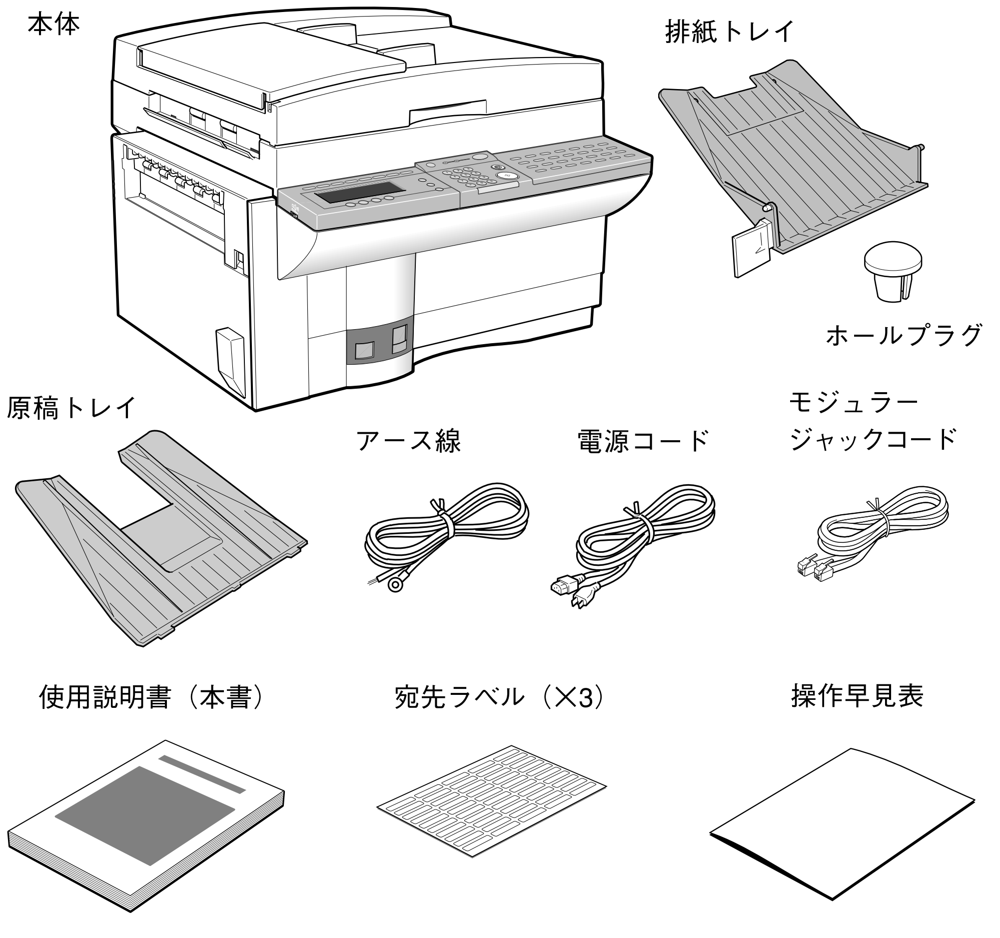
[*000]	相手の電話番号	092 412 9000
	相手先略称	ｷﾔﾉﾝ販売福岡
	送信スピード	14400bps(0)
	送信方法	通常送信
	ECM通信	する
[*001]	相手の電話番号	0878 21 9000
	相手先略称	ｷﾔﾉﾝ販売高松
	送信時刻	(1)08:30　(2)09:00　(3)12:00　(4)15:00　(5)17:00
	送信スピード	9600bps(0)
	送信方法	通常送信
	ECM通信	する

第 7 章

回線などの確認と発信元情報の登録

そろっていますか？

お買い上げいただいたファクスには、本体と以下の付属品が含まれています。ご確認ください。



その他	・保証書 ・サービス店シール	・保守契約制度のご案内

本機には以下のオプションが接続できます。くわしくはお買い上げの販売店にお問い合せください。

・FXL- カセットフィーダ 3
・ハンドセットキット L4
・オプションメモリ VIII-2（8MB）
・2 回線ボード（マルチポートユニット 2）

お使いになる前の確認

本機の設置や移動は、基本的にはサービスマンが行います。ただし、何らかの原因で付属品や回線がはずれたときなどは、ここで示しているページの説明を参照し、お客様ご自身で処理することができます。
ご購入時に設定したお客様情報（日付／時刻や電話番号、会社や部門の名称など）についても、ここで示しているページの説明を参照し、追加、変更することができます。

同梱品の確認　「そろっていますか?」（→ ***P.7-2***）
付属品の取り付け「付属品の取り付け」（→ ***P.7-4***）
電話回線の設定や電源について
「電話回線の接続と電源の入れかた」（→ ***P.7-6***）
電話回線の接続「電話回線の接続」（→ ***P.7-6***）
電話機の接続「電話機の接続」（→ ***P.7-7***）
オプションのハンドセットの接続
「オプションハンドセットの接続」（→ ***P.7-8***）
電源コードの接続「電源の位置と入れかた」（→ ***P.7-9***）
電源の入れかた「電源の位置と入れかた」（→ ***P.7-9***）
回線種類の設定「電話回線の種類を設定するには」
（→ ***P.7-10***）
お客様情報（発信元情報）の登録「発信元の情報を登録するには」
（→ ***P.7-12***）
日付と時刻の登録「日付と時刻の登録」（→ ***P.7-14***）
電話番号の登録「電話番号の登録」（→ ***P.7-16***）
会社や部門の名称の登録　「会社や部門の名称の登録」
（→ ***P.7-17***）
発信人名称の登録「発信人名称の登録」（→ ***P.7-19***）

お願い　*本機を移動するときは、必ずお買い求めの販売店にご連絡ください。お客様ご自身で移動した場合、本機が故障しても、当社では一切の責任を負いかねます。あらかじめご了承ください。*

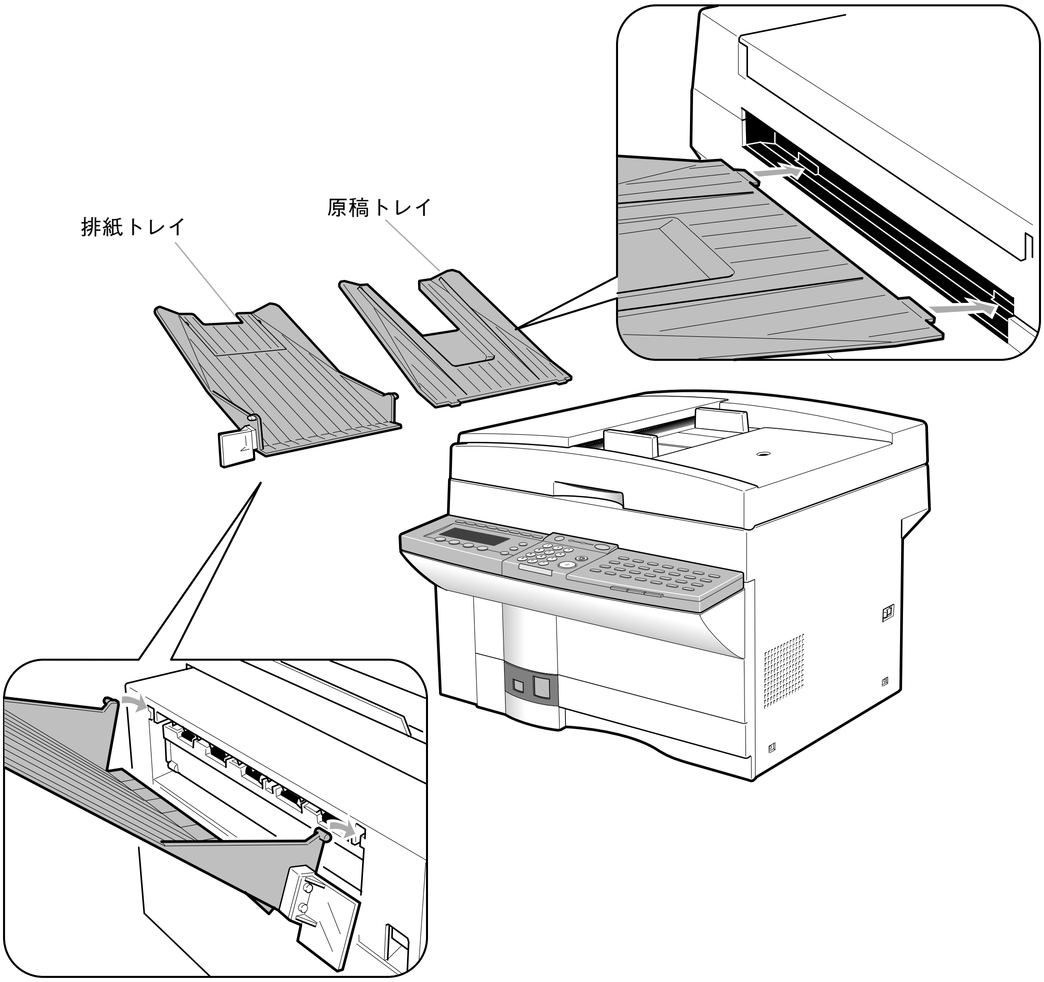
メモ　*お客様情報（発信元情報）を登録しなくても、基本的な送信や受信はできます。ただし、機能によっては、登録されていないと使用できないものもあります。*

付属品の取り付け

図にしたがってそれぞれの付属品を正しく取り付けてください。

トレイの取り付け

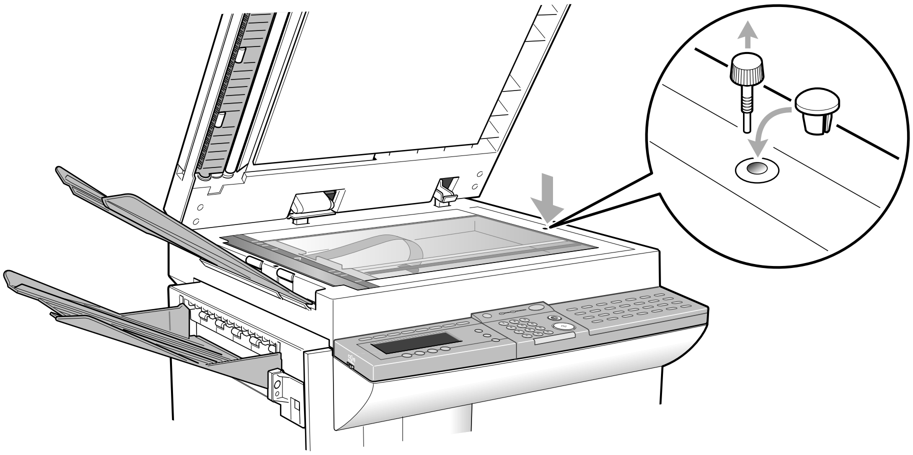
原稿トレイと排紙トレイを取り付けます。まず排紙トレイを差し込みます。それと平行になるように原稿トレイを差し込みます。



お願い　*原稿トレイは必ず図のところに差し込んでください。*

ホールプラグの取り付け

原稿台カバーを開き、原稿台ガラス右側のオレンジ色のネジをはずします。
ネジをはずした穴にホールプラグを取り付けます。



お願い

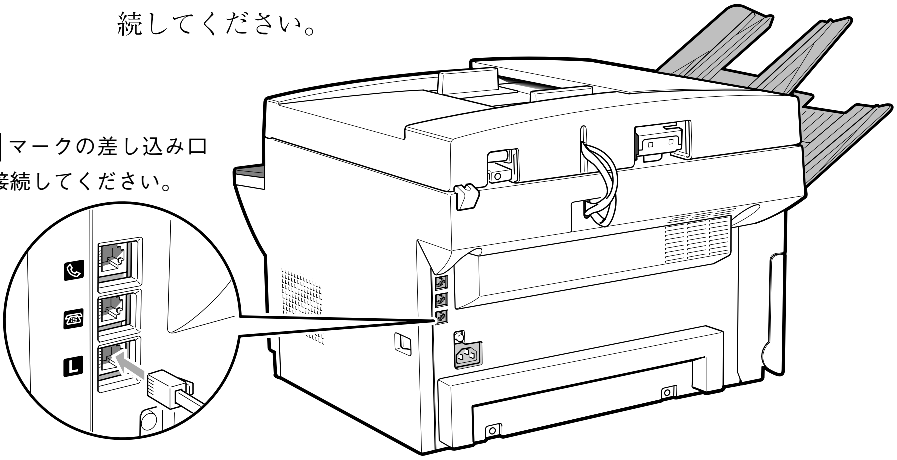
原稿台ガラス右側のオレンジ色のネジは、電源を入れる前に必ずはずし、付属のホールプラグに差し替えてください。オレンジ色のネジをつけたまま電源を入れると故障の原因となることがあります。

電話回線の接続と電源の入れかた

壁側に設置されている電話回線用のコンセントを確認し、電話回線を正しく接続してください。

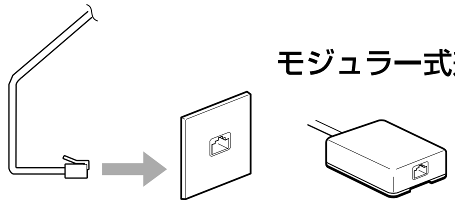
電話回線の接続

壁側のコンセントを確認してから、モジュラージャックコードを接続してください。



L マークの差し込み口に接続してください。

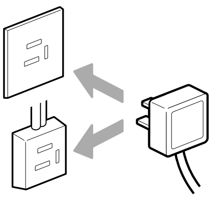
モジュラー式差込口の場合は



電話用コンセント

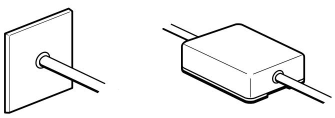
モジュラー式電話機プレートまたはモジュラージャックはそのままつなげます。

3ピンプラグ式コンセントの場合は



3ピンプラグ式コンセントの場合は市販の3ピンプラグ交換アダプタをお買い求めください。

直結配線コンセントの場合は



モジュラー式差込口に変える必要があります。工事には資格が必要です。NTT窓口にご相談ください。

※PBXをお使いの場合は販売店にご相談ください。

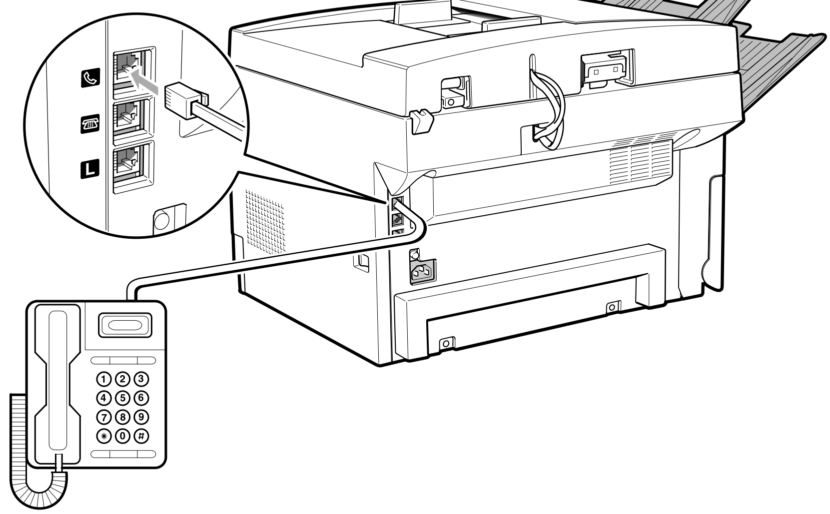
メモ

*オプションの2回線ボードを取り付けている場合、電話回線の接続先がここでの説明とは異なります。接続のしかたについては「オプションの2回線ボードについて」（➔ **P.10-6**）を参照してください。*

電話機の接続

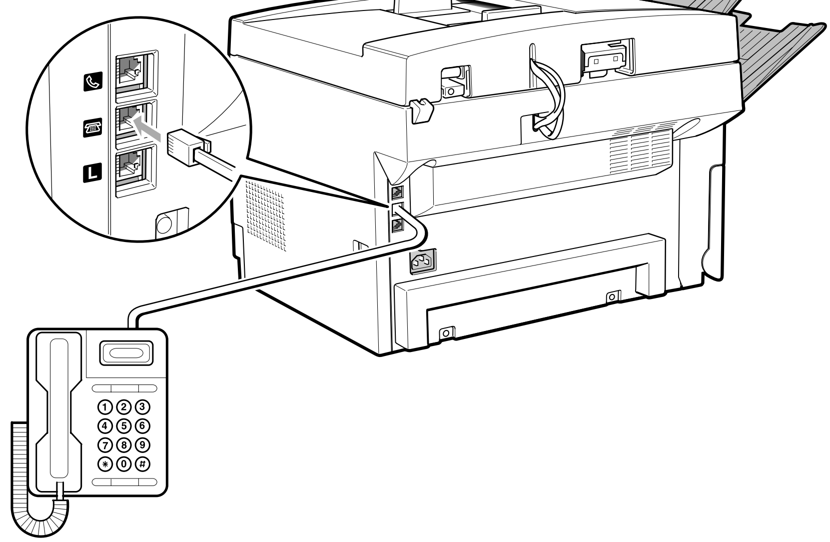
一般の電話機や留守番電話機などを接続します(ビジネスホンは接続できません)。

📞マークの差し込み口に
接続してください。



上記の他にもう一台電話機を接続できます。

☎マークの差し込み口に
接続してください



メモ　*オプションの2回線ボードを取り付けている場合、電話機接続端子に電話回線を接続します。このため、電話機接続端子には電話機を接続できません。*

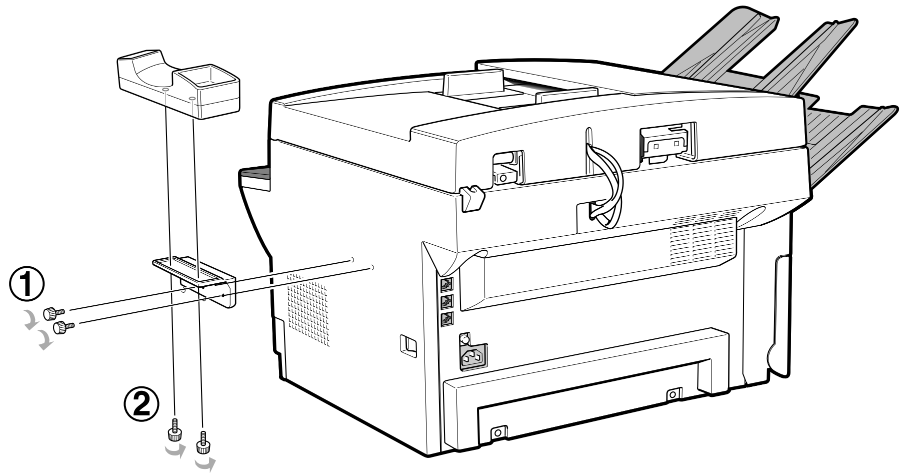
➔ **P.10-6**

オプションハンドセットの接続

オプションのハンドセットキット L4 は、次の手順で接続してください。

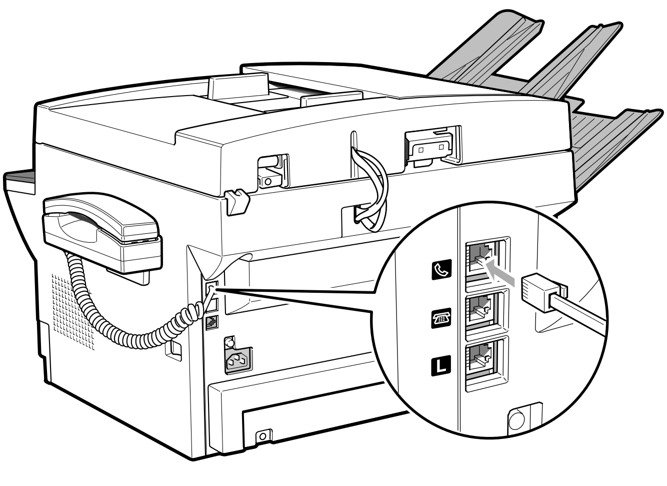
1 ハンドセットの置き台と置き台ホルダを本体に取り付けます

まず、付属のネジで置き台ホルダを本体に装着し、そのうえにハンドセットの置き台を載せ、付属のネジで固定してください。



2 コードを接続します

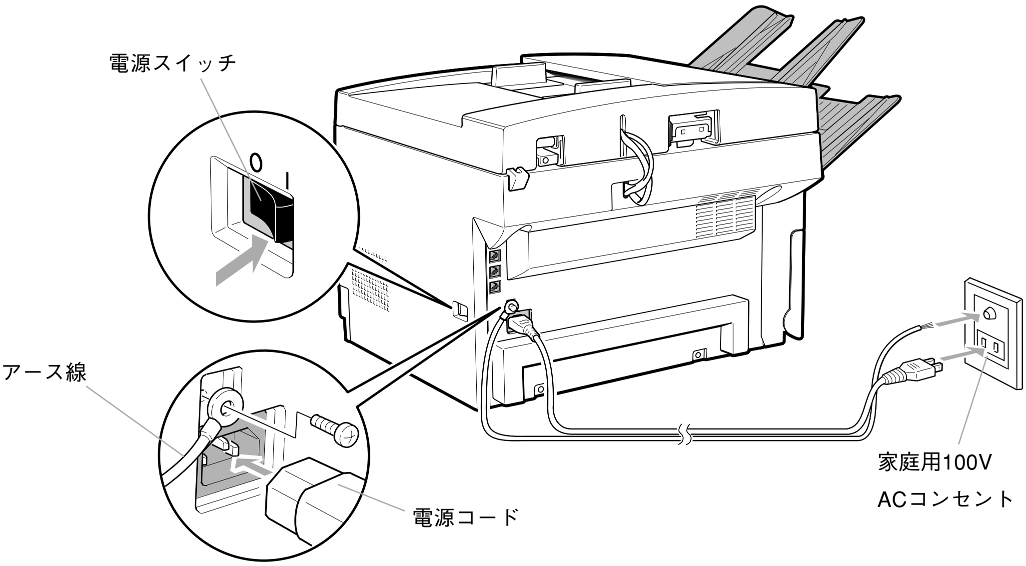
ハンドセットを置き台に載せ、カールコードを接続します。



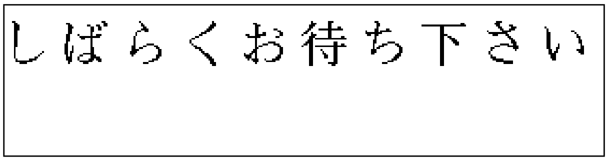
マークの差し込み口に接続してください。

電源の位置と入れかた

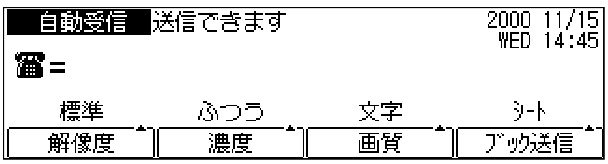
家庭用100VのACコンセントに電源コードを接続し、アース線も正しく接続してください。電源スイッチは本体の右側にあります。

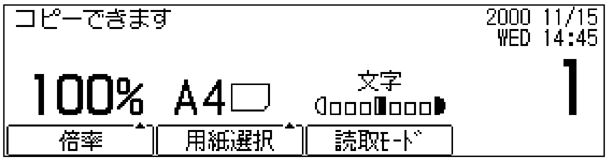


● 電源スイッチを入れると、つぎのように表示されます。



● 使用できる状態になると、次のどちらかが表示されます。





⚠注意

アース線を接続してください。アース線を接続しないで、万一漏電した場合は、火災や感電の原因となることがあります。

電話回線の種類を設定するには

電話回線は、NTTとお客様の契約にもとづいて設定されています。ダイヤル回線（パルス回線）かプッシュ回線（トーン回線）かを確認し、正しく設定してください。

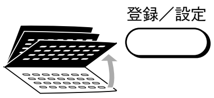
回線の種類を確認するには

本機は、あらかじめ20PPSのダイヤル回線に設定されています。117（時報）や177（天気予報）にダイヤルしてつながったときは、そのまま使用してください。

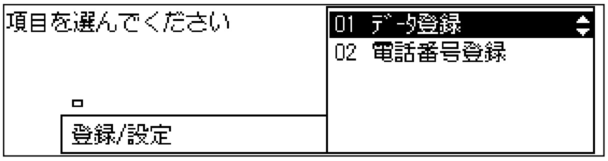
● 時報や天気予報につながらないときはプッシュ回線をセットしてください。

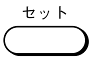
回線の種類を変更するには

1 回線の設定項目を表示させます

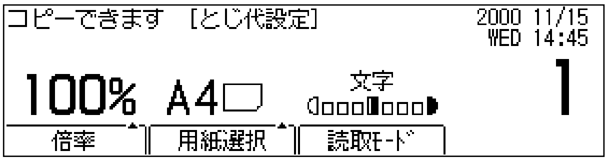


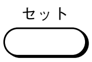
ワンタッチダイヤルパネルを3枚開いて、登録／設定ボタンを押します。



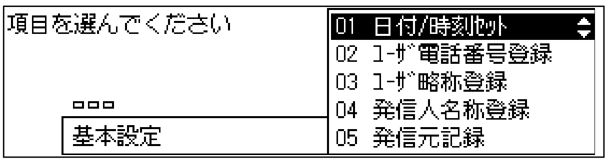


セットボタンを押します。



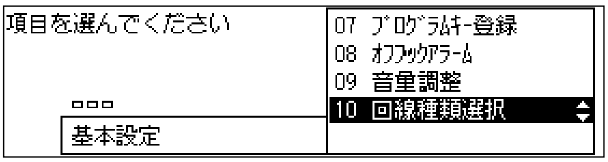


セットボタンを押します。

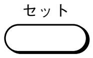




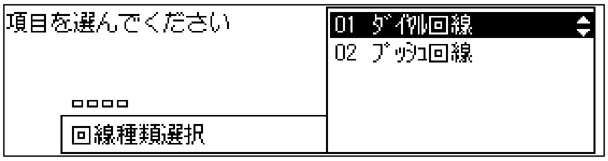
▼または▲ボタンを押して、“10 回線種類選択” を反転表示させます。



2 現在設定されている回線の種類を確認します



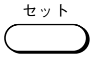
セットボタンを押します。現在設定されている回線種類が反転表示されます。



3 回線種類を選択します

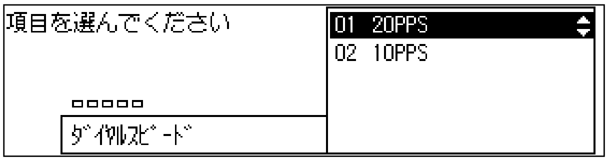


▼または▲ボタンを押して"01 ダイヤル回線"、"02 プッシュ回線"のいずれかを反転表示させます。



セットボタンを押します。反転表示されていた回線種類が設定されます。

- "01 ダイヤル回線"を設定したときは、つぎの項目が表示されます。手順 4 に進んでください。

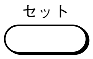


- "02 プッシュ回線"を設定したときは、回線種類の登録が終了し、"02 レポート設定"の項目が反転表示されます。ストップボタンで待機状態に戻ってください。

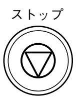
4 ダイヤルスピードを選択します



▼または▲ボタンを押して、"01 20PPS"、"02 10PPS"のいずれかを反転表示させます。



セットボタンを押します。回線種類の登録が終了し、"02 レポート設定"の項目が反転表示されます。



ストップボタンを押すと待機状態に戻ります。

メモ

- *操作の途中でも、ストップボタンを押せば、いつでも待機状態に戻ることができます。*
- *オプションの2回線ボードを取り付けている場合、ここで設定する回線種類のほか、もう1回線の回線種類の設定が必要です。*➔ **P.10-10**

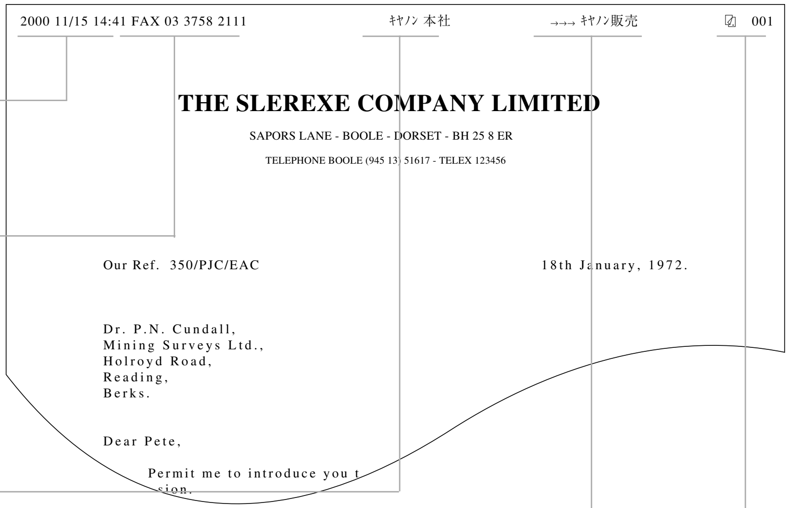
発信元の情報を登録するには

原稿を送信したとき、相手先ファクスの記録紙にこちらの電話番号や名前がプリントされるように設定されています。相手先では誰からの送信かすぐに知ることができます。これを発信元情報と呼びます。

発信元情報が登録されると

原稿を送信したとき、通信相手の記録紙につぎの情報が発信元記録としてプリントされます。相手の機種によっては、通信中、ディスプレイなどに表示されます。

● 登録した発信元情報の内容は、ユーザーデータリストで確認できます。
➔ ***P.8-46***



日付と時刻
送信の日付と時刻が記録されます。➔ ***P.7-14***

電話番号（20桁）
こちらの電話番号が記録されます。➔ ***P.7-16***
“FAX”を“TEL”に代えることもできます
➔ ***P.8-28***

こちらの名前
登録した会社や部署の略称（ユーザ略称）、または発信人の名前が記録されます。➔ ***P.7-17***

相手の名前
ワンタッチダイヤルや短縮ダイヤルを使用した場合、登録されている名前が記録されます。
➔ ***P.6-2,6-9***

ページ数
何枚目の原稿か記録されます。

発信元情報の登録方法について

発信元情報の各項目は、登録／設定ボタンを使った一連の操作で登録できます。ひとつの項目を登録すると自動的に次の項目が表示されます。各項目は別々に登録することもできます。

- 登録操作の途中でも、ストップボタンを押して待機状態に戻ることができます。

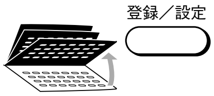
メモ

- *発信元情報を登録しなくても原稿は送信できます。発信元情報は原稿をコピーするときは記録されません。*
- *発信元記録をつけないように設定することもできます。* → **P.8-28**

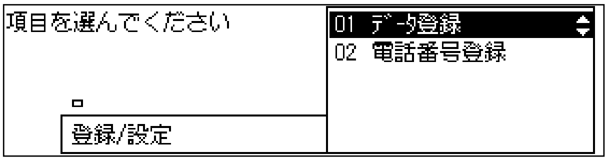
日付と時刻の登録

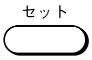
日付は年月日の順で表示されます。時刻は24時間制で表示されます。

1 基本設定の項目を表示させます

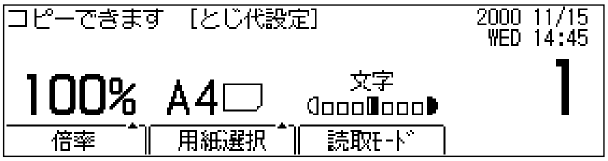


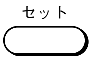
ワンタッチダイヤルパネルを3枚開いて、登録／設定ボタンを押します。



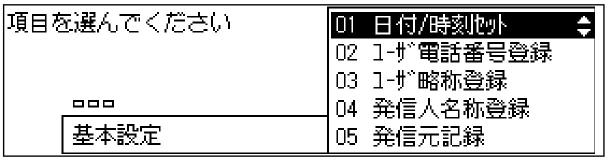


セットボタンを押します。

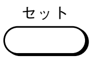




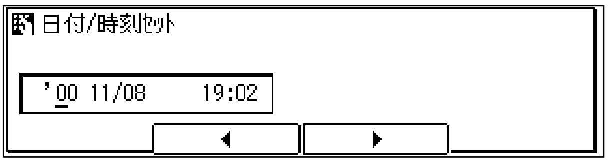
セットボタンを押します。



2 日付と時刻の登録項目を表示させます

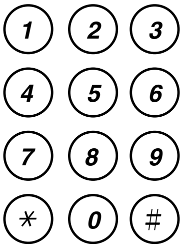


セットボタンを押します。現在設定されている年月日と時刻が表示されます。

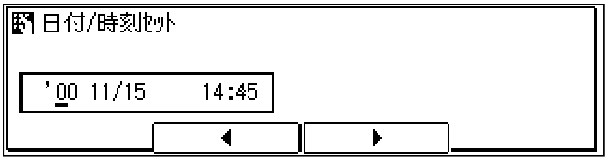


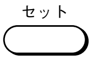
- 時刻は24時間制で表示されます。年月日の表示順は、変更することができます。 ➔ **P.8-40**（日付タイプ）
- 日付登録時に西暦は2000～2089年が00～89のように下2桁で表示され、待機時のディスプレイ表示の西暦は4桁で表示されます。

3 日付と時刻を登録します



テンキーで現在の年月日、時刻をそれぞれ2桁で入力します。間違えたときは、クリアボタンを押してから入力しなおしてください。





セットボタンを押します。「登録しました」とメッセージが表示されたあと、自動的に“02 ユーザ電話番号登録”の項目が反転表示されます。 → ***P.7-16***

● ストップボタンを押すと、待機状態に戻ることができます。

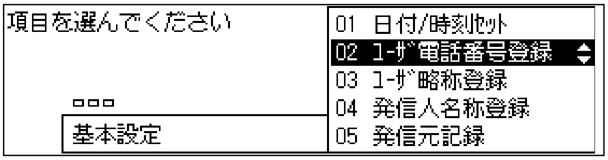
電話番号の登録

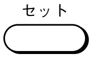
電話番号は20桁まで登録できます。

1 電話番号の登録項目を表示させます

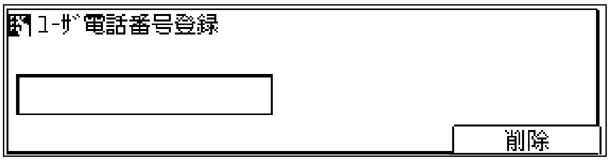
日付と時刻の登録が終了すると、自動的に“02 ユーザ電話番号登録”が反転表示されます。

● 日付と時刻の手順1の最後で、▼ボタンを押して反転表示させることもできます。➔ ***P.7-14***



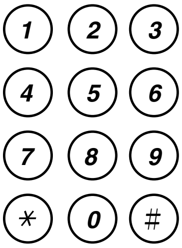


セットボタンを押します。

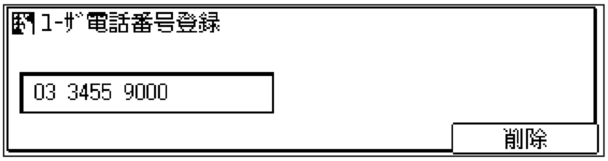


● すでに電話番号が登録済みのときは、電話番号も表示されます。登録済みの電話番号を削除するときは、クリアボタンを押したあとセットボタンを押してください。

2 電話番号を登録します



テンキーで番号を入力します。スペースボタンで空白を入れることもできます。



● 間違えたときは、削除ボタンを押して一つ前の桁に戻り、入力しなおしてください。クリアボタンを押して最初から入力しなおすこともできます。



セットボタンを押します。「登録しました」とメッセージが表示されたあと、自動的に“03 ユーザ略称登録”の項目が反転表示されます。➔ ***P.7-17***

● ストップボタンを押すと、待機状態に戻ることができます。

メモ

オプションの2回線ボードを取り付けている場合、ここで登録する電話番号（ユーザTEL）のほか、もう1回線の電話番号（ユーザTEL2）を登録します。
➔ ***P.10-8***

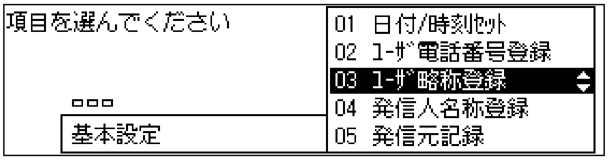
会社や部門の名称の登録

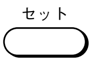
会社や部門の名称をユーザ略称として登録することができます。ユーザ略称は、ひらがな、漢字、全角記号は12文字まで、カタカナ、英数字、半角記号は24文字まで登録できます。

1 ユーザ略称の登録項目を表示させます

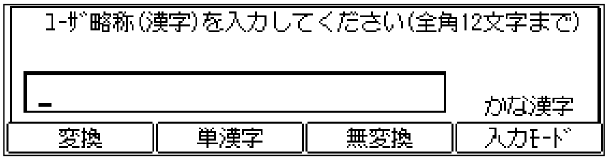
電話番号の登録が終了すると、自動的に“03 ユーザ略称登録”が反転表示されます。

● 日付と時刻の手順1の最後で、▼ボタンを押して反転表示させることもできます。➔ ***P.7-14***



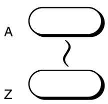


セットボタンを押します。

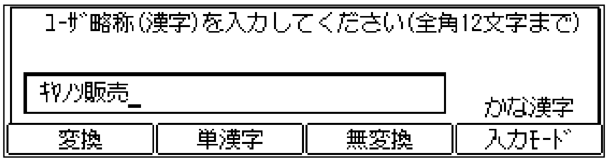


● すでにユーザ略称が登録済みのときは、文字が表示されます。登録済みのユーザ略称を削除するときは、クリアボタンを押したあとセットボタンを押してください。

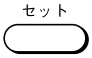
2 ユーザ略称を登録します



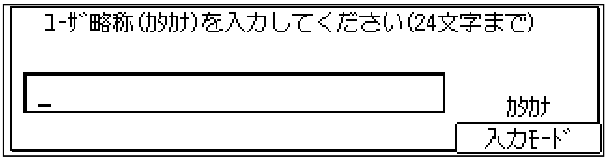
ワンタッチダイヤルボタンで文字を登録します。文字の登録方法は、「文字を登録するには」（➔ ***P.6-34***）の説明を参照してください。

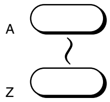


● ユーザー略称は、ひらがな、漢字、全角記号は12文字まで、カタカナ、英数字、半角記号は24文字まで登録できます。

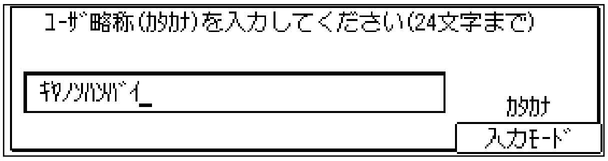


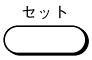
セットボタンを押します。「登録しました」とメッセージが表示されたあと、ユーザ略称をカタカナ入力する画面になります。





ワンタッチダイヤルボタンで文字を登録します。ここではカタカナ、アルファベット、数字が使用できます。文字の登録方法は、「文字を登録するには」（➔ ***P.6-34***）の説明を参照してください。





セットボタンを押します。「登録しました」とメッセージが表示されたあと、自動的に“04 発信人名称登録”の項目が反転表示されます。 ➔ ***P.7-19***

● ストップボタンを押すと、待機状態に戻ることができます。

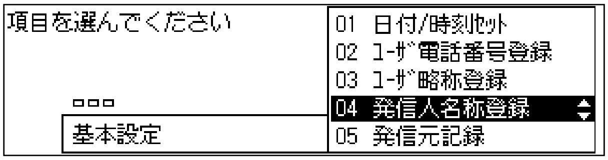
発信人名称の登録

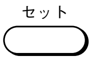
発信人名称を登録しておくと、ユーザ略称の代わりに発信元記録に付けて原稿が送信できます。発信人名称は9件まで登録しておくことができます。それぞれの発信人名称は、ひらがな、漢字、全角記号は12文字まで、カタカナ、英数字、半角記号は24文字まで登録できます。

1 発信人名称の登録項目を表示させます

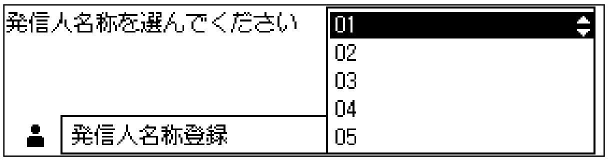
ユーザ略称の登録が終了すると、自動的に“04 発信人名称登録”が反転表示されます。

● 日付と時刻の手順1の最後で、▼ボタンを押して反転表示させることもできます。➔ P.7-14





セットボタンを押します。

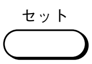


2 発信人名称の登録番号を選択します

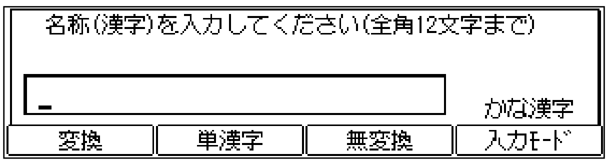


▼または▲ボタンを押して、“01”～“09”のうち、登録する番号を反転表示させます。

● すでに発信人が登録されている番号は、発信人の名称が表示されます。

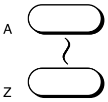


セットボタンを押します。

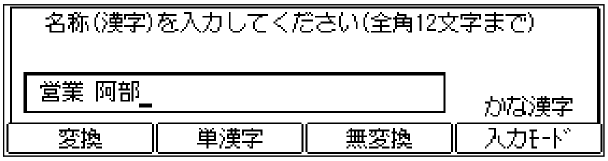


● 登録済みの発信人名称を削除するときは、クリアボタンを押したあとセットボタンを押してください。

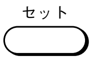
3 発信人名称を登録します



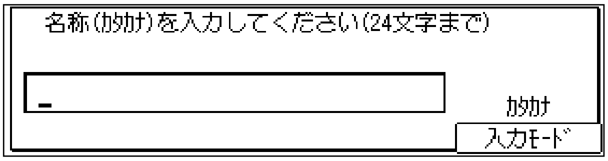
ワンタッチダイヤルボタンで文字を入力します。文字の入力方法は、「文字を登録するには」（➔ **P.6-34**）の説明を参照してください。

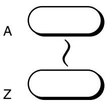


● 発信人名称は、ひらがな、漢字、全角記号は12文字まで、カタカナ、英数字、半角記号は24文字まで登録できます。

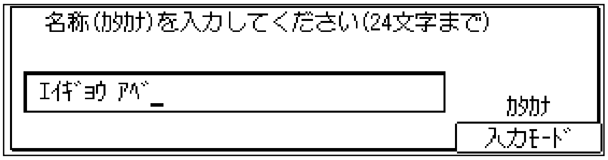


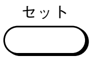
セットボタンを押します。「登録しました」とメッセージが表示されたあと、発信人名称をカタカナ入力する画面になります。





ワンタッチダイヤルボタンで文字を登録します。ここではカタカナ、アルファベット、数字が使用できます。文字の登録方法は、「文字を登録するには」（➔ **P.6-34**）の説明を参照してください。

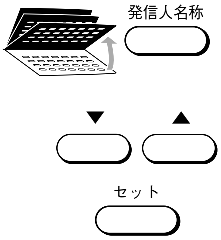




セットボタンを押します。「登録しました」とメッセージが表示されたあと、別の登録番号が反転表示されます。

● 別の発信人名称を登録するときは手順2からくり返してください。
● 発信人名称の登録を終了したいときは、ストップボタンを押すと、待機状態に戻ることができます。

発信人名称を選択するには



送信するとき、原稿をセットしたあとワンタッチダイヤルパネルを3枚開いて、発信人名称ボタンを押し、▼または▲ボタンで、発信元記録に付けたい名称を反転表示させ、セットボタンを押します。



メモ

手動送信の場合には、ユーザ略称が自動的に選択されます。発信人名称は選択できません。

第８章

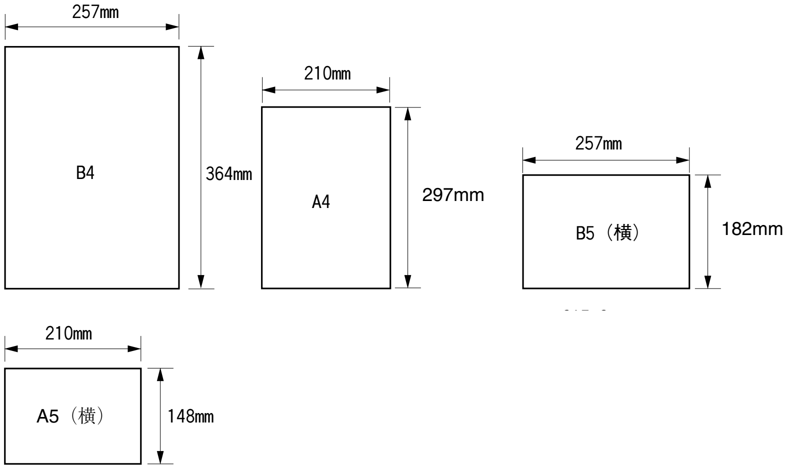
日常の管理

記録紙を補給するには

記録紙は、ディスプレイに「記録紙を補給してください」と表示され、エラーランプが赤く点滅したときに補給してください。記録紙が途中でつまったりしないよう、規定のサイズの記録紙を正しくセットしてください。

セットできる記録紙

記録紙は、64 ～ 80g/ ㎡の重さの普通紙を使用してください（ただし、B4、B5 は64g/ ㎡のみ）。セットできるのはつぎのサイズの記録紙です。



● オプションカセットには、A5 サイズの記録紙はセットできません。

特殊な用紙

マルチフィーダトレイには、普通紙以外にOHPフィルムまたはラベル用紙を1枚ずつセットすることができます。

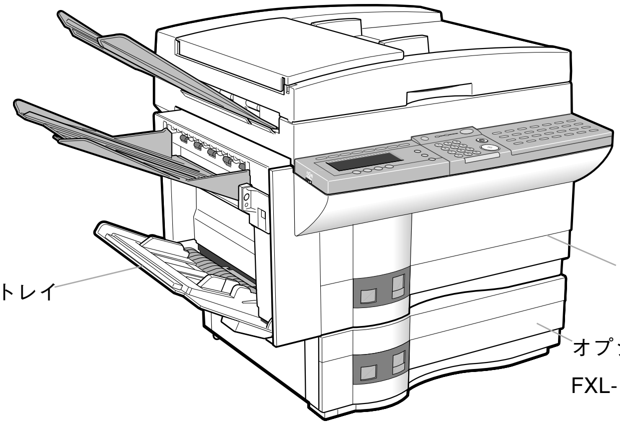
OHPフィルム	LBP用OHPフィルムA4
	品番　TLBFA4
ラベル用紙	キヤノンラベル用紙
	品番 V5-5770　V5-5780　V5-5790　V5-5616

お願い

- *カセットはお買いあげのときB4サイズにセットされています。B4サイズ以外の記録紙をセットしたいときは、お買い上げの担当セールスマンまたは担当サービスマンにお問い合わせください。*
- *記録紙はキヤノンの推奨紙を使うことをおすすめします。*
- *OHPフィルムやラベル用紙は記録紙カセットにセットしないでください。故障や誤動作の原因になります。*
- *OHPフィルムやラベル用紙はマルチフィーダトレイに1枚ずつセットしてください。*
- *ハガキはマルチフィーダトレイにも記録紙カセットにもセットできません。*
- *OHPフィルムやラベル用紙はキヤノンの推奨品を使うことをおすすめします。*

記録紙のセット位置

記録紙は、カセットとマルチフィーダトレイにセットできます。本体の下には、オプションのFXL-カセットフィーダ3を装着することもできます。詳細はお買い上げになった販売店の担当者にお問い合わせください。

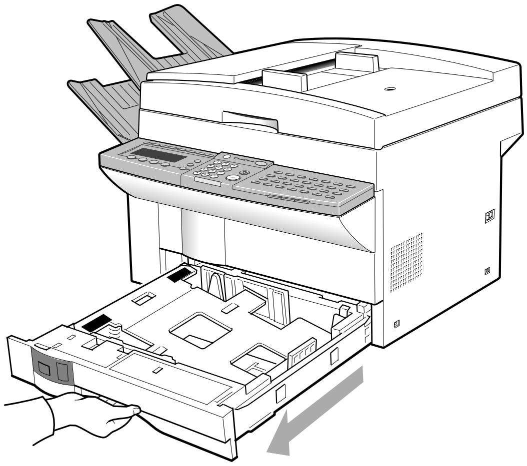


- カセットには約500枚（坪量64g/m²）、マルチフィーダトレイには約100枚まで記録紙がセットできます。オプションカセットを装着した場合は、合わせて約1100枚まで記録紙をセットしておくことができます。いずれかをレポート出力用の記録紙カセットとして指定することもできます。
  ➔ ***P.8-30***
- OHPフィルムやラベル用紙はマルチフィーダトレイに1枚ずつセットしてください。

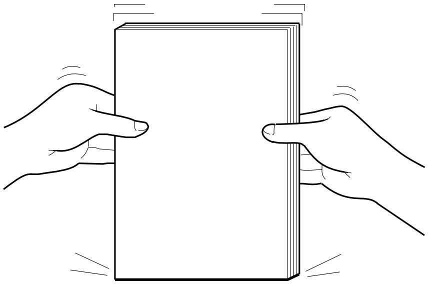
カセットに記録紙をセットするには

1 カセットを引き出します

カセットを少し持ち上げるようにし、カセットが止まるところまで引き出してください。



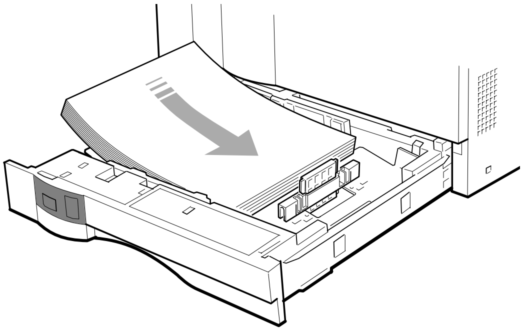
2 記録紙の左右と先端をそろえます



⚠注意　記録紙を補給するとき、つまった原稿や記録紙を取り除くときは、原稿や記録紙の端で手を切ったりしないように注意して扱ってください。

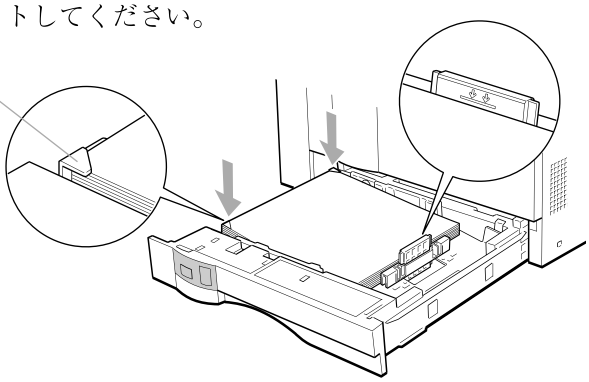
3 記録紙をセットします

500枚の記録紙をセットするときは3回に分けてください。



4 セットした記録紙の先端を上から押さえます

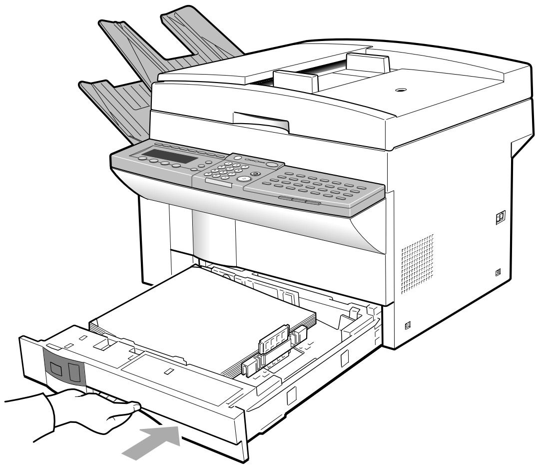
記録紙の先端が両方のツメの部分にしっかりセットされているか確認してください。また、記録紙は目盛りの線を越えない分量をセットしてください。



5 カセットを戻します

カセットの中央に手をそえ、カセットが突き当たるところまで静かに押し込んでください。

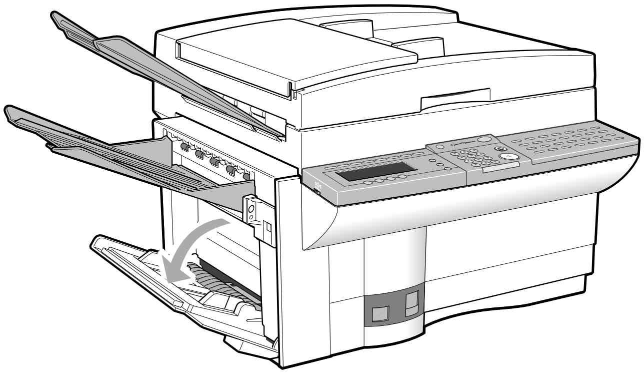
● カセットの片端だけを持って押さないようにしてください。



マルチフィーダトレイに記録紙をセットするには

マルチフィーダトレイには、B4、A4、B5、A5 サイズの記録紙、またはOHP フィルム、ラベル用紙がセットできます。 ➔ P.8-2

1 マルチフィーダトレイを開けます

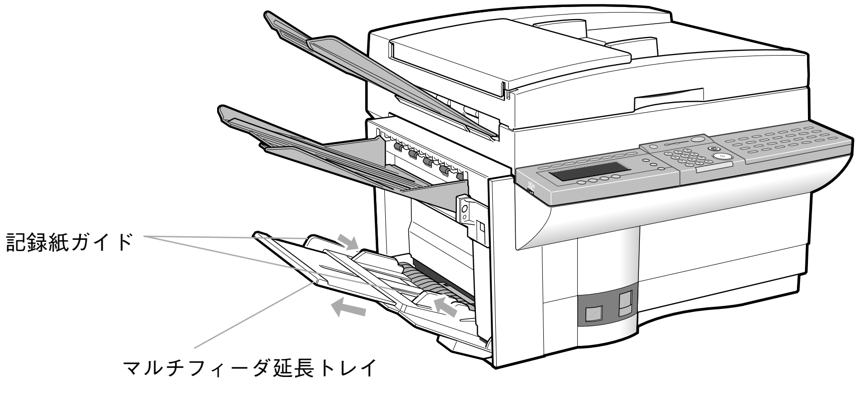


● マルチフィーダトレイには、B4、A4、B5、A5 サイズの記録紙を約 100 枚（坪量 64/ ㎡）まで、セットすることができます。

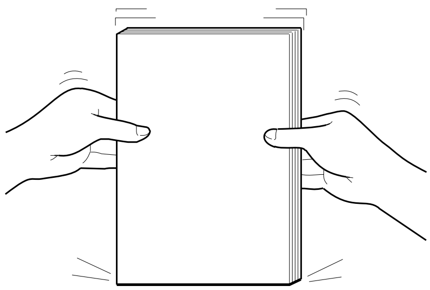
● OHPフィルムやラベル用紙はマルチフィーダトレイに1枚ずつセットしてください。

2 セットする記録紙の幅に合わせ、記録紙ガイドを調整します

B4、A4サイズの記録紙をセットするときは、マルチフィーダ延長トレイを引き出してください。



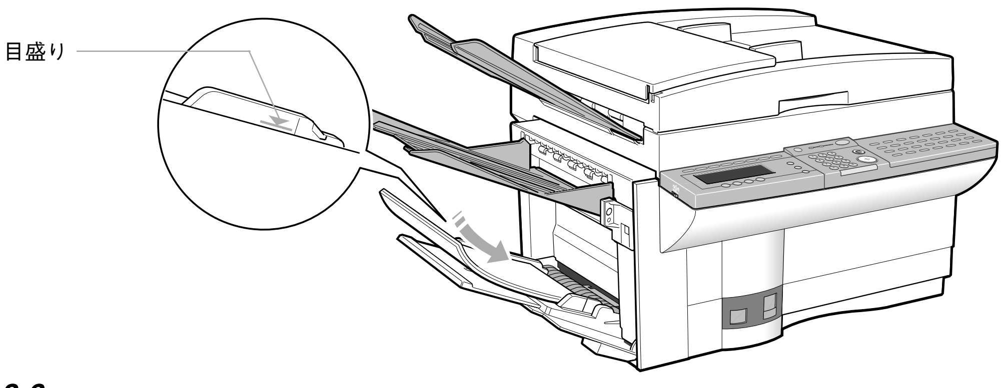
3 記録紙の左右と先端をそろえます



⚠注意 記録紙を補給するとき、つまった原稿や記録紙を取り除くときは、原稿や記録紙の端で手を切ったりしないように注意して扱ってください。

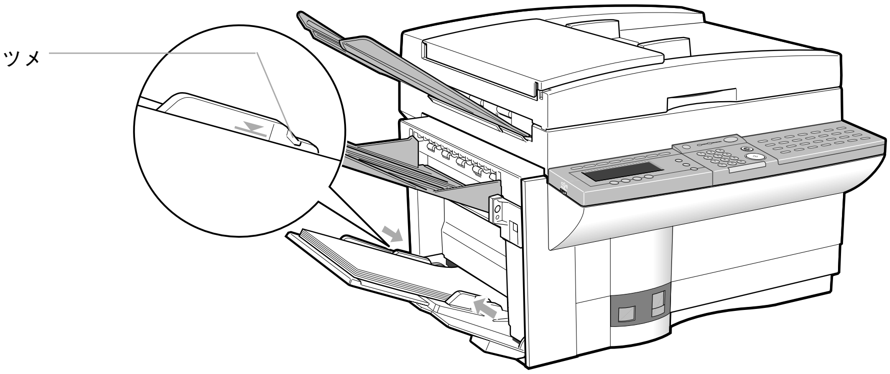
4 記録紙をセットします

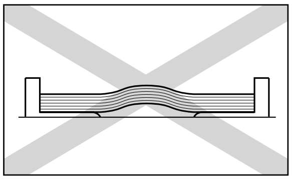
目盛りの線を越えない分量の記録紙をセットしてください。



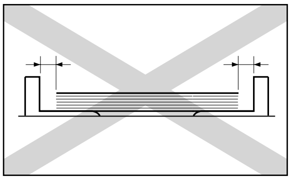
5 記録紙ガイドを記録紙の幅にきちんと合わせます

記録紙ガイドのツメが記録紙を押しつけないようにしてください。

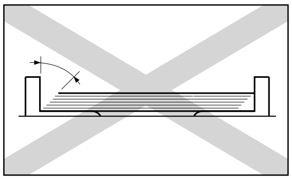




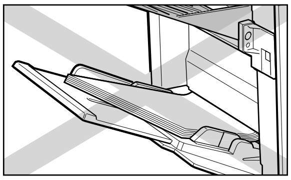
● 記録紙が曲がるまで記録紙ガイドを強く押しつけないでください。



● 記録紙と記録紙ガイドの間に隙間がないようにセットしてください。



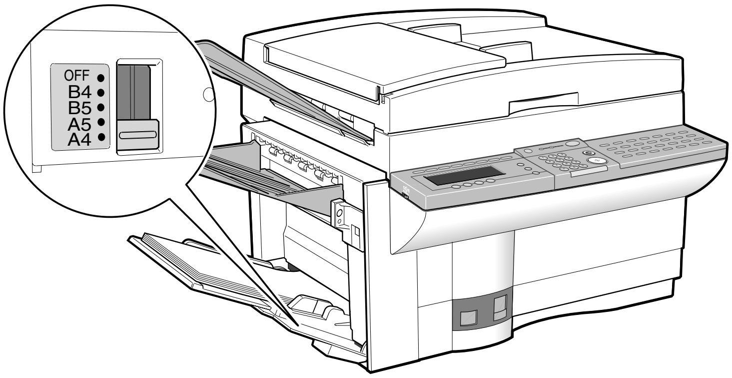
● 記録紙の束が不揃いな状態で記録紙ガイドをセットしないでください。



● 記録紙を斜めにセットしないでください。

6 記録紙サイズ切り替えスイッチをセットします

セットした記録紙の大きさに記録紙サイズ切り替えスイッチをセットします。



⚠警告

トナーカートリッジ、記録紙は火気のあるところに保管しないでください。トナーや記録紙に引火して、やけどや火災の原因になります。

お願い

- *マルチフィーダトレイのサイズ切り替えスイッチは、セットする記録紙に合わせて正しく設定してください。サイズ切り替えスイッチの設定が違うと、プリントした画像がかけたり、記録紙が汚れたりします。また、記録紙づまりの原因となることもあります。*
- *OHPフィルムやラベル用紙はコピーが済んだら必ずマルチフィーダトレイから取り除いてください。セットしたままだとファクス受信時にOHPフィルムやラベル用紙にプリントしてしまうことがあります。*
- *マルチフィーダトレイを使用しないときは、記録紙サイズ切り替えスイッチをOFFにしておいてください。OFFにしていないと、カセットに記録紙がセットされているのにメモリ代行受信してしまうことがあります。*
- *シワのある記録紙、カールしている記録紙はセットしないでください。紙づまりの原因になります。*
- *マルチフィーダトレイの上には、記録紙以外のものを置かないでください。また、上から押したり無理な力を加えたりしないでください。破損することがあります。*

メモ

- *記録紙残量表示の目盛りはだいたいの目安としてお使いください。目盛りが"EMPTY"になっていても、記録紙がすべてなくなっているとは限りません。*
- *記録紙が極端にカールする場合は、記録紙の表裏の面を逆にセットしてみてください。*

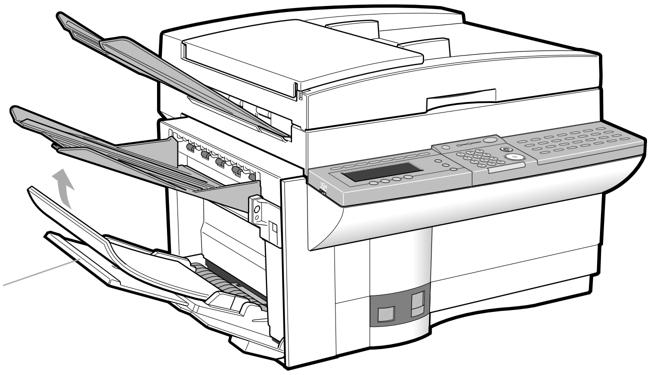
トナーカートリッジのセットと交換

トナーカートリッジは、キヤノン指定のトナーカートリッジFX-VまたはFX-VIIを使用してください。指定した以外のトナーカートリッジを使用した場合のトラブルについては、当社では一切の保証を致しかねます。

トナーカートリッジの取りはずし

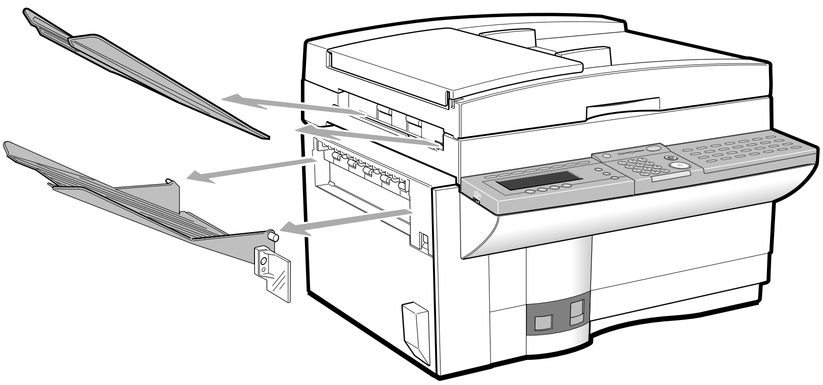
トナーがなくなると、ディスプレイに「カートリッジが空になりました」と表示され、エラーランプが赤く点滅します。トナーカートリッジを交換するときは、つぎの手順でカートリッジを取りはずしてください。

1 マルチフィーダトレイに記録紙がセットされているときは取り除きます



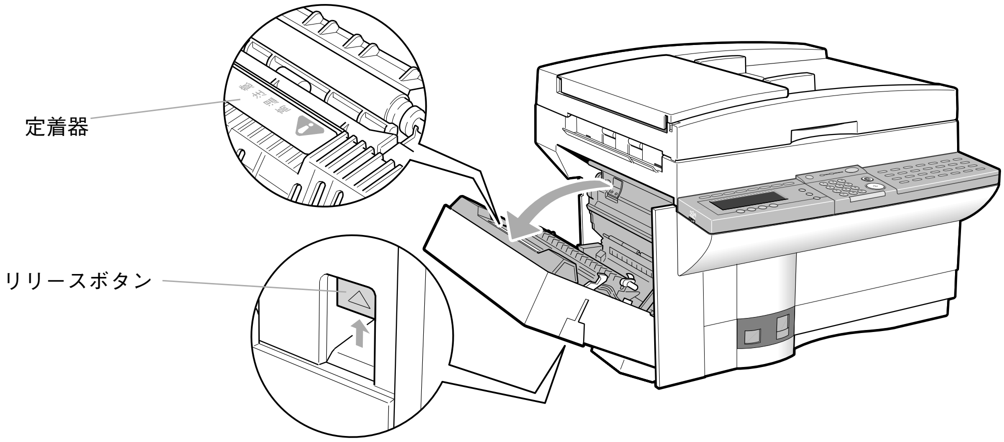
お願い *マルチフィーダトレイに記録紙をセットしたままでつぎの手順にすすまないでください。マルチフィーダトレイが破損するおそれがあります。*

2 原稿トレイと排紙トレイを取りはずします



3 プリンタドアを開きます

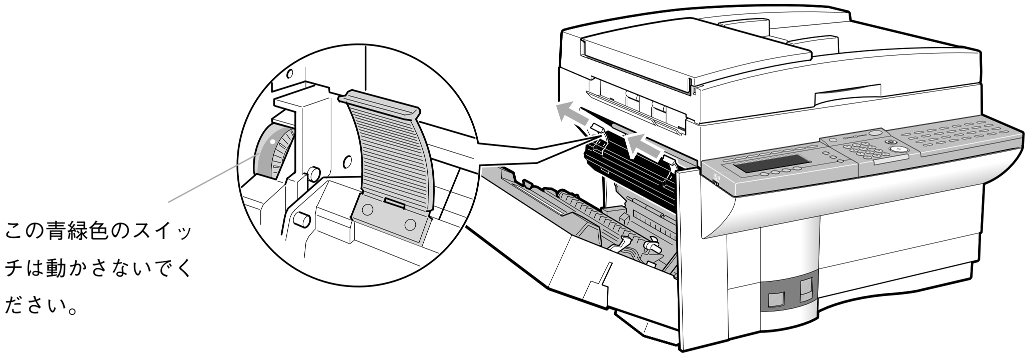
リリースボタンを押しながら、プリンタドアを開いてください。



⚠警告　本体内部の定着器とその周辺は高温になっております。手を触れないようにご注意ください。やけどする場合があります。

4 古いトナーカートリッジを引き出します

トナーカートリッジの両端の緑色のツマミを持って引き出します。

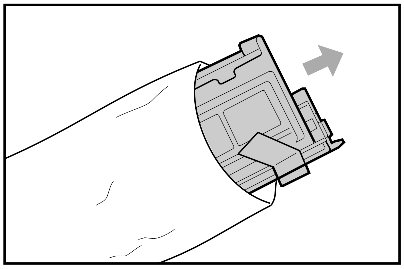


⚠注意　使用済みのトナーカートリッジを機械から取り出すときは、トナーが飛び散って目や口などにトナーが入らないように丁寧に取り出してください。トナーが目や口にはいった場合は、直ちに水で洗い流し、医師と相談してください。

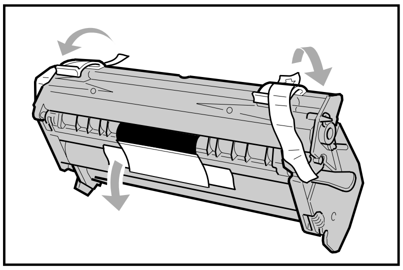
トナーカートリッジのセット

まず、「トナーカートリッジの取りはずし」（➔ **P.8-9**）の手順1～3を参照して、プリンタドアを開いてください。

1 トナーカートリッジを包装から取り出します

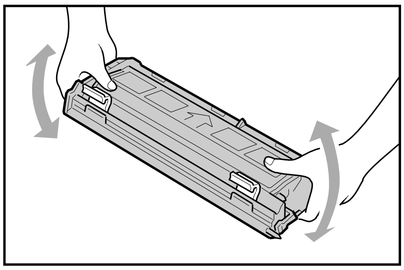


2 緑色のツマミに貼られているテープと黒い保護シートをはがします



3 トナーカートリッジを振ります

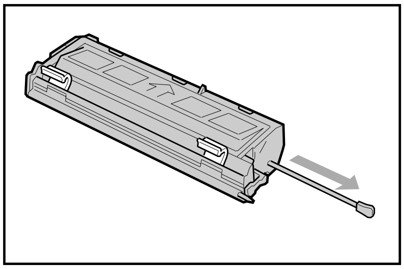
新しいトナーカートリッジを図のように持ち､中央部を軸に両方向にゆっくりと7～8回、回転させるように振ってください。



⚠注意　トナーは静かに振ってください｡激しく振るとトナーが飛び散ることがあります

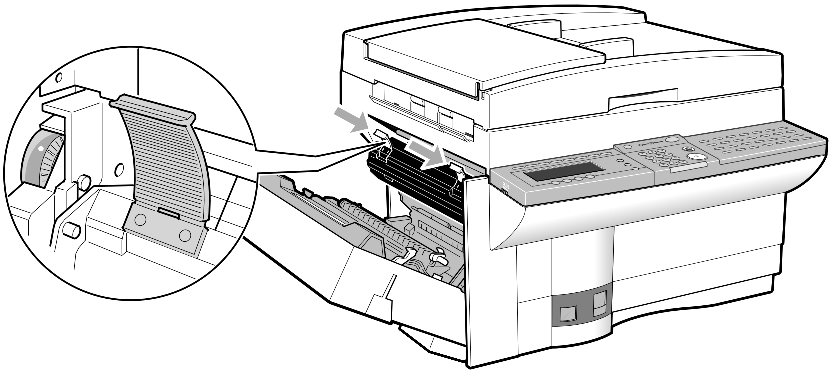
4 オレンジ色のツマミをゆっくりと引き抜きます

トナーカートリッジを水平な場所に置き、しっかり手でおさえながらオレンジ色のツマミを水平に引き抜いてください。

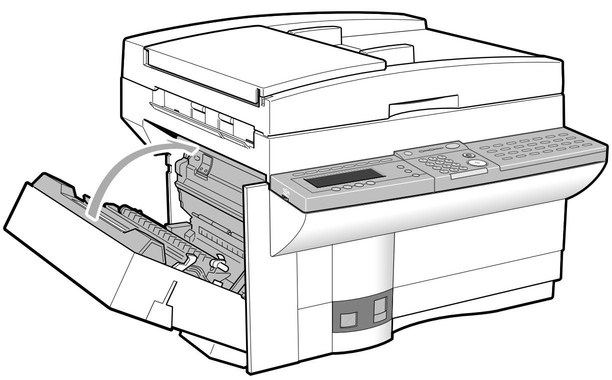


5 トナーカートリッジをセットします

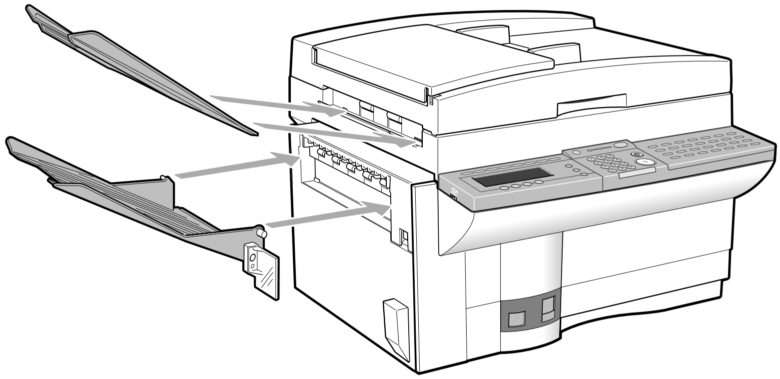
緑色のツマミを持って、本体の奥に突き当たるまで矢印の方向にゆっくりと押し込んでください。



6 プリンタドアを閉めます



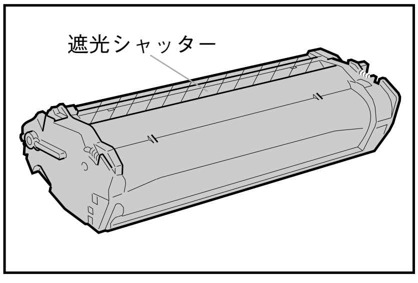
7 原稿トレイと排紙トレイを取り付けます

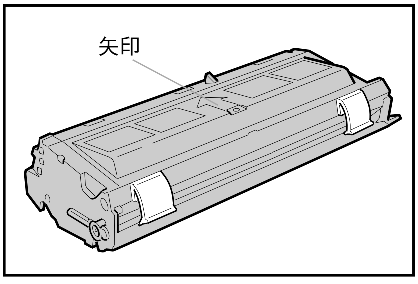


トナーカートリッジの取り扱い

トナーカートリッジは､以下の点に注意しながら取り扱ってください。

- トナーカートリッジには、過度な衝撃を与えないでください。
- トナーカートリッジは、本体にセットする直前まで、黒いビニールパックの包装から取り出さないでください。
- トナーカートリッジは、直射日光に当てないように保管してください。また、通常の室内の明かり（1000ルクス程度）のもとで、5分以上放置しないでください。
- 下の図の斜線の部分の遮光シャッターに触れたり、遮光シャッターを開けたりしないでください。
- トナーカートリッジの近くにフロッピーディスクや磁気カードなどの磁気製品を置かないでください。
- トナーカートリッジは、右下の図のように矢印のある面を上にし、水平な場所に置いてください。
- トナーカートリッジは、0℃～35℃の環境で保管してください。温度や湿度が激しく変化する場所に保管しないでください。
- 交換用に購入したトナーカートリッジは、パッケージに記載された有効期間内に使用してください。
- 本機を離れたところに陸送したり空輸したりするときは、必ずトナーカートリッジを取りはずしてください。カートリッジに強い光が当たらないように保護袋に入れるか厚い布で包んでください。





⚠警告

- トナーカートリッジ、記録紙は火気のあるところに保管しないでください。トナーや記録紙に引火して、やけどや火災の原因になります。
- 使用済みカートリッジを火中に投じないでください。カートリッジ内に残ったトナーに引火して、やけどや火災・爆発の原因になります。使用済みカートリッジは、お買いあげの販売店にお持ちいただきますようご協力お願い申しあげます。

⚠注意

トナーなどの消耗品を幼児の手の届かないところに保管してください。もし飲んだ場合は、直ちに医師と相談してください。

トナーカートリッジの回収についてのご案内

キヤノンでは、地球をとりまく環境保全と資源の有効活用を行っていくために、使用済みカートリッジの回収を推進しております。
ご使用済みのカートリッジは、お買い求めの販売店にお持ちいただくようお客様のご協力をお願い申しあげます。

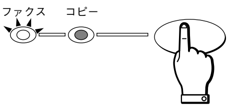
通信結果を確認するには

送信や受信の結果は各種レポートをプリントさせることによって確認することができます。

通信管理レポート

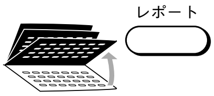
送受信の結果は、通信管理レポートで確認することができます。通常、通信管理レポートは40通信終了するごとに自動的にプリントされるように設定されています。なお、つぎの操作で、いつでもプリントすることができます。

1 ファクスモードにします

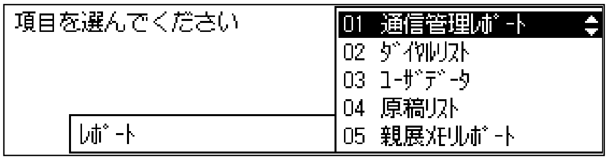


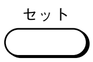
ファクス／コピー切り替えボタンを押して、ファクスランプを点灯させてください。

2 通信管理レポートをプリントします

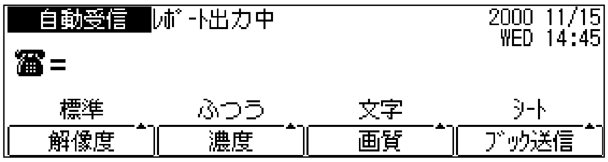


ワンタッチダイヤルパネルを3枚開き、レポートボタンを押します。





セットボタンを押します。



通信管理レポートがプリントされます。

2000 07/16 13:55 FAX 03 3758 2111　　ｷﾔﾉﾝ本社　　001

```
*****************************
***   通信管理レポート   ***
*****************************
```

開始時刻	相手先	発信人名称	番号	通信モード	枚数	通信結果
*07/16 13:29	ｷﾔﾉﾝ販売広島 082 248 9000		0008	ﾎﾟｰﾘﾝｸﾞ受信 G3	0	NG 00'00 0 STOP
*07/16 13:35	ｷﾔﾉﾝ販売広島 082 248 9000	ｷﾔﾉﾝ工場 佐藤	0009	ﾀｲﾏｰ送信 ECM	1	OK 00'24
*07/16 13:37	ｷﾔﾉﾝ販売東京 03 3455 9000 #1234567890		0010	送信 G3	0	NG 00'11 0 #102
07/16 13:38	ｷﾔﾉﾝ販売東京 03 3455 9000 #1234567890		0010	送信	1	NG 00'00 0 #995
07/16 13:40	ｷﾔﾉﾝ販売東京 03 3455 9000 #1234567890*		0011	送信 ECM	1	OK 00'18
07/16 13:52	ｷﾔﾉﾝ販売 03 3455 9000		5005	自動受信 ECM	1	OK 00'22
07/16 13:54	ｷﾔﾉﾝ販売 03 3455 9000 *0123456789#	生産管理 前田	5006	汎用受信 ECM	1	OK 00'22

Fコード

一度プリントしたものには＊マークがつきます

受付番号

送受信の種類

交信モード

通信の結果
　ＯＫ…正常終了
　ＮＧ…エラー終了

何枚目がエラーしたのか示します

エラーコード（→ **P.9-10**）

通信中にストップボタンが押されたことを示します

- 自動的にプリントしないように設定することもできます。→ **P.8-30**
- 毎日、特定の時刻に通信管理レポートをプリントするように設定することもできます。→ **P.8-30**
- 送信結果と受信結果を分けてプリントするように設定することもできます。→ **P.8-30**
- 送信中はレポートのプリントに時間がかかることがあります。

2000 07/16 18:47 FAX 03 3758 2111　　キヤノン本社　　001

****
***　通信管理レポート（送信）　***
****

開始時刻	相手先	発信人名称	番号	通信モード	枚数	通信結果
*07/16 17:42	ｷﾔﾉﾝ販売 03 3455 9000		0049	同報送信　ECM	1	OK　00'18
*07/16 17:43	ｷﾔﾉﾝ販売札幌 011 728 9000		0049	同報送信　ECM	1	OK　00'11
*07/16 18:00	ｷﾔﾉﾝ販売福岡 092 412 9000	生産管理 前田	0050	ﾀｲﾏｰ送信　ECM	1	OK　00'10
*07/16 18:23	ｷﾔﾉﾝ販売 03 3455 9000		0051	送信　ECM	1	OK　00'20
*07/16 18:40	ｷﾔﾉﾝ販売福岡 092 412 9000	事務機ﾃﾞｻﾞｲﾝｾﾝﾀｰ 臣野	0052	送信	0	NG　00'00 0　#018

****
***　通信管理レポート（受信）　***
****

開始時刻	相手先	発信人名称	番号	通信モード	枚数	通信結果
*07/16 17:52	ｷﾔﾉﾝ販売 03 3455 9000		5027	自動受信　ECM	1	OK　00'18
*07/16 18:13	ｷﾔﾉﾝ販売 03 3455 9000		5029	自動受信　ECM	1	OK　00'16
*07/16 18:16			5030	自動受信　G3	0	NG　00'10 0
*07/16 18:31	ｷﾔﾉﾝ販売 03 3455 9000 123456789*#		5031	親展受信　ECM	1	OK　00'23
*07/16 18:46	ｷﾔﾉﾝ販売 03 3455 9000		5032	代行受信　ECM	1	OK　00'16

メモ

- *受付番号は0001～4999が送信時に付く番号で4999のあとは0001に戻ります。また、5001～9999が受信時に付く番号で9999のあとは5001に戻ります。ただし、転送（➔* ***P.5-27****）や中継同報（➔* ***P.5-64****）の場合は、原稿受信時の受付番号が送信時にもそのまま使用されます。*
- *ポーリング送信のときは、5001～9999の受付番号が、ポーリング受信のときは、0001～4999の受付番号が付きます。*

送信結果レポート

通常、送信結果レポートはエラー発生時のみプリントするように設定されていますが、プリントされないように設定したり、送信を終了するごとにプリントするよう設定しなおすことができます。

➔ P.8-30

● メモリ送信時の送信結果レポートに原稿の一部を記録するように設定することもできます。➔ P.8-30

原稿の一部を記録するように設定したとき（エラーのときも記録できます）


2000 07/16 14:39 FAX 03 3758 2111 ｷﾔﾉﾝ本社 001

****
*** 送信結果レポート ***
****

次の送信は正しく終了しました

受付番号	0022
相手の電話番号	03 3455 9000
Fコード	
相手先略称	ｷﾔﾉﾝ販売
開始時刻	07/16 14:38
通信時間	00'22
枚数	1
通信結果	OK

THE SLEREXE COMPANY LIMITED

SAPORS LANE - BOOLE - DORSET - BH 25 8 ER

TELEPHONE BOOLE (945 13) 51617 - TELEX 123456

Our Ref. 350/PJC/EAC

Dr. P.N. Cundall,
Mining Surveys L


2000 07/16 15:26 FAX 03 3758 2111 ｷﾔﾉﾝ本社 001

****
*** エラー送信レポート ***
****

次の送信はエラー終了しました

受付番号	0024
相手の電話番号	03 3455 9000
Fコード	
相手先略称	ｷﾔﾉﾝ販売
開始時刻	07/16 15:25
通信時間	00'00
枚数	0
通信結果	NG
	0 #012

THE SLEREXE COMPANY LIMITED

SAPORS LANE - BOOLE - DORSET - BH 25 8 ER

TELEPHONE BOOLE (945 13) 51617 - TELEX 123456

Our Ref. 350/PJC/EAC

Dr. P.N. Cundall,
Mining Surveys L

受信結果レポート

通常、受信結果レポートはプリントされないように設定されていますが、受信を終了するごとにプリントするよう設定しなおすことができます。 ➔ P.8-30

2000 07/16 15:13 FAX 03 3758 2111　　ｷﾔﾉﾝ本社　　⎙001

****
***　受信結果レポート　***
****

次の受信は正しく終了しました

受付番号	5017
相手の電話番号	03 3455 9000
Fコード	
相手先略称	ｷﾔﾉﾝ販売
開始時刻	07/16 15:12
通信時間	00'08
枚数	1
通信結果	OK

● 受信エラーが発生したときだけレポートをプリントするように設定することもできます。

親展受信レポート

親展受信した原稿は暗証番号を指定しなければプリントされません。親展受信したときに、つぎのようなレポートをプリントし、親展受信したことを知らせるように設定することができます。
➔ P.8-30

2000 06/17 15:40 FAX 03 3758 2111　　ｷﾔﾉﾝ本社　　⎙001

****
***　親展受信レポート　***
****

親展ボックス番号	#10
親展ボックス名称	ｷﾔﾉﾝ販売
受付番号	5018
相手の電話番号	03 3455 9000
Ｆコード	123456789
相手先略称	ｷﾔﾉﾝ販売
開始時刻	06/17 15:39
通信時間	00'23
枚数	1
通信結果	OK

汎用ボックスレポート

汎用ボックスで受信した原稿は受信原稿のプリント方法を手動にしているときは自動的にプリントされません。 ➔ P.5-77
汎用ボックス受信したときに、つぎのようなレポートをプリントし、汎用ボックス受信したことを知らせます。 ➔ P.8-30

2000 06/15 19:41 FAX 03 3758 2111　　キヤノン本社　　001

****
***　汎用ボックスレポート　***
****

ボックス番号	#03
ボックス名称	ｷﾔﾉﾝ販売
受付番号	5008
相手の電話番号	03 3455 9000
Fコード	#1234
相手先略称	ｷﾔﾉﾝ販売
開始時刻	06/15 19:40
通信時間	00'23
枚数	1
通信結果	OK

メモリクリアリスト

停電などにより電源がOFFになると、メモリ内の原稿がクリアされてしまいます。本機には、クリアされた原稿のリストを自動的にプリントする機能があります。電源がONになったとき、つぎのようなメモリクリアリストがプリントされます。

2000 07/16 18:58 FAX 03 3758 2111　　ｷﾔﾉﾝ本社　　001

****
***　メモリクリアリスト　***
****

次の通信予約またはメモリはクリアされました

受付番号	通信モード	相手先	枚数	受付時刻	開始時刻	発信人名称
0049	同報送信	[03]ｷﾔﾉﾝ販売仙台	1	07/16 17:41	10:00	ｷﾔﾉﾝ本社
0050	送信	[03]ｷﾔﾉﾝ販売仙台	1	07/16 17:55	10:00	ｷﾔﾉﾝ本社
5018	親展受信		1	07/16 15:39		
5031	親展受信		1	07/16 18:31		
5032	代行受信		1	07/16 18:46		

- 電源 OFF の状態が 1 時間程度のときは、メモリ内の原稿はクリアされず、メモリクリアリストはプリントされません。

日常のお手入れ

本体のお手入れ

本体は水または中性洗剤を含ませて固く絞った布で拭いたあと、柔らかい布でから拭きしてください。

- ADFの原稿サイズ検知センサー部は濡れた布で拭かないでください。原稿サイズ検知センサー部の清掃については次ページの「原稿サイズ検知センサー部の清掃」を参照してください。

⚠警告

- 清掃のときは、電源スイッチを切り、電源コードをコンセントから抜いてください。火災や感電の原因になります。
- 本体の清掃のときは、水または中性洗剤を含ませて固く絞った布で汚れを落とした後、から拭きしてください。アルコール、ベンジン、シンナーなどの引火性溶剤は使用しないでください。引火性有機溶剤が本体内部の電気製品に接触したり、揮発ガスが機内に充満すると火災・感電の原因になります。

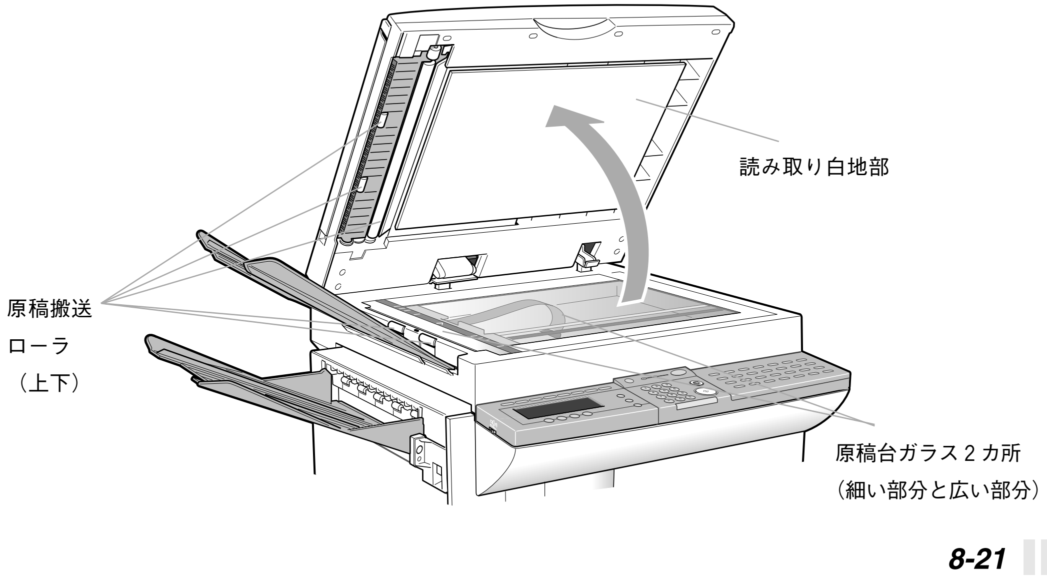
お願い

電源をOFFにすると、約1時間でメモリ内の原稿はクリアされてしまいます。清掃が終了したら電源をONにしてください。

原稿読み取り部、搬送部の清掃

原稿台ガラスや読み取り白地部、また原稿を搬送するローラなどに汚れが付着すると、送信原稿の画像やコピーに汚れがプリントされてしまいます。ときどき清掃してください。

- 原稿台ガラスおよび読み取り白地部は、水または中性洗剤を含ませて固く絞った布で拭いたあと、柔らかい布でから拭きしてください。
- 原稿搬送ローラは、水を含ませて固く絞った布で拭いたあと、柔らかい布でから拭きしてください。



⚠注意

ローラ類の清掃のときは、水を含ませて固く絞った布で汚れを落とした後、から拭きしてください。アルコール、ベンジン、シンナーなどの引火性溶剤は使用しないでください。引火性有機溶剤が本体内部の電気製品に接触したり、揮発ガスが機内に充満すると火災・感電の原因になります。また、中性洗剤は使用しないでください。ローラ類を傷める原因になります。

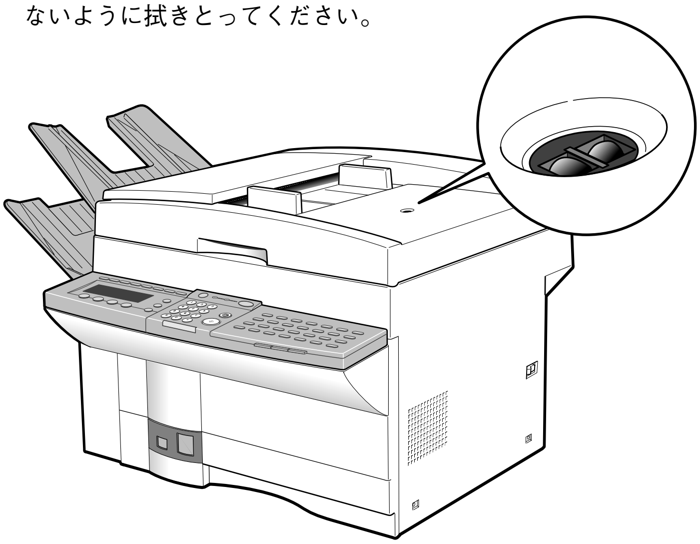
お願い

- *ティッシュペーパーは使用しないでください。チリが付着したり静電気が発生します。*
- *電源をOFFにすると、約1時間でメモリ内の原稿はクリアされてしまいます。清掃が終了したら電源をONにしてください。*

原稿サイズ検知センサー部の清掃

ADFの原稿サイズ検知センサー部は基本的に清掃の必要はありません。極端にホコリがたまったり汚れた場合のみ清掃してください。

- ホコリ、汚れは、エアーブローまたは、柔らかい布でレンズに傷をつけないように拭きとってください。

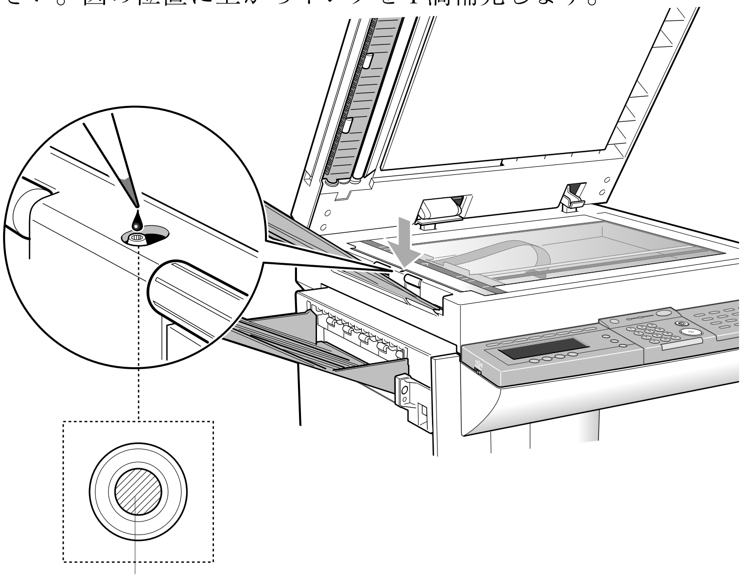


お願い

原稿サイズ検知センサー部の清掃のときは、エアーブローまたは、柔らかい布でレンズに傷をつけないように拭きとってください。水や中性洗剤は使用しないでください。レンズ部に水や中性洗剤が付着すると機能低下の原因になることがあります

スタンプインクの補充

送信済みまたは読み込み済みの原稿に押されるスタンプが薄くなってきたら、原稿台カバーを開けて、スタンプインクを補充してください。図の位置に上からインクを1滴補充します。



⚠注意

- スタンプインクを補充するときは、電源スイッチを切ってください。電源スイッチを切らない場合は、感電の原因となることがあります。
- イラストで示した補充場所以外のところにスタンプインクをこぼさないように注意してください。発煙の原因となることがあります。

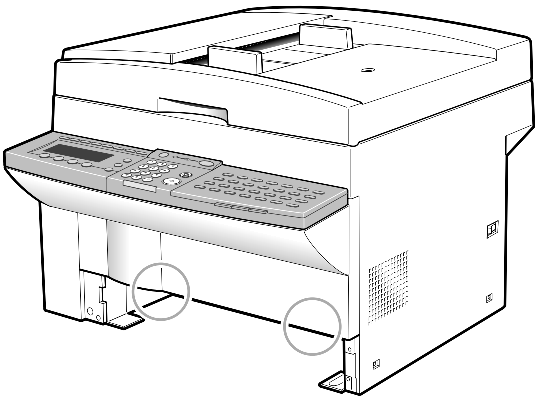
お願い

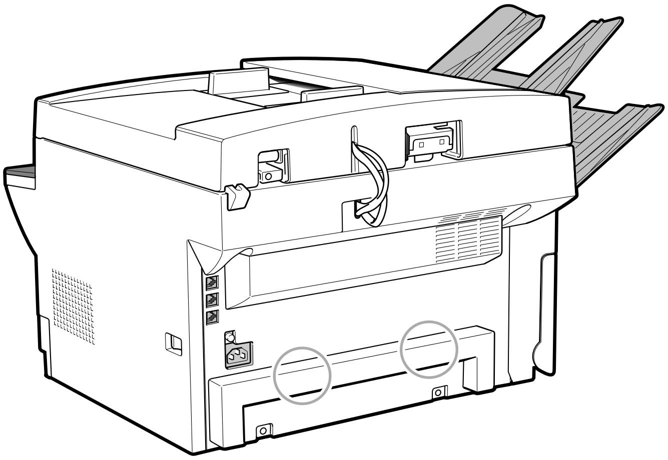
- *インクがしみこむまで多少時間がかかります。補充後、1時間程度たってからご使用ください。*
- *インクは「シヤチハタXスタンパー補充インキY-30（イエロー）」と指定して、お近くの文具店でお買い求めください。*

本体の移動

本体を移動するときは、まず電源コードや電話回線を抜き、排紙トレイと原稿トレイ、および記録紙カセットをはずします。
イラストの丸で囲んだ部分をしっかりと持ち、必ず2人で運んでください。

- 電話機置き台やプリンタドアの下部などは持たないでください。破損の原因になります。





⚠注意

- 移動させる場合は、電源プラグをコンセントから抜き、回線コードなど外部の接続線を外したことを確認の上、行ってください。電源コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。
- 本機を持ち運ぶときは、指定された場所を持ってください。本機を落として、けがの原因となることがあります。

登録／設定内容を変更するには

本機では、あらかじめさまざまな機能が登録／設定されています。登録／設定されている内容をまとめてユーザデータと呼びます。ユーザデータは、使用する環境に合わせて変更することができます。

ユーザデータの概要

ユーザデータは、ディスプレイに表示されるメニュー項目にしたがって確認したり変更したりすることができます。ユーザデータのメニュー項目は、つぎのとおりです。

01 基本設定	発信元情報、回線種類など、ファクスの基本的な機能に関する10種類の登録／設定項目があります。 ➔ ***P.8-27***
02 レポート設定	送信や受信の結果を確認するための各種レポートのプリントなどに関する6種類の登録／設定項目があります。 ➔ ***P.8-29***
03 送信機能設定	原稿の送信に関する7種類の登録／設定項目があります。 ➔ ***P.8-31***
04 受信機能設定	原稿の受信に関する9種類の登録／設定項目があります。 ➔ ***P.8-33***
05 プリント設定	プリントに関する5種類の登録／設定項目があります。 ➔ ***P.8-35***
06 メモリ管理設定	親展受信や中継、ポーリング送信などに必要なボックスの設定に関する6種類の登録／設定項目があります。 ➔ ***P.8-37***
07 システム管理設定	管理暗証番号、日付タイプなどに関する14種類の登録／設定項目があります。 ➔ ***P.8-39***
08 コピー機能設定	原稿のコピーに関する6種類の登録／設定項目があります。 ➔ ***P.8-42***

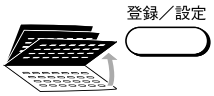
オプションの2回線ボードを取り付けている場合は、次のメニュー項目が追加されます。

09 2回線設定	2つめの回線の電話番号の設定など、2つの回線の使用に関する3種類の登録／設定項目があります。 ➔ ***P.8-44***

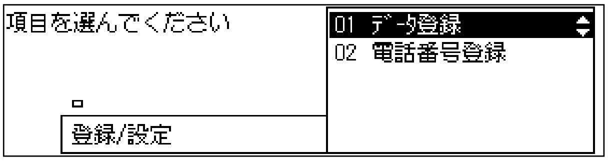
メニューブロックを選択するには

ユーザデータの各メニューブロックは、つぎの操作で表示させることができます。

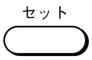
1 登録／設定ボタンを押します



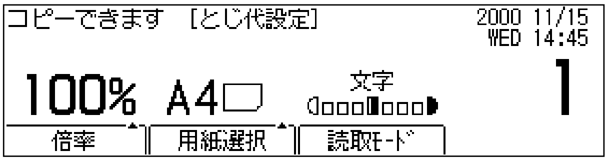
ワンタッチダイヤルパネルを3枚開いて、登録／設定ボタンを押します。



2 セットボタンを押します



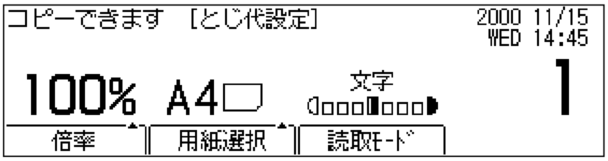
データ登録のメニューブロックが表示されます。



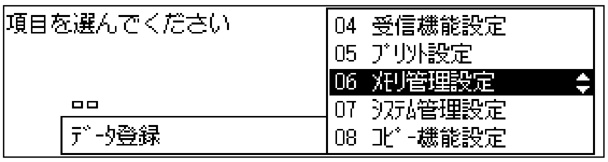
3 メニューブロックを選択します

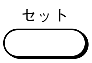


▼または▲ボタンを押して、設定するメニューブロックを反転表示させます。



▼▲





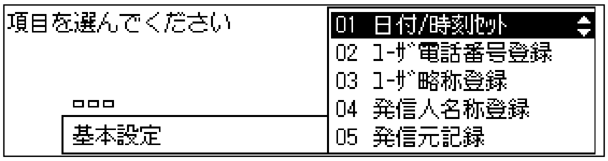
セットボタンを押すと、反転表示されているメニューブロックが選択され、それぞれの登録／設定項目が選択できます。詳しくは、このあとの説明を参照してください。

基本設定のメニュー項目

基本設定のメニューブロックには、10 種類の登録／設定項目があります。

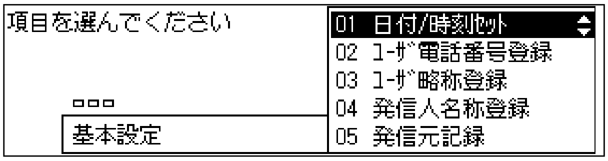
基本設定の登録／設定項目を選択するには

「メニューブロックを選択するには」の手順 3 （→ **P.8-26**）で“01 基本設定”を反転表示させ、セットボタンを押します。

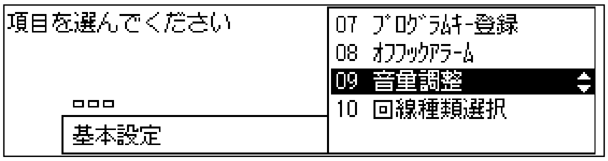


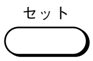


▼または▲ボタンを押して、設定する項目を反転表示させます。



▼▲





セットボタンを押すと、反転表示している項目が選択できます。

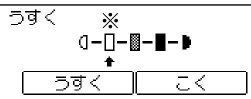
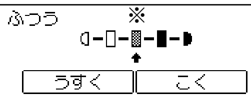
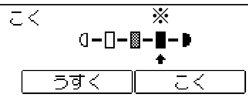
基本設定の登録／設定項目の種類と内容

基本設定ブロック内には、つぎのメニュー項目があります。

登録/設定項目	登録/設定項目の内容	登録/設定値 （※はご購入時の設定）	参照先
01 日付／時刻セット	日付と時刻が登録できます。	テンキーで入力。 時刻は24時間制。	P.7-14
02 ユーザ電話番号登録	ユーザ電話番号が登録できます。	テンキーで20桁までの数字を入力。	P.7-16
03 ユーザ略称登録	会社名や部門の略称が登録できます。	ワンタッチダイヤルボタンで全角12文字までの文字や記号が入力可能。	P.7-17
（ユーザ略称：カタカナ）	ユーザ略称をカタカナで登録できます。	ワンタッチダイヤルボタンで24文字までのカタカナ、アルファベット、数字が入力可能。	

変更した内容は、セットボタンを押したときに登録されます。

第 8 章
日常の管理

登録/設定項目	登録/設定項目の内容	登録/設定値 （※はご購入時の設定）	参照先
04 発信人名称登録	9件の発信人名称が登録できます。登録した発信人名称はユーザ略称の代わりに発信元記録に付けることができます。	ワンタッチダイヤルボタンで全角12文字までの文字や記号が入力可能。	P.7-19
（発信人名称：カタカナ）	発信人名称をカタカナで入力できます。	ワンタッチダイヤルボタンで24文字までのカタカナ、アルファベット、数字が入力可能。	
05 発信元記録	送信時に発信元記録を付けるか付けないか選択できます。	“01 付ける”※ “02 付けない”	P.7-12, 7-13
“01 発信元記録位置”	“01 付ける”を選択すると発信元記録位置が選択できます。	“01 画像の外に付ける”※ “02 画像の中に付ける”	
“02 電話番号マーク”	“01 付ける”を選択すると電話番号の前に付けるマークも選択できます。	“01 FAX”※ “02 TEL”	
06 読み取り濃度セット	送信時の読み取り濃度が設定できます。	うすくまたはこくボタンで、各濃度とも最大5段階の変更が可能。	P.3-17
“01 うすく”	送信時に「うすく」を選んだときの濃度を設定できます。		
“02 ふつう”	送信時に「ふつう」を選んだときの濃度を設定できます。		
“03 こく”	送信時に「こく」を選んだときの濃度を設定できます。		
07 プログラムキー登録	プログラムボタンの機能が選択できます。	“01 送信結果レポート予約”※ “02 レポート” “03 発信人名称” “04 Fコード” “05 受信モード”	P.8-48
08 オフフックアラーム	原稿の送受信後、受話器がきちんと戻っていないときアラーム音で通知するかどうか選択できます。	“01 する”※ “02 しない”	P.3-9, 4-17
09 音量調整	それぞれの音量を4段階で調整できます。（“0”：無音、“3”：最大）		−
“01 キータッチ音量”	ボタンを押したときに鳴るキータッチ音の音量が調整できます。	“0”～“3”の範囲で変動可能。 “1”※	
“02 アラーム音量”	アラームの音量が調整できます。	“0”～“3”の範囲で変動可能。 “1”※	
“03 送信終了音量”	送信の終了を知らせる音の、音量が調整できます。	“0”～“3”の範囲で変動可能。 “0”※	
“04 受信終了音量”	受信の終了を知らせる音の、音量が調整できます。	“0”～“3”の範囲で変動可能。 “0”※	
10 回線種類選択	電話回線の種類が選択できます。	“01 ダイヤル回線”※ “02 プッシュ回線”	P.7-10
（ダイヤルスピード）	「ダイヤル 回線」を選択すると、ダイヤルスピードも選択できます。	“01 20PPS”※ “02 10PPS”	

変更した内容は、セットボタンを押したときに登録されます。

レポート設定のメニュー項目

レポート設定のメニューブロックには、6 種類の登録／設定項目があります。

レポート設定の登録／設定項目を選択するには

「メニューブロックを選択するには」の手順 3（➔ **P.8-26**）で“02 レポート設定”を反転表示させ、セットボタンを押します。

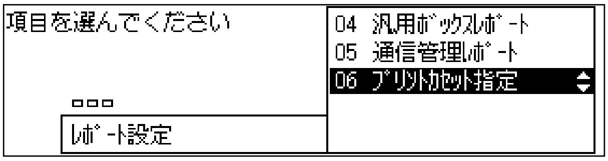


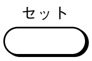


▼または▲ボタンを押して、設定する項目を反転表示させます。



▼▲





セットボタンを押すと、反転表示している項目が選択できます。

レポート設定の登録／設定項目の種類と内容

レポート設定ブロック内には、つぎのメニュー項目があります。

登録/設定項目	登録/設定項目の内容	登録/設定値 （※はご購入時の設定）	参照先
01 送信結果レポート	送信結果レポートをプリントするかどうか選択できます。送信エラーが発生したときだけプリントするよう設定されています。	“01 プリントしない” “02 エラー時のみプリント”※ “03 プリントする”	P.8-18
（送信原稿）	送信結果レポートをプリントするように設定すると、レポートに原稿の一部をプリントするかどうか選択できます。	“01 付けない” “02 付ける”※	
02 受信結果レポート	受信結果レポートをプリントするかどうか選択できます。受信エラーが発生したときだけプリントするよう設定することもできます。	“01 プリントしない”※ “02 エラー時のみプリント” “03 プリントする”	P.8-19
03 親展受信レポート	親展受信したとき親展受信レポートをプリントするかどうか選択できます。	“01 プリントしない” “02 プリントする”※	P.5-49, 8-19
04 汎用ボックス レポート	汎用ボックス受信したとき汎用ボックス受信レポートをプリントするかどうか選択できます。	“01 プリントしない” “02 プリントする”※	P.8-20
05 通信管理レポート “01 自動プリント”	通信管理レポートを40通信ごとに自動的にプリントするかどうか選択できます。	“01 する”※ “02 しない”	P.8-15
“02 指定時刻 プリント”	指定時刻に通信管理レポートをプリントするかどうか選択できます。	“01 しない”※ “02 する”	
（プリント時刻）	指定時刻プリント“02 する”のとき、通信管理レポートのプリント時刻が指定できます。	テンキーで指定可能。 時刻は24時間制。	
“03 送信／受信分離”	送信と受信を分けてプリントするかどうか選択できます。	“01 しない”※ “02 する”	
06 プリントカセット 指定	レポートプリント時に、プリントカセットを指定するかどうか選択できます。	“01 しない”※ “02 する”	P.8-3
（カセット選択）	プリントカセット指定“02 する”のとき、レポート用の記録紙カセットが選択できます。	オプションカセットが装着されていないとき： “01 マルチフィーダ” “02 上段カセット”※ オプションカセットが装着されているとき： “01 マルチフィーダ” “02 上段カセット” （本体カセット）※ “03 下段カセット” （オプションカセット）	

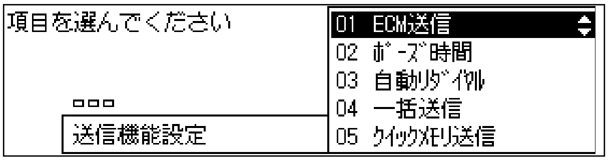
変更した内容は、セットボタンを押したときに登録されます。

送信機能設定のメニュー項目

送信機能設定のメニューブロックには、7 種類の登録／設定項目があります。

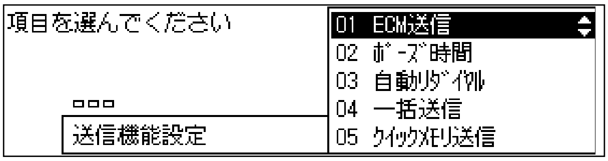
送信機能設定の登録／設定項目を選択するには

「メニューブロックを選択するには」の手順 3（➔ **P.8-26**）で“03 送信機能設定”を反転表示させてセットボタンを押します。

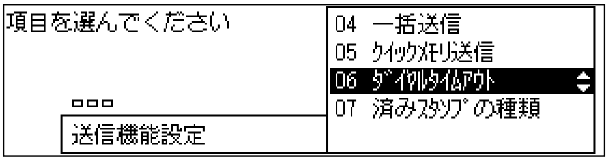


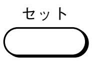


▼または▲ボタンを押して、設定する項目を反転表示させます。



▼▲





セットボタンを押すと、反転表示している項目が選択できます。

送信機能設定の登録／設定項目の種類と内容

送信機能設定ブロック内には、つぎのメニュー項目があります。

登録/設定項目	登録/設定項目の内容	登録/設定値 （※はご購入時の設定）	参照先
01 ＥＣＭ送信	ＥＣＭ送信するかどうか選択できます。	“01 する”※ “02 しない”	P.3-29
02 ポーズ時間	ポーズボタンを押したときのポーズの秒数が設定できます。	01～15秒の範囲で設定可能。 “02秒”※	P.6-32
03 自動リダイヤル	相手が話し中だった場合、自動リダイヤルするかどうか選択できます。	“01 する”※ “02 しない”	P.3-28
“01 リダイヤル回数”	自動リダイヤル“01 する”のとき、相手が話し中だった場合の自動リダイヤル回数が設定できます。	01～15回の範囲で設定可能。 “02回”※	
“02 リダイヤル間隔”	自動リダイヤルの間隔が設定できます。	02～99分の範囲で設定可能。 “02分”※	
04 一括送信	メモリ内の同じ宛先の原稿をまとめて送信するかどうか選択できます。	“01 する”※ “02 しない”	P.3-6
05 クイックメモリ送信	クイックメモリ送信するかどうか選択できます。	“01 する”※ “02 しない”	P.3-6
06 ダイヤルタイムアウト	同報送信の際のダイヤルで、ダイヤルの間隔があくと（最初のダイヤルから5秒以上、2番目以降のダイヤルから10秒以上）、メモリに読み込みを開始するかどうか選択できます。	“01 する”※ “02 しない”	P.3-5, 3-20
07 済みスタンプの種類	送信済みスタンプを押す場合の条件が選択できます。	“01 ダイレクト／メモリ送信”※ “02 ダイレクト送信のみ”	P.3-4

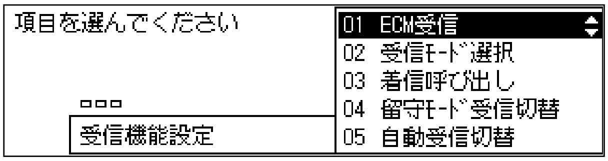
変更した内容は、セットボタンを押したときに登録されます。

受信機能設定のメニュー項目

受信機能設定のメニューブロックには、9 種類の登録／設定項目があります。

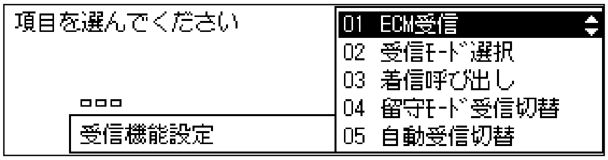
受信機能設定の登録／設定項目を選択するには

「メニューブロックを選択するには」の手順 3（➔ ***P.8-26***）で
“04 受信機能設定”を反転表示させてセットボタンを押します。

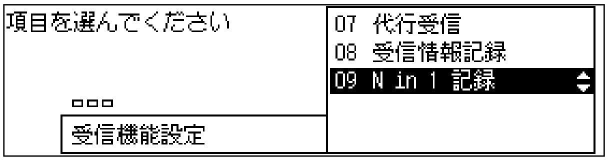


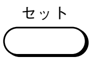


▼または▲ボタンを押して、設定する項目を反転表示させます。



▼▲





セットボタンを押すと、反転表示している項目が選択できます。

受信機能設定の登録／設定項目の種類と内容

受信機能設定ブロック内には、つぎのメニュー項目があります。

登録/設定項目	登録/設定項目の内容	登録/設定値 （※はご購入時の設定）	参照先
01 ＥＣＭ受信	ＥＣＭ受信するかどうか選択できます。	“01 する”※ “02 しない”	P.3-29
02 受信モード選択	自動受信モードを選択できます。	“01 FAX/TEL切替” “02 自動受信”※ “03 ダイヤルインF/T切替”	P.4-5
“01 TEL番号指定”	“03 ダイヤルインF/T切替”に設定されているとき、電話用の番号を設定できます。	テンキーで4桁の数字を入力可能	P.4-12
“02 FAX番号指定”	“03 ダイヤルインF/T切替”に設定されているとき、ファクス用の番号を設定できます。	テンキーで4桁の数字を入力可能	

変更した内容は、セットボタンを押したときに登録されます。

登録/設定項目	登録/設定項目の内容	登録/設定値 （※はご購入時の設定）	参照先
“01 呼び出し開始時間”	“01 FAX/TEL切替”のとき、電話を受けてから呼び出し音を鳴らすまでの時間が設定できます。	00～30秒の範囲で設定可能。 “06秒”※	P.4-7
“02 呼び出し時間”	“01 FAX/TEL切替”の呼び出し時間の長さが設定できます。	015～300秒の範囲で設定可能。 “016秒”※	P.4-7
“03呼び出し後の動作”	“01 FAX/TEL切替”のとき、設定された時間呼び出しを行っても受話器が取られなかったときの動作が選択できます。	“01 受信”※ “01 終了”	P.4-7, 4-9
“04 音声応答”	“01 FAX/TEL切替”のとき、音声応答するかどうか選択できます。	“01 しない”※ “02 する”	P.4-8, 4-9
03 着信呼び出し	自動受信のときも呼び出し音で知らせるかどうか選択できます。	“01 しない”※ “02 する”	P.4-3, 4-4
（呼び出し回数）	着信呼び出し“02 する”のとき、着信呼び出しの回数が設定できます。	01～99回の範囲で設定可能。 “02回”※	
04 留守モード受信切替	留守モードのとき、自動的に受信に切り替えるかどうか選択できます。	“01 する”※ “02 しない”	P.4-20
（無音時間）	留守モード受信切替“01 する”のとき、相手が応答せず無音の状態が続いたときに自動的に受信モードに切り替える時間が設定できます。	01～99秒の範囲で設定可能。 “06秒”※	
05 自動受信切替	手動受信のとき、一定の時間呼び出しても受話器が取られないときに自動受信に切り替えるかどうか選択できます。	“01 しない”※ “02 する”	P.4-4
（呼び出し時間）	自動受信切り替え“02 する”のとき、手動受信から自動受信モードに切り替えるまでの呼び出し時間が設定できます。	01～99秒の範囲で設定可能。 “15秒”※	
06 リモート受信	“01 リモート受信ID” 接続した電話からのリモート起動ID番号でリモート受信します。 “02 IDなし（オンフック）” 受話器を置くだけでリモート受信します。	“01 リモート受信ID”※ “02 IDなし（オンフック）” “03 しない”	P.4-18
（リモート起動ID）	“01 リモート受信ID”のとき、リモート受信用の起動ID番号が設定できます。	00～99の範囲で設定可能。 “25”※	
07 代行受信	メモリ代行受信するかどうか選択できます。	“01 する”※ “02 しない”	P.4-21
(代行受信アラーム)	メモリ代行受信したときアラーム音で通知するかどうか選択できます。	“01 しない”※ “02 する”	
08 受信情報記録	原稿の受信時刻、受付番号、ページ番号などをプリントするときに付けるかどうか選択できます。	“01 付けない”※ “02 付ける”	－
09 N in 1記録	1枚の記録紙に2～3ページ分の画像をまとめて記録するかどうか選択できます。	“01 しない”※ “02 する	P.4-24

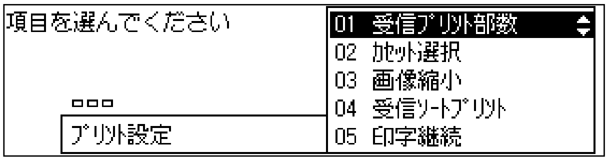
変更した内容は、セットボタンを押したときに登録されます。

プリント設定のメニュー項目

プリント設定のメニューブロックには、5種類の登録／設定項目があります。

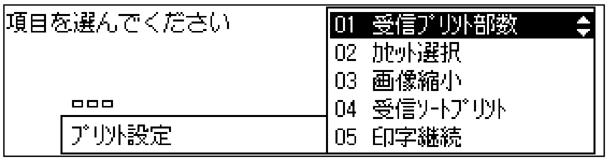
プリント設定の登録／設定項目を選択するには

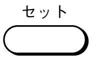
「メニューブロックを選択するには」の手順3（➔ **P.8-26**）で“05 プリント設定”を反転表示させてセットボタンを押します。





▼または▲ボタンして、設定する項目を反転表示させます。





セットボタンを押すと、反転表示している項目が選択できます。

プリント設定の登録／設定項目の種類と内容

プリント設定ブロック内には、つぎのメニュー項目があります。

登録／設定項目	登録／設定項目の内容	登録／設定値 （※はご購入時の設定）	参照先
01受信プリント部数	受信原稿を記録紙にプリントするときの部数が設定できます。	01～99枚の範囲で設定可能。 “01枚”※	－
02 カセット選択	受信原稿プリント時の記録紙選択を設定することができます。	ONが許可を意味します。	P.4-22, 4-23
“01 スイッチA”	**B4･B5カセット設置時：**B4サイズの原稿をB5サイズに分割してプリントするかどうか選択できます。 **A4･A5カセット設置時：**A4サイズの原稿をA5サイズに分割してプリントするかどうか選択できます。	“01 ON”※ “02 OFF”	
“02 スイッチB”	**B4･B5カセット設置時：**B5サイズの原稿をB4サイズに余白つきでプリントするかどうか選択できます。 **A4･A5カセット設置時：**A5サイズの原稿をA4サイズに余白つきでプリントするかどうか選択できます。	“01 ON”※ “02 OFF”	

変更した内容は、セットボタンを押したときに登録されます。

登録／設定項目	登録／設定項目の内容	登録／設定値 （※はご購入時の設定）	参照先
“03 スイッチC”	B4･A4、B5･A4、B4･A5、B5･A5カセット設置時：B版原稿受信時にB版記録紙がない場合、A版記録紙にプリントするかどうか選択できます。	“01 ON”※ “02 OFF”	
“04 スイッチD”	B4･A4、B5･A4、B4･A5、B5･A5カセット設置時：A版原稿受信時にA版記録紙がない場合、B版記録紙にプリントするかどうか選択できます。	“01 ON”※ “02 OFF”	
03 画像縮小	受信した画像を縮小してプリントするかどうか選択できます。	“01 する”※ “02 しない”	P.4-23, 10-5
“01 縮小モード選択”	画像縮小“01 する”のとき、画像の縮小を固定モードにするか自動モードにするか選択できます。	“01 自動”※ “02 固定”	
（縮小率）	“01 縮小モード選択”で“02 固定”を選択すると画像の縮小率が▲または▼ボタンで選択できます。	“01 97%” “02 95%” “03 90%”※ “04 75%”	
“02 縮小方向選択”	画像の縮小方向が選択できます。	“01 縦のみ”※ “02 縦横”	
04 受信ソートプリント	受信した画像を順番に揃えてからプリントするかどうか選択できます。	“01 しない”※ “02 する”	P.4-3
05 印字継続	“02 する”に設定すると、ディスプレイに「カートリッジが空になりました」というメッセージが表示されても出力を継続します。この機能は、新しいカートリッジが手元にないときなどには便利ですが、トナーがなくなってもメモリ代行受信しなくなります。カートリッジを交換したら“01 しない”に戻してください。	“01 しない”※ “02 する”	P.4-22

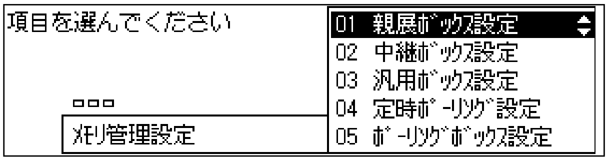
変更した内容は、セットボタンを押したときに登録されます。

メモリ管理設定のメニュー項目

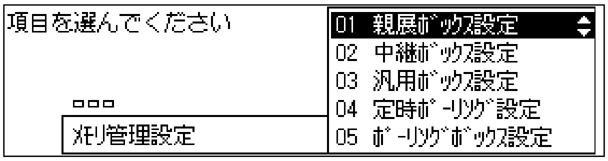
メモリ管理設定のメニューブロックには、6 種類の登録／設定項目があります。

メモリ管理設定の登録／設定項目を選択するには

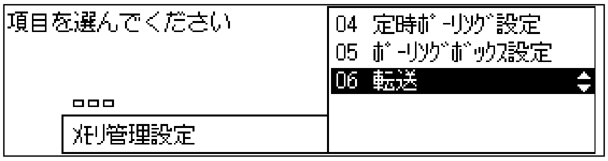
「メニューブロックを選択するには」の手順 3（➔ **P.8-26**）で“06 メモリ管理設定”を反転表示させてセットボタンを押します。



▼または▲ボタンを押して、設定する項目がを反転表示させます。



▼▲



セットボタンを押すと、反転表示している項目が選択できます。

メモリ管理設定の登録／設定項目の種類と内容

メモリ管理の設定ブロック内には、つぎのメニュー項目があります。

登録/設定項目	登録/設定項目の内容	登録/設定値	参照先
01 親展ボックス設定	親展ボックスの作成、変更、取り消しができます。	「親展ボックスを設定するには」の説明参照。	P.5-52
02 中継ボックス設定	中継ボックスの作成、変更、取り消しができます。	「受信した原稿を複数の相手に中継するには」の説明参照。	P.5-64
03 汎用ボックス設定	汎用ボックスの作成、変更、取り消しができます。	「汎用ボックスを活用するには」の説明参照。	P.5-74
04 定時ポーリング設定	定期的にポーリング受信するように設定することができます。	「指定した時刻にポーリング受信するには」の説明参照。	P.5-6
05 ポーリングボックス設定	ポーリングボックスの作成、変更、取り消しができます。	「ポーリングボックスを設定するには」の説明参照。	P.5-19
06 転送	受信した原稿を転送するように設定できます。	「受信原稿を転送したいときには」の説明参照。	P.5-27

メモ

親展ボックス、中継ボックス、汎用ボックス、定時ポーリング、ポーリングボックス、転送は合わせて70個まで設定できます。なお、転送は1個しか設定できません。

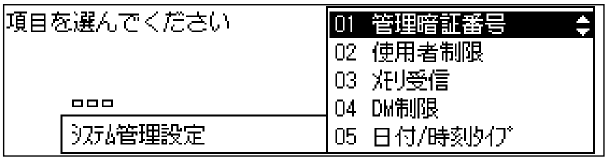
システム管理設定のメニュー項目

システム管理設定のメニューブロックには、14種類の登録／設定項目があります。

システム管理設定メニューの表示

「メニューブロックを選択するには」の手順3（➔ **P.8-26**）で“07システム管理設定”を反転表示させてセットボタンを押します。

- 管理暗証番号が設定されているときは､4桁の暗証番号を入力してセットボタンを押します。暗証番号の入力がないと、システム管理の各項目を設定したり変更することはできません。

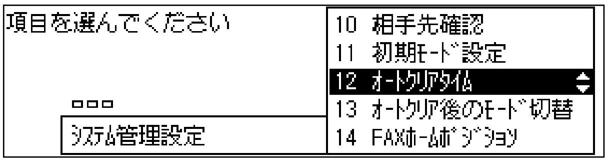


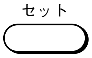


▼または▲ボタンを押して、設定する項目を反転表示させます。



▼▲





セットボタンを押すと、反転表示している項目が選択できます。

メモ

登録した管理暗証番号を変更したりクリアするときは、つぎの手順で操作してください。

変更するとき

[登録／設定]→[セット]→[▼]または[▲]で“07システム管理設定”選択→[セット]→現行暗証番号入力→[セット]→[セット]→現行暗証番号入力→[セット]→新規暗証番号入力→[セット]

クリアするとき

[登録／設定]→[セット]→[▼]または[▲]で“07システム管理設定”選択→[セット]→現行暗証番号入力→[セット]→[セット]→現行暗証番号入力→[セット]→[クリア]→[セット]

システム管理設定の登録／設定項目の種類と内容

システム管理の設定ブロック内には、つぎのメニュー項目があります。

登録/設定項目	登録/設定項目の内容	登録/設定値 （※はご購入時の設定）	参照先
01 管理暗証番号	システム管理者のための暗証番号が登録できます。暗証番号を設定すると、暗証番号を知らない人はシステム管理メニューの項目を変更できなくなります。	4桁の数値で指定可能。	－
02 使用者制限	暗証番号を設定し、送信やコピーの操作をする人を制限することができます。	「使用者を制限したいときには」の説明参照。	P.8-50
03 メモリ受信	受信原稿のプリントを禁止して、メモリ受信するように設定できます。	「メモリで受信するには」の説明参照。	P.5-33
04 DM(ダイレクトメール)制限	ワンタッチダイヤル、短縮ダイヤルに登録している相手以外からの原稿を受信しないように設定できます。	“01 しない”※ “02 する”	－
05 日付/時刻タイプ	ディスプレイやレポートに表示される日付のタイプが設定できます。 （YYYY:年, MM:月, DD:日）	“01 YYYY MM/DD”※ “02 MM/DD/YYYY” “03 DD/MM YYYY”	－
06 送信スタートスピード	原稿を送信する際の本機の最高スピードを設定できます。	“01 33600 bps”※ “02 14400 bps” “03 9600 bps” “04 7200 bps” “05 4800 bps” “06 2400 bps”	－
07 受信スタートスピード	原稿を受信する際の本機の最高スピードを設定できます。	“01 33600 bps”※ “02 14400 bps” “03 9600 bps” “04 7200 bps” “05 4800 bps” “06 2400 bps”	－
08 受信パスワード	ITU-T規格。受信した原稿に付加されているパスワードと照合するためのパスワード。合致しないときは原稿を受信しない。	1～20桁の範囲で数字、＊、＃、スペースが入力可能。	－
09 エナジーセーバー	一定時間何も操作せずにいると自動的に省電力状態に切り替えるかどうか選択できます。ダイヤルインF/T切替を設定している場合、この設定は無効です。	“01 する”※ “02 しない”	P.1-9
（エナジーセーバー移行時間）	エナジーセーバーが“01 する”のとき、省電力状態に切り替わるまでの時間を設定できます。	03～30分の範囲で設定可能。 “03分”※	
10 相手先確認	送信時にダイヤルした番号の下6桁と相手機に登録されているユーザ電話番号の下6桁を照合し、不一致の場合には送信を中止するかどうか選択できます。	“01 しない”※ “02 する”	－

変更した内容は、セットボタンを押したときに登録されます。

登録/設定項目	登録/設定項目の内容	登録/設定値 （※はご購入時の設定）	参照先
11 初期モード設定	電源を入れたときコピーモードになるかファクスモードになるか選択できます。	“01 ファクス”※ “02 コピー”	P.1-8
12 オートクリア タイム	オートクリアタイムが設定できます。オートクリアタイムで設定した時間何も操作せずにいると、FAXホームポジションまたはコピー機能設定の標準設定に切り替わります。	1～9分の範囲で設定可能。 “2分”※	P.1-8
13 オートクリア後 のモード切替	“12 オートクリアタイム”で設定した時間何も操作せずにいたとき初期モードに戻すかどうかが設定できます。	“01 初期モードに戻さない” “02 初期モードに戻す”※	P.1-8
14 FAX ホームポジション	ファクス送信時のホームポジションを設定できます。ファクスモードへ切り替えたときやファクスの送信が終了したとき、またオートクリアでファクスモードに戻ったときは自動的にここで選択したホームポジションに戻ります。ただし“しない”を選択した項目については上記の状況でも設定は変更されません		P.1-8
“01 解像度”	解像度のホームポジションを設定します。	“01 しない”※ “02 標準” “03 ファイン” “04 スーパーファイン” “05 ウルトラファイン	
“02 読取濃度”	濃度のホームポジションを設定します。	“01 しない”※ “02 うすく” “03 ふつう” “04 こく”	
“03 画質”	画質のホームポジションを設定します。	“01 しない”※ “02 文字” “03 文字／写真” “04 写真”	
“04 送信 モード”	送信モードのホームポジションを設定します。	“01 メモリ送信”※ “02 ダイレクト送信”	
“05 送信スタンプ”	送信スタンプのホームポジションを設定します。	“01 押さない”※ “02 押す”	

変更した内容は、セットボタンを押したときに登録されます。

コピー機能設定のメニュー項目

コピー機能のメニューブロックには、6種類の登録／設定項目があります。

コピー機能設定の登録／設定項目を選択するには

「メニューブロックを選択するには」の手順3（➔ **P.8-26**）で“08 コピー機能設定”を反転表示させてセットボタンを押します。



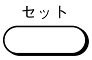


▲または▼ボタンを押して、設定する項目を反転表示させます。



▲▼





セットボタンを押すと、反転表示している項目が選択できます。

コピー機能設定の登録／設定項目の種類と内容

コピー機能設定ブロック内には、つぎのメニュー項目があります。

登録／設定項目	登録／設定項目の内容	登録／設定値 （※は購入時の設定）	参照先
01 標準読取モード	コピー時の画像モードの初期値が設定できます。	“01 文字原稿”※ “02 文字／写真” “03 写真”	P.1-8, 2-13
02 標準濃度	コピー時のプリント濃度の初期値が設定できます。	こくボタンまたはうすくボタンで7段階の変更が可能。 ※	P.1-8, 2-13
03 標準倍率	コピー時の拡大/縮小倍率の初期値が設定できます。	50%～200%の範囲で変更可能。 “100%”※	P.1-8, 2-10
04 標準部数	コピー部数の初期値が設定できます。	01～99の範囲で変更可能。 “01”※	P.1-8
05 自動用紙選択	ADFに原稿をセットしたとき、自動用紙選択機能（オート）を使用するかどうか選択できます。	“01 しない” “02 する”※	P.2-11
06 枠消し幅	枠消しコピー時の、周辺部の枠消しの幅を設定できます。	01～20 mmの範囲で変更可能。 “02 mm”※	P.2-15

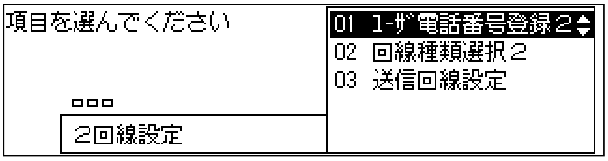
変更した内容は、セットボタンを押したときに登録されます。

2回線設定のメニュー項目

オプションの2回線ボードを取り付けている場合は、メニュー項目に「2回線設定」が追加されます。
2回線設定のメニューブロックには、3種類の登録／設定項目があります。

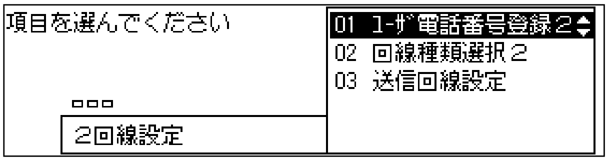
2回線設定の登録／設定項目を選択するには

「メニューブロックを選択するには」の手順3（→ ***P.8-26***）で“09 2回線設定”を反転表示させてセットボタンを押します。

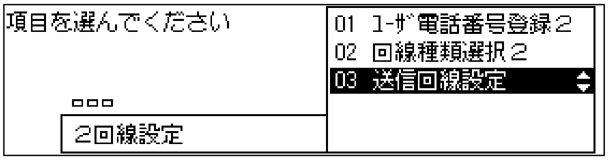


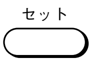


▲または▼ボタンを押して、設定する項目を反転表示させます。



▲▼





セットボタンを押すと、反転表示している項目が選択できます。

2 回線設定の登録／設定項目の種類と内容

2 回線設定ブロック内には、つぎのメニュー項目があります。

登録／設定項目	登録／設定項目の内容	登録／設定値 （※は購入時の設定）	参照先
01 ユーザ電話番号登録2	回線2の電話番号が登録できます。	ダイヤルボタンを使って20桁までの数字を入力。	P.10-8
02 回線種類選択2	回線2の種類が選択できます。	“01 ダイヤル回線”※ “02 プッシュ回線”	P.10-10
（ダイヤルスピード）	“01 ダイヤル回線”を選択した場合、ダイヤルスピードも選択する必要があります。	“01 20PPS”※ “02 10PPS”	
03 送信回線設定	優先して送信に使用する回線または送信を禁止する回線を選択できます。	“01 回線1優先使用”※ “02 回線2優先使用” “03 回線1送信禁止” “04 回線2送信禁止”	－

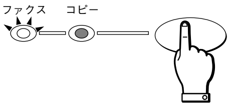
変更した内容は、セットボタンを押したときに登録されます。

登録／設定内容を確認するには

発信元情報やユーザデータの登録設定内容をリストで確認することができます。

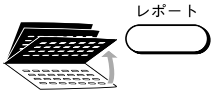
ユーザデータリストはつぎの手順でプリントできます。

1 ファクスモードにします

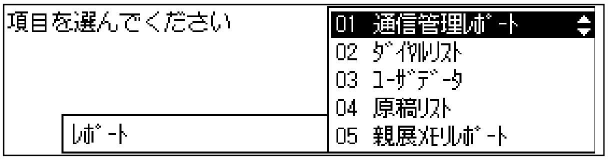


ファクス／コピー切り替えボタンを押して、ファクスランプを点灯させてください。

2 レポートのプリント項目を表示させます



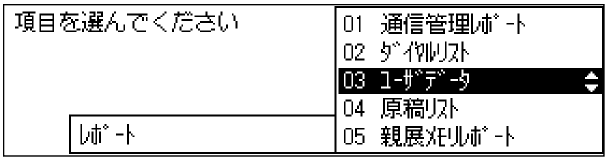
ワンタッチダイヤルパネルを3枚開いて、レポートボタンを押します。



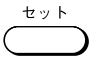
3 ユーザーデータのプリント項目を選択します



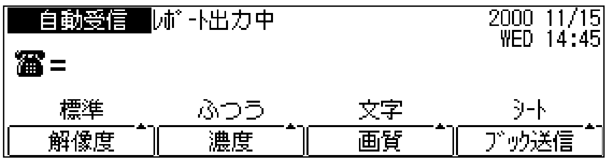
▼または▲ボタンを押して、“03 ユーザデータ” を反転表示させます。



4 ユーザデータリストをプリントします



セットボタンを押します。



ユーザデータリストのプリントがはじまります。

2000 11/15 15:55 FAX 03 3758 2111 ｷﾔﾉﾝ本社 001

****
*** ユーザデータリスト ***
****

1．基本設定	
ユーザ電話番号	03 3758 2111
ユーザ略称	ｷﾔﾉﾝ本社
発信人名称	01: ｷﾔﾉﾝ販売 鈴木
	02: ｷﾔﾉﾝ企画 田中
	03: ｷﾔﾉﾝ工場 佐藤
	04: ｷﾔﾉﾝ開発 中村
発信元記録	付ける
発信元記録位置	画像の中に付ける
電話番号マーク	FAX
読み取り濃度	
薄く	6
普通	4
濃く	2
プログラムキー	レポートプロンプト
オフフック アラーム	する
音量	
キータッチ音量	1
アラーム音量	1
送信終了音量	0
受信終了音量	0
回線種類	ダイヤル回線
ダイヤルスピード	20PPS
2．レポート設定	
送信結果レポート	エラー時にプリントする
送信原稿	付ける
受信結果レポート	エラー時にプリントする
親展受信レポート	プリントする
汎用ボックスレポート	
通信管理レポート	
自動プリント	
指定時刻プリント	
	しない
	しない
メモリ受信	しない
DM制限	しない
日付・時刻タイプ	YYYY MM／DD
送信スタートスピード	33600bps
受信スタートスピード	33600bps
エナジーセーバー	する
エナジーセーバー移行時間	3分
相手先確認	しない
初期モード	ファクス
オートクリアタイム	2分
オートモード切替	しない
FAXホームポジション	
解像度	しない
読取濃度	しない
画質	しない
送信モード	しない
送信スタンプ	しない
8．コピー機能設定	
標準読取モード	文字原稿
標準濃度	4
標準部数	1

全メモリ容量 9.216MByte

画像用のメモリ容量です。

第8章

日常の管理

面倒な設定を簡単にするには

ファクスモードで、いちいちワンタッチダイヤルパネルを開いて機能ボタンを押さなくてもプログラムボタンで簡単に操作できるように設定することができます。

プログラムボタンに設定できる機能

つぎの5つのうちいずれかの機能をプログラムボタンに登録し、活用することができます。(お買いあげ時には“01 送信結果レポート予約”に設定されています)

01 送信結果レポート予約

送信操作をする前に押すと、送信が終了すると自動的に送信結果レポートがプリントされます。

02 レポート

レポートボタンと同じはたらきをさせることができます。

03 発信人名称

発信人名称ボタンと同じはたらきをさせることができます。

04 Fコード

Fコードボタンと同じはたらきをさせることができます。

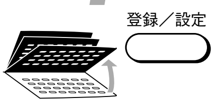
05 受信モード

受信モードボタンと同じはたらきをさせることができます。

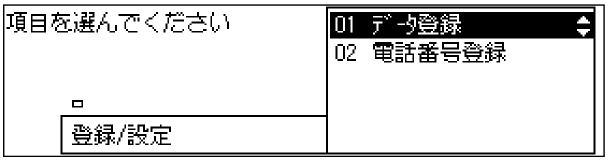
プログラムボタンの機能の設定

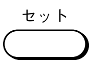
プログラムボタンの機能は、つぎの手順で設定してください。

1 基本設定項目を表示させます

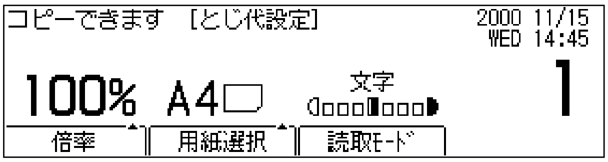


ワンタッチダイヤルパネルを3枚開いて、登録／設定ボタンを押します。



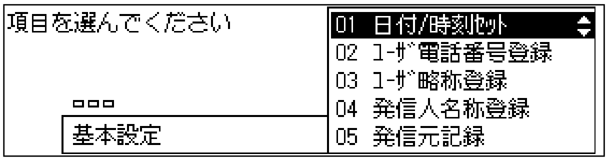


セットボタンを押します。

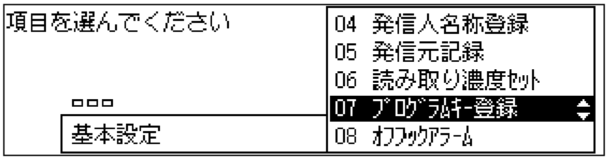


2 プログラムの設定項目を表示させます

セットボタンを押します。

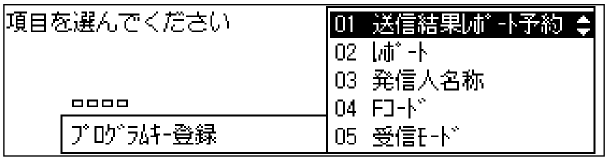


▼または▲ボタンを押して、“07 プログラムキー登録” を反転表示させます。



3 機能を選択します

セットボタンを押します。現在設定されている機能が反転表示されます。



▼または▲ボタンを押して、登録する機能を反転表示させます。

セットボタンを押します。

ストップボタンを押して、待機状態に戻ります。

使用者を制限したいときには

コピーやファクス送信の使用者を制限したり、部門ごとにコードを設定し、ファクスの送信状況を確認し、管理することができます。レポートのプリント操作でも使用者を制限することができます。

使用者を制限するには

送信機能設定とプリント設定の2種類の使用者暗証番号があります。あらかじめ登録／設定ボタンを使って、それぞれの暗証番号を設定しておく必要があります。

- 送信機能設定の使用者暗証番号を設定すると、送信のときに暗証番号の入力が必要になります。
- プリント設定の使用者暗証番号を設定したときは、コピーのときやレポートをプリントするときに暗証番号の入力が必要になります。

送信機能を部門別に管理するには

あらかじめ登録／設定ボタンを使って、使用者制限の部門別管理項目を設定しておく必要があります。

- 部門別管理を設定すると、送信の操作を行うときに部門コードの入力が必要になります。
- 部門別に暗証番号を設定することもでき、送信操作のときに部門コードと暗証番号を入力させるようにすることもできます。

部門別管理を設定すると、通信管理レポートに部門別の送信状況がプリントされます。

2000 07/16 18:27 FAX 03 3758 2111　　キヤノン本社　　001

****
***　通信管理レポート　***
****

部門コード:1234

開始時刻	相手先	発信人名称	番号	通信モード	枚数	通信結果
*07/16 17:42	キヤノン販売 03 3455 9000		0049	同報送信　ECM	1	OK　00'18
*07/16 17:43	キヤノン販売札幌 011 728 9000		0049	同報送信　ECM	1	OK　00'11

部門コード:9876

開始時刻	相手先	発信人名称	番号	通信モード	枚数	通信結果
*07/16 18:00	キヤノン販売福岡 092 412 9000		0051	タイマー送信　ECM	1	OK　00'10
*07/16 18:23	キヤノン販売 03 3455 9000		0053	送信　ECM	1	OK　00'20

部門コード:

開始時刻	相手先	発信人名称	番号	通信モード	枚数	通信結果
*07/16 17:52	キヤノン販売 03 3455 9000		5027	自動受信　ECM	1	OK　00'15
*07/16 18:13			5028	自動受信　G3	0	NG　00'10 0
*07/16 18:13	キヤノン販売 03 3455 9000		5029	自動受信　ECM	1	OK　00'16

項目の設定内容と操作時の制限

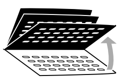
部門コードや使用者暗証番号の設定のしかたによって、つぎのように原稿送信やコピー、およびレポートのプリント操作が制限されます。

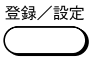
使用者制限の設定項目の内容				プリント、コピー操作時の制限
送信機能設定“02 する”	部門別管理“02 する”	部門コード設定	部門暗証番号設定	原稿送信時、部門コードと部門暗証番号の入力が必要。
			部門暗証番号未設定	原稿送信時、部門コードの入力が必要。
	部門別管理“01 しない”	使用者暗証番号設定		原稿送信時、使用者暗証番号の入力が必要。
		使用者暗証番号未設定		送信機能設定を“01 しない”に設定するまで原稿の送信不可。
プリント設定“02 する”	使用者暗証番号設定			コピー操作やプリント操作時、使用者暗証番号の入力が必要。
	使用者暗証番号未設定			プリント設定を“01 しない”に設定するまで、コピーやプリント操作不可。

送信機能の部門別管理を設定するには

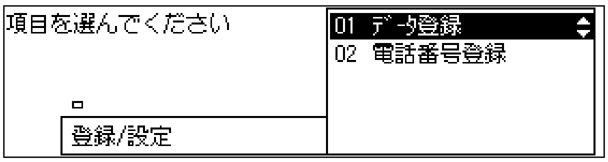
つぎの手順にしたがって操作してください。

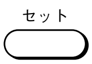
1 システム管理項目を表示させます



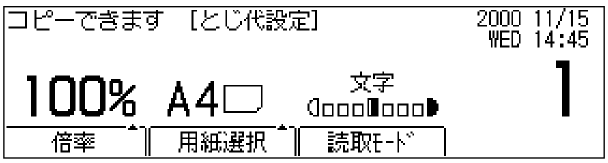


ワンタッチダイヤルパネルを3枚開いて、登録／設定ボタンを押します。





セットボタンを押します。

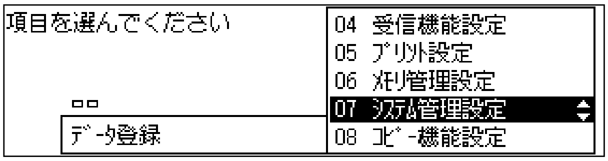


第 8 章

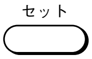
日常の管理



▼または▲ボタンを押して、"07 システム管理設定" を反転表示させます。



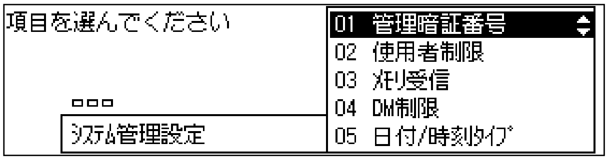
2 使用者制限の設定項目を表示させます



セットボタンを押します。

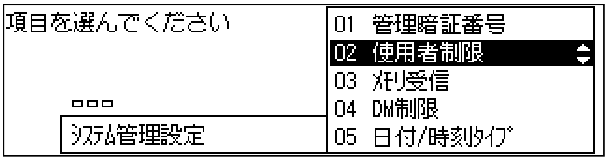
● 管理暗証番号が設定されているときは、4 桁の暗証番号を入力してからさらにセットボタンを押してください（暗証番号は表示されません）。

➔ ***P.8-39***

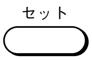




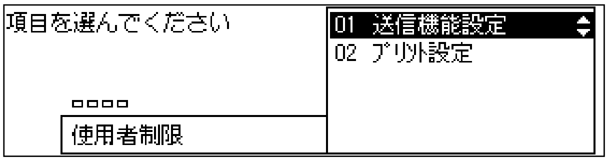
▼または▲ボタンを押して、"02 使用者制限" を反転表示させます。

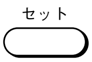


3 送信機能の設定項目を表示させます

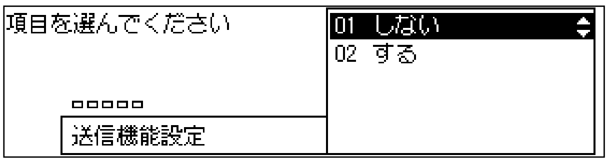


セットボタンを押します。



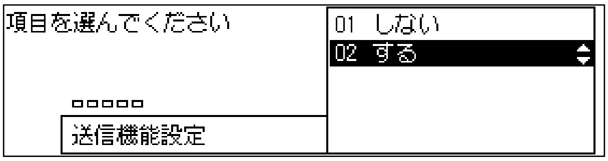


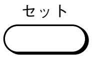
セットボタンを押します。





▼または▲ボタンを押して、“02 する”を反転表示させます。



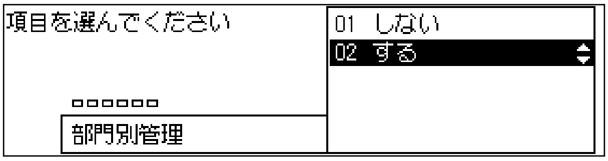


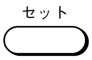
セットボタンを押します。

4 部門別管理の設定をします

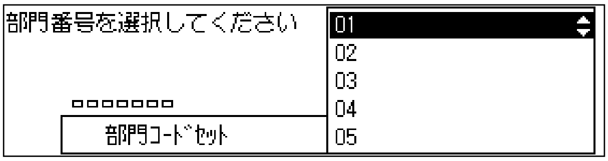


▼または▲ボタンを押して、“02 する”を反転表示させます。





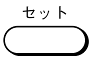
セットボタンを押します。



5 部門コードの入力番号を選択します

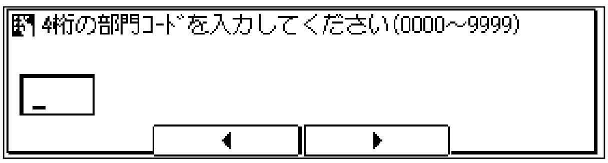


▼または▲ボタンを押して、登録する部門コードの入力番号を反転表示させます。部門コードは1～9番まで登録できます。

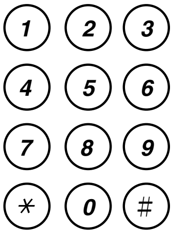


セットボタンを押します。

- はじめて部門コードを登録する場合は入力番号を選択する必要はありません。そのままセットボタンを押して手順6に進んでください。
- すでに登録済みの部門コードがある場合はそれが表示されます。空いている部門コードの入力番号を選択してください。クリアボタンを押して登録された部門コードを削除することもできます。



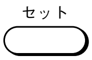
6 部門コードを設定します



テンキーで4桁の部門コードを入力します。“0000”～“9999”の範囲で数字が入力できます。

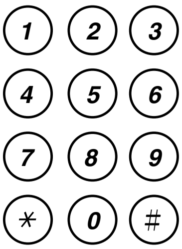


7 部門暗証番号を設定します



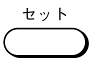
セットボタンを押します。





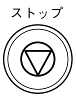
部門暗証番号での管理が必要な場合のみ、テンキーで4桁の部門暗証番号を入力します。“0000”～“9999”の範囲で数字が入力できます。





セットボタンを押します。

- 複数の部門コードと部門暗証番号を設定するときは、手順5～7の操作を繰り返してください。9部門まで設定できます。



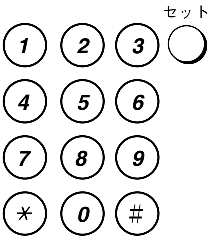
設定が終了したらストップボタンを押します。待機状態に戻ります。

送信機能で部門別管理を設定した場合

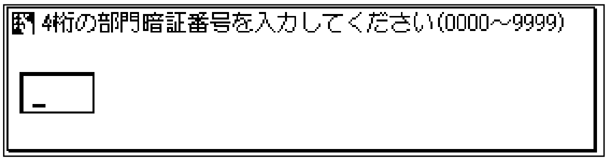
送信機能で部門コードや部門暗証番号を設定しているときは、送信の宛先を確定したあと部門コードや暗証番号を入力する必要があります。

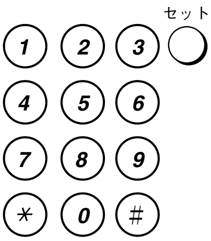
送信の宛先をきめると、ディスプレイにつぎのメッセージが表示されます。





設定した4桁の部門コードを入力し、セット ボタンを押します。
部門暗証番号を設定しているときは、さらにつぎのメッセージが表示されます。





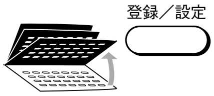
設定した4桁の暗証番号を入力し、セット ボタンを押します。

- 入力した暗証番号はディスプレイには表示されません。

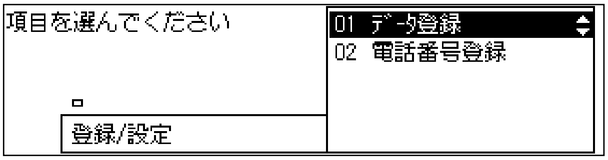
送信機能の使用者を制限するには

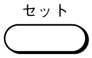
つぎの手順にしたがって操作してください。

1 システム管理項目を表示させます

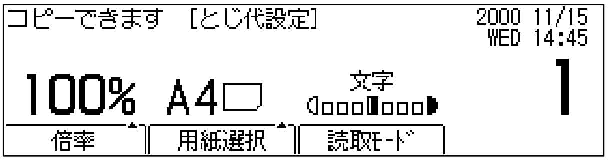


ワンタッチダイヤルパネルを3枚開いて、登録／設定ボタンを押します。



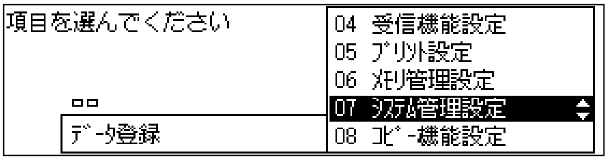


セットボタンを押します。

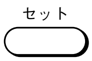




▼または▲ボタンを押して、"07 システム管理設定" を反転表示させます。

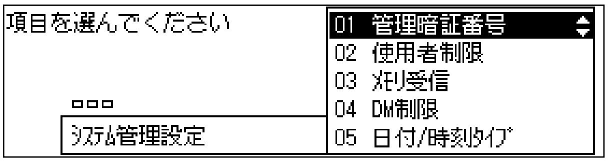


2 使用者制限の設定項目を表示させます

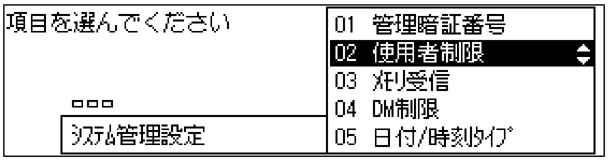


セットボタンを押します。

● 管理暗証番号が設定されているときは、4桁の暗証番号を入力してからさらにセットボタンを押してください（暗証番号は表示されません)。
➔ P.8-39



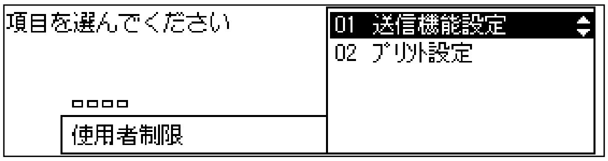
▼または▲ボタンを押して、“02 使用者制限”を反転表示させます。



3 送信機能の設定項目を表示させます

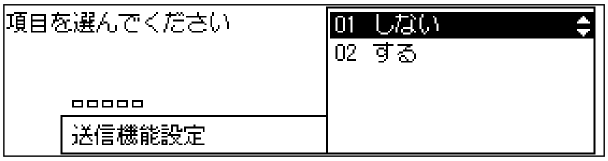
セット

セットボタンを押します。

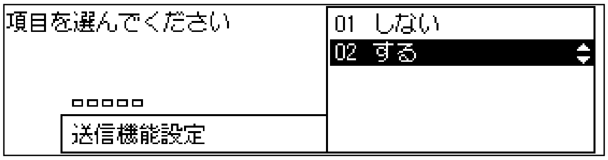


セット

セットボタンを押します。



▼または▲ボタンを押して、“02 する”を反転表示させます。

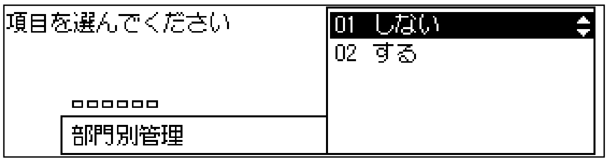


セット

セットボタンを押します。

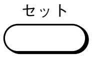
4 送信機能の使用者制限の設定をします

▼または▲ボタンを押して、“01 しない”を反転表示させます。



第8章

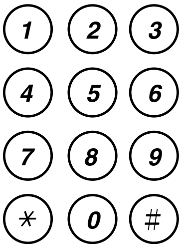
日常の管理



セットボタンを押します。

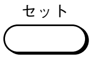


5 使用者暗証番号を設定します

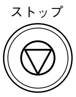


テンキーで4桁の使用者暗証番号を入力します。“0000” ～ “9999” の範囲で数字が入力できます。





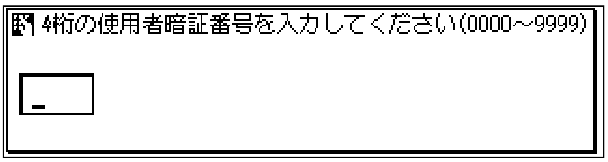
セットボタンを押します。

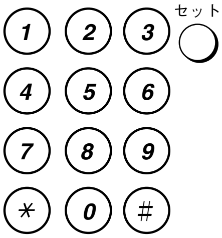


ストップボタンを押して、待機状態に戻ります。

送信機能設定で使用者制限すると

送信機能設定で使用者暗証番号を設定しているときは、送信の宛先を確定したあと使用者暗証番号を入力する必要があります。





使用者暗証番号を入力し、セットボタンを押します。

● 入力した暗証番号はディスプレイには表示されません。

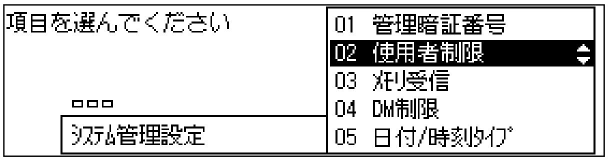
プリント機能の使用者を制限するには

つぎの手順にしたがって操作してください。

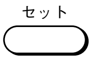
● プリント機能の使用者を制限すると、使用者暗証番号を入力しないとコピーや各種レポートのプリントができなくなります。

1 使用者制限の設定項目を表示させます

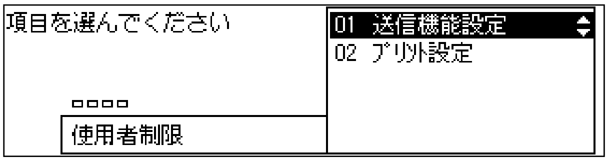
「送信機能の使用者を制限するには」（➔ **P.8-56**）の手順1～2にしたがって“02 使用者制限”の項目を反転表示させます。



2 プリント設定項目を表示させます

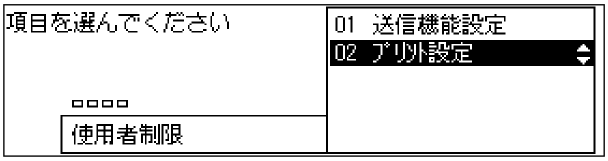


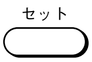
セットボタンを押します。



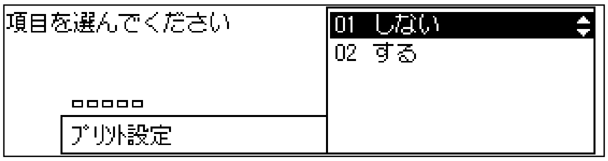


▼または▲ボタンを押して、“02 プリント設定”を反転表示させます。



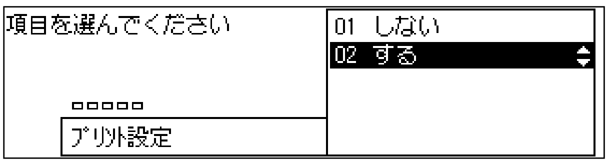


セットボタンを押します。





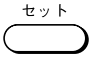
▼または▲ボタンを押して“02 する”を反転表示させます。



第8章

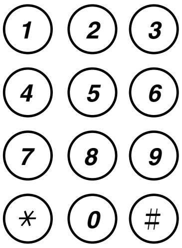
日常の管理

3 使用者暗証番号を設定します



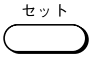
セットボタンを押します。



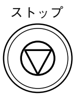


テンキーで4桁の使用者暗証番号を入力します。“0000”～“9999”の範囲で数字が入力できます。



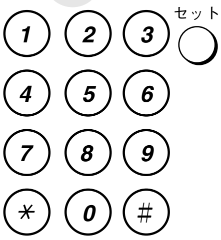


セットボタンを押します。

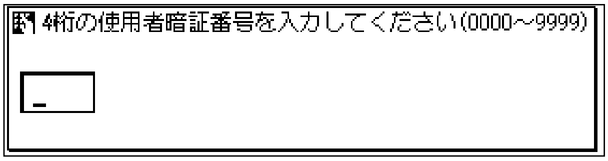


ストップボタンを押して、待機状態に戻ります。

プリント設定で使用者制限すると



原稿のコピーやレポートのプリントをするとき、4桁の使用者暗証番号を入力する必要があります。



4桁の暗証番号を入力しセットボタンを押します。

● 入力した暗証番号はディスプレイには表示されません。

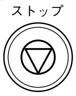
第９章

困ったときは

原稿がつまったときには

原稿が途中でつまったり、途中で止まってしまったときは、電源を入れた状態のまま、フィーダカバーを開いて原稿を取り出してください。

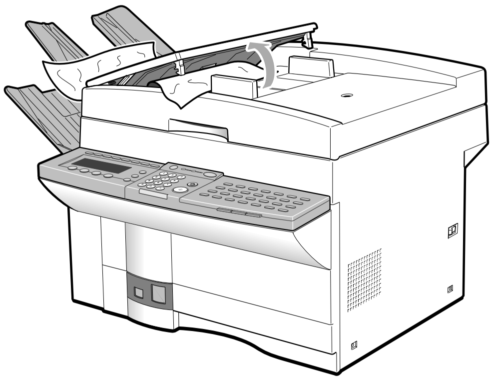
1 ストップボタンを押します



● 読み込みの途中でストップボタンを押すと、それまでメモリに記憶していた部分も消去されます。

2 フィーダカバーを開きます

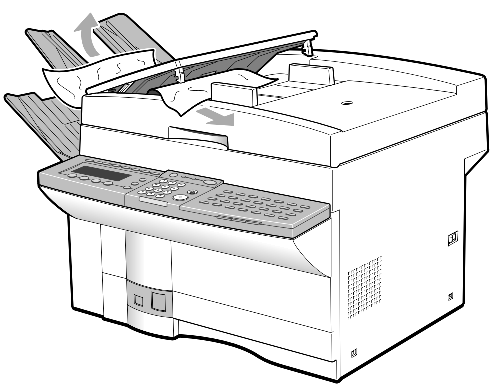
下の図のようにフィーダカバーを持って、上に開いてください。



お願い *フィーダカバーはゆっくり開いてください。フィーダカバーの開き角は約25度です。強く開いたり、無理に大きく開くと破損の原因になります。*

3 原稿を取り出します

左側または右側から引き出してください。

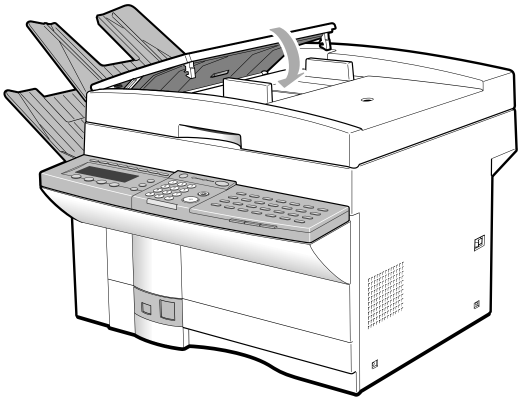


⚠注意 記録紙を補給するとき、つまった原稿や記録紙を取り除くときは、原稿や記録紙の端で手を切ったりしないように注意して扱ってください。

お願い *フィーダカバーが閉じた状態のときは、原稿を引き抜かないでください。無理に引き抜こうとすると、原稿が破れることがあります。*

4 フィーダカバーを元に戻します

カシャッという音がするのを確認してください。



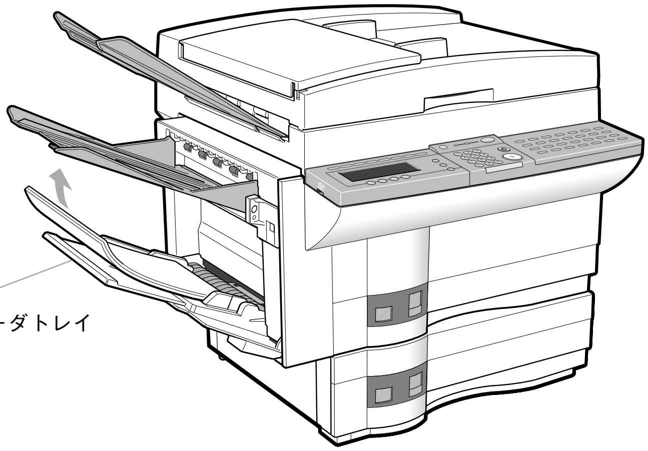
記録紙がつまったときには

記録紙がプリントの途中でつまったり、プリンタが途中で止まってしまったときは、ディスプレイにエラーメッセージが表示され、エラーランプが点滅します。ここで説明する手順でつまった記録紙を取り出してください。なお、電源は入れたままで操作してください。

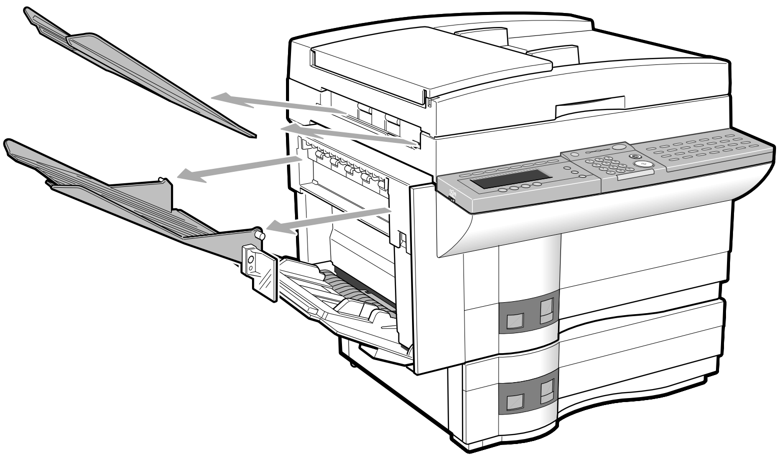
1 マルチフィーダトレイに記録紙がセットされているときは取り除きます

- 本体内に引き込まれた状態の記録紙が見えていても、無理に引き抜かないでください。

お願い *マルチフィーダトレイに記録紙をセットしたままでつぎの手順にすすまないでください。マルチフィーダトレイが破損するおそれがあります。*

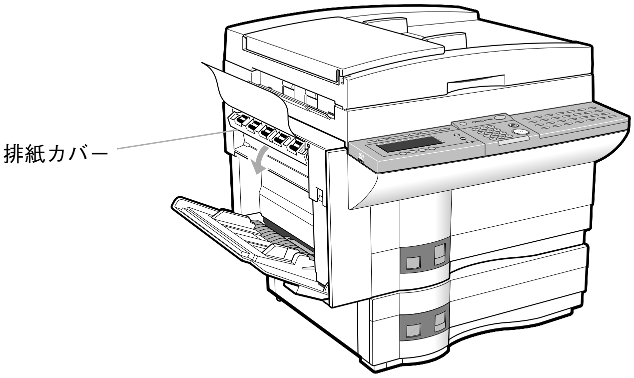


2 原稿トレイと排紙トレイを取りはずします



3 排紙カバーを少し開きます

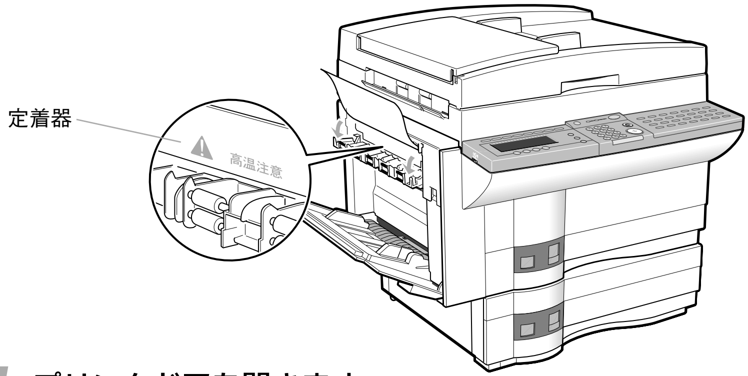
排紙カバーの中央部分に指をかけ、少し開けてください。



⚠警告　本体内部の定着器とその周辺は高温になっております。手を触れないようにご注意ください。やけどする場合があります。

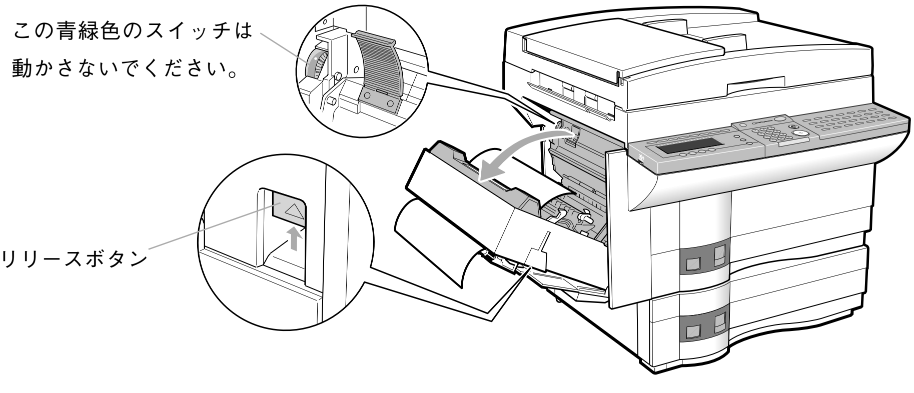
4 排紙カバーを 90 度まで開きます

排紙カバーの両端を持って約90度の角度になるまでやや強く押し下げながら開けてください。



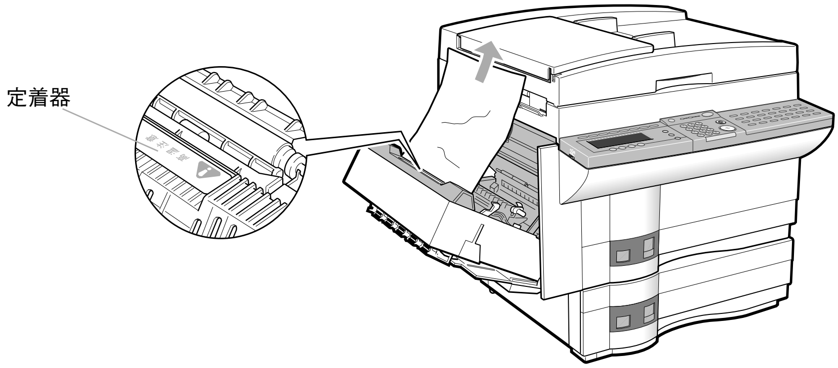
5 プリンタドアを開きます

リリースボタンを押しながら、プリンタドアを開いてください。



6 記録紙がはさまっているときは取り除きます

下の図の矢印の方向にまっすぐに引き出してください。見えている部分が短くて矢印の方向に引き出せないときは、反対方向に引き出してください。



⚠警告

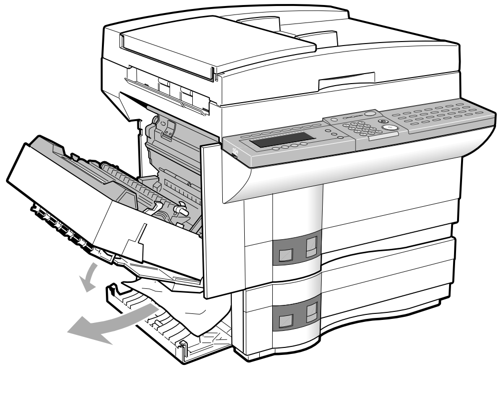
本体内部の定着器とその周辺は高温になっております。手を触れないようにご注意ください。やけどする場合があります。

⚠注意

- 紙づまりで記録紙を機械内部から取り除くときは、紙づまりしている記録紙の上にのっているトナーが衣服や手に触れないように取り除いてください。衣服や手が汚れます。衣服や手が汚れた場合は、直ちに水で洗い流してください。温水で洗うとトナーが定着し、汚れがとれなくなります。
- 記録紙を補給するとき、つまった原稿や記録紙を取り除くときは、原稿や記録紙の端で手を切ったりしないように注意して扱ってください。

7 オプションカセットがある場合は、左カバーを開きます

記録紙がつまっていたら取り出してください。

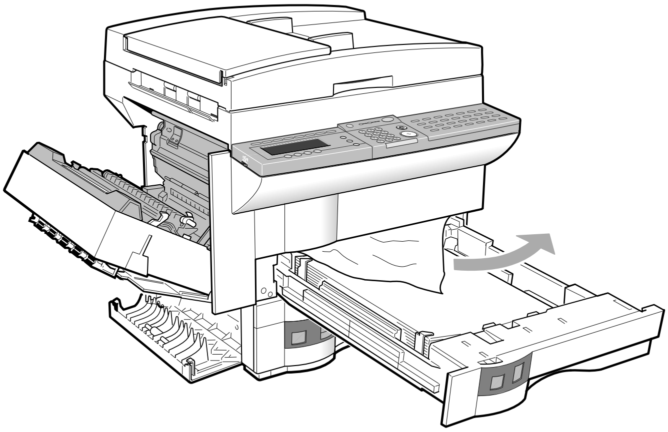


⚠注意 紙づまりの処理などで内部を点検するときは、ネックレス、ブレスレットなどの金属物が機械内部に触れないように点検してください。やけどや感電の原因となることがあります。

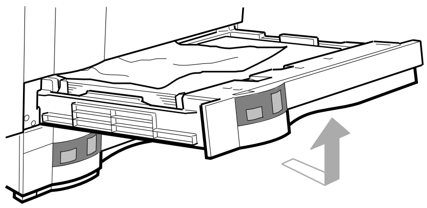
8 カセットを引き出します

記録紙がつまっていたら取り出してください。

- オプションのカセットが設置されているときは、同じようにカセットを引き出し、記録紙がつまっていたら取り出してください。



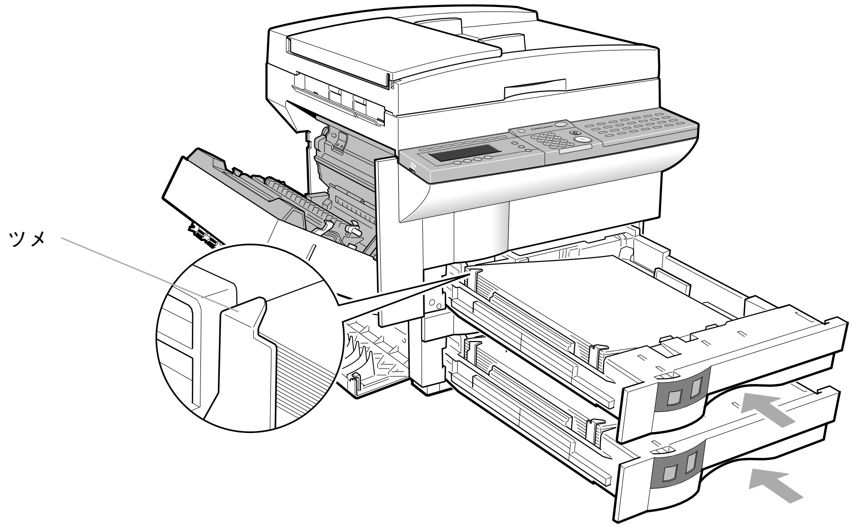
- カセットを引き出した状態で記録紙を取り除くことができないときは、カセットを持ち上げるようにしながら本体から取りはずし、つまっている記録紙を取り出してください。



9 カセットを元に戻します

カセットを元に戻す前に、カセットのツメの部分が記録紙の両端をしっかり押さえているか確認してください。

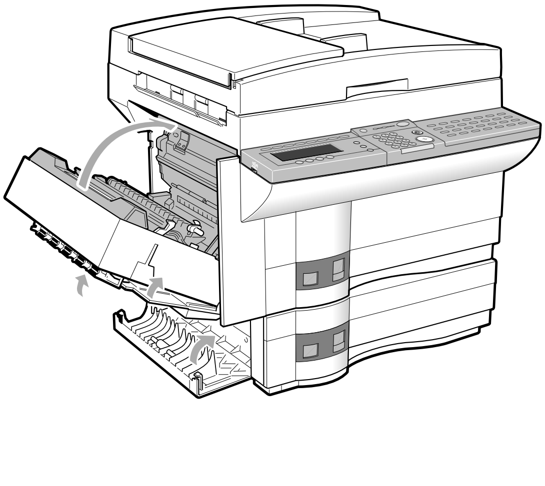
● オプションカセットを引き出しているときは、同じように閉じてください。



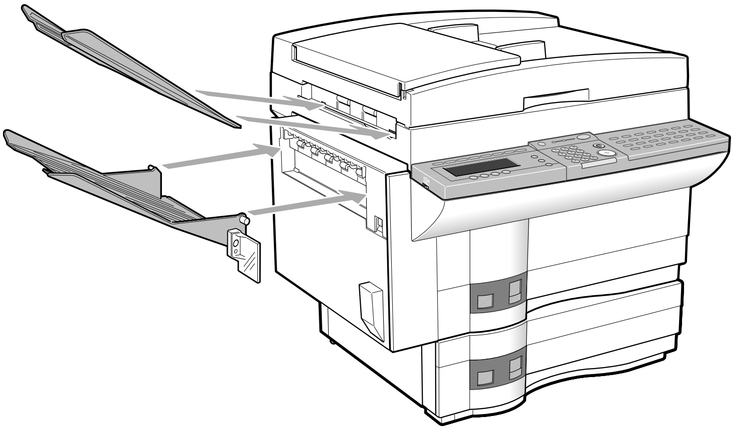
10 すべてのカバーを元に戻します

プリンタドア、排紙カバーなど、開いているカバーをすべて元に戻してください。

ディスプレイのエラーメッセージとエラーランプが消え、待機状態に戻ります。



11 原稿トレイと排紙トレイを元に戻します



お願い

- マルチフィーダトレイを収納するときは、記録紙サイズ切り替えスイッチを必ずOFFに設定してください。
- プリンタドア、オプションカセットの左カバーは必ず元に戻してください。開けたままで操作しないでください。故障の原因になることがあります。

エラーコード一覧

エラーが発生すると、各種レポートにはエラーコードが記録されます。エラーの内容を確認し、的確に対処してください。

エラーコード	原因	対処方法
#001	原稿がつまっている可能性があります。	つまっている原稿を取り除いてください。→P.9-2
#003	長さが1m以上の原稿をADFから送ろうとしました。	原稿台ガラスから分割して送信しなおしてください。→P.3-10
#005	相手が応答しませんでした。	もう一度はじめからやりなおしてください。
	相手機がG3以外の機種である可能性があります。	相手に確認してください。
#008	ポーリング受信時にパスワードが一致しませんでした。	相手に確認してください。（パスワードについてはP.5-42を参照してください。）
#011	送信原稿が正しくセットされていませんでした。	もう一度はじめからやりなおしてください。
	相手機に原稿がセットされていないためポーリング受信できませんでした。	相手に原稿をセットするように連絡してください。
#018	リダイヤルしても応答がありませんでした。相手が通話中などでファクス信号が返ってこなかったために送信できませんでした。	相手の状態を確認したあともう一度はじめからやりなおしてください。
#022	複数の相手からポーリング受信するように設定されていましたが、相手を指定するときに使用したワンタッチまたは短縮ダイヤルの登録内容が削除されていました。	ポーリング受信できなかった相手を確認し、再度ポーリング受信するための設定をしてください。
#025	Fコードの登録の必要な送信方法がワンタッチ、短縮ダイヤルに設定されていますが、Fコードが登録されていません。	Fコードを登録してください。
#033	相手機がFコードに対応していないため親展送信できません。	相手に確認してください。（Fコードについては P.5-42を参照してください。）
#034	相手機が拒否したため親展送信できませんでした。	相手に確認してもう一度はじめからやりなおしてください。
#035	相手機がFコードに対応していないため中継指示送信できません。	相手に確認してください。（Fコードについては P.5-42を参照してください。）
#036	相手機が拒否したため中継指示送信できませんでした。	相手に確認してもう一度はじめからやりなおしてください。
#037	メモリがいっぱいです。	メモリ代行受信または親展受信などでメモリに記録された原稿をプリントしてください。→P.4-22,5-50
#059	ダイヤルした番号と相手機に登録してある番号が異なっていたため送信を中止しました。	相手機に正しい電話番号が登録されているか確認してください。もしくは、システム管理設定の相手先確認をしないに設定してください。→P.8-40
#080	相手機がFコードに対応していないため送信できません。	相手に確認してください。（Fコードについては P.5-42を参照してください。）
#081	相手機がパスワードに対応していないため送信できません。	相手に確認してください。（パスワードについてはP.5-42を参照してください。）
#082	相手機がFコードに対応していないためポーリング受信できません。	相手に確認してください。（Fコードについては P.5-42を参照してください。）
#083	ポーリング受信時にFコードやパスワードが一致しませんでした。	相手に確認してください。（Fコードやパスワードについては P.5-42を参照してください。）
#084	相手機がパスワードに対応していないためポーリング受信できませんでした。	相手に確認してください。（パスワードについてはP.5-42を参照してください。）
#102	送信時にFコードやパスワードが一致しませんでした。	相手に確認してください。
#995	通信予約のクリア操作が行われました。	必要に応じて、もう一度はじめから送信しなおしてください。

システムエラーコード

数字の前に“#”が2つ付いているエラーコードは、システムエラーです。

エラーコード	対処方法
##322 ～ ##330	お買い上げの販売店にお問い合わせください。

ディスプレイに表示されるメッセージ

ディスプレイにはさまざまなメッセージが表示されます。メッセージの内容を確認し、的確に対処してください。

カ

カートリッジが空になりました

まず、トナーカートリッジを取り出し、5～6回左右にゆっくりかたむけてください。本機にセットしなおしてから、コピーをとってみてください。正常にプリントできないときは、トナーカートリッジを交換してください。 ➔ ***P.8-9***

カートリッジをセットしてください

トナーカートリッジを確認しセットしてください。 ➔ ***P.8-11***

カバーを閉めてください

プリンタドアが開いています。プリンタドアをきちんと閉めてください。

記録紙を補給してください

記録紙カセットを正しくセットしなおすか、記録紙を補給してください。 ➔ ***P.8-2***

マルチフィーダトレイに記録紙がセットされていないのに、記録紙サイズ切り替えスイッチがOFFになっていない可能性があります。OFFにしてください。 ➔ ***P.8-8***

記録紙がつまりました

つまった記録紙を取り除いてください。 ➔ ***P.9-4***

原稿が長すぎます

長さが1 m以上の原稿をADFから送信しようとしました。原稿台ガラスから、分割して送信しなおしてください。 ➔ P.3-10

原稿台に用紙があります

送信、またはコピーの済んだ原稿が原稿台ガラスの上に残っています。古い原稿を取り除いてから操作しなおしてください。

原稿を点検してください

原稿がつまっている可能性があります。つまっている原稿を取り除いてください。 ➔ P.9-2

このワンタッチキーは使えません

Fコード送信で別のFコードが設定されているワンタッチキーを押しました。ワンタッチダイヤルの登録内容を確認してから使用してください。 ➔ P.5-43,6-2

サ

作成されていません

親展、汎用ボックス、中継グループ、定時ポーリング、ポーリング、転送で、設定を変更しようとしたボックスが登録されていません。もう一度確認してください。 ➔P.5-6,5-19,5-27,5-52,5-64,5-74

自動リダイヤル

ダイレクト送信時、ダイヤルした相手が話し中のためリダイヤル待機しています。メモリ送信時は自動リダイヤルの表示は特にありません。 ➔ P.3-28

しばらくお待ちください

メモリで送受信しているときにダイレクト送信をしようとするとこの表示になります。メッセージが消えるまでお待ちください。

受話器を戻してください

送信、受信が終了したのにハンドセットがはずれたままになっています。ハンドセットをきちんと戻してください。

使用者制限されています

送信やプリントができないように設定されています。使用者制限の送信機能設定またはプリント設定を“しない”に設定して、使用者制限を解除してください。 ➔ P.8-50

親展受信しました

原稿を受信した親展ボックスのFコード、暗証番号を入力し、メモリに記憶されている原稿をプリントしてください。 ➔ P.5-49

すでに作成されています

親展、メモリボックス、中継グループ、定時ポーリング、ポーリング、転送で、指定されたボックスがすでに作成されています。設定を変更するか他のボックスを選択してください。

➔ P.5-6,5-19,5-27,5-52,5-64,5-74

タ

代行受信しました

トナーまたは記録紙が切れたために、メモリ受信しました。トナーカートリッジを交換するか記録紙を補給してから、メモリに記憶されている原稿をプリントしてください。 ➔ P.4-21,8-2,8-9

ちがうサイズの記録紙にプリント?

セットされている記録紙は、メモリに記憶されている原稿とはサイズが違います。原稿と違うサイズにプリントしてよければ［はい］を押してください。プリントしたくなければ、［いいえ］またはストップボタンを押してから記録紙を補給し、スタートボタンを押してください。 ➔ P.4-22

データがこわれました

お買い上げの販売店にお問い合わせください。

適正サイズの用紙がありません

コピー時に「自動用紙」が指定されましたが、原稿に見合うサイズの記録紙がありません。用紙を選択しなおすか、コピーの倍率を指定しなおしてください。
そのままスタートボタンを押すと、余白または画像の欠けがもっとも少ない記録紙が自動選択され、プリントが始まります。
➔ ***P.2-12***

取消できません

取り消そうとしたボックスには原稿が記憶されているため、取り消しできません。

ハ

汎用ボックス受信しました

汎用ボックスで原稿を受信しました。受信原稿をプリントしてください。 ➔ ***P.5-85***

プリンタを点検してください

プリンタに異常があります。お買上げの販売店にお問い合わせください。

マ

未登録です

電話番号が登録されていないワンタッチ、短縮、グループダイヤルが使用されました。電話番号を登録してから使用してください。
➔ P.6-2,6-9,6-16

メモリがいっぱいです

メモリ代行受信または親展受信などでメモリがいっぱいです。メモリに記憶された原稿をプリントしてください。 ➔ P.4-22,5-50
送信やコピー原稿の読み込み量が限界を超えました。原稿を分けて読み込ませてください。 ➔ P.2-5,3-12

ヤ

やり直してください

回線の状態が悪く、通信エラーが発生しました。もう一度はじめからやり直してください。

困ったときには

昨日まで使えていたのに急にコピーや送信受信ができなくなった､引っ越したらファクスが使えなくなったなど、本機が正しく使えないというときは、まずこのページに沿ってチェックしてみてください。

コピー　ファクス

電源プラグがコンセントから抜けていませんか｡電源スイッチはOFFになっていませんか。

YES → 電源プラグをコンセントに接続します｡電源スイッチをONにします｡→ ***P.7-9***

NO

電話回線や電話機のコードが､抜けていませんか｡または､接続する口(回線接続端子)を間違えていませんか。

YES → 電話回線や電話機のコードを正しく接続します｡→ ***P.7-6***

プッシュ回線／ダイヤル回線の種類を間違えていませんか｡引っ越しや､ビルの電話回線の種類が変更されたときには必ずチェック!

YES → プッシュ回線／ダイヤル回線の種類を変更します。→ ***P.7-10***

NO

操作パネルのエラーランプが点滅していますか。

YES → ディスプレイを確認します。ディスプレイのメッセージ→ ***P.9-11***

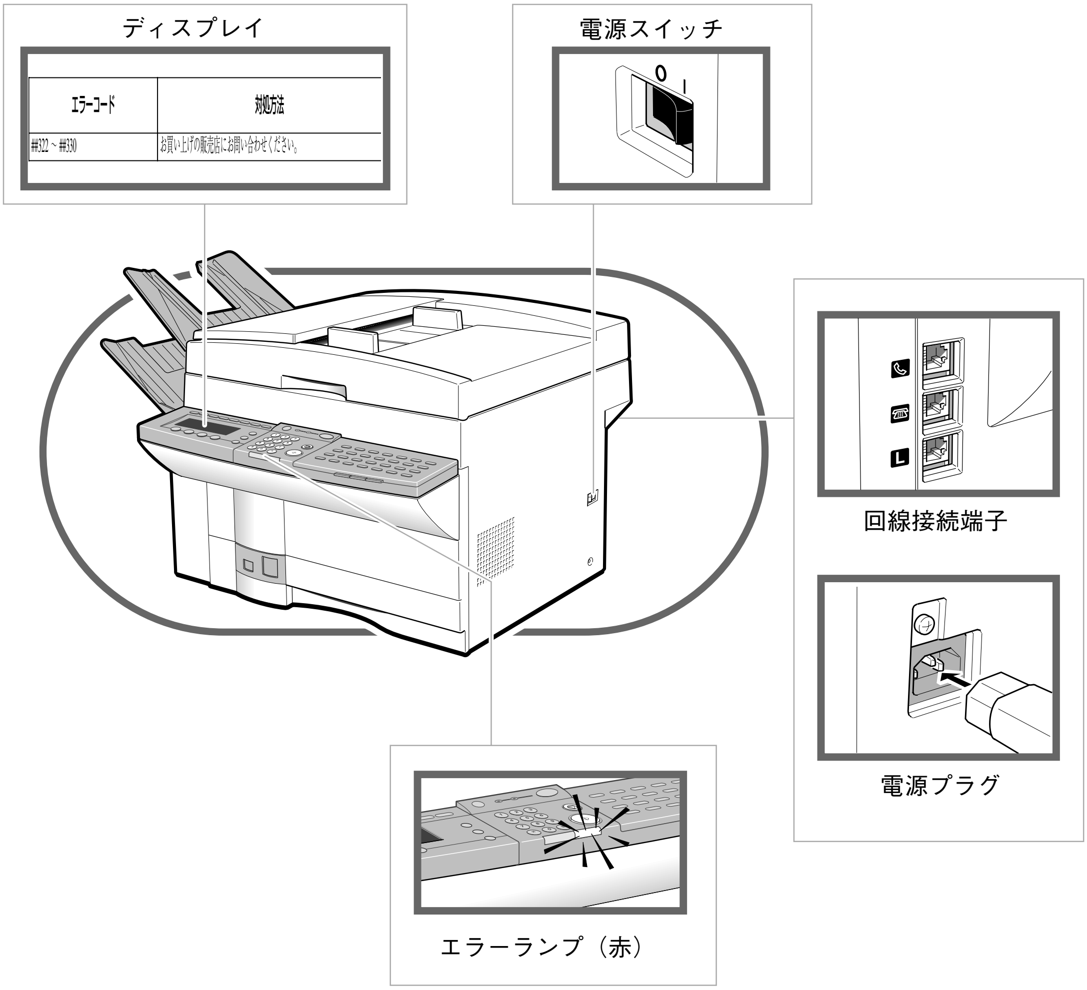
NO

操作パネルのディスプレイにメッセージが表示されていますか。

YES → メッセージを確認し適切に対処してください｡→ ***P.9-11***

NO

現在のトラブルの症状と対応する項目を探して､適切に対処してください。



ファクス送信でのトラブル➔ **P.9-18**

ファクス受信でのトラブル➔ **P.9-21**

電話でのトラブル➔ **P.9-24**

コピーでのトラブル➔ **P.9-24**

その他のトラブル➔ **P.9-25**

まだ、本機が正しく使えないときは、お買い上げの販売店または、お客様相談センターにご連絡ください。

➔**裏表紙**

ファクス送信でのトラブル

ダイヤルしても送信できない

チェック 電話回線の種類が正しく設定されていますか？
電話回線の種類を確認し、正しく設定してください。➔ **P.7-10**

チェック コピーモードになっていませんか？
ファクス／コピー切り替えボタンを押してファクスランプを点灯させてください。➔ **P.1-7**

チェック 原稿が正しくセットされていますか？
もう一度原稿をセットしなおしてから送信してみてください。
➔ **P.1-10,3-3**

チェック 電話番号は正しくダイヤルしましたか？
もう一度ダイヤルしなおしてみてください。ワンタッチダイヤルや短縮ダイヤルに登録した電話番号が正しいかどうかも確認してください。➔ **P.6-5,6-12,6-20**

チェック 相手機の記録紙がなくなっていませんか？
記録紙がなくなっていないか、相手に確認してください。

チェック 相手の回線が送受信中、話し中等で使用中になっていませんか？
NTTのお話中調べ（局番なしの114番）でご確認ください。

送信のときにすぐメモリがいっぱいになる

チェック 解像度が“スーパーファイン”や“ウルトラファイン”になっていませんか？画質を“写真”や“文字／写真”に設定していませんか？
原稿に細かい文字や写真が含まれていないときは、解像度を標準にし、画質を文字にしてください。➔ **P.3-17**
原稿に細かい文字や写真が含まれているときは、メモリ送信ではなくダイレクト送信してください。➔ **P.3-7**

チェック メモリに文書がたまっていませんか？
メモリ内の受信原稿をプリントするか、送信予約原稿の送信が済んでから操作しなおしてください。

相手の受信原稿に縦線が出る

チェック ファクスの読み取りガラスが汚れていませんか？
コピー機能を使ってコピーをとり、汚れを確認してみてください。
コピーが汚れるときは、読み取りガラスを清掃してください。
➔ **P.8-21**

相手の受信原稿の画像が縮小してプリントされる

チェック　スライダを送信原稿のサイズにあわせましたか？
スライダを送信原稿のサイズにあわせて、送りなおしてください。
➔ P.1-10,3-3

チェック　送信した原稿のサイズよりも相手の記録紙サイズが小さくありませんか？
本機は、相手の記録紙サイズが小さいときは、相手の記録紙サイズに合わせて自動的に縮小して送信します。

相手が受信した原稿の画像が欠けている

チェック　原稿セットの方向は正しいですか？
原稿を正しい方向にセットして、送りなおしてください。
➔ P.1-10

相手が受信した原稿が薄い

チェック　濃度が“うすく”に設定されていませんか？
［濃度］ボタンを押して、濃度設定の“こく”を選択してください。➔ P.3-17

チェック　画質を“写真”または“文字／写真”に設定していませんか？
画質ボタンを押して“文字”を選択してください。
➔ P.3-17,3-18

チェック　ファクスの読み取りガラスが汚れていませんか？
コピー機能を使ってコピーをとり、汚れを確認してみてください。
コピーが汚れるときは、読み取りガラスを清掃してください。
➔ P.8-21

ポーリング送信できない

チェック　ポーリングボックスは設定されていますか？
ポーリング送信するためには、あらかじめポーリングボックスの設定が必要です。ポーリングボックスを設定して送信しなおしてください。➔ P.5-16,5-19

親展送信できない

チェック 相手機はメモリ内に親展受信用のボックスを設定していますか？
相手に連絡し、親展受信用のボックスの設定を確認してから送信しなおしてください。

チェック 相手機はITU-T規格の通信機能を持っていますか？
相手に連絡して確認してください。

チェック 相手機のFコードやパスワードを正しく指定しましたか？
相手が登録しているFコードやパスワードを確認して、同じ番号を指定してください。➔ ***P.5-47***

チェック ワンタッチダイヤルや短縮ダイヤルに登録しているFコードやパスワードに誤りはありませんか？
ワンタッチダイヤルや短縮ダイヤルの登録内容を確認してください。➔ ***P.6-2,6-9,6-45***

チェック 相手機のメモリがいっぱいになっていませんか？
相手に連絡して確認してください。

中継指示送信できない

チェック 相手機はメモリ内に中継送信用のボックスを設定していますか？
相手に連絡し、中継送信用のボックスの設定と中継する宛先の登録内容を確認してから送信しなおしてください。

チェック 相手機はITU-T規格の通信機能を持っていますか？
相手に連絡して確認してください。

チェック 相手機のFコードやパスワードを正しく指定しましたか？
相手が登録しているFコードやパスワードを確認して、同じ番号を指定してください。➔ ***P.5-62***

チェック ワンタッチダイヤルや短縮ダイヤルに登録しているFコードやパスワードに誤りはありませんか？
ワンタッチダイヤルや短縮ダイヤルの登録内容を確認してください。➔ ***P.6-2,6-9,6-45***

チェック 相手機のメモリがいっぱいになっていませんか？
相手に連絡して確認してください。

Fコード指定送信できない

チェック　相手機はITU-T規格の通信機能を持っていますか？
相手に連絡して確認してください。

チェック　相手機のFコードやパスワードを正しく指定しましたか？
相手が登録しているFコードやパスワードを確認して、同じ番号を指定してください。➔ P.5-43

チェック　ワンタッチダイヤルや短縮ダイヤルに登録しているFコードやパスワードに誤りはありませんか？
ワンタッチダイヤルや短縮ダイヤルの登録内容を確認してください。➔ P.6-2,6-9,6-45

チェック　相手機のメモリがいっぱいになっていませんか？
相手に連絡して確認してください。

ファクス受信でのトラブル

自動受信できない

チェック　手動受信が表示されていませんか？
表示されているときは、受信モードボタンを押して自動受信を表示させてください。➔ P.4-4

チェック　受信モードは“02 自動受信”に設定されていますか？
自動受信の登録/設定内容を確認してください。➔ P.4-5,8-33

手動受信できない

チェック　コピーモードになっていませんか？
ファクス／コピー切り替えボタンを押してファクスランプを点灯させてください。➔ P.1-7

チェック　原稿台に原稿がセットされていませんか？
原稿がセットされているときは、それを取り除いてから受信しなおしてください。

チェック　ハンドセットを置く前にスタートボタンを押しましたか？
先にハンドセットを置くと、回線が切れてしまいます。もう一度、受信しなおしてください。➔ P.4-17

チェック　ダイヤルインサービスを利用していませんか？
ダイヤルインFAX/TEL切り替えに設定している場合、受信モードボタンを押しても手動受信に設定することはできません。ただし、相手がダイヤルインサービスの電話用の番号をダイヤルした場合は、手動受信することができます。

リモート受信できない

チェック　ダイヤルインサービスを利用していませんか？
ダイヤルインFAX/TEL切り替えに設定している場合、リモート受信機能は働きません。

FAX/TEL切り替えできない

チェック　留守あるいは手動受信が表示されていませんか？
表示されているときは、受信モードボタンを押して自動受信を表示させてください。➔ **P.4-4**

チェック　FAX/TEL切り替えに設定されていますか？
FAX/TEL切り替えの登録／設定内容を確認してください。
➔ **P.4-5**

受信原稿の左右が欠ける

チェック　マルチフィーダトレイの記録紙ガイドが記録紙サイズにあわせてセットされていますか？
記録紙ガイドを記録紙サイズにあわせてセットしてください。
➔ **P.8-6**

チェック　記録紙サイズ切り替えスイッチは記録紙のサイズに正しくセットされていますか？
記録紙サイズ切り替えスイッチを正しくセットしてください。
➔ **P.8-8**

プリントされた原稿にムラがある

チェック　トナーカートリッジのトナーがなくなりかけていませんか？
トナーカートリッジを取りはずして、左右に５～６回ゆっくりかたむけてみてください。それでもだめなときは、新しいトナーカートリッジと交換してください。➔ **P.8-9**

チェック　送信してきた相手機の読み取りガラスが汚れていませんか？
コピー機能を使ってきれいにコピーできるときは、相手機に問題があります。相手に連絡して、相手機を清掃してもらってからもう一度送りなおしてもらってください。

記録紙があるのにメモリ代行受信してしまう

チェック　マルチフィーダトレイの記録紙サイズ切り替えスイッチはOFFになっていますか？
マルチフィーダトレイを使用しないときは、記録紙サイズ切り替えスイッチをOFFにしておいてください。OFFにしていないと、記録紙カセットに記録紙がセットされているのにメモリ代行受信してしまうことがあります。

親展受信できない

チェック　親展ボックスは設定しましたか？
親展ボックスの設定内容を確認してください。➔ **P.5-52**

チェック　相手は本機の親展ボックスに登録してあるFコードとパスワードを正しく指定して送信してきていますか？
相手に連絡して確認してください。

ポーリング受信できない

チェック　相手機のFコードやパスワードを正しく指定しましたか？
相手が登録しているFコードやパスワードを確認して、同じ番号を指定してください。➔ **P.5-4**

チェック　相手機は自動受信状態になっていますか？
相手に連絡して確認してください。

チェック　相手機に原稿がセットされていますか？
相手に連絡して確認してください。

電話でのトラブル

電話がかけられない

チェック　コピーモードになっていませんか？
ファクス／コピー切り替えボタンを押してファクスランプを点灯させてください。➔ P.1-7

通話中に電話が切れてしまう

チェック　留守が表示されていませんか？
表示されているときは、受信モードボタンを押して自動受信または手動受信を表示させてください。➔ P.4-4

留守番機能が働かない

チェック　留守と表示されていますか？
表示されていないときは、受信モードボタンを押して留守を表示させてください。➔ P.4-19

チェック　留守番電話が留守にセットされていますか？
留守番電話を留守のモードにセットしてください。

チェック　ダイヤルインサービスを利用していませんか？
ダイヤルインFAX/TEL切り替えに設定している場合、本機の留守番電話機能ははたらきません。ただし、通話相手がダイヤルインサービスの電話用の番号をダイヤルした場合、接続した留守番電話が機能します。

コピーでのトラブル

コピーできない

チェック　ファクスモードになっていませんか？
ファクス／コピー切り替えボタンを押してコピーランプを点灯させてください。➔ P.1-7

チェック　トナーカートリッジのトナーがなくなっていませんか？
新しいトナーカートリッジと交換してください。➔ P.8-9

チェック　メモリに文書がたまっていませんか？
メモリ内の受信原稿をプリントするか、送信予約原稿の送信が済んでから操作しなおしてください。

画像が縮小されてコピーされる

チェック　スライダを原稿のサイズにあわせましたか？
ADFからコピーをするときは、スライダを原稿のサイズにあわせて、コピーしなおしてください。➔ **P.1-10,2-2**

画像の左右が欠けてコピーされる

チェック　原稿セットの方向は正しいですか？
原稿を正しい方向にセットして、コピーしなおしてください。
➔ **P.1-10**

チェック　選択した記録紙のサイズが小さくないですか？
適正なサイズの記録紙を選んで、コピーしなおしてください。
➔ **P.2-3,2-7**

チェック　マルチフィーダトレイの記録紙ガイドが記録紙の幅にぴったりセットされていますか？
記録紙ガイドを記録紙サイズにあわせてセットしてください。
➔ **P.8-6**

チェック　記録紙サイズ切り替えスイッチは記録紙のサイズに正しくセットされていますか？
記録紙サイズ切り替えスイッチを正しくセットしてください。
➔ **P.8-8**

その他のトラブル

送受信が遅い

チェック　解像度が“ファイン”、“スーパーファイン”または“ウルトラファイン”に設定されていませんか？
標準設定にすると送信時間は短くなります。ただし、細かい文字などが読みにくくなることもあります。➔ **P.3-17**

チェック　画質を“写真”または“文字／写真”に設定していませんか？
画質ボタンで“文字”を選択してください。➔ **P.3-17,3-18**

チェック　ECM通信が“01 する”に設定されていませんか？
ECM方式は、エラーを訂正しながら通信するため、回線のトラブルなどがあると、通常の通信にくらべて時間がかかってしまうことがあります。ECM通信を“02 しない”に設定してみてください。
➔ **P.8-32,8-33**

情報サービスをうまく受けられない

チェック　トーンモードになっていますか？
トーンボタンを押して、トーンモードにしてください。→ P.5-88

チェック　相手から受信状態にするなどの指示がありましたか？
最後にスタートボタンを押してください。→ P.5-88

メモリバックアップされない

チェック　充電時間はじゅうぶんですか？
電池にじゅうぶんに充電するには、最低でも24時間連続で本機の電源を入れたままの状態にする必要があります。→ P.10-3

第 10 章

付録

停電があったときには

停電などで急に電源が切れた場合でも、ユーザデータの設定内容やワンタッチダイヤルや短縮ダイヤルの登録内容は内蔵されている電池で保持されます。メモリに記憶された送受信画像も約1時間は保持されます。

停電中の制限事項

停電中、本機の機能は、つぎのように制限されます。

● 電話を受けることはできますが、ワンタッチダイヤルボタン、短縮ダイヤル、テンキーが使えないため、電話をかけることはできません。
● 原稿のコピーや送信だけでなく、受信することもできません。

データの保存について

停電中や電源をOFFにしたときでも、本機のデータは、つぎのような条件で保持されます。

● メモリに記憶している送信原稿や受信原稿の画像データは、約1時間保持されます。約1時間以上電源がOFF状態になっていて、画像データが消えてしまった場合は、電源が入ってからメモリクリアリストをプリントし、消えてしまった画像データの情報をお知らせします。→ ***P.8-20***
● ユーザデータの設定内容やワンタッチダイヤルや短縮ダイヤルの登録内容は内蔵されているリチウム電池で保持されます。

メモ　*メモリに記憶している原稿の量が多い場合、停電後に電源がONになってから復旧するまでに時間がかかります（5分程度）。*

ダイヤルインサービスを利用しているときは

ダイヤルインサービスを利用しているときは、停電中や電源をOFFにしたとき、通常の操作では電話を受け付けることができなくなります。

停電中は、次の操作で電話を受けることができます。

● 電話の呼び出し音が2回鳴るうちに（6秒以内）受話器を取ります。

↓

受話器から“ピッポッパ”という音が聞こえたら、2秒以内にいったん受話器を戻します。

↓

もう一度受話器を取ると、相手と話すことができます。

バックアップ電池の充電について

電源が切れたとき、画像データを約1時間保持するようにするためには､バックアップ電池にじゅうぶんに充電しておく必要があります。
じゅうぶんに充電するには、最低でも24時間連続で本機の電源を入れたままの状態にしてください。

- 夜間や休日など、頻繁に電源を入れたり切ったりすると、じゅうぶんに充電されないだけでなく、バックアップ電池の寿命も短くなってしまいます。電源は常に入れた状態にしておくことをお薦めします。
- 本機は10～32.5℃の温度、20～80％の湿度の環境で正常に動作するように設計されていますが、暑い場所や寒い場所では、データ保持の時間やバックアップ電池の寿命が短くなります。
- バックアップ電池の充電状態により画像データの保持時間は変化しますが、24時間以上連続して電源を入れていたのに、画像データの保持時間が30分にも満たない場合は､バックアップ電池の寿命がきている可能性があります。お買い求めになった販売店にご相談ください。有償で修理させていただきます。

Fネットについて

Fネット（ファクシミリ通信網）は、NTTが行っている有料サービスです。ご利用になるときは「G3の1300Hz」または「G3の16Hz」で契約してください。サービスの内容など、詳しくは最寄りのNTT窓口へお問い合わせください。

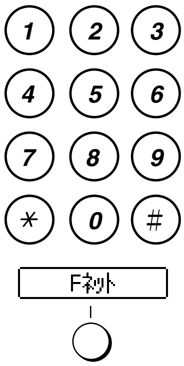
Fネットの登録

Fネットの電話番号をワンタッチダイヤルや短縮ダイヤルに登録できます。ここでは、“03-3758-2111”と“03-3455-9000”の相手にFネットで「同報送信」する場合の、ワンタッチダイヤルへの登録方法を例として説明します。

1 ワンタッチダイヤルの番号登録を選択します

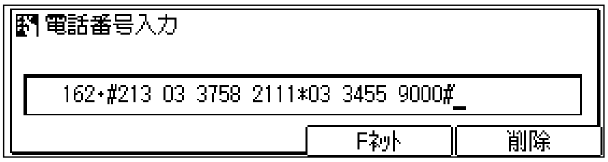
具体的な操作手順は、「ワンタッチダイヤルの登録と使いかた」（➔ **P.6-2**）の説明を参照してください。

2 Fネットの電話番号を登録します



テンキーで電話番号を入力します。

● 最初にFネットの同報認識番号162を入力してください。



● “#213” は、Fネットの同報送信のサービス番号です。
● 162のあとの“・”はFネットボタンを押すと入力できます。市外局番、局番、電話番号の間にスペースボタンで空白を入れて見やすくしてもかまいません。
● このあとの操作については、「ワンタッチダイヤルの登録と使いかた」（➔ **P.6-2**）の説明を参照してください。名前や通信機能が登録できます。

お願い

161や162の数字のあとに、Fネットボタンで“・”を入力してもうまくつながらないことがあります。そのときには、161や162を入力したあとでポーズボタンを2回押してからつぎの番号を入力してください。

メモ

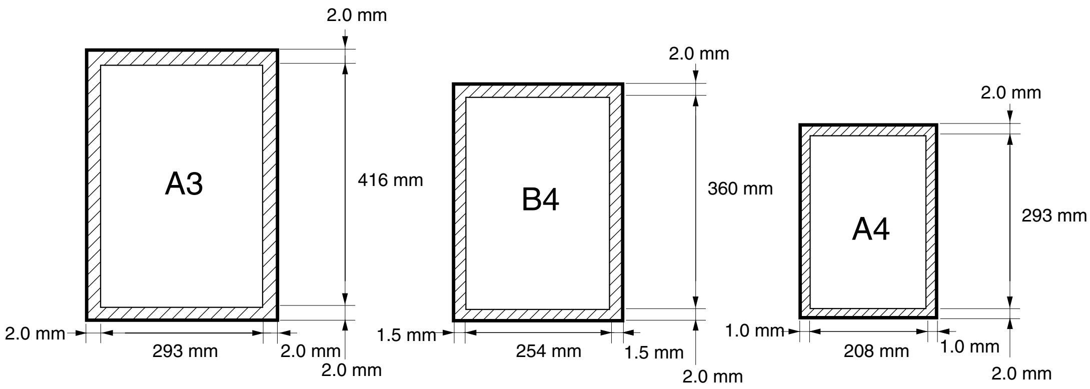
*短縮ダイヤルに登録するときも、おなじ要領でFネットの番号を登録してください。**➔ **P.6-9***

読み取り / プリント範囲

原稿をADFや原稿台ガラスにセットしたときの読み取り範囲、およびプリントするときの記録有効範囲は次の通りです。

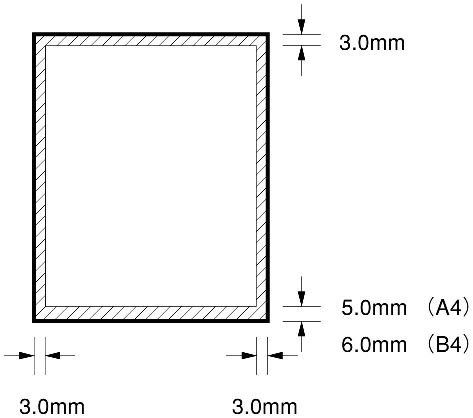
原稿の読み取り範囲

斜線部分の文字や画像は読み取れないため、送信されません。



記録紙の記録有効範囲

つぎの図の斜線の部分には記録されません。



本機は、受信した原稿を確実に記録するため、受信原稿を記録紙の記録可能な範囲に合わせて自動的に縮小記録するように設定されています。

● 縮小率を変更したり、縮小の方法を選択することができます。また、縮小しないように設定することもできます。➔ ***P.8-36***（画像縮小設定）

第10章

付録

オプションの2回線ボードについて

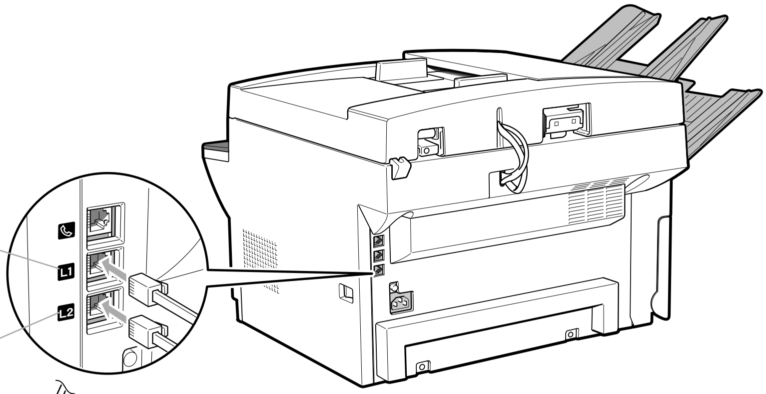
本機のオプション品として、2つの電話回線を同時に接続するための2回線ボード（マルチポートユニット2）が用意されています。ここでは、2回線ボードを取り付けた場合の電話回線の接続と設定のしかたについて説明します。

2つの電話回線の接続

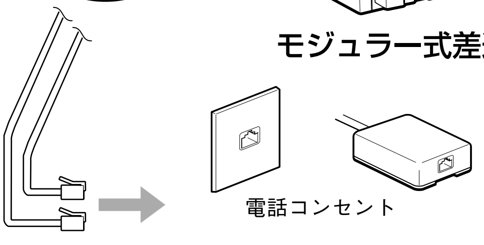
壁側の電話コンセントを確認してから、電話機コードを接続してください。

L1マーク*の差し込み口に接続した回線が回線1、L2マーク*の差し込み口に接続した回線が回線2になります。

* 2回線ボード設置時にサービスマンが2回線用のモジュラー表示ラベルを本体に貼ります。

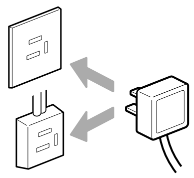


モジュラー式差込口の場合は



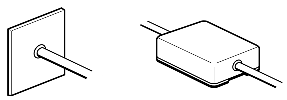
モジュラー式電話機プレートまたはモジュラージャックはそのまま接続できます。

3ピンプラグ式コンセントの場合は



3ピンプラグ式コンセントの場合は市販の3ピンプラグ交換アダプタをお買い求めください。

直結配線コンセントの場合は



モジュラー式差込口に変える必要があります。工事には資格が必要です。NTT窓口にご相談ください。

※ PBXをお使いの場合は販売店にご相談ください。

メモ

- *オプションの2回線ボードを取り付けた場合、本機のエナジーセーブ機能ははたらきません。* ➔ **P.1-9**
- *オプションの2回線ボードを取り付けていない場合、電話回線の接続先がここでの説明とは異なります。接続のしかたについては「電話回線の接続」（*➔ **P.7-6***）を参照してください。*

2つの電話回線（回線1、回線2）

接続した2つの回線は機能が異なります。

回線1（L1マークの差し込み口に接続した回線）では本機のすべての通信機能が使用できます。

回線2（L2マークの差し込み口に接続した回線）で使用できない通信機能は以下のとおりです。

・手動送信
・手動受信
・電話
・FAX/TEL切り替え
・ダイヤルインFAX/TEL切り替え
・留守モード
・リモート受信

メモ

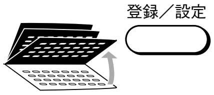
- *どちらかの回線を受信専用に設定することができます。また、送信時に2つの回線が空いているとき、どちらの回線を優先的に使用するかを設定することもできます。* ➔ **P.8-45**
- *オプションの2回線ボードを取り付けている場合、電話機接続端子（L1マークの差し込み口）に電話回線を接続します。このため、電話機接続端子には電話機を接続できません。* ➔ **P.7-7**
- *回線1で通信中は、たとえ回線2で通信していなくても、手動送信、手動受信はできません。また、電話をかけることもできません。*
- *通信相手が回線2に電話をかけてきても受けることができません。*

回線２の電話番号の登録

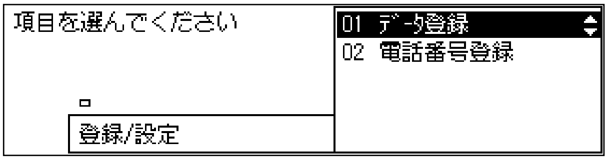
電話番号（ユーザTEL）は、20桁まで登録できます。登録した電話番号は、相手機のディスプレイやレポートに表示されます。また、発信元記録にも使われます。

電話番号（ユーザTEL）を登録するときは、つぎの手順で操作してください。

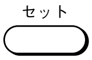
1 登録／設定ボタンを押します



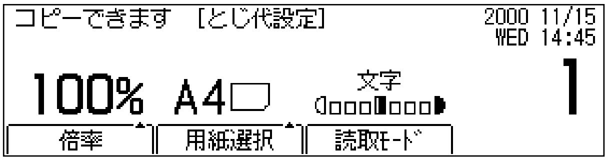
ワンタッチダイヤルパネルを3枚開いて、登録／設定ボタンを押します。



2 ２回線設定の設定項目を表示させます

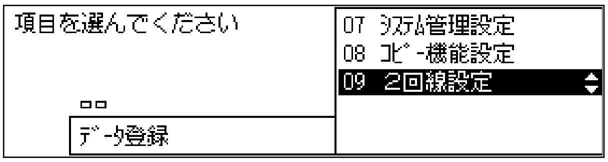


セットボタンを押します。

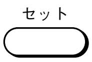




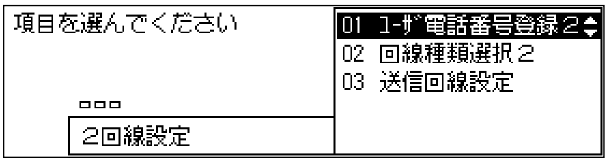
▼または▲ボタンを押して、“09 2回線設定” を反転表示させます。



3 電話番号の登録項目を表示させます

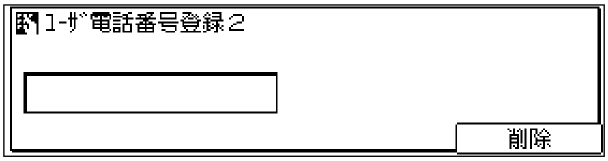


セットボタンを押します。



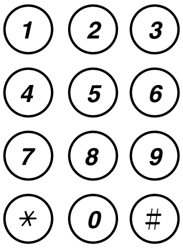
セット

セットボタンを押します。

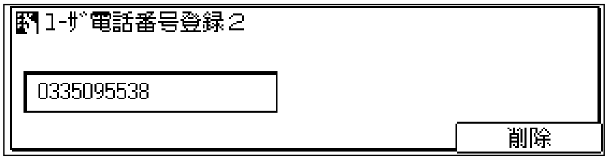


● すでに電話番号が登録済みのときは、電話番号も表示されます。登録済みの電話番号を削除するときは、クリアボタンを押したあとセットボタンを押してください。

4 電話番号を登録します



テンキーで番号を入力します。スペースボタンで空白を入れることもできます。



● 間違えたときは、削除ボタンを押して一つ前の桁に戻り、入力しなおしてください。クリアボタンを押して最初から入力しなおすこともできます。

セット

セットボタンを押します。「登録しました」とメッセージが表示されたあと、自動的に“02 回線種類選択2”の項目が反転表示されます。

● ストップボタンを押すと、待機状態に戻ることができます。

メモ

*回線1の電話番号の登録については、「電話番号の登録」（→ **P.7-16**）を参照してください。*

回線２の回線種類の設定

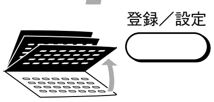
電話回線は、NTTとお客様の契約にもとづいて設定されています。ダイヤル回線（パルス回線）かプッシュ回線（トーン回線）かを確認し、正しく設定してください。

回線種類の確認

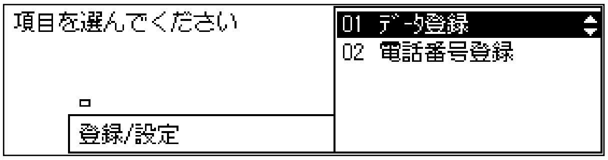
本機の回線は、回線1も回線2もあらかじめ20PPSのダイヤル回線に設定されています。回線種類を確認するときは、回線2の電話機コードをL1マークの差し込み口（回線1）に接続しなおします。（回線2から電話をかけることはできません）。117（時報）、177（天気予報）にダイヤルしてつながったときは、回線種類の設定はそのままで使用できます。確認が終ったら、電話機コードをL2マーク（回線2）に接続しなおしてください。

回線２の種類は次の手順で変更します。

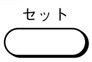
1 登録／設定ボタンを押します



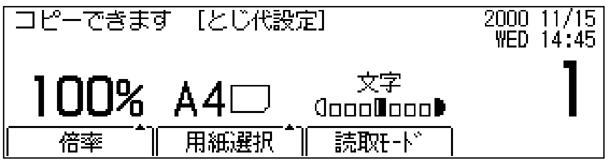
ワンタッチダイヤルパネルを3枚開いて、登録／設定ボタンを押します。



2 ２回線設定の設定項目を表示させます

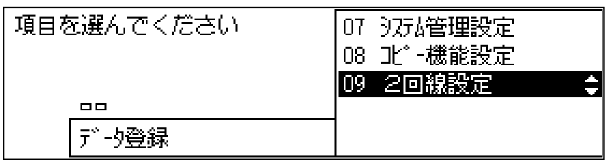


セットボタンを押します。

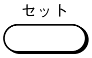




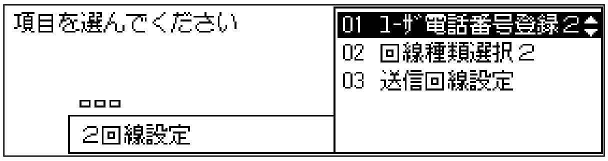
▼または▲ボタンを押して、“09 2回線設定” を反転表示させます。



3 回線種類の設定項目を表示させます

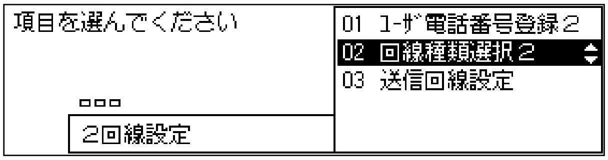


セットボタンを押します。

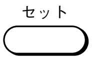




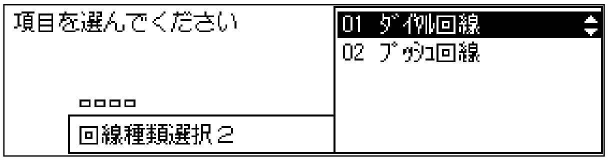
▼または▲ボタンを押して、“02 回線種類選択 2” を反転表示させます。



4 現在設定されている回線の種類を確認します



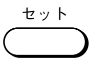
セットボタンを押します。現在設定されている回線種類が反転表示されます。



5 回線種類を選択します

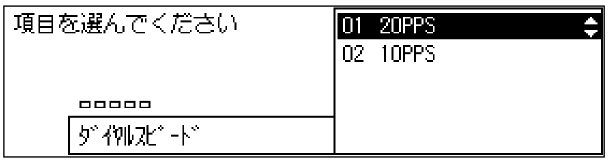


▼または▲ボタンを押して “01 ダイヤル回線”、“02 プッシュ回線” のいずれかを反転表示させます。



セットボタンを押します。反転表示されていた回線種類が設定されます。

- “01 ダイヤル回線” を設定したときは、つぎの項目が表示されます。手順 6 に進んでください。

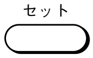


- “02 プッシュ回線” を設定したときは、回線種類の登録が終了し、“03 送信回線設定” の項目が反転表示されます。ストップボタンで待機状態に戻ってください。

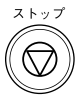
6 ダイヤルスピードを選択します



▼または▲ボタンを押して、“01 20PPS”、“02 10PPS”のいずれかを反転表示させせます。



セットボタンを押します。回線種類の登録が終了し、“03 送信回線設定”の項目が反転表示されます。



ストップボタンを押すと待機状態に戻ります。

メモ

- *操作の途中でも、ストップボタンを押すと、いつでも待機状態に戻ることができます。*
- *回線1の種類の設定については、「電話回線の種類を設定するには」（➔ **P.7-10**）を参照してください。*

区点コード表— JIS 漢字 第一水準漢字

●漢字コードは左列の番号と上横列の番号を組み合わせた4桁の番号です。
（例）亜　漢字コード1601
●下記の漢字コード表はJIS区点コード（第一水準漢字）に準じています（一部記号を除く）。

分類		0	1	2	3	4	5	6	7	8	9
記号	010			、	。	，	．	・	：	；	？
	011	！	゛	゜	´	｀	¨	＾	￣	＿	ヽ
	012	ヾ	ゝ	ゞ	〃	仝	々	〆	〇	ー	―
	013	‐	／	＼	～	‖	｜	…	‥	‘	’
	014	“	”	（	）	〔	〕	［	］	｛	｝
	015	〈	〉	《	》	「	」	『	』	【	】
	016	＋	－	±	×	÷	＝	≠	＜	＞	≦
	017	≧	∞	∴	♂	♀	°	′	″	℃	￥
	018	＄	¢	£	％	＃	＆	＊	＠	§	☆
	019	★	○	●	◎	◇					
	020		◆	□	■	△	▲	▽	▼	※	〒
	021	→	←	↑	↓	〓					
	022							∈	∋	⊆	⊇
	023	⊂	⊃	∪	∩						
	024			∧	∨	¬	⇒	⇔	∀	∃	
	026	∠	⊥	⌒	∂	∇	≡	≒	≪	≫	√
	027	∽	∝	∵	∫	∬					
	028			Å	‰	♯	♭	♪	†	‡	¶
	029					◯					
数字	031							0	1	2	3
	032	4	5	6	7	8	9				
アルファベット	033				A	B	C	D	E	F	G
	034	H	I	J	K	L	M	N	O	P	Q
	035	R	S	T	U	V	W	X	Y	Z	
	036						a	b	c	d	e
	037	f	g	h	i	j	k	l	m	n	o
	038	p	q	r	s	t	u	v	w	x	y
	039	z									
ひらがな	040		ぁ	あ	ぃ	い	ぅ	う	ぇ	え	ぉ
	041	お	か	が	き	ぎ	く	ぐ	け	げ	こ
	042	ご	さ	ざ	し	じ	す	ず	せ	ぜ	そ
	043	ぞ	た	だ	ち	ぢ	っ	つ	づ	て	で
	044	と	ど	な	に	ぬ	ね	の	は	ば	ぱ
	045	ひ	び	ぴ	ふ	ぶ	ぷ	へ	べ	ぺ	ほ
	046	ぼ	ぽ	ま	み	む	め	も	ゃ	や	ゅ
	047	ゆ	ょ	よ	ら	り	る	れ	ろ	ゎ	わ
	048	ゐ	ゑ	を	ん						

分類		0	1	2	3	4	5	6	7	8	9
カタカナ	050		ァ	ア	ィ	イ	ゥ	ウ	ェ	エ	ォ
	051	オ	カ	ガ	キ	ギ	ク	グ	ケ	ゲ	コ
	052	ゴ	サ	ザ	シ	ジ	ス	ズ	セ	ゼ	ソ
	053	ゾ	タ	ダ	チ	ヂ	ッ	ツ	ヅ	テ	デ
	054	ト	ド	ナ	ニ	ヌ	ネ	ノ	ハ	バ	パ
	055	ヒ	ビ	ピ	フ	ブ	プ	ヘ	ベ	ペ	ホ
	056	ボ	ポ	マ	ミ	ム	メ	モ	ャ	ヤ	ュ
	057	ユ	ョ	ヨ	ラ	リ	ル	レ	ロ	ヮ	ワ
	058	ヰ	ヱ	ヲ	ン	ヴ	ヵ	ヶ			
	059										
特殊記号	060		Α	Β	Γ	Δ	Ε	Ζ	Η	Θ	Ι
	061	Κ	Λ	Μ	Ν	Ξ	Ο	Π	Ρ	Σ	Τ
	062	Υ	Φ	Χ	Ψ	Ω					
	063				α	β	γ	δ	ε	ζ	η
	064	θ	ι	κ	λ	μ	ν	ξ	ο	π	ρ
	065	σ	τ	υ	φ	χ	ψ	ω			
	070		А	Б	В	Г	Д	Е	Ё	Ж	З
	071	И	Й	К	Л	М	Н	О	П	Р	С
	072	Т	У	Ф	Х	Ц	Ч	Ш	Щ	Ъ	Ы
	073	Ь	Э	Ю	Я						
	074										а
	075	б	в	г	д	е	ё	ж	з	и	й
	076	к	л	м	н	о	п	р	с	т	у
	077	ф	х	ц	ч	ш	щ	ъ	ы	ь	э
	078	ю	я								
	079										
	080		─	│	┌	┐	┘	└	├	┬	┤
	081	┴	┼	━	┃	┏	┓	┛	┗	┣	┳
	082	┫	┻	╋	┠	┯	┨	┷	┿	┝	┰
	083	┥	┸	╂							
あ	160		亜	唖	娃	阿	哀	愛	挨	姶	逢
	161	葵	茜	穐	悪	握	渥	旭	葦	芦	鯵
	162	梓	圧	斡	扱	宛	姐	虻	飴	絢	綾
	163	鮎	或	粟	袷	安	庵	按	暗	案	闇
	164	鞍	杏								

分類		0	1	2	3	4	5	6	7	8	9
い	164			以	伊	位	依	偉	囲	夷	委
	165	威	尉	惟	意	慰	易	椅	為	畏	異
	166	移	維	緯	胃	萎	衣	謂	違	遺	医
	167	井	亥	域	育	郁	磯	一	壱	溢	逸
	168	稲	茨	芋	鰯	允	印	咽	員	因	姻
	169	引	飲	淫	胤	蔭					
	170		院	陰	隠	韻	吋				
う	170							右	宇	烏	羽
	171	迂	雨	卯	鵜	窺	丑	碓	臼	渦	嘘
	172	唄	欝	蔚	鰻	姥	厩	浦	瓜	閏	噂
	173	云	運	雲							
え	173				荏	餌	叡	営	嬰	影	映
	174	曳	栄	永	泳	洩	瑛	盈	穎	頴	英
	175	衛	詠	鋭	液	疫	益	駅	悦	謁	越
	176	閲	榎	厭	円	園	堰	奄	宴	延	怨
	177	掩	援	沿	演	炎	焔	煙	燕	猿	縁
	178	艶	苑	薗	遠	鉛	鴛	塩			
お	178								於	汚	甥
	179	凹	央	奥	往	応					
	180		押	旺	横	欧	殴	王	翁	襖	鴬
	181	鴎	黄	岡	沖	荻	億	屋	憶	臆	桶
	182	牡	乙	俺	卸	恩	温	穏	音		
か	182									下	化
	183	仮	何	伽	価	佳	加	可	嘉	夏	嫁
	184	家	寡	科	暇	果	架	歌	河	火	珂
	185	禍	禾	稼	箇	花	苛	茄	荷	華	菓
	186	蝦	課	嘩	貨	迦	過	霞	蚊	俄	峨
	187	我	牙	画	臥	芽	蛾	賀	雅	餓	駕
	188	介	会	解	回	塊	壊	廻	快	怪	悔
	189	恢	懐	戒	拐	改					
	190		魁	晦	械	海	灰	界	皆	絵	芥
	191	蟹	開	階	貝	凱	劾	外	咳	害	崖
	192	慨	概	涯	碍	蓋	街	該	鎧	骸	浬
	193	馨	蛙	垣	柿	蛎	鈎	劃	嚇	各	廓
	194	拡	撹	格	核	殻	獲	確	穫	覚	角
	195	赫	較	郭	閣	隔	革	学	岳	楽	額
	196	顎	掛	笠	樫	橿	梶	鰍	潟	割	喝
	197	恰	括	活	渇	滑	葛	褐	轄	且	鰹
	198	叶	椛	樺	鞄	株	兜	竃	蒲	釜	鎌
	199	噛	鴨	栢	茅	萱					

分類		0	1	2	3	4	5	6	7	8	9
か	200		粥	刈	苅	瓦	乾	侃	冠	寒	刊
	201	勘	勧	巻	喚	堪	姦	完	官	寛	干
	202	幹	患	感	慣	憾	換	敢	柑	桓	棺
	203	款	歓	汗	漢	澗	潅	環	甘	監	看
	204	竿	管	簡	緩	缶	翰	肝	艦	莞	観
	205	諌	貫	還	鑑	間	閑	関	陥	韓	館
	206	舘	丸	含	岸	巌	玩	癌	眼	岩	翫
	207	贋	雁	頑	顔	願					
き	207						企	伎	危	喜	器
	208	基	奇	嬉	寄	岐	希	幾	忌	揮	机
	209	旗	既	期	棋	棄					
	210		機	帰	毅	気	汽	畿	祈	季	稀
	211	紀	徽	規	記	貴	起	軌	輝	飢	騎
	212	鬼	亀	偽	儀	妓	宜	戯	技	擬	欺
	213	犠	疑	祇	義	蟻	誼	議	掬	菊	鞠
	214	吉	吃	喫	桔	橘	詰	砧	杵	黍	却
	215	客	脚	虐	逆	丘	久	仇	休	及	吸
	216	宮	弓	急	救	朽	求	汲	泣	灸	球
	217	究	窮	笈	級	糾	給	旧	牛	去	居
	218	巨	拒	拠	挙	渠	虚	許	距	鋸	漁
	219	禦	魚	亨	享	京					
	220		供	侠	僑	兇	競	共	凶	協	匡
	221	卿	叫	喬	境	峡	強	彊	怯	恐	恭
	222	挟	教	橋	況	狂	狭	矯	胸	脅	興
	223	蕎	郷	鏡	響	饗	驚	仰	凝	尭	暁
	224	業	局	曲	極	玉	桐	粁	僅	勤	均
	225	巾	錦	斤	欣	欽	琴	禁	禽	筋	緊
	226	芹	菌	衿	襟	謹	近	金	吟	銀	
く	226										九
	227	倶	句	区	狗	玖	矩	苦	躯	駆	駈
	228	駒	具	愚	虞	喰	空	偶	寓	遇	隅
	229	串	櫛	釧	屑	屈					
	230		掘	窟	沓	靴	轡	窪	熊	隈	粂
	231	栗	繰	桑	鍬	勲	君	薫	訓	群	軍
	232	郡									
け	232		卦	袈	祁	係	傾	刑	兄	啓	圭
	233	珪	型	契	形	径	恵	慶	慧	憩	掲
	234	携	敬	景	桂	渓	畦	稽	系	経	継
	235	繋	罫	茎	荊	蛍	計	詣	警	軽	頚
	236	鶏	芸	迎	鯨	劇	戟	撃	激	隙	桁

分類		0	1	2	3	4	5	6	7	8	9
	237	傑	欠	決	潔	穴	結	血	訣	月	件
	238	倹	倦	健	兼	券	剣	喧	圏	堅	嫌
	239	建	憲	懸	拳	捲					
け	240		検	権	牽	犬	献	研	硯	絹	県
	241	肩	見	謙	賢	軒	遣	鍵	険	顕	験
	242	鹸	元	原	厳	幻	弦	減	源	玄	現
	243	絃	舷	言	諺	限					
	243						乎	個	古	呼	固
	244	姑	孤	己	庫	弧	戸	故	枯	湖	狐
	245	糊	袴	股	胡	菰	虎	誇	跨	鈷	雇
	246	顧	鼓	五	互	伍	午	呉	吾	娯	後
	247	御	悟	梧	檎	瑚	碁	語	誤	護	醐
	248	乞	鯉	交	佼	侯	候	倖	光	公	功
	249	効	勾	厚	口	向					
	250		后	喉	坑	垢	好	孔	孝	宏	工
こ	251	巧	巷	幸	広	庚	康	弘	恒	慌	抗
	252	拘	控	攻	昂	晃	更	杭	校	梗	構
	253	江	洪	浩	港	溝	甲	皇	硬	稿	糠
	254	紅	紘	絞	綱	耕	考	肯	肱	腔	膏
	255	航	荒	行	衡	講	貢	購	郊	酵	鉱
	256	砿	鋼	閤	降	項	香	高	鴻	剛	劫
	257	号	合	壕	拷	濠	豪	轟	麹	克	刻
	258	告	国	穀	酷	鵠	黒	獄	漉	腰	甑
	259	忽	惚	骨	狛	込					
	260		此	頃	今	困	坤	墾	婚	恨	懇
	261	昏	昆	根	梱	混	痕	紺	艮	魂	
	261										些
	262	佐	叉	唆	嵯	左	差	査	沙	瑳	砂
	263	詐	鎖	裟	坐	座	挫	債	催	再	最
	264	哉	塞	妻	宰	彩	才	採	栽	歳	済
	265	災	采	犀	砕	砦	祭	斎	細	菜	裁
さ	266	載	際	剤	在	材	罪	財	冴	坂	阪
	267	堺	榊	肴	咲	崎	埼	碕	鷺	作	削
	268	咋	搾	昨	朔	柵	窄	策	索	錯	桜
	269	鮭	笹	匙	冊	刷					
	270		察	拶	撮	擦	札	殺	薩	雑	皐
	271	鯖	捌	錆	鮫	皿	晒	三	傘	参	山
	272	惨	撒	散	桟	燦	珊	産	算	纂	蚕
	273	讃	賛	酸	餐	斬	暫	残			
し	273								仕	仔	伺

分類		0	1	2	3	4	5	6	7	8	9
	274	使	刺	司	史	嗣	四	士	始	姉	姿
	275	子	屍	市	師	志	思	指	支	孜	斯
	276	施	旨	枝	止	死	氏	獅	祉	私	糸
	277	紙	紫	肢	脂	至	視	詞	詩	試	誌
	278	諮	資	賜	雌	飼	歯	事	似	侍	児
	279	字	寺	慈	持	時					
	280		次	滋	治	爾	璽	痔	磁	示	而
	281	耳	自	蒔	辞	汐	鹿	式	識	鴫	竺
	282	軸	宍	雫	七	叱	執	失	嫉	室	悉
	283	湿	漆	疾	質	実	蔀	篠	偲	柴	芝
	284	屡	蕊	縞	舎	写	射	捨	赦	斜	煮
	285	社	紗	者	謝	車	遮	蛇	邪	借	勺
	286	尺	杓	灼	爵	酌	釈	錫	若	寂	弱
	287	惹	主	取	守	手	朱	殊	狩	珠	種
	288	腫	趣	酒	首	儒	受	呪	寿	授	樹
	289	綬	需	囚	収	周					
	290		宗	就	州	修	愁	拾	洲	秀	秋
	291	終	繍	習	臭	舟	蒐	衆	襲	讐	蹴
し	292	輯	週	酋	酬	集	醜	什	住	充	十
	293	従	戎	柔	汁	渋	獣	縦	重	銃	叔
	294	夙	宿	淑	祝	縮	粛	塾	熟	出	術
	295	述	俊	峻	春	瞬	竣	舜	駿	准	循
	296	旬	楯	殉	淳	準	潤	盾	純	巡	遵
	297	醇	順	処	初	所	暑	曙	渚	庶	緒
	298	署	書	薯	藷	諸	助	叙	女	序	徐
	299	恕	鋤	除	傷	償					
	300		勝	匠	升	召	哨	商	唱	嘗	奨
	301	妾	娼	宵	将	小	少	尚	庄	床	廠
	302	彰	承	抄	招	掌	捷	昇	昌	昭	晶
	303	松	梢	樟	樵	沼	消	渉	湘	焼	焦
	304	照	症	省	硝	礁	祥	称	章	笑	粧
	305	紹	肖	菖	蒋	蕉	衝	裳	訟	証	詔
	306	詳	象	賞	醤	鉦	鍾	鐘	障	鞘	上
	307	丈	丞	乗	冗	剰	城	場	壌	嬢	常
	308	情	擾	条	杖	浄	状	畳	穣	蒸	譲
	309	醸	錠	嘱	埴	飾					
	310		拭	植	殖	燭	織	職	色	触	食
	311	蝕	辱	尻	伸	信	侵	唇	娠	寝	審
	312	心	慎	振	新	晋	森	榛	浸	深	申
	313	疹	真	神	秦	紳	臣	芯	薪	親	診

分類		0	1	2	3	4	5	6	7	8	9
し	314	身	辛	進	針	震	人	仁	刃	塵	壬
	315	尋	甚	尽	腎	訊	迅	陣	靭		
す	315									笥	諏
	316	須	酢	図	厨	逗	吹	垂	帥	推	水
	317	炊	睡	粋	翠	衰	遂	酔	錐	錘	随
	318	瑞	髄	崇	嵩	数	枢	趨	雛	据	杉
	319	椙	菅	頗	雀	裾					
	320		澄	摺	寸						
せ	320					世	瀬	畝	是	凄	制
	321	勢	姓	征	性	成	政	整	星	晴	棲
	322	栖	正	清	牲	生	盛	精	聖	声	製
	323	西	誠	誓	請	逝	醒	青	静	斉	税
	324	脆	隻	席	惜	戚	斥	昔	析	石	積
	325	籍	績	脊	責	赤	跡	蹟	碩	切	拙
	326	接	摂	折	設	窃	節	説	雪	絶	舌
	327	蝉	仙	先	千	占	宣	専	尖	川	戦
	328	扇	撰	栓	栴	泉	浅	洗	染	潜	煎
	329	煽	旋	穿	箭	線					
	330		繊	羨	腺	舛	船	薦	詮	賎	践
	331	選	遷	銭	銑	閃	鮮	前	善	漸	然
	332	全	禅	繕	膳						
そ	332					糎	噌	塑	岨	措	曾
	333	曽	楚	狙	疏	疎	礎	祖	租	粗	素
	334	組	蘇	訴	阻	遡	鼠	僧	創	双	叢
	335	倉	喪	壮	奏	爽	宋	層	匝	惣	想
	336	捜	掃	挿	掻	操	早	曹	巣	槍	槽
	337	漕	燥	争	痩	相	窓	糟	総	綜	聡
	338	草	荘	葬	蒼	藻	装	走	送	遭	鎗
	339	霜	騒	像	増	憎					
	340		臓	蔵	贈	造	促	側	則	即	息
	341	捉	束	測	足	速	俗	属	賊	族	続
	342	卒	袖	其	揃	存	孫	尊	損	村	遜
た	343	他	多	太	汰	詑	唾	堕	妥	惰	打
	344	柁	舵	楕	陀	駄	騨	体	堆	対	耐
	345	岱	帯	待	怠	態	戴	替	泰	滞	胎
	346	腿	苔	袋	貸	退	逮	隊	黛	鯛	代
	347	台	大	第	醍	題	鷹	滝	瀧	卓	啄
	348	宅	托	択	拓	沢	濯	琢	託	鐸	濁
	349	諾	茸	凧	蛸	只					
	350		叩	但	達	辰	奪	脱	巽	竪	辿

分類		0	1	2	3	4	5	6	7	8	9
た	351	棚	谷	狸	鱈	樽	誰	丹	単	嘆	坦
	352	担	探	旦	歎	淡	湛	炭	短	端	箪
	353	綻	耽	胆	蛋	誕	鍛	団	壇	弾	断
	354	暖	檀	段	男	談					
ち	354						値	知	地	弛	恥
	355	智	池	痴	稚	置	致	蜘	遅	馳	築
	356	畜	竹	筑	蓄	逐	秩	窒	茶	嫡	着
	357	中	仲	宙	忠	抽	昼	柱	注	虫	衷
	358	註	酎	鋳	駐	樗	瀦	猪	苧	著	貯
	359	丁	兆	凋	喋	寵					
	360		帖	帳	庁	弔	張	彫	徴	懲	挑
	361	暢	朝	潮	牒	町	眺	聴	脹	腸	蝶
	362	調	諜	超	跳	銚	長	頂	鳥	勅	捗
	363	直	朕	沈	珍	賃	鎮	陳			
つ	363								津	墜	椎
	364	槌	追	鎚	痛	通	塚	栂	掴	槻	佃
	365	漬	柘	辻	蔦	綴	鍔	椿	潰	坪	壷
	366	嬬	紬	爪	吊	釣	鶴				
て	366							亭	低	停	偵
	367	剃	貞	呈	堤	定	帝	底	庭	廷	弟
	368	悌	抵	挺	提	梯	汀	碇	禎	程	締
	369	艇	訂	諦	蹄	逓					
	370		邸	鄭	釘	鼎	泥	摘	擢	敵	滴
	371	的	笛	適	鏑	溺	哲	徹	撤	轍	迭
	372	鉄	典	填	天	展	店	添	纏	甜	貼
	373	転	顛	点	伝	殿	澱	田	電		
と	373									兎	吐
	374	堵	塗	妬	屠	徒	斗	杜	渡	登	菟
	375	賭	途	都	鍍	砥	砺	努	度	土	奴
	376	怒	倒	党	冬	凍	刀	唐	塔	塘	套
	377	宕	島	嶋	悼	投	搭	東	桃	梼	棟
	378	盗	淘	湯	涛	灯	燈	当	痘	祷	等
	379	答	筒	糖	統	到					
	380		董	蕩	藤	討	謄	豆	踏	逃	透
	381	鐙	陶	頭	騰	闘	働	動	同	堂	導
	382	憧	撞	洞	瞳	童	胴	萄	道	銅	峠
	383	鴇	匿	得	徳	涜	特	督	禿	篤	毒
	384	独	読	栃	橡	凸	突	椴	届	鳶	苫
	385	寅	酉	瀞	噸	屯	惇	敦	沌	豚	遁
	386	頓	呑	曇	鈍						

分類		0	1	2	3	4	5	6	7	8	9
な	386					奈	那	内	乍	凪	薙
	387	謎	灘	捺	鍋	楢	馴	縄	畷	南	楠
	388	軟	難	汝							
に	388				二	尼	弐	迩	匂	賑	肉
	389	虹	廿	日	乳	入					
	390		如	尿	韮	任	妊	忍	認		
ぬ	390									濡	
ね	390										禰
	391	祢	寧	葱	猫	熱	年	念	捻	撚	燃
	392	粘									
の	392		乃	廼	之	埜	嚢	悩	濃	納	能
	393	脳	膿	農	覗	蚤					
は	393						巴	把	播	覇	杷
	394	波	派	琶	破	婆	罵	芭	馬	俳	廃
	395	拝	排	敗	杯	盃	牌	背	肺	輩	配
	396	倍	培	媒	梅	楳	煤	狽	買	売	賠
	397	陪	這	蝿	秤	矧	萩	伯	剥	博	拍
	398	柏	泊	白	箔	粕	舶	薄	迫	曝	漠
	399	爆	縛	莫	駁	麦					
	400		函	箱	硲	箸	肇	筈	櫨	幡	肌
	401	畑	畠	八	鉢	溌	発	醗	髪	伐	罰
	402	抜	筏	閥	鳩	噺	塙	蛤	隼	伴	判
	403	半	反	叛	帆	搬	斑	板	氾	汎	版
	404	犯	班	畔	繁	般	藩	販	範	釆	煩
	405	頒	飯	挽	晩	番	盤	磐	蕃	蛮	
ひ	405										匪
	406	卑	否	妃	庇	彼	悲	扉	批	披	斐
	407	比	泌	疲	皮	碑	秘	緋	罷	肥	被
	408	誹	費	避	非	飛	樋	簸	備	尾	微
	409	枇	毘	琵	眉	美					
	410		鼻	柊	稗	匹	疋	髭	彦	膝	菱
	411	肘	弼	必	畢	筆	逼	桧	姫	媛	紐
	412	百	謬	俵	彪	標	氷	漂	瓢	票	表
	413	評	豹	廟	描	病	秒	苗	錨	鋲	蒜
	414	蛭	鰭	品	彬	斌	浜	瀕	貧	賓	頻
	415	敏	瓶								
ふ	415			不	付	埠	夫	婦	富	冨	布
	416	府	怖	扶	敷	斧	普	浮	父	符	腐
	417	膚	芙	譜	負	賦	赴	阜	附	侮	撫
	418	武	舞	葡	蕪	部	封	楓	風	葺	蕗

分類		0	1	2	3	4	5	6	7	8	9
ふ	419	伏	副	復	幅	服					
	420		福	腹	複	覆	淵	弗	払	沸	仏
	421	物	鮒	分	吻	噴	墳	憤	扮	焚	奮
	422	粉	糞	紛	雰	文	聞				
へ	422							丙	併	兵	塀
	423	幣	平	弊	柄	並	蔽	閉	陛	米	頁
	424	僻	壁	癖	碧	別	瞥	蔑	箆	偏	変
	425	片	篇	編	辺	返	遍	便	勉	娩	弁
	426	鞭									
ほ	426		保	舗	鋪	圃	捕	歩	甫	補	輔
	427	穂	募	墓	慕	戊	暮	母	簿	菩	倣
	428	俸	包	呆	報	奉	宝	峰	峯	崩	庖
	429	抱	捧	放	方	朋					
	430		法	泡	烹	砲	縫	胞	芳	萌	蓬
	431	蜂	褒	訪	豊	邦	鋒	飽	鳳	鵬	乏
	432	亡	傍	剖	坊	妨	帽	忘	忙	房	暴
	433	望	某	棒	冒	紡	肪	膨	謀	貌	貿
	434	鉾	防	吠	頬	北	僕	卜	墨	撲	朴
	435	牧	睦	穆	釦	勃	没	殆	堀	幌	奔
	436	本	翻	凡	盆						
ま	436					摩	磨	魔	麻	埋	妹
	437	昧	枚	毎	哩	槙	幕	膜	枕	鮪	柾
	438	鱒	桝	亦	俣	又	抹	末	沫	迄	侭
	439	繭	麿	万	慢	満					
	440		漫	蔓							
み	440				味	未	魅	巳	箕	岬	密
	441	蜜	湊	蓑	稔	脈	妙	粍	民	眠	
む	441										務
	442	夢	無	牟	矛	霧	鵡	椋	婿	娘	
め	442										冥
	443	名	命	明	盟	迷	銘	鳴	姪	牝	滅
	444	免	棉	綿	緬	面	麺				
も	444							摸	模	茂	妄
	445	孟	毛	猛	盲	網	耗	蒙	儲	木	黙
	446	目	杢	勿	餅	尤	戻	籾	貰	問	悶
	447	紋	門								
や	447			匁	也	冶	夜	爺	耶	野	弥
	448	矢	厄	役	約	薬	訳	躍	靖	柳	薮
	449	鑓									
ゆ	449		愉	愈	油	癒					

分類		0	1	2	3	4	5	6	7	8	9
ゆ	450		諭	輸	唯	佑	優	勇	友	宥	幽
	451	悠	憂	揖	有	柚	湧	涌	猶	猷	由
	452	祐	裕	誘	遊	邑	郵	雄	融	夕	
よ	452										予
	453	余	与	誉	輿	預	傭	幼	妖	容	庸
	454	揚	揺	擁	曜	楊	様	洋	溶	熔	用
	455	窯	羊	耀	葉	蓉	要	謡	踊	遥	陽
	456	養	慾	抑	欲	沃	浴	翌	翼	淀	
ら	456										羅
	457	螺	裸	来	莱	頼	雷	洛	絡	落	酪
	458	乱	卵	嵐	欄	濫	藍	蘭	覧		
り	458									利	吏
	459	履	李	梨	理	璃					
	460		痢	裏	裡	里	離	陸	律	率	立
	461	葎	掠	略	劉	流	溜	琉	留	硫	粒
	462	隆	竜	龍	侶	慮	旅	虜	了	亮	僚
	463	両	凌	寮	料	梁	涼	猟	療	瞭	稜
	464	糧	良	諒	遼	量	陵	領	力	緑	倫
	465	厘	林	淋	燐	琳	臨	輪	隣	鱗	麟
る	466	瑠	塁	涙	累	類					
れ	466						令	伶	例	冷	励
	467	嶺	怜	玲	礼	苓	鈴	隷	零	霊	麗
	468	齢	暦	歴	列	劣	烈	裂	廉	恋	憐
	469	漣	煉	簾	練	聯					
	470		蓮	連	錬						
ろ	470					呂	魯	櫓	炉	賂	路
	471	露	労	婁	廊	弄	朗	楼	榔	浪	漏
	472	牢	狼	篭	老	聾	蝋	郎	六	麓	禄
	473	肋	録	論							
わ	473				倭	和	話	歪	賄	脇	惑
	474	枠	鷲	亙	亘	鰐	詫	藁	蕨	椀	湾
	475	碗	腕								
	475					(株)	(代)	(呼)			
	478	(有)	(協)								

区点コード表 — JIS 漢字 第二水準漢字

● は、従来のキヤノンのファクスでサポートしている第二水準漢字です。
相手機がキヤノンのファクスの場合、相手がサポートしていない第二水準漢字を使用するとその漢字がプリントされるべき場所はスペース（空白）になります。

	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9
480		弌	丐	丕	个	丱	丶	丼	丿	乂
481	乖	乘	亂	亅	豫	亊	舒	弍	于	亞
482	亟	亠	亢	亰	亳	亶	从	仍	仄	仆
483	仂	仗	仞	仭	仟	价	伉	佚	估	佛
484	佝	佗	佇	佶	侈	侏	侘	佻	佩	佰
485	侑	佯	來	侖	儘	俔	俟	俎	俘	俛
486	俑	俚	俐	俤	俥	倚	倨	倔	倪	倥
487	倅	伜	俶	倡	倩	倬	俾	俯	們	倆
488	偃	假	會	偕	偐	偈	做	偖	偬	偸
489	傀	傚	傅	傴	傲					
490		僉	僊	傳	僂	僖	僞	僥	僭	僣
491	僮	價	僵	儉	儁	儂	儖	儕	儔	儚
492	儡	儺	儷	儼	儻	儿	兀	兒	兌	兔
493	兢	竸	兩	兪	兮	冀	冂	囘	册	冉
494	冏	冑	冓	冕	冖	冤	冦	冢	冩	冪
495	冫	决	冱	冲	冰	况	冽	凅	凉	凛
496	几	處	凩	凭	凰	凵	凾	刄	刋	刔
497	刎	刧	刪	刮	刳	刹	剏	剄	剋	剌
498	剞	剔	剪	剴	剩	剳	剿	剽	劍	劔
499	劒	剱	劈	劑	辨					
500		辧	劬	劭	劼	劵	勁	勍	勗	勞
501	勣	勦	飭	勠	勳	勵	勸	勹	匆	匈
502	甸	匍	匐	匏	匕	匚	匣	匯	匱	匳
503	匸	區	卆	卅	丗	卉	卍	凖	卞	卩
504	卮	夘	卻	卷	厂	厖	厠	厦	厥	厮
505	厰	厶	參	簒	雙	叟	曼	燮	叮	叨
506	叭	叺	吁	吽	呀	听	吭	吼	吮	吶
507	吩	吝	呎	咏	呵	咎	呟	呱	呷	呰
508	咒	呻	咀	呶	咄	咐	咆	哇	咢	咸
509	咥	咬	哄	哈	咨					
510		咫	哂	咤	咾	咼	哘	哥	哦	唏
511	唔	哽	哮	哭	哺	哢	唹	啀	啣	啌
512	售	啜	啅	啖	啗	唸	唳	啝	喙	喀
513	咯	喊	喟	啻	啾	喘	喞	單	啼	喃
514	喩	喇	喨	嗚	嗅	嗟	嗄	嗜	嗤	嗔
515	嘔	嗷	嘖	嗾	嗽	嘛	嗹	噎	噐	營

	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9
516	嘴	嘶	嘲	嘸	噫	噤	嘯	噬	噪	嚆
517	嚀	嚊	嚠	嚔	嚏	嚥	嚮	嚶	嚴	囂
518	嚼	囁	囃	囀	囈	囎	囑	囓	囗	囮
519	囹	圀	囿	圄	圉					
520		圈	國	圍	圓	團	圖	嗇	圜	圦
521	圷	圸	坎	圻	址	坏	坩	埀	垈	坡
522	坿	垉	垓	垠	垳	垤	垪	垰	埃	埆
523	埔	埒	埓	堊	埖	埣	堋	堙	堝	塲
524	堡	塢	塋	塰	毀	塒	堽	塹	墅	墹
525	墟	墫	墺	壞	墻	墸	墮	壅	壓	壑
526	壗	壙	壘	壥	壜	壤	壟	壯	壺	壹
527	壻	壼	壽	夂	夊	夐	夛	梦	夥	夬
528	夭	夲	夸	夾	竒	奕	奐	奎	奚	奘
529	奢	奠	奧	奬	奩					
530		奸	妁	妝	佞	侫	妣	妲	姆	姨
531	姜	妍	姙	姚	娥	娟	娑	娜	娉	娚
532	婀	婬	婉	娵	娶	婢	婪	媚	媼	媾
533	嫋	嫂	媽	嫣	嫗	嫦	嫩	嫖	嫺	嫻
534	嬌	嬋	嬖	嬲	嫐	嬪	嬶	嬾	孃	孅
535	孀	孑	孕	孚	孛	孥	孩	孰	孳	孵
536	學	斈	孺	宀	它	宦	宸	寃	寇	寉
537	寔	寐	寤	實	寢	寞	寥	寫	寰	寶
538	寳	尅	將	專	對	尓	尠	尢	尨	尸
539	尹	屁	屆	屎	屓					
540		屐	屏	孱	屬	屮	乢	屶	屹	岌
541	岑	岔	妛	岫	岻	岶	岼	岷	峅	岾
542	峇	峙	峩	峽	峺	峭	嶌	峪	崋	崕
543	崗	嵜	崟	崛	崑	崔	崢	崚	崙	崘
544	嵌	嵒	嵎	嵋	嵬	嵳	嵶	嶇	嶄	嶂
545	嶢	嶝	嶬	嶮	嶽	嶐	嶷	嶼	巉	巍
546	巓	巒	巖	巛	巫	已	巵	帋	帚	帙
547	帑	帛	帶	帷	幄	幃	幀	幎	幗	幔
548	幟	幢	幤	幇	幵	并	幺	麼	广	庠
549	廁	廂	廈	廐	廏					
550		廖	廣	廝	廚	廛	廢	廡	廨	廩
551	廬	廱	廳	廰	廴	廸	廾	弃	弉	彝

	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9
552	彝	弋	弑	弖	弩	弭	弸	彁	彈	彌
553	彎	弯	彑	彖	彗	彙	彡	彭	彳	彷
554	徃	徂	彿	徊	很	徑	徇	從	徙	徘
555	徠	徨	徭	徼	忖	忻	忤	忸	忱	忝
556	悳	忿	怡	恠	怙	怐	怩	怎	怱	怛
557	怕	怫	怦	怏	怺	恚	恁	恪	恷	恟
558	恊	恆	恍	恣	恃	恤	恂	恬	恫	恙
559	悁	悍	惧	悃	悚					
560		悄	悛	悖	悗	悒	悧	悋	惡	悸
561	惠	惓	悴	忰	悽	惆	悵	惘	慍	愕
562	愆	惶	惷	愀	惴	惺	愃	愡	惻	惱
563	愍	愎	慇	愾	愨	愧	慊	愿	愼	愬
564	愴	愽	慂	慄	慳	慷	慘	慙	慚	慫
565	慴	慯	慥	慱	慟	慝	慓	慵	憙	憖
566	憇	憬	憔	憚	憊	憑	憫	憮	懌	懊
567	應	懷	懈	懃	懆	憺	懋	罹	懍	懦
568	懣	懶	懺	懴	懿	懽	懼	懾	戀	戈
569	戉	戍	戌	戔	戛					
570		戞	戡	截	戮	戰	戲	戳	扁	扎
571	扞	扣	扛	扠	扨	扼	抂	抉	找	抒
572	抓	抖	拔	抃	抔	拗	拑	抻	拏	拿
573	拆	擔	拈	拜	拌	拊	拂	拇	抛	拉
574	挌	拮	拱	挧	挂	挈	拯	拵	捐	挾
575	捍	搜	捏	掖	掎	掀	掫	捶	掣	掏
576	掉	掟	掵	捫	捩	掾	揩	揀	揆	揣
577	揉	插	揶	揄	搖	搴	搆	搓	搦	搶
578	攝	搗	搨	搏	摧	摯	摶	摎	攪	撕
579	撓	撥	撩	撈	撼					
580		據	擒	擅	擇	撻	擘	擂	擱	擧
581	舉	擠	擡	抬	擣	擯	攬	擶	擴	擲
582	擺	攀	擽	攘	攜	攅	攤	攣	攫	攴
583	攵	攷	收	攸	畋	效	敖	敕	敍	敘
584	敞	敝	敲	數	斂	斃	變	斛	斟	斫
585	斷	旃	旆	旁	旄	旌	旒	旛	旙	无
586	旡	旱	杲	昊	昃	旻	杳	昵	昶	昴
587	昜	晏	晄	晉	晁	晞	晝	晤	晧	晨
588	晟	晢	晰	暃	暈	暎	暉	暄	暘	暝
589	曁	暹	曉	暾	暼					
590		曄	暸	曖	曚	曠	昿	曦	曩	曰
591	曵	曷	朏	朖	朞	朦	朧	霸	朮	朿

	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9
592	朶	杁	朸	朷	杆	杞	杠	杙	杣	杤
593	枉	杰	枩	杼	杪	枌	枋	枦	枡	枅
594	枷	柯	枴	柬	枳	柩	枸	柤	柞	柝
595	柢	柮	枹	柎	柆	柧	檜	栞	框	栩
596	桀	桍	栲	桎	梳	栫	桙	档	桷	桿
597	梟	梏	梭	梔	條	梛	梃	檮	梹	桴
598	梵	梠	梺	椏	梍	桾	椁	棊	椈	棘
599	椢	椦	棡	椌	棍					
600		棔	棧	棕	椶	椒	椄	棗	棣	椥
601	棹	棠	棯	椨	椪	椚	椣	椡	棆	楹
602	楷	楜	楸	楫	楔	楾	楮	椹	楴	椽
603	楙	椰	楡	楞	楝	榁	楪	榲	榮	槐
604	榿	槁	槓	榾	槎	寨	槊	槝	榻	槃
605	榧	樮	榑	榠	榜	榕	榴	槞	槨	樂
606	樛	槿	權	槹	槲	槧	樅	榱	樞	槭
607	樔	槫	樊	樒	櫁	樣	樓	橄	樌	橲
608	樶	橸	橇	橢	橙	橦	橈	樸	樢	檐
609	檍	檠	檄	檢	檣					
610		檗	蘗	檻	櫃	櫂	檸	檳	檬	櫞
611	櫑	櫟	檪	櫚	櫪	櫻	欅	蘖	櫺	欒
612	欖	鬱	欟	欸	欷	盜	欹	飮	歇	歃
613	歉	歐	歙	歔	歛	歟	歡	歸	歹	歿
614	殀	殄	殃	殍	殘	殕	殞	殤	殪	殫
615	殯	殲	殱	殳	殷	殼	毆	毋	毓	毟
616	毬	毫	毳	毯	麾	氈	氓	气	氛	氤
617	氣	汞	汕	汢	汪	沂	沍	沚	沁	沛
618	汾	汨	汳	沒	沐	泄	泱	泓	沽	泗
619	泅	泝	沮	沱	沾					
620		沺	泛	泯	泙	泪	洟	衍	洶	洫
621	洽	洸	洙	洵	洳	洒	洌	浣	涓	浤
622	浚	浹	浙	涎	涕	濤	涅	淹	渕	渊
623	涵	淇	淦	涸	淆	淬	淞	淌	淨	淒
624	淅	淺	淙	淤	淕	淪	淮	渭	湮	渮
625	渙	湲	湟	渾	渣	湫	渫	湶	湍	渟
626	湃	渺	湎	渤	滿	渝	游	溂	溪	溘
627	滉	溷	滓	溽	溯	滄	溲	滔	滕	溏
628	溥	滂	溟	潁	漑	灌	滬	滸	滾	漿
629	滲	漱	滯	漲	滌					
630		漾	漓	滷	澆	潺	潸	澁	澀	潯
631	潛	濳	潭	澂	潼	潘	澎	澑	濂	潦

	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9
632	澳	澣	澡	澤	澹	濆	澪	濟	濕	濬
633	濔	濘	濱	濮	濛	瀉	瀋	濺	瀑	瀁
634	瀏	濾	瀛	瀚	潴	瀝	瀘	瀟	瀰	瀾
635	瀲	灑	灣	炙	炒	炯	烱	炬	炸	炳
636	炮	烟	烋	烝	烙	焉	烽	焜	焙	煥
637	煕	熈	煦	煢	煌	煖	煬	熏	燻	熄
638	熕	熨	熬	燗	熹	熾	燒	燉	燔	燎
639	燠	燬	燧	燵	燼					
640		燹	燿	爍	爐	爛	爨	爭	爬	爰
641	爲	爻	爼	爿	牀	牆	牋	牘	牴	牾
642	犂	犁	犇	犒	犖	犢	犧	犹	犲	狃
643	狆	狄	狎	狒	狢	狠	狡	狹	狷	倏
644	猗	猊	猜	猖	猝	猴	猯	猩	猥	猾
645	獎	獏	默	獗	獪	獨	獰	獸	獵	獻
646	獺	珈	玳	珎	玻	珀	珥	珮	珞	璢
647	琅	瑯	琥	珸	琲	琺	瑕	琿	瑟	瑙
648	瑁	瑜	瑩	瑰	瑣	瑪	瑶	瑾	璋	璞
649	璧	瓊	瓏	瓔	珱					
650		瓠	瓣	瓧	瓩	瓮	瓲	瓰	瓱	瓸
651	瓷	甄	甃	甅	甌	甎	甍	甕	甓	甞
652	甦	甬	甼	畄	畍	畊	畉	畛	畆	畚
653	畩	畤	畧	畫	畭	畸	當	疆	疇	畴
654	疊	疉	疂	疔	疚	疝	疥	疣	痂	疳
655	痃	疵	疽	疸	疼	疱	痍	痊	痒	痙
656	痣	痞	痾	痿	痼	瘁	痰	痺	痲	痳
657	瘋	瘍	瘉	瘟	瘧	瘠	瘡	瘢	瘤	瘴
658	瘰	瘻	癇	癈	癆	癜	癘	癡	癢	癨
659	癩	癪	癧	癬	癰					
660		癲	癶	癸	發	皀	皃	皈	皋	皎
661	皖	皓	皙	皚	皰	皴	皸	皹	皺	盂
662	盍	盖	盒	盞	盡	盥	盧	盪	蘯	盻
663	眈	眇	眄	眩	眤	眞	眥	眦	眛	眷
664	眸	睇	睚	睨	睫	睛	睥	睿	睾	睹
665	瞎	瞋	瞑	瞠	瞞	瞰	瞶	瞹	瞿	瞼
666	瞽	瞻	矇	矍	矗	矚	矜	矣	矮	矼
667	砌	砒	礦	砠	礪	硅	碎	硴	碆	硼
668	碚	碌	碣	碵	碪	碯	磑	磆	磋	磔
669	碾	碼	磅	磊	磬					
670		磧	磚	磽	磴	礇	礒	礑	礙	礬
671	礫	祀	祠	祗	祟	祚	祕	祓	祺	祿

	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9
672	禊	禝	禧	齋	禪	禮	禳	禹	禺	秉
673	秕	秧	秬	秡	秣	稈	稍	稘	稙	稠
674	稟	禀	稱	稻	稾	稷	穃	穗	穉	穡
675	穢	穩	龝	穰	穹	穽	窈	窗	窕	窘
676	窖	窩	竈	窰	窶	竅	竄	窿	邃	竇
677	竊	竍	竏	竕	竓	站	竚	竝	竡	竢
678	竦	竭	竰	笂	笏	笊	笆	笳	笘	笙
679	笞	笵	笨	笶	筐					
680		筺	笄	筍	笋	筌	筅	筵	筥	筴
681	筧	筰	筱	筬	筮	箝	箘	箟	箍	箜
682	箚	箋	箒	箏	筝	箙	篋	篁	篌	篏
683	箴	篆	篝	篩	簑	簔	篦	篥	籠	簀
684	簇	簓	篳	篷	簗	簍	篶	簣	簧	簪
685	簟	簷	簫	簽	籌	籃	籔	籏	籀	籐
686	籘	籟	籤	籖	籥	籬	籵	粃	粐	粤
687	粭	粢	粫	粡	粨	粳	粲	粱	粮	粹
688	粽	糀	糅	糂	糘	糒	糜	糢	鬻	糯
689	糲	糴	糶	糺	紆					
690		紂	紜	紕	紊	絅	絋	紮	紲	紿
691	紵	絆	絳	絖	絎	絲	絨	絮	絏	絣
692	經	綉	絛	綏	絽	綛	綺	綮	綣	綵
693	緇	綽	綫	總	綢	綯	緜	綸	綟	綰
694	緘	緝	緤	緞	緻	緲	緡	縅	縊	縣
695	縡	縒	縱	縟	縉	縋	縢	繆	繦	縻
696	縵	縹	繃	縷	縲	縺	繧	繝	繖	繞
697	繙	繚	繹	繪	繩	繼	繻	纃	緕	繽
698	辮	繿	纈	纉	續	纒	纐	纓	纔	纖
699	纎	纛	纜	缸	缺					
700		罅	罌	罍	罎	罐	网	罕	罔	罘
701	罟	罠	罨	罩	罧	罸	羂	羆	羃	羈
702	羇	羌	羔	羞	羝	羚	羣	羯	羲	羹
703	羮	羶	羸	譱	翅	翆	翊	翕	翔	翡
704	翦	翩	翳	翹	飜	耆	耄	耋	耒	耘
705	耙	耜	耡	耨	耿	耻	聊	聆	聒	聘
706	聚	聟	聢	聨	聳	聲	聰	聶	聹	聽
707	聿	肄	肆	肅	肛	肓	肚	肭	冐	肬
708	胛	胥	胙	胝	胄	胚	胖	脉	胯	胱
709	脛	脩	脣	脯	腋					
710		隋	腆	脾	腓	腑	胼	腱	腮	腥
711	腦	腴	膃	膈	膊	膀	膂	膠	膕	膤

	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9
712	膣	膤	膓	膩	膰	膵	膾	膸	膽	臀
713	臂	膺	臉	臍	臑	臙	臘	臈	臚	臟
714	臠	臧	臺	臻	臾	舁	舂	舅	與	舊
715	舍	舐	舖	舩	舫	舸	舳	艀	艙	艘
716	艝	艚	艟	艤	艢	艨	艪	艫	舮	艱
717	艷	艸	艾	芍	芒	芫	芟	芻	芬	苡
718	苣	苟	苒	苴	苳	苺	莓	范	苻	苹
719	苞	茆	苜	茉	苙					
720		茵	茴	茖	茲	茱	荀	茹	荐	荅
721	茯	茫	茗	茘	莅	莚	莪	莟	莢	莖
722	茣	莎	莇	莊	荼	莵	荳	荵	莠	莉
723	莨	菴	萓	菫	菎	菽	萃	菘	萋	菁
724	菷	萇	菠	菲	萍	萢	萠	莽	萸	蔆
725	菻	葭	萪	萼	蕚	蒄	葷	葫	蒭	葮
726	蒂	葩	葆	萬	葯	葹	萵	蓊	葢	蒹
727	蒿	蒟	蓙	蓍	蒻	蓚	蓐	蓁	蓆	蓖
728	蒡	蔡	蓿	蓴	蔗	蔘	蔬	蔟	蔕	蔔
729	蓼	蕀	蕣	蕘	蕈					
730		蕁	蘂	蕋	蕕	薀	薤	薈	薑	薊
731	薨	蕭	薔	薛	藪	薇	薜	蕷	蕾	薐
732	藉	薺	藏	薹	藐	藕	藝	藥	藜	藹
733	蘊	蘓	蘋	藾	藺	蘆	蘢	蘚	蘰	蘿
734	虍	乕	虔	號	虧	虱	蚓	蚣	蚩	蚪
735	蚋	蚌	蚶	蚯	蛄	蛆	蚰	蛉	蠣	蚫
736	蛔	蛞	蛩	蛬	蛟	蛛	蛯	蜒	蜆	蜈
737	蜀	蜃	蛻	蜑	蜉	蜍	蛹	蜊	蜴	蜿
738	蜷	蜻	蜥	蜩	蜚	蝠	蝟	蝸	蝌	蝎
739	蝴	蝗	蝨	蝮	蝙					
740		蝓	蝣	蝪	蠅	螢	螟	螂	螯	蟋
741	螽	蟀	蟐	雖	螫	蟄	螳	蟇	蟆	螻
742	蟯	蟲	蟠	蠏	蠍	蟾	蟶	蟷	蠎	蟒
743	蠑	蠖	蠕	蠢	蠡	蠱	蠶	蠹	蠧	蠻
744	衄	衂	衒	衙	衞	衢	衫	袁	衾	袞
745	衵	衽	袵	衲	袂	袗	袒	袮	袙	袢
746	袍	袤	袰	袿	袱	裃	裄	裔	裘	裙
747	裝	裹	褂	裼	裴	裨	裲	褄	褌	褊
748	褓	襃	褞	褥	褪	褫	襁	襄	褻	褶
749	褸	襌	褝	襠	襞					
750		襦	襤	襭	襪	襯	襴	襷	襾	覃
751	覈	覊	覓	覘	覡	覩	覦	覬	覯	覲

	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9
752	覺	覽	覿	觀	觚	觜	觝	觧	觴	觸
753	訃	訖	訐	訌	訛	訝	訥	訶	詁	詛
754	詒	詆	詈	詼	詭	詬	詢	誅	誂	誄
755	誨	誡	誑	誥	誦	誚	誣	諄	諍	諂
756	諚	諫	諳	諧	諤	諱	謔	諠	諢	諷
757	諞	諛	謌	謇	謚	諡	謖	謐	謗	謠
758	謳	鞫	謦	謫	謾	謨	譁	譌	譏	譎
759	證	譖	譛	譚	譫					
760		譟	譬	譯	譴	譽	讀	讌	讎	讒
761	讓	讖	讙	讚	谺	豁	谿	豈	豌	豎
762	豐	豕	豢	豬	豸	豺	貂	貉	貅	貊
763	貍	貎	貔	豼	貘	戝	貭	貪	貽	貲
764	貳	貮	貶	賈	賁	賤	賣	賚	賽	賺
765	賻	贄	贅	贊	贇	贏	贍	贐	齎	贓
766	賍	贔	贖	赧	赭	赱	赳	趁	趙	跂
767	趾	趺	跏	跚	跖	跌	跛	跋	跪	跫
768	跟	跣	跼	踈	踉	跿	踝	踞	踐	踟
769	蹂	踵	踰	踴	蹊					
770		蹇	蹉	蹌	蹐	蹈	蹙	蹤	蹠	踪
771	蹣	蹕	蹶	蹲	蹼	躁	躇	躅	躄	躋
772	躊	躓	躑	躔	躙	躪	躡	躬	躰	軆
773	躱	躾	軅	軈	軋	軛	軣	軼	軻	軫
774	軾	輊	輅	輕	輒	輙	輓	輜	輟	輛
775	輌	輦	輳	輻	輹	轅	轂	輾	轌	轉
776	轆	轎	轗	轜	轢	轣	轤	辜	辟	辣
777	辭	辯	辷	迚	迥	迢	迪	迯	邇	迴
778	逅	迹	迺	逑	逕	逡	逍	逞	逖	逋
779	逧	逶	逵	逹	迸					
780		遏	遐	遑	遒	逎	遉	逾	遖	遘
781	遞	遨	遯	遶	隨	遲	邂	遽	邁	邀
782	邊	邉	邏	邨	邯	邱	邵	郢	郤	扈
783	郛	鄂	鄒	鄙	鄲	鄰	酊	酖	酘	酣
784	酥	酩	酳	酲	醋	醉	醂	醢	醫	醯
785	醪	醵	醴	醺	釀	釁	釉	釋	釐	釖
786	釟	釡	釛	釼	釵	釶	鈞	釿	鈔	鈬
787	鈕	鈑	鉞	鉗	鉅	鉉	鉤	鉈	銕	鈿
788	鉋	鉐	銜	銖	銓	銛	鉚	鋏	銹	銷
789	鋩	錏	鋺	鍄	錮					
790		錙	錢	錚	錣	錺	錵	錻	鍜	鍠
791	鍼	鍮	鍖	鎰	鎬	鎭	鎔	鎹	鏖	鏗

	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9
792	鏨	鏥	鏘	鏃	鏝	鏐	鏈	鏤	鐚	鐔
793	鐓	鐃	鐇	鐐	鐶	鐫	鐵	鐡	鐺	鑁
794	鑒	鑄	鑛	鑠	鑢	鑞	鑪	鈩	鑰	鑵
795	鑷	鑽	鑚	鑼	鑾	钁	鑿	閂	閇	閊
796	閔	閖	閘	閙	閠	閨	閧	閭	閼	閻
797	閹	閾	闊	濶	闃	闍	闌	闕	闔	闖
798	關	闡	闥	闢	阡	阨	阮	阯	陂	陌
799	陏	陋	陷	陜	陞					
800		陝	陟	陦	陲	陬	隍	隘	隕	隗
801	險	隧	隱	隲	隰	隴	隶	隸	隹	雎
802	雋	雉	雍	襍	雜	霍	雕	雹	霄	霆
803	霈	霓	霎	霑	霏	霖	霙	霤	霪	霰
804	霹	霽	霾	靄	靆	靈	靂	靉	靜	靠
805	靤	靦	靨	勒	靫	靱	靹	鞅	靼	鞁
806	靺	鞆	鞋	鞏	鞐	鞜	鞨	鞦	鞣	鞳
807	鞴	韃	韆	韈	韋	韜	韭	齏	韲	竟
808	韶	韵	頏	頌	頸	頤	頡	頷	頽	顆
809	顏	顋	顫	顯	顰					
810		顱	顴	顳	颪	颯	颱	颶	飄	飃
811	飆	飩	飫	餃	餉	餒	餔	餘	餡	餝
812	餞	餤	餠	餬	餮	餽	餾	饂	饉	饅
813	饐	饋	饑	饒	饌	饕	馗	馘	馥	馭
814	馮	馼	駟	駛	駝	駘	駑	駭	駮	駱
815	駲	駻	駸	騁	騏	騅	駢	騙	騫	騷
816	驅	驂	驀	驃	騾	驕	驍	驛	驗	驟
817	驢	驥	驤	驩	驫	驪	骭	骰	骼	髀
818	髏	髑	髓	體	髞	髟	髢	髣	髦	髯
819	髫	髮	髴	髱	髷					
820		髻	鬆	鬘	鬚	鬟	鬢	鬣	鬥	鬧
821	鬨	鬩	鬪	鬮	鬯	鬲	魄	魃	魏	魍
822	魎	魑	魘	魴	鮓	鮃	鮑	鮖	鮗	鮟
823	鮠	鮨	鮴	鯀	鯊	鮹	鯆	鯏	鯑	鯒
824	鯣	鯢	鯤	鯔	鯡	鰺	鯲	鯱	鯰	鰕
825	鰔	鰉	鰓	鰌	鰆	鰈	鰒	鰊	鰄	鰮
826	鰛	鰥	鰤	鰡	鰰	鱇	鰲	鱆	鰾	鱚
827	鱠	鱧	鱶	鱸	鳧	鳬	鳰	鴉	鴈	鳫
828	鴃	鴆	鴪	鴦	鶯	鴣	鴟	鵄	鴕	鴒
829	鵁	鴿	鴾	鵆	鵈					
830		鵝	鵞	鵤	鵑	鵐	鵙	鵲	鶉	鶇
831	鶫	鵯	鵺	鶚	鶤	鶩	鶲	鷄	鷁	鶻

	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9
832	鶸	鶺	鷆	鷏	鷂	鷙	鷓	鷸	鷦	鷭
833	鷯	鷽	鸚	鸛	鸞	鹵	鹹	鹽	麁	麈
834	麋	麌	麒	麕	麑	麝	麥	麩	麸	麪
835	麭	靡	黌	黎	黏	黐	黔	黜	點	黝
836	黠	黥	黨	黯	黴	黶	黷	黹	黻	黼
837	黽	鼇	鼈	皷	鼕	鼡	鼬	鼾	齊	齒
838	齔	齣	齟	齠	齡	齦	齧	齬	齪	齷
839	齲	齶	龕	龜	龠					
840		堯	槇	遙	瑤	凜	熙			

さくいん

あ

か

さ

第10章

付録

た

な

は

ま

や

第10章

付録

ら

わ

英数字・記号

覚え書き

このページは、コピーして管理者の覚え書きとしてお使いください。なお暗証番号はその性格上、他の方の目に触れないようご注意ください。

暗証番号　覚え書き

種類	制限できる項目	暗証番号（4桁）
管理暗証番号	システム管理情報の変更	
送信機能設定 .... 使用者暗証番号	ファクス送信	
プリント設定 .... 使用者暗証番号	コピー、レポート出力	
メモリ受信 .... プリント暗証番号	メモリ受信ボタンでの設定／解除	
転送 .... 暗証番号	転送時間帯などの設定／変更 転送ボタンでの設定／解除	

部門別管理　覚え書き

部門コード（4桁）	暗証番号（4桁）	部門コード（4桁）	暗証番号（4桁）

親展ボックス　覚え書き

ボックス番号（2桁）	ボックス名称	暗証番号（4桁）	Fコード（20桁以内）	受信パスワード（20桁以内）

中継ボックス覚え書き

ボックス番号（2桁）	グループ名称	暗証番号（4桁）	Fコード（20桁以内）	受信パスワード（20桁以内）

ポーリングボックス　覚え書き

ボックス番号（2桁）	ボックス名称	暗証番号（4桁）	Fコード（20桁以内）	受信パスワード（20桁以内）

定時ポーリングボックス　覚え書き

ボックス番号（2桁）	ボックス名称	暗証番号（4桁）	Fコード（20桁以内）	受信パスワード（20桁以内）

おもな仕様

原稿サイズ	ADF　最大 A3（297 × 420mm）＊送信時は 297 × 1000mm 　　　最小 A6（148 × 105mm） 原稿台ガラス　最大 B4（257 × 364mm）
有効読取サイズ	幅　A3 293 ㎜、B4 254 ㎜、A4 208 ㎜
記録紙サイズ	B4、A4、B5、A5
走査線密度	ファクス 　標準モード　8dot/ ㎜× 3.85line/ ㎜ 　ファインモード　8dot/ ㎜× 7.7line/ ㎜ 　スーパーファインモード　8dot/ ㎜× 15.4line/ ㎜ 　ウルトラファインモード　16dot/ ㎜× 15.4line/ ㎜ コピー 　ブックコピー　1200dpi 相当× 600dpi 　シートコピー（1 枚）　1200dpi 相当× 600dpi 　シートコピー（複数枚）　400dpi × 600dpi
走査方式	コンタクトセンサによる固体電子平面走査
電送時間 （キヤノン FAX 標準チャート No.1）	ECM-MMR（ITU-T 対応）約 2.8 秒 G3MR 方式標準モード　約 11 秒 G3MH 方式標準モード　約 13 秒 JBIG　約 3.2 秒
記録方式	電子写真方式
適用回線	加入電話回線 F ネット G3 サービス 16Hz、1300Hz に対応
オートダイヤル機能	ワンタッチダイヤル登録　84 カ所 短縮ダイヤル登録　116 カ所
ファーストコピータイム	約 14 秒（最短時） 約 16 秒（標準時）
連続複写速度	8 枚 / 分
複写倍率	等倍　100％ 拡大　115％、122％、141％、200％ 縮小　86％、81％、70％、50％ ズーム　50％～ 200％（1％刻み）
連続複写枚数	1 ～ 99 枚
電源	100V ± 10％（50/60Hz）

消費電力	待機時	約 19W（通常）
		約 2W（エナジーセーブモード）
	動作時	約 490W（コピー）
		約 30W（送信）
		約 360W（受信）
	最大時	710W
直流抵抗値	約 225 Ω	
使用環境	温度 10℃～ 32.5℃ 湿度 20％～ 80％RH	
重量	約 30kg （オプションカセット装着時 約 35kg）	
外形寸法	ハンドセット含まず:	
	567 ㎜（幅）× 602 ㎜（奥行き）× 408 ㎜（高さ）	
	（オプションカセット装着時 高さ 547 ㎜）	
	ハンドセット含む:	
	637 ㎜（幅）× 602 ㎜（奥行き）× 408 ㎜（高さ）	
	（オプションカセット装着時 高さ 547 ㎜）	

※外観・仕様は改良のため予告なく変更することがあります。
電送時間は手順信号を含まない画像電送のみの時間です。
一般の電話回線での電送速度は、28.8Kbps 程度です。回線の状況等によってはこれらの速度以下になる場合もあります。

本書は、本文に70%の
再生紙を使用しています。

消耗品のご注文先

販 売 先

電話番号

担当部門

担 当 者

サービス担当者 連絡先

販 売 店

電話番号

担当部門

担 当 者

キヤノン株式会社・キヤノンマーケティングジャパン株式会社

お客様相談センター
（全 国 共 通 番 号）

050-555-90055

[受付時間]　＜平日＞ 9:00〜20:00
＜土日祝祭日＞ 10:00〜17:00
（1/1〜3は休ませていただきます）

※上記番号をご利用いただけない方は 043-211-9331 をご利用ください。
※IP電話をご利用の場合、プロバイダーのサービスによってつながらない場合があります。
※受付時間は予告なく変更する場合があります。あらかじめご了承ください。

キヤノンマーケティングジャパン株式会社　〒108-8011　東京都港区港南2-16-6

FA7-7019 (010)

PRINTED IN JAPAN OR KOREA